聖徒の道　1977年2月20日発行（毎月1回20日発行）　第21巻第2号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道　2 1977

末日聖徒イエス・キリスト教会

1977年2月号　もくじ

報告とチャレンジ……スペンサー・W・キンボール……34
七十人第一定員会の改組……スペンサー・W・キンボール……40
教会役員の支持……N・エルドン・タナー……41
「わたしはぶどうの木，あなたがたはその枝である」…ディーン・L・ラーセン……43
弱い者であっても……ニール・A・マックスウェル……44
聖徒を完き者とする……フランクリン・D・リチャーズ……47
キリストが受けたもうた誘惑……ハワード・W・ハンター……50
家族は永遠に……デビッド・B・ヘイト……53
伝道活動のために……A・セオドア・タトル……56
主は万人に罪から立ち帰る道を備えておられる……ロバート・D・ヘイルズ……58
堤防と生ける水……ジョセフ・B・ワースリン……60
完全という目標……ウィリアム・H・ベネット……62
大いなる喜び……マリオン・D・ハンクス……64
「われらは正直なるべきことを信ず」……マリオン・G・ロムニー……67
伝道に伴うみたま……カーロス・E・エイシー……70
「光だ！」……ジョン・H・グローバーグ……73
良い状態で死を迎える……スターリング・W・シル……75
塩のききめ……マーク・E・ピーターセン……78
どちらの道を……トーマス・S・モンソン……81
「小さな声に従いなさい」……ポール・H・ダン……84
人々の救い手……ジェイコブ・ディエガー……86
救い主との個人的な関係……ジェームズ・E・ファウスト……88
親……O・レスリー・ストーン……91
聖典を調べなさい……ヘンリー・D・テイラー……94
キリストに対する純粋な信仰……リグランド・リチャーズ……96
生ける予言者……レックス・D・ピネガー……99
神の賜……マリオン・G・ロムニー……102
長時間働くことをいとわず……N・エルドン・タナー……105
私たちのリアホナ……スペンサー・W・キンボール……109
大会の目的……N・エルドン・タナー……112
正しい自己管理……マービン・J・アシュトン……116
宣教師の備え……M・ラッセル・バラード・ジュニア……119
われら聖約を交わす民なれば……ジョセフ・アンダーソン……122
使徒パウロの教え……デルバート・L・ステイプレー……125
何も失うものはない……ゴードン・B・ヒンクレー……129
改宗をもたらす福音……ハートマン・レクター・ジュニア……132
主の支援組織……ロバート・L・シンプソン……135
「私の得たもの」……S・デルワース・ヤング……137
感化力のある教師……ボーン・J・フェザーストーン……139
主にあって死ぬ人……ブルース・R・マッコンキー……142
私の人生で最も大いなること……ロバート・E・ウェルズ……145
「絶えず変わろう」……J・リチャード・クラーク……146
人のためのプログラム……スペンサー・W・キンボール……147
福祉活動に欠かせない監督の倉庫……ビクター・L・ブラウン……149
生産事業の取得と運営……H・バーク・ピーターソン……152
福祉の原則……ボーン・J・フェザーストーン……156
「彼女はその家の者のために雪を恐れない」……バーバラ・B・スミス……159
「主の道に適いて」……マリオン・G・ロムニー……161
み業を推進する……N・エルドン・タナー……165
互いに愛し合いなさい……スペンサー・W・キンボール……166
ニュース……170

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト

諮問委員会

ゴードン・B・ヒンクレー
マービン・J・アシュトン
L・トム・ペリー
マリオン・D・ハンクス
ジェームズ・・A・カリモア
ロバート・D・ヘイルズ

教会誌編集主幹

ディーン・L・ラーセン

国際機関誌

ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

「聖徒の道」

八木沼　修一（日本語コーディネーター）

聖徒の道2月号

発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5－8－10
配送　東京ディストリビューション・センター
東京都港区南麻布5－10－25
定価　年間予約1,700円　1部300円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan

郵便振替口座番号　東京0－41512
口座名　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

末日聖徒イエス・キリスト教会
第146回半期総大会報告

1976年のふたつの総大会は，長く人々の記憶にとどまることであろう。4月の大会ではふたつの重要な啓示聖文に追加され，10月の大会では七十人第一定員会の改組が行なわれた。すなわち，十二使徒評議員会補助全員が4名の新教会幹部とともに七十人第一定員会会員として召され，さらに七十人最高評議員会の再組織が行なわれたのである。

この改組について，スペンサー・W・キンボール大管長は次のように語っている。「この異動により，啓示により明らかにされていた教会の3つの管理定員会，すなわち大管長会，十二使徒定員会，七十人第一定員会は，主が啓示された通りの位置に置かれることとなった。」（pp. 40－41，173－75参照）

この七十人第一定員会と呼ばれる定員会が教会の中央レベルで組織されたのは，教会の回復当時以来のことであり，従って同定員会が教会中央レベルでの第3の「管理定員会」となるのも，そのとき以来のことである。

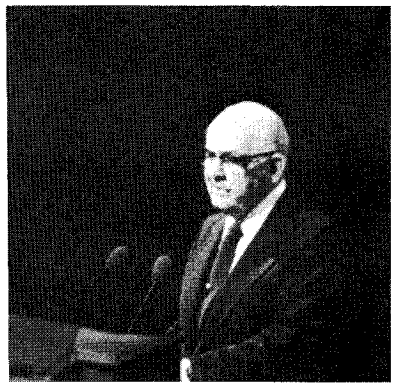
今大会の管理にあたったのは，全教会の管理大祭司であるスペンサー・W・キンボール大管長である。大会は10月1日（金）午前10時（改組の発表と役員の支持はこの会で行なわれた），午後2時；10月2日（土）午前7時（福祉事業集会），午前10時，午後2時，午後7時（神権部会）；10月3日（日）午前10時，午後2時の各時間帯に行なわれた。これに加えて，9月30日（木）には十二使徒会地区代表セミナーが開催された。

大会はテンプルスクエアのタバナクルで行なわれたが，満員で入場できない人々のために，同じテンプルスクエアのアセンブリーホールと近くのソルトパレスにも会場が設けられた。

役員の支持は金曜日の午前の大会で行なわれ，すでに召されている教会幹部27名の割当ての変更と，4名の新教会幹部の任命が行なわれた。4名のうち3名（ディーン・L・ラーセン，ロイデン・G・デリック，ロバート・E・ウエルズ）は七十人第一定員会会員，残るひとりは管理監督会第二副監督のJ・リチャード・クラークである（略歴についてはpp. 174－76を参照）。この結果，教会幹部総数は58となった。

大会各集会の模様は合衆国，カナダ，フィリピンの170に及ぶテレビ局から中継され，そのうち31局では録画による中継が行なわれた。ラジオによる中継は以下の通りである：合衆国，カナダ(61局)；メキシコ，中南米諸国(68局)オーストラリア(45局)。オーストラリアの場合は30分の中継であった。またアフリカ，ラテンアメリカ，ヨーロッパには，3つのセッションの模様が短波放送でも送られた。さらにヨーロッパの100ヵ所の礼拝堂ではふたつのセッションがひとつは英語で，もうひとつは仏，蘭，独各国語で，直接ケーブルにより中継された。このほかにもハワイ，メキシコ，プエルトリコ，アラスカ，カナダの1,101ヵ所ならびにオーストラリア，ニュージーランド，フィリピン，香港，韓国，日本の33ヵ所で神権部会の中継が行なわれた。

報告とチャレンジ



大管長
スペンサー・W・キンボール

家庭菜園の推進，ポルノグラフィーとの戦い，堕胎への反対，正直な心の確立，家庭の夕べの実践，権利と自由の擁護などの活動に気持を新たにして取り組もうではないか

今大会は，末日聖徒イエス・キリスト教会半期総大会である。ここに集っておられる方々，また放送に耳を傾けておられる方々に歓迎の意を表し，私たちの愛と感謝をお伝えしたい。

昨年8月以来，合衆国とカナダの数々の地区において，神権指導者のための聖会が26回にわたって開催された。この中で私たちは，兄弟たちにその課せられた責任と与えられている機会とを明らかにしてきた。これら聖会でお会いしたステーキ部や伝道部の兄弟たちの数は，約28,000名に達する。

また最近開かれた地域大会*への出席者は約151,000名にのぼる。従って，地域大会が初めて行なわれて以来多くの国々で，50万近く（446,691名）の人々に福音とその祝福が語られたことになる。教会は全般的に見て，着実な発展を示している。

現在ステーキ部数は764，伝道部数は146，ワード部・支部数は約9,000にのぼる。私たちはこの発展を皆様方とともに心から喜びたい。主は私たちの努力に祝福を与えておられるのである。

世界中で新たに組織されている数えきれないほどのステーキ部では，新進気鋭の指導者が民を見守るために聖任され，任命されている。私たちはこれら地元の指導者が新しい責任を進んで受け入れて下さることに心から喜んでいる。

若い宣教師の数は急増の一途をたどり，現在では25,000名を越えるまでに至っている。このほとんどが19歳から21歳の長老で，そのほか若干の若い姉妹と年輩の夫婦が宣教師として働いている。私たちはこれら宣教師の努力が成功をもたらし，改宗者として約117,000名が登録会員数に加えられたことを感謝の意をもって皆様方に報告したいと思う。彼らは新しい責任を心から喜んでいる。新しい霊の拠り所を見出し，天父と御子，そして主の御計画について知識を得たからである。

現在セミナリーで学んでいる生徒数は約183,000，インスティテュートで学んでいる人の数は88,000，合計約27万を越える人々がこのプログラムのもたらす恵みに浴している。その中には全世界の青少年と8,000名にのぼるインディアン，数万名の他のレーマン人学生が含まれる。教会員総数は，本年末には400万に近づくであろう。

統計によると，会員数が100万に達するまでは117年（1830－1947）であったのが，200万に達するのには16年（1947－1963），300万には9年（1963－1972）となっており，この分でいくと400万には4，5年で到達するであろう。あとは推して知るべしである。

これは何を意味するのであろうか。すなわち，教会員が所属のワード部で真の伝道を行なうならば，改宗者の数は天文学的な数にまで増加し，主がこの地上に再び戻られる再臨の時さえも早めることになるのである。

私たちは教会が数字の上でも霊性の面でも，ともに発展していることを喜ばしく思う。

かつて聖餐会の出席率がわずか19パーセント程度であった時期のことを私は覚えている。もちろん子供も赤ん坊も含めた数である。この数字はいかにも低い。しかし今日，多くのステーキ部，伝道部が，50ないし60パーセントの聖餐会出席率を示している。ワード部や支部の中には，これをはるかに上まわるところもある。

前回の大会の後で，私たちは現ミズーリ州知事のクリストファー・S・ボンド氏から喜ばしいメッセージをいただいた。138年前にリルバーン・W・ボッグズ知事が出した，モルモンをミズーリ州から放逐し，撲滅せよとの命令を撤回することを知らせてきて下さった。ボンド知事はこう書いている。

「私はここに全ミズーリ州民を代表し，リルバーン・W・ボッグズ知事による1838年10月27日付の政令第44号に対してそれが不正なものであり，かつ不当な苦難を与える結果となったことに深い遺憾の念を表すると共にこれを撤回するものであります。」

私たちはこのメッセージに対して，また現在，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員とミズーリの人々との間にある友好関係に対して，ボンド知事ならびにミズーリの人々に深い感謝の念を表するものである。

現在ミズーリ州には，51市町村に5つのステーキ部があり，約15,000名の教会員がいる。彼らが法を守る立派な市民であることに私たちは誇りを感じている。ボンド知事に心から感謝したい。

家庭菜園

私たちは，勧告の声に耳を傾け，過

去数ヵ月間に菜園や果樹園を作り，木々を植えた人々を誇りに思っている。今いろいろなところから，菜園が著しく生活に貢献している様子が寄せられている。アラバマの夫婦は手紙にこう書いてきた。「年間を通して野菜を収穫することができました。かなりのお金が節約できたと思います。」

権威筋の推定によると，家庭菜園数は昨年の3,250万から今年は3,500万に増え，また今年のかん詰製造家庭数は、昨年の37パーセントを上回って41パーセントに達するとのことである。また天井からかごをつるしたり，階段の上やテラスや窓辺に箱を置いて野菜を育てている人の数は計り知れない。

オクラホマでは，州立大学の240区画が既婚学生のために提供され、ロングアイランドでは，約400の区画が住民のために耕作されている。またペンシルベニアでは，約20万に及ぶ区画が開墾されている。

ある農業関係の専門家は次のように語った。「私の家にも菜園がありますが，仕事で疲れたときなんかはとてもいい気晴らしになりますよ。」

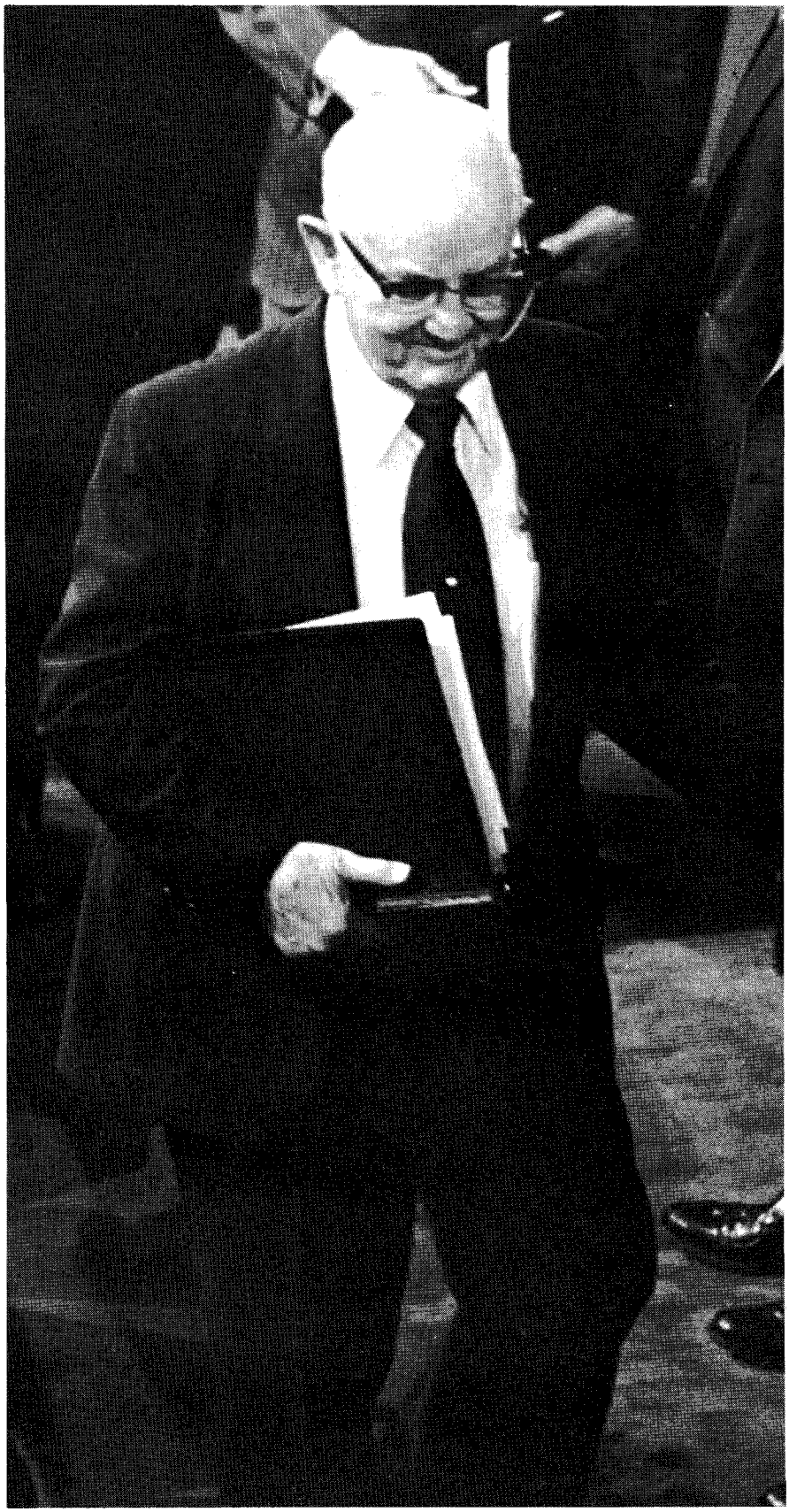
私たちはこの家庭菜園プロジェクトに加えて，家庭内外の整理整頓を提唱したい。これは以前にも述べたことである。垣根や小屋や納屋が壊れたままになっており，倒すか建て直すかした方がいいものが数多くある。また側溝もきれいにできるものがまだまだある。勧告に耳を傾け，その通りに実行している人々に敬意を表したい。

西ドイツのフランクフルトから次のように手紙が寄せられた。

「私たちふたつの家族は，フランクフルト伝道部に所属していますが，ここで私たちの菜園についてお知らせしたいと思います。

フランクフルトのような大都市で菜園用の土地を見つけるのはとても大変です。私たちがようやく見つけたのはほんのちっぽけな庭で，それも柵は壊れ，中に建っていた小屋はまったくのあばら屋で，おまけに一面草がぼうぼうでした。そこを借りたわけです。でも私たちは決してくじけませんでした。

まず柵を新しくしました。それから



十二使徒評議員会会員の歓迎を受けながらタバナクルに入るスペンサー・W・キンボール大管長

小屋を修理し，土地を全部耕しました。そして春に野菜の種をまいたのですが，近所の人は決して育たないと言います。私たちは自転車に空きかんを下げて，近くの小川から水をくんできました。そして，私たちのこの菜園を祝福したもうようにと，主に祈ったのです。主は祈りに答えて下さいました。まいた種が全部芽を出し，いろいろな種類の野菜が育っています。本当に見事な光景です。毎日交替で水をやっているところです。菜園のある生活は本当に楽しいですね。」

ポルノグラフィー

教会員は場所を問わず，蔓延（まんえん）しつつあるポルノグラフィーの害悪に対抗するよう強く求められている。しかしそれにとどまらず，市民として，この全人類を惑わす狡猾な敵との闘いに活発に，また毅然とした態度で参加するよう強く勧めるものである。

昨年は，数十億ドルものお金がわいせつな映画や書物に投じられた。このわいせつという黒々としたしみは，今や書店や雑誌店，映画館，そして遺憾ながら，デパートや食料品マーケット，ドラッグストアにまで広がっているのである。

私たちは末日聖徒に，市民として一致団結し，わいせつと闘うよう勧める。

アメリカの雑誌から引用してみよう。

「ようやく重い腰を上げ，セックス産業に対して非難の目を向ける都市が次第に増えてきた。

各地方で，わいせつ行為に対して以前よりも厳しい法津が制定され，施行されてきている。

この多くは，最近の最高裁判決に倣ったものである。……

また，ある高等裁判所の判決は，都市や郡に対して成人映画を締め出す権限を認めている。」（『ポルノ対抗熱，ようやく高まる』*U. S. News and World Report*（「U. S. ニューズ・アンド・ワールド・リポート」1976年9月13日付，p. 75）

「ポルノグラフィーは性と人間性を堕落させるものである。性は人と人との関係にあって極度にデリケートなものである。もしもこれに打撃を与え，堕落したものとするならば，性は動物的なものとなり，ひいては人間性全般にも打撃を与えるものとなるであろう。

ポルノグラフィーはあらゆる階層の人々に影響を及ぼす。わいせつは文明に敵対するものであり，われわれの根本となる信念を揺るがすものである。これは，家庭を基とした倫理観への攻撃と言える。」（ラリー・パリッシュ〔合衆国連邦地方検事補〕『ポルノグラフィーとの闘い』より，p. 76）

主はレビ記の中でモーセに対して，売春や同性愛を含む様々な姦淫行為から遠ざかるよう，明確に，かつ力強く語られた。主はこれらを「憎むべき」行為であると言っておられる。（レビ20）

それらは，今の世にあってもなお憎むべきものであり，人の心をむしばみ，自尊心を押しつぶし，苦痛と不幸の暗闇に人々をひきずり込むのである。

私たちはあなた方に申し上げたい。子供たちに，わいせつなものを避けるように教えなさい。なぜならそれは疫病と同じだからである。また市民として，地域のポルノグラフィー反対運動に加わりなさい。ポルノグラフィーをなくすことは，人間から自由選択の権利をはく奪するものだとする業者の言い分に屈することのないようにしようではないか。彼らを自由という隠れみのの中でのさばらせてはならない。

今，私たち一人一人の身近にいる愛すべき霊たちが危機に瀕している。

ポルノグラフィーにより芽を出した罪の種が，堕胎をはじめとする他の重大な罪をひき起こしているのである。

堕　胎

生命の破壊以外の何物でもない堕胎が，急速にその数を増している。全く嘆かわしい限りである。昨年1年間，アメリカ合衆国だけでも，法的に認められた堕胎数は100万件を越えたことが報告されている。これは7年前の1969年と比較して約50倍近くの増加である。ある著名な権威者によれば，1980年には法的に認められたものだけでも240万件に達するだろうということである。他の多くの国々でも同じような傾向を示している。

堕胎は生命を断つことであり，罪の中でも最もゆゆしいもののひとつに数えられる。私たちはこれまで，この堕胎に対する教会の立場を繰返し言明してきた。すなわち，ふたつの例外を除いてはあらゆる堕胎に反対するということであり，この立場は決して変わらない。ふたつの例外とは，強姦により妊娠した場合と，権威ある医師により堕胎をしなければ母親の生命が危ぶまれるという診断があった場合である。

この堕胎の悲劇の始まりが，いわゆる「X」級の成人映画を上映する映画館に出入りすることであり，ポルノ雑誌を盗み見ることであることに疑いはない。また婚前交渉や姦淫，同性愛などの重大な罪が，性や暴力を売りものにしたテレビ番組に端を発することも事実である。

私たちは義のよろいを着て，こうしたサタンの力に全力で対抗しなければならない。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が主の道を歩み，恐れずに断固としてサタンに対抗しなければならない時が来ているのである。

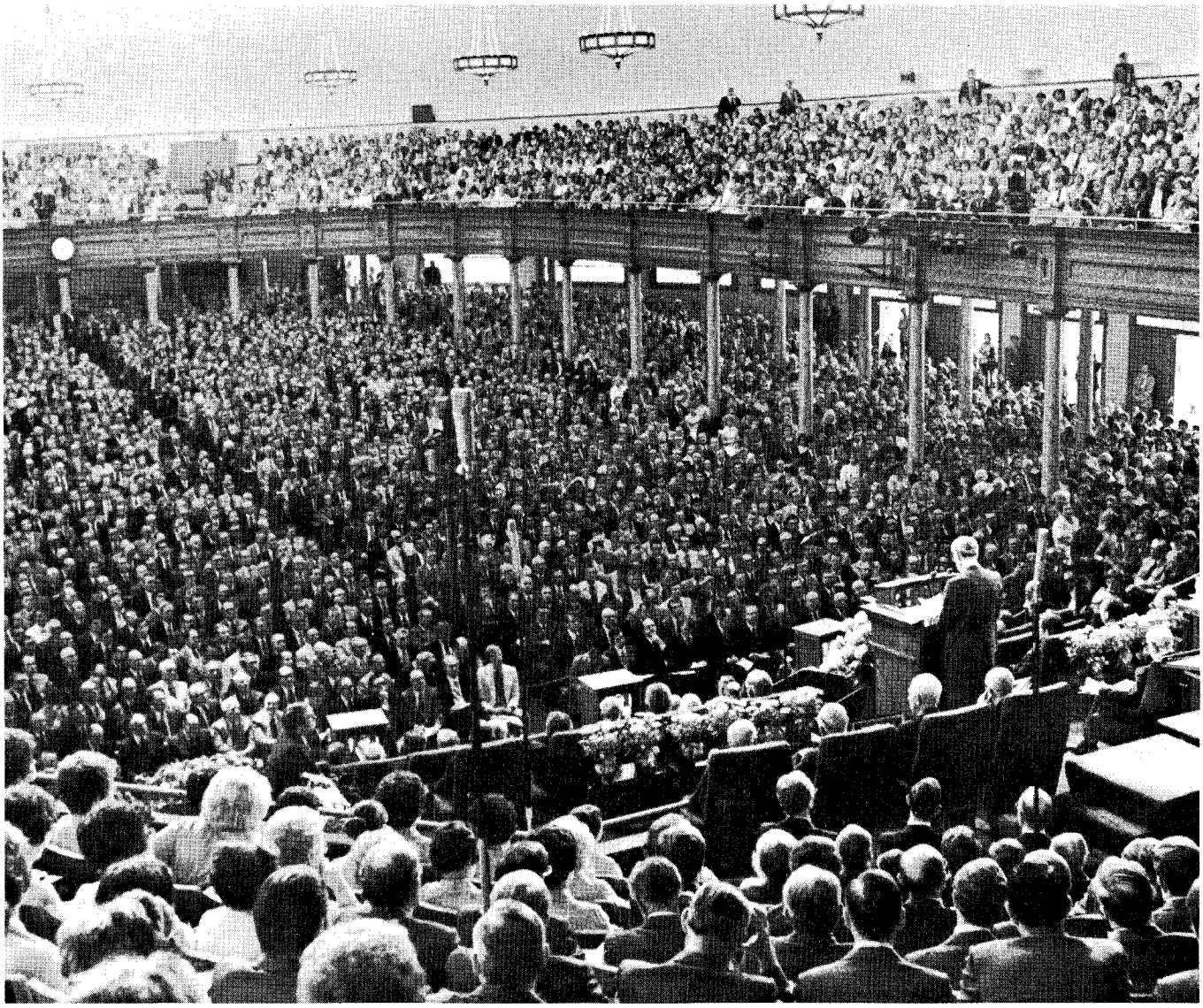
建国200年

私たちはこの国の他の多くの人々と共に，アメリカ建国200年を祝った。そしてこの尊い国家に対して忠誠心が増すのを身をもって感じてきた。

私たちはベンジャミン・フランクリンの言葉を思い出す。

「私は人生を長く生きてきました。そして長く生きれば生きるほど，『神，人事を統べたもう』との言葉が真実であるということに対して確信を深めています。……私たちがこの国の政治を確立しようとしても，主の助けがなければ，それはバベルの塔を建てた人々と何ら変わらないものとなるでしょう。」（ジェームズ・パートン，*Life and Times of Benjamin Franklin*「ベンジャミン・フランクリンの生涯とその時代」2：573－74）

長年にわたる苦悶と悲劇，戦争と暴動，政府要人の暗殺と犯罪の中から，



教会中央役員の支持をとるN・エルドン・タナー副管長

アメリカ人は建国の年，1776年の精神を取り戻した。そして建国者と移民してきた先祖たちの夢を再び目のあたりにしたのである。それは，男も女も自由な存在者となってあらゆる機会を自らのものとし，逆に政府権力に対しては制限を設けるという，偉大にして慰めに満ちた夢である。

今や建国200年からまた新たな1歩を踏み出すにあたり，私たちはホワイトハウスの大理石の暖炉に刻まれたジョン・アダムスの言葉を再度述べるものである。「この屋根の下では正直で賢明な者のみが統治せんことを。」

シナイ山でモーセに与えられた戒めをないがしろにする国は，堅固な国として存続することはできないのである。

正　直

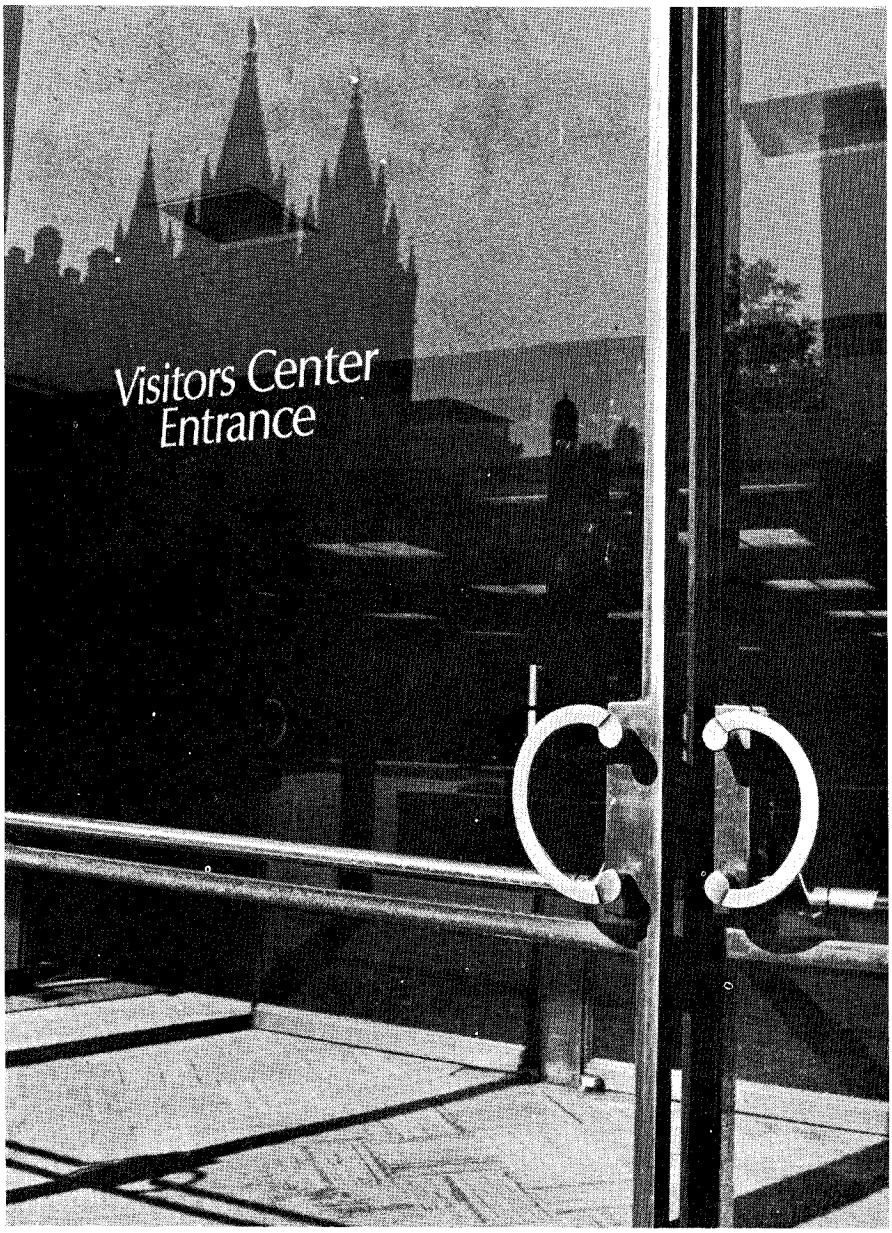
今の時代は，正直と高潔さを説かなければならないときである。多くの人々が，神から与えられた正直という律法の概念を見失っているように思われる。ジョセフ・スミスは次の信条をもって私たちを導いている。「われらは正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行うべきを信ず。」（信仰箇条第13条）

私たちの創造主は，シナイ山で石に刻んだ言葉を通して次のように語られた。「あなたは盗んではならない。」そして回復の基礎となった啓示の中でも，「汝盗むなかれ」と言って強調された。（教義と聖約59：6）

主のみ言葉は，官公庁にも個人の生活にも雷鳴のように鳴り響く。「汝盗むなかれ。…… また何事にてもこれに類することを為すことなかれ。」（教義と聖約59：6）

私たちは，あらゆる種類の不正直を合理化している。その中には，自らを尊敬に値する立派な人間だと称する何百万もの人々が行なう，最も低級ないやしい行為，万引も含まれる。

不正直はいろいろな形をとって現われる。ハイジャック，欲得ずくの情事，職場の金品を盗むこと，帳簿をごまかすこと，食料品のスタンプを乱用した



訪問者センター入口

り虚偽の申告をしたりして，他の納税者の利をむさぼること，事実に反して課税控除を受けること，返済の意志がないままに政府や個人のローンを利用すること，ローンの返済を逃れるために不当な破産宣告を受けること，ひったくりや窃盗を行なうこと，一日分の報酬に見合うだけの働きをせずに時間を盗むこと，無賃乗車をすること，その他不正直は，場所や形や状況を問わず，いろいろある。

こうしたあらゆる盗みや不正直に対して，主はこう言っておられる。「汝盗むなかれ。」何と簡潔明瞭な言葉であろうか。恐らく主は，盗みや偽りの申告，地位の利用について，その例を長々と連らねることに倦まれたのであろう。そこで自分のものでないものを不正に取ることをすべて含めて，「汝盗むなかれ」と言われたのである。

「だれもがしているから」という言いわけをよく聞く。正直，信頼，それに自制のない社会は健全な社会とは言えない。

家庭にあって男性は，妻を妊娠や出産のときだけでなく，子供を養育している間もよく思いやらねばならない。母親の健康は保護されてしかるべきものであり，夫にとって妻に思いやりを示すことは第一の義務である。さらに自制は，夫婦関係にあってきわめて大切な要素であると言えよう。

家庭の夕べ

家庭の夕べは，家庭が全世界のあらゆる組織の中で最も重要なものであるという信条の上に立って実施されている。私たちはまず家族のことに時間と精力を傾け，家庭の夕べを正しく，また着実に実施していくようにしなければならない。

この家庭の夕べの管理をするのは父親である。それを妻が助ける。歌と祈りとレッスンがあり，家族のために，義しい人生の過ごし方が説かれる。

福音に対する信仰と悔改め，正直，高潔，清さを教える最良の場は家庭である。

戒めに従って生活し，親子の間が密接なものとなれば，離婚は大幅に減少し，あらゆる悪と誤解は姿を消すであろう。家庭は，徳の基本を教える学校なのである。

ある聖職者はこう書いている。

「事実，お互いの絆が弱い家族，また破滅状態に陥っている家族の場合，道徳上の問題が必ずある。人間は弱い生きものであり，家庭や教会，学校，職場の同僚など，助けてくれるものが必要なのである。」

家庭が人間にとって『第一のなくてはならない細胞』のようなものであるとするならば，家庭が崩壊すれば当然のこととして社会という体も崩壊するであろう。」

あるアメリカの作家はこう書いた。

「歴史の流れの中で，国々はたび重なる病気や侵略，飢饉，地震，疫病，不況に耐えて生き残ってきた。しかし，家庭の崩壊は，決して救うことができなかったのである。

家庭は，倹約の方法やお金の使い方，仕事への態度，経済的に独立するための方法をやさしく教えてくれる，言わば苗床のようなところである。

家庭は学校よりも強力な教育機関で

あり，教会よりも強力な宗教教育の場である。

家庭を強めれば社会も強くなる。家庭がバランスを失うとき，人生は崩壊するであろう。

来年1月からアメリカの大統領の椅子にすわる人には，想像力と勇気という点でかなり高度なものが要求されるであろう。

これから将来へ向けて，時代の大きな潮流に基本的な徳を取り入れていかなければならない時代が訪れると思われる。私たちは1976年が，各国にとって建て直しへの出発の年になるよう望むものである。」（『高揚するアメリカ精神』*U. S. News and World Report*「U. S. ニューズ・アンド・ワールド・リポート」1976年8月23日付，pp. 25－27）

このプログラムに熱心に取り組む私たちの姿に，他の多くの教会やいろいろな国に住む個人や団体が注目を寄せている。この家庭の夕べを欠かさずに行ない，訓練と教育，そして家族への祝福の場として活用していただきたい。

動物愛護

兄弟姉妹，動物愛護会で，動物愛護週間を設けたことに注目していただきたい。

私の父は，動こうとしない馬をたたいたり，犬を蹴ったり，動物にえさをやらないでおく人を見ると激怒したものである。

賢者ソロモンはこう語った。「正しい人はその家畜の命を顧る。」（箴言12：10）

「あなた(神)は家畜のために草をはえさせ，人のために働く家畜にまぐさを与える。」（詩篇104：14）

動物には休息が与えられているのである。

「あなたは六日のあいだ，仕事をし，七日目には休まなければならない。これはあなたの牛および，ろばが休みを得……るためである。」（出エジプト23：12）

古いヘブライのことわざに，馬がいななかず，犬もほえない町には住むな，というのがある。

政　治

大統領予備選挙も終わり，間もなく総選挙が始まろうとしている。

こぞって投票所へ行き，国民の権利と自由を守るために最大の努力を傾ける，最も強力で立派な人に票を投じていただきたい。

私たちの教会は候補者を立てないので，人格的にすぐれた，誠実な人に投票されるように。審判を下すのはあなたである。

私たちは教会の建物や組織を，いかなる候補者の選挙運動にも用いることのないように願っている。

レーマン人のための活動

私たちのレーマン人のための活動は前進を続けてきた。中南米やメキシコ，太平洋諸島において，6千万人以上のレーマン人が福音を受け入れつつある。

里親制度も拡大の傾向にあり，数千名に及ぶインディアンの子女たちが素晴らしい教育環境，家庭環境のもとで生活している。また大学教育まで受けようとする人も少なくない。

私たちは，直接レーマン人のために開かれている伝道部が36ほどあると聞いている。またレーマン人教会員の多いステーキ部の数は60あり，さらに多くのステーキ部が間もなく組織されようとしている。そうしたステーキ部や伝道部のレーマン人教会員数がほんの数万名だったのは，つい最近のことである。

技師，化学研究員，医師，弁護士，その他専門技術を身につけた人々がレーマン人の中から輩出している。

レーマン人のために「養父となり養母となる」というモルモン経の予言は成就しつつある。約1万人から1万5千人のインディアン学生がセミナリーをはじめ教会の宗教教育制度のもとで教えを受け，さらに数百人の学生は，ブリガム・ヤング大学で学位を取得中である。ブリガム・ヤング大学は，最高学府の中でもレーマン人のために最も利点の多いところであろう。彼らは卒業後，教育や研究，会社設立，金融など，各方面に巣立っていく。私たちはレーマン人教会員に対して誇りを持っている。そして私たちがすべて，教会に足を向けるいかなる少数民族に対しても愛と親切をもってあたるよう希望するものである。

災　害

私たちは，過去数ヵ月間の大災害で被害にあったすべての方々に対して同情を禁じ得ない。ティートンダム決壊により生じた洪水により，非常に多くの教会員の方々が肉親や家財を失うという惨事にあった。ダムの水位が高かったため，濁流は下流にあるすべてのものをのみこんでしまった。私たちはリックスカレッジの建物が濁流からほんの少し高いところに位置していたことに感謝している。おかげで家を失った人々に仮住まいを提供し，延べ数十万人分の食事を供給することができた。この大惨事の中にあって活躍して下さった組織に対して，また数え切れないほど多くの方々の忠実な働きと愛と犠牲に対して，私たちは大きな誇りを感じている。

また，コロラド州のビッグトンプソン川の洪水の犠牲者に対して，また家屋や土地を流された方々に対して，同情を寄せるものである。

さらにインドネシアでの地震，フィリピンでの地震と津波，そしてグァテマラでの地震で被害にあわれた方々に深く同情する。私たちはこうした激甚災害にあわれた方々のことを思い，深い同情を寄せると共に，主がそうした方々を祝福し，み守りたもうよう祈るものである。

兄弟姉妹，私たちはすべての教会員の方々に，「主の器をもてるものは潔くあ」るように（教義と聖約38：42），そして主の戒めを守って生活し，義をなすように強くお勧めしたい。

今大会で幹部の方々のみたまに満ちた説教に心の耳を傾けるときに，神の祝福があって，主のみたまがあなた方と共にあるように。この証をイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

※大管長会の指示により，「地域総大会」という名称を「地域大会」に変更します。

七十人第一定員会の改組

大管長
スペンサー・W・キンボール

きょう私たちは，さらに4名の七十人第一定員会会員の支持をお願いする予定である。

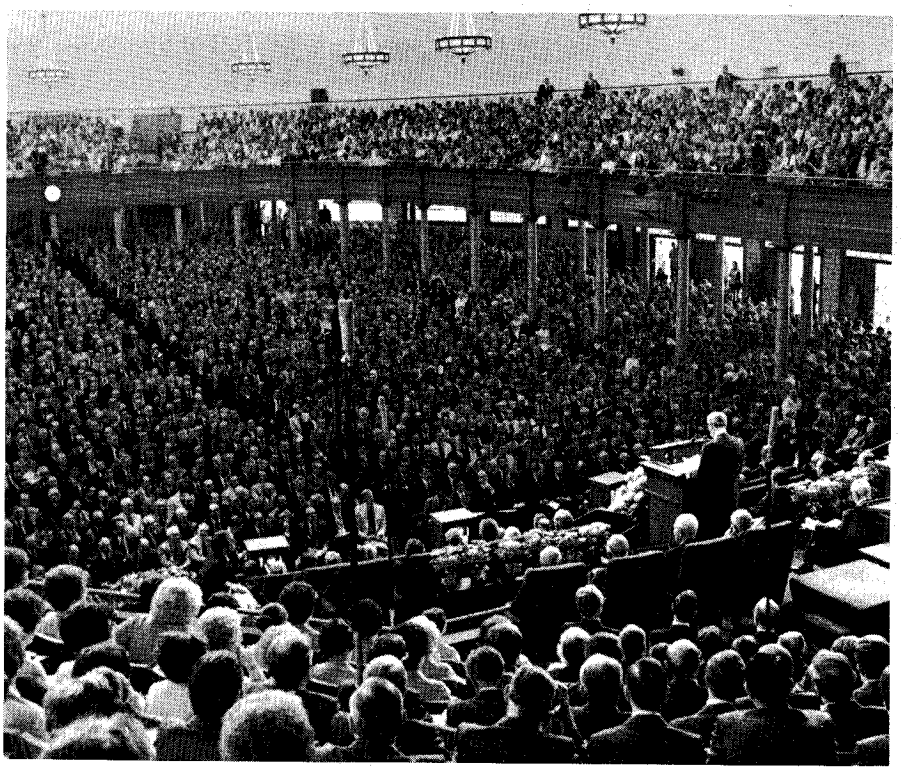
1941年，十二使徒の責任上の負担を軽減し，七十人第一定員会についての啓示で示された役割に近い責任を果たす役職として，5人の大祭司が十二使徒補助として召された。当時のみ業の規模や要求からして，第一定員会を再編成するまでに至らなかったのである。それから年月も流れ，補助の方々の数も増えて，現在では21名に達している。

昨年から，七十人最高評議員会会員のほかに七十人第一定員会会員が教会幹部として召されるようになり，現在のところ定員会会員の数は，最高評議員会会員も含めて14名である。

このように十二使徒補助と七十人の役割が共通しており，また世界的規模での教会の急激な発展に伴い，教会中央レベルでの管理形態を強化する必要が生じてきた。このために大管長会と十二使徒定員会は，十二使徒補助ならびに七十人第一定員会の同意を得て，全十二使徒補助を七十人第一定員会会員として召し，新たに4名をこの第一定員会に加え，さらに七十人最高評議員会を再編成することにした。以上の異動は幹部の名前と共にこれからN・エルドン・タナー副管長が提議する。この結果第一定員会会員は総勢39名となり，定員会の事務事項を決定する上で必要な過半数を越えた。

この異動によって，啓示された3つの定員会（大管長会，十二使徒定員会，七十人第一定員会）が主が啓示された通りに設置されたことになる。以上の定員会は，現在教会に課せられている多岐にわたる任務を効果的に処理し，み業の急速な進展への対応を可能にするものである。そしてひいては，主が再びこの地上を訪れ，主の教会と王国を直接管理される日に向かって備えをなすものとなるであろう。

ではこれから，N・エルドン・タナー第一副管長に，教会幹部ならびに教会中央役員，補助組織中央役員の支持をお願いしたい。



教会役員の支持

第一副管長
N・エルドン・タナー

ただ今のスペンサー・W・キンボール大管長の声明に基づき，私たちは七十人最高評議員会会員，すなわちS・デルワース・ヤング，A・セオドア・タトル，ポール・H・ダン，ハートマン・レクター・ジュニア，ローレン・C・ダン，レックス・D・ピネガー，ジーン・R・クックを，心からその優れた働きに感謝し，ここに解任したいと思います。もちろんこの解任は，彼らの七十人第一定員会会員としての地位に影響を与えるものではありません。以上の幹部の方々の優れた奉仕の業に感謝の気持を示して下さる方は，右手を挙げてその意を表わして下さい。

また管理監督会第二副監督としてよく働いて下さったボーン・J・フェザーストーン監督をも感謝の解任をしたいと思います。フェザーストーン監督の働きに対して感謝を示して下さる方は，右手を挙げてその意を表わして下さい。

私たちは予言者，聖見者，啓示を受ける者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さるよう提議致します。この提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを，第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒定員会会員として，エズラ・タフト・ベンソン，マーク・E・ピーターセン，デルバート・L・ステイプレー，リグランド・リチャーズ，ハワード・W・ハンター，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ブルース・R・マッコンキー，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイトを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

教会の大祝福師としてエルドレッド・G・スミスを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があればその意を表わして下さい。大管長会副管長，十二使徒，大祝福師を予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持して下さるよう提議致します。賛成の方は右手を挙げてその意を表わして下さい。

私たちはスペンサー・W・キンボールを末日聖徒イエス・キリスト教会信託管理人として支持するよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

七十人の会長ならびに七十人第一定員会会員として，フランクリン・D・リチャーズ，ジェームズ・E・ファウスト，J・トーマス・ファイアンズ，A・セオドア・タトル，ニール・A・マックスウェル，マリオン・D・ハンクス，ポール・H・ダンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

その他の第一定員会会員として以下の方々を支持して下さるよう提義致します。アルマ・ソニ，スターリング・W・シル，ヘンリー・D・テイラー，アルビン・R・ダイヤー，セオドア・M・バートン，バーナード・P・ブロックバンク，ジェームズ・A・カリモア，ジョセフ・アンダーソン，ウイリアム・H・ベネット，ジョン・H・バンデンバーグ，ロバート・L・シンプ

ソン，O・レスリー・ストーン，ウイリアム・グラント・バンガーター，ロバート・D・ヘイルズ，アドニー・Y・小松，ジョセフ・B・ワースリン，セイモア・デルワース・ヤング，ハートマン・レクター・ジュニア，ローレン・C・ダン，レックス・D・ピネガー，ジーン・レイモンド・クック，チャールズ・A・ディディエ，ウイリアム・R・ブラッドフォード，ジョージ・P・リー，カーロス・E・エイシー，M・ラッセル・バラード・ジュニア，ジョン・H・グローバーグ，ジェイコブ・ディエガー，ボーン・J・フェザーストーン，ディーン・L・ラーセン，ロイデン・G・デリック，ロバート・E・ウエルズ。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会管理監督としてビクター・L・ブラウンを，第一副監督としてH・バーク・ピーターソンを，第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

十二使徒会地区代表。全十二使徒会地区代表を現状のままで支持して下さるように。

管理監督会——ビクター・L・ブラウン・H・バーク・ピーターソン，J・リチャード・クラーク——の管理の下にあるアロン神権委員会委員全員を現状のままで支持して下さるように。

若い女性。会長としてルース・ハーディー・ファンクを，第一副会長としてホーテンス・H・チャイルドを，第二副会長としてアーデス・G・カップを，その他委員を現状のままで支持して下さるように。

扶助協会。会長としてバーバラ・ブラッドショー・スミスを，教育担当副会長としてジャネス・ラッセル・キャノンを，ホームメーキング担当副会長としてマリアン・リチャーズ・ボイヤーを，その他全管理会員を現状のままで支持して下さるように。

日曜学校。会長としてラッセル・M・ネルソンを，第一副会長としてB・ロイド・ポールマンを，第二副会長としてジョー・J・クリスチャンセンを，その他全管理会員を現状のままで支持して下さるように。

初等協会。会長としてナオミ・マックスフィールド・シャムウェイを，第一副会長としてサラ・メリッサ・ブロードベント・ポールセンを，第二副会長としてコーリーン・ブッシュマン・レモンを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

教会教育委員会。理事としてスペンサー・W・キンボール，N・エルドン・タナー，マリオン・G・ロムニー，エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ブルース・R・マッコンキー，マリオン・D・ハンクス，ポール・H・ダン，ビクター・L・ブラウン，バーバラ・B・スミスを支持して下さるように。

以上の提議に対して賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方がありましたら，同じようにその意を表わして下さい。

教会財務委員会。委員としてウィルフォード・G・エドリング，ハロルド・H・ベネット，ウエストン・E・ハミルトン，デビッド・M・ケネディー，ウォーレン・E・ピューを支持して下さるように。

タバナクル合唱団。団長としてオークレー・S・エバンズを，指揮者としてジェラルド・D・オタリーを，准指揮者としてドナルド・H・リプリンガーを，チーフオルガニストとしてアレクサンダー・シュライナーを，オルガニストとしてロバート・カンディック，ロイ・M・ダーリーを支持して下さるように。

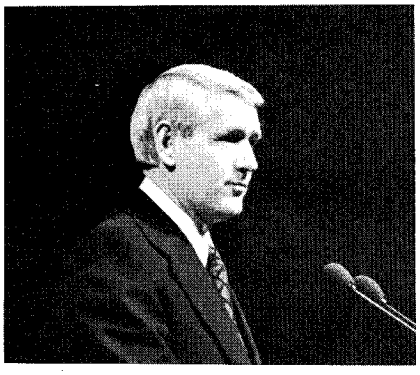
以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方がありましたら，同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長，以上の役員および教会幹部に対して全会一致の支持が得られたようです。

キンボール大管長の指示により，今新たに七十人第一定員会会員に支持されたラーセン長老とウェルズ長老，それに管理監督会第二副監督として支持されたクラーク監督に壇の方に着席していただきます。

新たに七十人第一定員会会員に支持されたロイデン・G・デリック長老は，現在アイルランド・ダブリン伝道部長として海外に滞在中です。

壇上で教会役員の支持をとるN・エルドン・タナー副管長



「わたしはぶどうの木，あなたがたはその枝である」

七十人第一定員会会員
ディーン・L・ラーセン

七十人第一定員会会員として新たに召された者の責任

今週，「エンサイン」に載せる予定の記事を読んでいて，初めて宣教師に会ってからの，ある主婦の心の動きを詩いあげたひとつの詩が目にとまりました。

ドアをあけた私の目に映ったのは
その午後の陽ざしのように
明るく輝いたふたつの顔。
そこに真理が立っていました。
作りかけのカスタードや汚れた台所の床を気にする私。
あなた方の話に記憶の糸はたぐられ，
心の窓を通して，過去の出来事がぼんやりと脳裏によみがえります。
私が求めていたのは何だったのでしょう。
とめどなく流れる涙は何なのでしょう。
あなた方が立ち去ってからも
家の中には
何かしら余韻が残っていました。
そう，私の心の傷をいやしてくれる何かが。
私はモップを取りました。
何もなかったことを装うかのように。

（ジャネット・キャサリー・カッチャー『宣教師の訪れ』）

数日前，キンボール大管長からお電話をいただいて以来，私は心の平静を保とうとして，何もなかったように振舞いました。本当は何もなかったなどとんでもないことで，私の生活が全く変わってしまうことを私は知っています。この新しい召しを受けるにあたって，主の助けと，皆さんの信仰と祈りの力が得られるように，心の底から願っています。私は主に，あなた様の目にかなわぬ者ではありますが，あなた様のみ手の中にあって働く者となりたい，と申し上げました。キンボール大管長にもそうお約束致しました。そして愛する信仰深い妻と忠実な子供たちから支持を受けました。私は主が古代の僕たちに与えられた約束の言葉に慰めを見出しています。

「あなたがたは，わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

わたしにつながっていなさい。そうすれば，わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ，自分だけでは実を結ぶことができないように，あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。

わたしはぶどうの木，あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており，またわたしがその人とつながっておれば，その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては，あなたがたは何一つできないからである。

あなたがたがわたしにつながっており，わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば，なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば，与えられるであろう。

あなたがたが実を豊かに結び，そしてわたしの弟子となるならば，それによって，わたしの父は栄光をお受けになるであろう。」（ヨハネ15：3－5，7－8）

兄弟姉妹の皆さん，主イエス・キリストが生きたまい，この業が主のみ業であり，キンボール大管長が真実この地上における主の予言者であることを証します。主は王の王として，また主の主として再びこの地上を訪れ，統治されるでしょう。そのときに私たちが，主に仕えて主と共に生活する人々と同じ祝福にあずかるにふさわしい者となれるように祈ります。主の祝福がきょう，私たちの上に注がれるように，イエス・キリストのみ名により申し上げました。アーメン。

大会訪問者

弱い者であっても

七十人最高評議員会会員
ニール・A・マックスウェル

自分の能力のなさを悩む人たちのために

兄弟姉妹，まず初めに，この召しに対して予言者とふたりの副管長の方々に感謝したい。私は大管長会の方々，リチャーズ長老，そして七十人第一定員会の方々に，定員会の歴史のページの隅に記される私の記事から，私が生涯をイエス・キリストの福音を広めるために，また主の教会を整えるために貢献したということがわかるようになることをお約束申し上げたい。立派な働きをされた先代の会長の方々に，賞賛の言葉をお送りしたいと思う。30年前，デルワース・ヤング会長は私を七十人に聖任して下さった。私はそのとき，残りの生涯を福音を宣べ伝えるために過ごすという約束をしてはじめて聖任を受けたのだった。そのときのヤング会長の態度は厳格そのもので，私は高いビルから飛び降りろと言われたような気持だった。私は彼に心から敬服している。今私は，利己心のひとかけらもない温厚なヤング会長に再度敬礼したい。

さて私は，王国にあって怠けている人にではなく，自分自身の，あるいはそれ以上の重荷を担って働いている人にお話したい。偽りの安らぎにだまされている人ではなく，偽りの不安にさいなまれている人，つまり王国にあって心から献身しているにもかかわらず，いつになっても自分はふさわしくないという思いに襲われる人たちに話したいのである。

イエスが厳しい教義を説くのを耳にした古代の弟子たちも，やはり心配になってこう言った。「それでは，だれが救われることができるのだろう。」(マルコ10：26)

この自分の無能力を嘆く心について最初に言わなければならないことは，そうした気持はだれにでもあるということである。教会では，あなたはまだどれだけ進まなければならないとか，どれだけ行なわなければならないとかいうことは，正直のところ言えない。それを言うには，今私たちが用いている尺度とは比較にならないほど大きな尺度を造らなければならないからである。月の光栄の車のラッシュの中で日の光栄の道路標識に従って進むことは，簡単なことではない。特にそれが，ちょっと隣の家に行くとか，隣町まで行くとかいう筋合のものでないときはそうである。

究極として完き者となることを目ざしている王国では，一人一人が自己改善を必要としているということを互いに認め合う必要がある。感受性に優れたエテロ（教義と聖約ではエツロ――訳注）は，義理の息子モーセに明確な勧告を与えたが，それには裏づけとなる資料がきちんと備えられていた（出エジプト18参照）。予言者でさえも自らの弱さを自覚している。ニーファイは自分が「弱い者であるのに」，偉大な業を推進していった(IIニーファイ33：11)。またニーファイ人のもうひとりの予言者ヤコブは，自分の意思が正確に伝わっているかどうか定かでない人たちのことを自分が「心配しすぎて」いると率直に書いている（モルモン経ヤコブ4：18)。私たちの現在の予言者も，とても受けて立てそうにもないようなチャレンジに何度か直面してきたが，すべて乗り越えてきている。

このように，自分に能力がないと思う気持はだれにでもあるものである。倦み疲れるという気持も同じである。「善を為すにうむことなかれ」との警告があるのはそのためである（教義と聖約64：33)。

聖典に次のような忠告がある。「汝更に急ぐことなく……与えられたる力と方法以上に働くことなかれ。」(教義と聖約10：4)これは，神が人間をこの地上にお置きになる準備として7つの段階を踏まれたように，ゆっくりと段階を踏んで進歩することを示唆したものである。従って「一生懸命に行なうこと」と「心配しすぎて肝腎な仕事が進まないこと」とは，異質なものである。

私たちの中で人の弱さを責めない人には，素晴らしい日が訪れるであろう。しかし反面，たくさんの良いしるしがあるのに決してそれを認めず，しかるべき段階を踏んでこそ人は進歩するのだということに全く関心を示さない人は，自分自身という最も冷酷な裁判官の前に身をさらす人である。幸いなことに主は，私たちが自分自身を愛する以上に私たちを愛して下さっている。建設的な批評家は，自分自身も含めて，自分が批評したものに対して誠実に心を配る。それに反して自己憐憫（れんびん）は憐みの中でも最も恩きせがましい行為であり，それはやがて人をあらゆる懸念のとりこにしてしまう。

兄弟姉妹，聖典はいろいろな出来事

の推移を段階的に展開して見せてくれる。ディスプレー・ウインドーのようなものである。「最初に方向を決めて，次に速度を増す」という重要な教訓に添って次第に成長する姿を見せてくれるからである。あのエノクの民も「時到りて」成長を遂げた(モーセ7：21)。イエスも「最初に完きを受けずして恩恵に恩恵を受け」たもうたのであり(教義と聖約93：12)，「ますます知恵が加わり，背たけも伸び」たのであった(ルカ2：52)。

私たちは聖典のディスプレー・ウインドーの中から，リーハイが「おそれおののく」姿を見る（Ⅰニーファイ16：27)。またそこには兄弟同士の争いもあれば，ダビデとヨナタンのように，深い友情の物語もある。心のいさかいはいろいろあるが，すべてがすべて破局に終わったわけではない。パウロとバルナバのように，親しい関係にありながら誤解が生じる場合があるし，ある予言者がサウル王に，「自分では小さいと思った」時期があったことを率直に話した例もある(サムエル上15：17)。

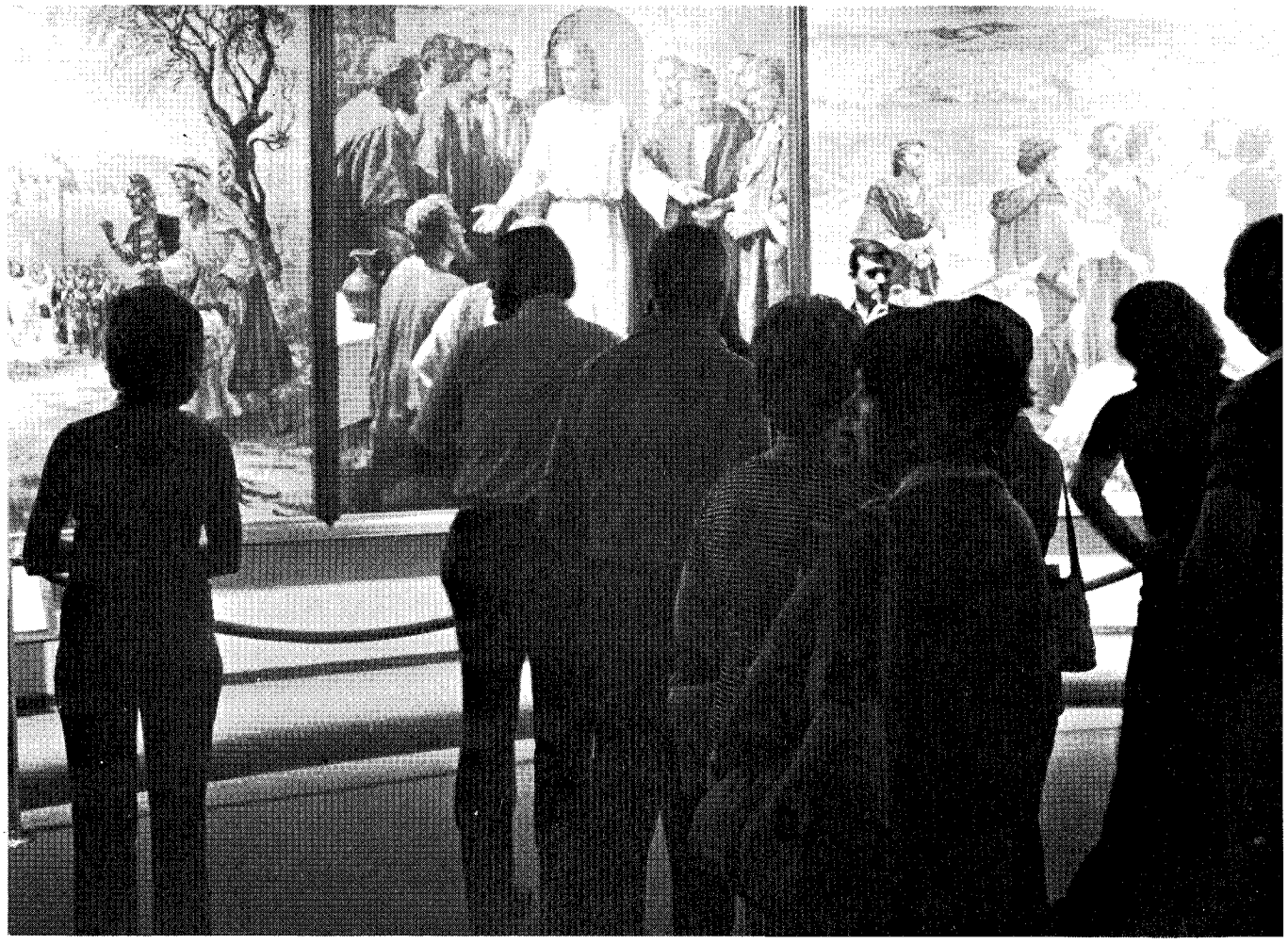
さらに私たちの完きに近い父祖アダムとイブが，子供たちと共に初めての家族に下されたチャレンジと戦いながら，成長の第一段階からとぼとぼと歩む姿を見る。

また律法尊重主義者のパウロが，後に愛について他に比べるもののない素晴らしい説教をするのを見る（Ⅰコリント13章)。牢に捕われたバプテスマのヨハネもいる。彼は「バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった」（マタイ11：11）と言われるほどの人であったが，それでもイエスに対して確信がなかった（マタイ11：2－4)。私たちはペテロが水の上を歩くのを見る。しかし彼さえもおぼれかけ，差し伸べられたイエスの手にすがらねばならなかった(マタイ14：25－31)。私たちはこのペテロが，後にタビタに手を伸べ，生き返らせた様子を見ることができる（使徒9：36－46参照)。

このように，不十分な情報により他の指導者を十分に働いていないと決めつけたのは，モロナイが最初ではなかった。同じように，ペホーランが「愛する兄弟モロナイ」に与えたようなやさしく寛大な返答は，決してその場限りのものではなく，だれもが必要としているものなのである(アルマ60，61章)

私たちは，こうした自らを能力のない者だと思う気持をどうやって克服したらよいのであろうか。少しではあるが，提案してみたい。

(1) 私たちは，神の目から見て自分がまだ満足できる状態ではないこと，悪魔の目から見て自分が満足できる状態ではないこと，自己に対する不満と自己嫌悪とをもっとはっきり区別するこ



キリストの生涯について説明を受ける訪問者（訪問者センター）

とができる。私たちに必要なのは前者であり，後者は避けるようにしなければならない。良心が隣の山の峰から私たちを呼ぶとき，それは単に叱責のためだけでなく，私たちを誘うためでもあるからである。

(2) 私たちは，完成への道を自分自身でどれだけ登ってきたか，深く考えてみることができる。ほとんどの場合，思ったよりも進んでいるものである。私たちは確かに「ふつつかな僕」である。しかし「すべて事をした」からこそ，主はその従順な行ないの一つ一つについて，杯にあふれるほどの恵みを下さるのである。

(3) 私たちは，援助を与えるだけでなく受けることができる。幸いにも軍勢の長ナアマンは，率直で有益な批判を受けた。しかもそれは，同僚からではなく部下からのものであった。(列王下5：1—14参照) 天の摂理からすれば，神は静かな細い声で用が足りるところをわざわざ雷を用いるようなことはなさらないし，また祭司でできる仕事なのに予言者を召すようなこともなさらないのである。

(4) 私たちは他人(子供も含めて)の行動の自由を認め，その結果を踏まえた上で，自分の努力を評価することができる。私たちの側で練りに練った最上のものでも，だれか他の人が最もまずいことを行なえば，結果は良くないものになってしまうからである。

(5) 自己改善に対する決意をたくさん書き出し，取り組むことができる。書き出さないでおくと，たとえ決意したことでも，睡眠の間に忘却の彼方に置き去りにしてしまうことがあまりにも多いからである。

(6) もしもきょう私たちが死ぬとすれば，私たちの死は心からの哀悼の念をもってむかえられるに違いない。恐らく国会から弔辞をいただくようなことはないであろうが，あなたの死がだれひとりとして人の心を打たないほどこの世間は冷たくはないのである。

(7) 私たちは黙々と自らの畑を自らの手で耕すべきである。後ろを振り返ったりまわりを見たりして比較する必要はない。与えられた賜と機会は人によって異なる。中には目に見える，影響力の大きいものもある。歴史家モロナイは勇者マホンライ・モリアンキュメルの感動的な文章に接し，自分が書き手としてふさわしくないのではないかと感じた。私たちはだれでも少なくともひとつの賜は持っている。そして「熱心に最善の賜」を求めるよう，万人に勧められているのである(教義と聖約46：8)。

(8) 私たちは自らの長所を正直に列挙してみる必要がある。口に出して言う必要はない。この点について，ほとんどの人は不正直であり，「部外者からの監査」を受ける必要がある。第一の位にあって地に投げ落されたサタンは，私たちを打ち負かすことに喜びを見出す。自己嫌悪はサタンにつけるものであり，天につけるものではない。私たちはもちろん，自分の犯した誤ちから学ぶべきではあるが，いつまでたっても学び取らないならば，人生はそうした誤ちをただ繰り返すだけのゲームのようなものになってしまう。

(9) 私たちは，然るべき具体的な賛辞をしばしば送ることにより，互いに自尊心の倉庫を一杯にすることができる。倒れている人に手を貸して起こしてあげるように，2マイル行って息を切らしている人にもそれなりの賞賛の言葉が必要なのである。

(10) 私たちは前進し続けることができる。私たち一人一人が背負う十字架を比較することができるのは，主をおいてほかにない。しかしどのような十字架であれ，動いているときの方が背負うのは楽である。エベレストを征服した人は，荷物を肩に負い，一歩一歩前進していった人である。ふもとで頂上を見上げて恐れをなしていたのでは，決して登れるものではない。足は後退のためではなく，前進するために造られたのである。

(11) 持てるものを誠実に捧げることとは，什分の一を完全に納めるようなものだということがわかる。すなわち，この場合に求められているのは「すべてのもの」なのである。レプタ2枚を投げ入れたやもめは，人前を気にしてそうしたのでもなければ，この世での賛辞を求めたわけでもなかった。

(12) 私たちは，神が教会の地理的な拡大よりも内面における成長に対して関心を抱いておられるという事実に，心をとめなければならない。シオンの陣営に加わって行軍した人々が開拓しようとしたのは，ミズーリ州の片田舎ではなく，自らの可能性であった。

(13) 私たちの自由意志の中心をなすものは，置かれた状況がいかなるものであっても，その状況に対して健全な態度を取る自由である。例えば，一生懸命倒れるまで人のために尽くしている人などは，最も健康な人なのかもしれない。みたまは，肉体が初めに行くと同意した所よりもはるか遠くへ私たちを駆り立てるものである。

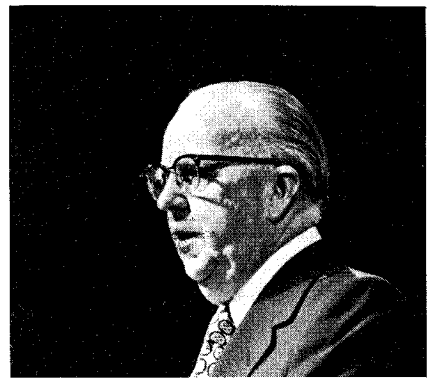
(14) 最後に私たちは，この驚嘆すべき決して変わることのない真理を受け入れることができる。私たちの主は，私たちを絶望の淵から引き上げ，あらゆる保護のもとに私たちを育てて下さる。従って主に対して，自分は孤独であるとか，主は近くにいて下さらないとか言うことはできないのである。

兄弟姉妹，確かにこの福音は壮大な可能性を秘めた福音である。しかし，神の恵みは私たち一人一人にまで及ぶ。失意というものは，ふさわしさに欠けるために生ずるものではなく，勇気に欠けるために生ずるものなのである。私たちは，自らの進歩の中にさらにもうひとつの驚異を見出すに違いない。

インスタントな（即席の）クリスチャンというのは存在しない。真のクリスチャンはコンスタントな（物事を継続して行なう）クリスチャンである。

私たちは，真のクリスチャンとしての生活を送るとき，次のように自らの志を述べることができるであろう。「私はやがて安息につく場所へ行く，そこは私の贖い主の居たもう所である。……その時になると私は贖い主の御顔を仰いで喜び……。」(イノス27) こうして私たちの確信は「神の前に強くなり」，決して偽りを言いたもうことのない御方から「よくやった」という温かいみ言葉をたまわり，私たちがふさわしい者であることがわかるのである。これらをイエス・キリストのみ名により証する。アーメン。

聖徒を完き者とする



七十人最高評議員会会員
フランクリン・D・リチャーズ

今大いに求められていることは，長老見込み会員と呼ばれる兄弟たちに手を差し伸べ，心から関心を示すことである

愛する兄弟姉妹の皆さん，キンボール大管長や教会幹部の方々の説教，それに美しい音楽と開会の祈りにより，この会は非常に霊感あふれる会となっている。

私はこのたびの新しい召しに関して，天父と教会幹部の方々が私に示して下さった信頼に心から感謝している。この責任に着手するにあたり，心が非常にへりくだると同時に，神の王国の建設のために，あらん限りの力をふりしぼって献身しようという決意が体中にみなぎっている。またデルワース・ヤング会長に，そして解任された七十人最高評議員会会員の方々に，私の愛と感謝を示したいと思う。

私たちは困難ではあるが注目すべき時代，すなわち時満ちたる神権時代に生を受けている。

私は，私の霊がこの特別な時代にこの地上に来るよう取っておかれたこと，そして神が生きたまい，イエスがキリストであり，私たちの贖い主，救い主であるという知識を得たことに感謝している。

予言者ジョセフ・スミスという器を通してイエス・キリストの完き福音が回復されたこと，さらには現在，愛する予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長がこの地上における神の予言者として立っていることを証できることは，大いなる特権である。主が大管長を祝福しみ守りたもうように，また私たちが分別と勇気をもって大管長の勧告に従うよう願うものである。

イエス・キリストの教会は時の絶頂に建てられたこの神権時代に回復された。これにはふたつの大きな目的がある。第一に，人の救いに関する真理を全世界に宣べ伝えることであり，第二に，イエス・キリストの福音を受け入れた人々を完き者とすることである。

第一の目的，すなわちあらゆる国家民族，国語，国民に福音をもたらすために，末日聖徒イエス・キリスト教会は世界的な伝道活動を展開している。現在伝道部数は約150，専任宣教師数は約25,000である。これに数千名に及ぶステーキ部や地方部の宣教師を加え，さらに「すべての会員が宣教師」となるプログラムを効果的に推進することにより，教会は加速度的発展を見せている。

次に，聖徒を完き者とすることについては，救い主が，天の父が完全であられるようにあなた方も完全な者となりなさい，と言っておられる通りである（マタイ5：48参照）。近代の啓示には次のように書かれている。「汝らは今神の前に留ること能わず，また，人の為に導きと恵みを施す天使と共に居ることも能わず。この故に汝ら全くせらるるまで引きつずき耐え忍ぶべし。」（教義と聖約67：13）

聖徒を完き者とするという第二の目的を達成するために，末日聖徒イエス・キリスト教会は，全教会員のために多種多様の活動を用意している。人々はそれらの活動を通して，知的にも道徳的にも，また肉体や霊の面でも，完き者への道を歩むのである。

教会員の中で，活発にこの完成への道を歩んでいる人々の割合は高く，それぞれ，いろいろな形で祝福を受けている。

しかしその反面，メルケゼデク神権を持たない不活発会員が多くいる。長老見込み会員と呼ばれる，未来の指導者たちである。私たちには，兄弟である彼らにさらに積極的に完成への道を歩ませるというチャレンジが与えられている。

スペンサー・W・キンボール大管長は，教会員に歩みを早めるように求めた説教の中で，このチャレンジについて言及している。「不活発と無関心のサイクルは，父親から息子へと循環するものである。教会は今，同時にふたつの点からこのサイクルを打破していかなければならない。まず第一に，アロン神権を持つさらに多くの若い男性に手を差し伸べ，彼らが忠実な生活を送り，伝道に出る備えをなし，聖なる神殿で結婚できるように助けること。第二に，さらに多くの父親や長老見込み会員に対して手を差し伸べ，彼らを把握することである。

私たちは，メルケゼデク神権定員会を強化するためのさらに洗練された方法を見つけなければならない。特に長老見込み会員に手を差し伸べる方法を教える必要がある。ほとんどの場合，長老見込み会員には教会員の息子や娘がいるからである。」（『歩みを速める』十二使徒会地区代表セミナー，1974年10月3日）

これは単に神権定員会にとって偉大なチャレンジであるばかりでなく，教

会全体へのチャレンジでもある。きょう私は，この点にしぼってお話したいと思う。

なぜ彼らは不活発なのであろうか。私が考えるのは，第一に，彼らが福音を理解していないことであり，第二に，教会の活動から得られる祝福を十分に味わっていないからである。

18歳に達していながら長老に聖任されていない若い男性の数を減らすために，一体何ができるであろうか。少し例をあげてみたい。

まずアロン神権定員会ならびに補助組織のプログラム，さらにはセミナリー・インスティテュートプログラムが，これらの若人を訓練する上で非常に重要な役割を果たしているということである。しかしながら，彼らの両親，家族，そして私たちすべても，同様に彼らに対して驚くほど大きな影響を与えている。

両親の生きた模範は，意識のあるなしにかかわらず，子供に吸収されていく。

ソロモンの知恵ある言葉に次のようなものがある。「子をその行くべき道に従って教えよ，そうすれば年老いても，それを離れることがない。」（箴言22：6）

最近私は，9歳になる息子を持つステーキ部長の家に滞在した。そしてその息子の部屋のベッドで休もうとしたとき，彼のドレッサーの上にボール紙でできた貯金箱があるのを見つけた。中が3つに仕切られていて，ひとつには什分の一，ひとつには伝道，そして残りのひとつには遊びと書いてあった。伝道に出るかどうか聞いてみると，彼は「そのために貯金しているんです」と答えた。こうした計画を重ねていくにつれて，彼は長老に聖任されるにふさわしい者となり，宣教師として奉仕する備えができるであろう。

また別のステーキ部長の家でそこの息子の部屋に泊まったところ，壁に教会の神殿の写真が貼ってあった。彼は伝道と同時に神殿結婚の計画も立てていたのである。

年長の子供が年少の子供に与える影響も，見逃がすことができない。数週間前，伝道に出る予定のある兄弟を面接していたときのことである。私はその兄弟にこう尋ねた。「なぜ伝道に出たいと思うようになりましたか。」彼の答えはこうであった。「この教会はイエス・キリストの教会です。このことを他の人々に教えてあげたいと思います。それに，私は一番上ですから，弟たちに模範を示したいんです。」何と見上げた精神ではないだろうか。

タバナクルに入るN・エルドン・タナー副管長

では，長老見込み会員と称する，まだメルケゼデク神権を持っていない大勢の善良な人々についてお話したい。私たちは，ステーキ部長や監督，高等評議員，定員会指導者，その他指導者と呼ばれる人の多くが，ある一時期において不活発な長老であったり，長老見込み会員であったりしたことを忘れてはならない。彼らが完成への道に再び戻るようになったのは，どうしてなのであろうか。その理由の中で大切だと思われるものについて，例をあげてみよう。

最近再び教会に出席するようになったある長老が，断食証会で初めての子供を授かったときの気持をこう証した。「この小さな素晴らしい霊を生涯を通じて導く，という責任が自分にあることに気づき始めたとき，今まで無視していた神権を尊ぶことこそが，理想の父親になれる唯一の道だということを悟ったのです。」

最近，以前長老見込み会員だったある兄弟は，長老定員会会長から長老定員会の書記補助として働いてくれるように頼まれたことが，自分にとってどれほど有益であったかを話してくれた。彼はその責任を引き受けることを決心するのに1週間かかったが，引き受けてからの生活の変化は目ざましいものであった。こう語っている。「みんながただ単に私を誘おうとしているのではなく，本当に必要としているのだということに急に気づくようになりました。」

私はファイアサイドや家庭集会で，長老見込み会員のグループと共に働くことにより，歩みを速めることができると信じている。彼らは年齢や教育，趣味などでグループ分けし，彼らの妻と共に気の合ったグループとして接触をはかるようにすれば，教会の活動にごく自然に，またより早く参画できるようになるであろう。

大祭司や七十人も，同年代の長老見込み会員を教えたりフェローシップしたりする上で責任を受けて働くことができる。

多くの長老定員会は，神殿に参入する予定の人々を教えることにより，素晴らしい成果をあげている。長老見込み会員とその妻が，ホームティーチャーや定員会役員，そしてその妻たちと共に人生について深く考えることにより，友情と霊性が育まれ，多くの長老見込み会員の生活が永遠に及ぶ変化を遂げたのである。

つい2，3日前のことだが，近所の人でこの神殿参入グループに参加した夫婦が，考えてもみなかったことが起きたと話してくれた。神殿参入グループに参加したこの長老見込み会員は，以前不活発になったことのある人である。それが今では，家族を神殿に連れていこうと準備している。グループでいろいろ教わるうちに，兄弟姉妹の思いやりの精神に深く感動したのであった。

長老見込み会員の中には，非教会員の女性と結婚する人が多い。このケースは，長老定員会会長にとってまたとない機会である。ワード部伝道リーダーと調整し，不活発な夫の協力と同席を得て，ステーキ部宣教師またはフルタイム宣教師から福音を教えてもらうことができる。

私は，この宣教師によるアプローチが，私たちの目的を達成する上でひとつの主要な活動になるはずだと思う。福音の知識を得る上で，自ら学ぶことが非常に大切だからである。

最初は小さな責任でも，教会での活動に長老見込み会員を参加させるべきである。私は長老見込み会員や新しく改宗した人たちで，教会堂の国旗の掲揚と降納，讃美歌集の修理，定員会役員の補助などの責任を受けた人たちから，胸躍るような報告を受けている。そしてどの場合にも，参加した人は幸福を得，非常に有益な経験をしている。

結びとして，再び活発になったひとりの長老見込み会員の言葉を紹介しよう。彼はこう書いている。「もうだいぶ教会にごぶさたしていましたから，大きな援助がなければだめだったでしょうね。私は，長老定員会の会長が来てくれたあの夜のことを決して忘れないでしょう。彼はこう言いました。『ロジャー，来週の日曜日の夜から週に一度，2組の夫婦が家に来て福音の原則を勉強することになっているんだけど，出てみない？奥さんと一緒に来てくれればうれしいんだけど。』

私を誘うには勇気が必要だったと思います。でも，それが大切な第一歩でした。それまでだれも私を，教会活動に誘ってくれる人はいなかったからです。私と妻はそのファイアサイドで，福音の原則で今まで理解できなかったことを学びました。そして証を聞きながら，長い間不活発だったため鈍くなっていたあの感情が再びよみがえるのを覚えました。

家族の祈りを始めてからは，特別なみたまが家庭を包むようになりました。そしてほどなくして福音に夢中になった私は，通勤のバスの中で，また時には昼休み中にも聖典を読むようになりました。」

続いて彼の手紙には，家族全員で神殿に行き，夫婦と親子がそれぞれ今も永世にも結び固められたときの感激が書かれていた。彼らは今，3人の息子を伝道に出すために準備している。

今，教会の活動に参加していない方々に申し上げたい。私たちはあなた方に愛の手を差し伸べている。私たちが，神権と福音の祝福をどれほどあなた方と分かち合いたいと思っているか，知っていただきたい。あなた方自身が完成への道に活発に参加する上で，今よりも良い時はもう巡ってこないであろう。私は約束したい。この完成への道に立ち戻るならば，成長と進歩が得られるだけでなく，平安と幸福と喜びがもたらされるであろう。

願わくは，私たちすべてが救い主の模範に従って完全になることを求めるように，また私たちが完成への道にあって共に助け合うことができるように。イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

☆　　☆

キリストが受けたもうた誘惑

十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター

救い主は誇りや流行，虚栄などの欲，富や権威を求めようとする心に打ち勝つことを，模範を通して教えられた

この死すべき世における敵との戦いの中で，私たちは疲れ，力を失い，行く手に待ち構える誘惑の手に陥りそうになることがよくある。この点について，私たちは救い主の生涯に関する記述からひとつの教訓を得ることができる。

イエスはバプテスマの後，みたまに導かれて荒野に入られた。そしてそこで四十日四十夜，来たるべき正式な伝道の業の備えをされた。主は，前途に待ち受けているこの世で最も偉大なみ業に備えるために，神の力を必要とされたのである。主はこの四十日四十夜の間，天父のみたまの力が肉体のすみずみにまで及ぶように，断食をして過ごされた。

この四十日の断食を完うしたもうて神と交わられたイエスは，空腹で，肉体的に弱い状態にあった。そして悪魔の誘惑に身をさらされたのである。しかし，このことも主の備えのひとつであった。情緒的に，また肉体的に消耗しきっているとき，疲労が重なっていて防備が薄く，悪魔の狡猾な誘いをはねつける備えがほとんどできていないとき，誘惑者が縦横無尽に活動するのはそのようなときである。このようなときこそ，多くの人々が悪魔のちょっとした誘いに乗り，屈服してしまう危険なときなのである。

サタンの最初の誘惑は，食物への誘いであった。これは最も基本的な，肉体的かつ生物学的欲求である。この誘惑は食欲に訴えかけるもので，言わば人間の五感を通じてもたらされる誘惑である。悪魔の誘いの中で，これほど一般的で危険なものはない。サタンの言葉はこうである。「もしあなたが神の子であるなら，これらの石がパンになるように命じてごらんなさい。」（マタイ4：3）数週間にわたって人々から離れて生活しておられた救い主は，冥想や祈り，そして諸天との交わりにおのずから伴うみたまの高揚により支えられていた。そして，そうしたみたまの高まりの中で，肉体の欲求は抑えられ，克服されたのだが，こうした肉体の欲求というものは避け得ないものであった。

サタンはイエスに，ただ単に食べるように誘惑しようとしたわけではない。もしもサタンが「荒野を出て，パン焼きから食物を得なさい」と言ったのであれば，そこには誘惑という要素が存在しなかったであろう。断食の終りに食物を取ることは，明らかにイエス御自身が考えておられたことだからである。サタンの誘惑は，もっと派手な手段で食物を取ること，すなわち利己的な目的のために神から授けられた力を用いよというものであった。事実サタンからの誘いは，肉体の欲求を満足させることを待ったり先に延ばしたりせずに，即座に奇跡的な方法で石をパンに変えてみよというものである。これに対する主の御答えは非常に明瞭なものであった。「『人はパンだけで生きるものではなく，神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある。」（マタイ4：4）

次に第2の誘惑が続く。個人的な肉体上の満足のために神から与えられた力を用いさせることが全くの失敗だったということを知り，またイエスが御自身を支え守ってくれる御父のみむねとみたまに全幅の信頼を寄せておられるのを目のあたりにしたサタンは，今度は全く反対のことでイエスを誘惑する。つまり，御父のみ守りにすべてを委ねてみよというのである。サタンはイエスを聖なる都に連れて行き，庭と人々を見下ろす宮の頂上に立たせて，こう聖典を引用した。

「神はあなたのために御使たちにお命じになると，あなたの足が石に打ちつけられないように，彼らはあなたを手でささえるであろう。」（マタイ4：4；詩篇91：11－12参照）

サタンからのこの要求には，死すべき人間へのもうひとつの誘惑が潜んでいる。それは，大勢の人々を驚かし，注目させるような目もくらまんばかりの離れ業，皆がびっくり仰天するようなことを行なうという誘惑である。目もくらむような宮の小塔の上から庭に跳び降りて，しかも全くけがをしないということは，確かに離れ業である。これを行なえばイエスは，御自身が至高者であり天からの使いであることを公に認められるであろう。それはしるしであり，奇しきみ業である。名声は野火のように，たちまちのうちにユダヤ全域に広まるであろう。そして人々はメシヤが確かに来られたことを信じるようになる。しかしながら，奇跡の前には信仰が必要である。奇跡が信仰に先駆けることはない。もちろんイエ

スは聖句には聖句でお答えになった。「『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある。」（マタイ4：7；申命6：16参照）ここでサタンの目的はまたもや打ち砕かれ，キリストが勝利を収められた。

第3の誘惑で悪魔は，解釈の微妙な点や聖句を突いてきたり，遠まわしで欺まんに満ちた方法を取ったりすることをすべて放棄した。そしてすべてをかけて，大胆な提案をするのである。サタンは高い山からすべての国々とその栄華とを見せた。町や畑，家畜の群れ，その他自然が与えてくれるあらゆるものをである。それらは本当はサタンのものではなかった。しかしサタンは，村の貧しい大工の子として育ったイエスに，それらをすべて与えると言ったのである。

富や名声，この世の栄光を並べたサタンは，イエスにこう言った。「もしあなたが，ひれ伏してわたしを拝むなら，これらのものを皆あなたにあげましょう。」（マタイ4：9）この最後の誘惑で，サタンは再び間違った提案をする。しかしこの提案は，天の3分の2の霊たちを配下に引き入れる結果となったものであり，サタンはこの地上にいるあらゆる神の子供たちに対してみじめな努力を試みる。つまり，サタンがその心の内にもともと抱いていた提案なのである。あらゆるものに価値があり，しかも最後には物質的なものがすべてに優先し，そしてこの世のあらゆるものは金で買えるのだ，とサタンは誘う。

イエスは，御父に忠実で，あらゆる戒めに従順であれば，「父の王国を受くる」ことを知っておられた（教義と聖約84：38）。神の他の息子，娘たちも同じである。今も永世にもわたって与えられる恵みを失う最も確実な方法は，サタンが言う条件に従ってそれらのものを受けることである。ルシフェルは，イエスが後に次のように証することになるということを，忘れていたのではあるまいか。「人が全世界をもうけても，自分の命を損したら，なんの得になろうか。

また，人はどんな代価を払って，その命を買いもどすことができようか。」（マルコ8：36－37）

そしてイエスは，権威と威厳とをもってこうお命じになった。「サタンよ，退け。『主なるあなたの神を拝し，ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。」（マタイ4：10）戦いに敗れ，苦痛を味わったサタンは，イエスのもとを離れ去った。ルカはこうつけ加えている。「悪魔はあらゆる試みをしつくして，一時イエスを離れた。」（ルカ4：13）マタイはこう書いている。「そして，御使たちがみもとにきて仕えた。」（マタイ4：11）

私たちもイエスと同じである。安らぎや奇跡は信仰の試しと誘惑の後に来る。もちろん以上のすべての誘惑を貫くものとして，イエスは神の子にあらずとの狡滑な暗示がある。その疑いの心は，誘惑するサタンの「もし……ならば」という言葉に表われている。「もしあなたが神の子であるなら，これらの石がパンになるように命じてごらんなさい。」（マタイ4：3）「もしあなたが神の子であるなら，下へ飛びおりてごらんなさい。」（マタイ4：6）そしてこれらが，3年後の最後のあの必死の誘惑を予示することは言うまでもない。「もし神の子なら，自分を救え。そして十字架からおりてこい。」（マタイ27：40）しかし，時が来ればすべてのひざがかがみ，すべての国語の民がイエスがキリストであることを告白するようになることを知っておられたイエスは，その誘いの言葉にも忍耐をもって耐え忍ばれた。

イエスにとって，人の好奇心を満足させることは必要ではなかった。あらゆる聖くない人たちに対しては特にそうである。従って，すべての戦いにイエスが勝利を収めたとき，ルシフェルの人生が悲哀と悲痛に満ちたものとなったことは正に明白なことであった。最初は大胆さとあざけりと誘惑，次いで哀願と愚かさと死に者狂いの抵抗，そして最後には，ただ姿を消すだけなのである。

私たちへの問いはこうである。私たちは大丈夫だろうか。誘惑に抵抗できるだろうか。勝利者の冠をかぶることができるだろうか。サタンはイエスには勝てなかった。しかし，私たちに負けるとは考えていない。サタンは今もなお私たちを誘惑し，あざけり，哀願し，何とかして自らに忠誠を示させようとしている。私たちは，キリストが神としてではなく人間として誘惑に勝たれた事実を考えて，この戦いに立ち向かう勇気を得るべきである。

イエスが罪を犯すことも，屈することも，生命と救いの計画をくつがえすこともおできになったにもかかわらず，最後まで忠実であられたことを心にとめる必要がある。これは重要なことである。もしもイエスがサタンの誘いに乗る可能性を全く持っておられなかったとしたら，そこに真の試しは存在せず，結果として真の勝利は得られなかったであろう。罪を犯す能力をことごとく取り去られていたならば，イエスは自由意志そのものをも取り去られていたはずである。人間の自由意志を擁護し，確実なものとされたのはイエス御自身であった。従ってそう望まれた

今大会で新しく幹部に支持された人々。左より七十人第一定会会員ディーン・L・ラーセン，ロバート・E・ウェルズ，管理監督会第二副監督J・リチャード・クラーク，　七十人第一定員会会員に召されたロイデン・G・デリックはアイルランド・ダブリン伝道部長の職にあり，今大会には出席できなかった。

のであるから，罪を犯す能力も持っていなければならなかったはずである。パウロはこう書いている。「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学び」(ヘブル5：8)「罪は犯されなかったが，すべてのことについて，わたしたちと同じように試錬に会われたのである。」(ヘブル4：15) 主は完全で罪のない御方であった。しかしそれは，そうでなければならなかったからではなく，イエスが明確に，断固としてそうなることを望まれたからである。教義と聖約にはこう記されている。「彼は誘惑を受けたまいしがこれを心に留めたまわず。」(教義と聖約20：22)

私たちはどうであろうか。私たちは誘惑の世界に住んでいる。その誘惑は，ノアの時代以来最も現実に即した，非常に強力なものであるように思われる。私たちはそのような世の中で忠実さを保つことができるだろうか。すべての教会員はこう自問してみるべきである。「私はこの世の悪の汚れに染まらないように生活しているだろうか。」

イエスがお受けになった3つの誘惑に関して，デビッド・O・マッケイ大管長はこう語っている。「イエスがお受けになった誘惑を分類してみなさい。そうすれば，その3つの誘惑の一つ一つについて，あなた方や私を汚れさせるあらゆる誘惑を見出すであろう。それはイエスがお受けになった誘惑に比較すればまことに些細なことかも知れない。まず第一に肉欲であり，第二にプライドや流行，虚栄心など，人を神につける事柄から離れさせるものであり，第三に情を満たそうとする心，あるいはこの世の富や地位への願望である。」また，次のようにも述べている。「では，誘惑はいつ来るのだろうか。そう，それは私たちの社交の集まりのときに，結婚のときに，政治を行なうときに，仕事上の取引きのときに，あるいは農場で，あるいは商売をするときに，その他人生のあらゆる出来事において，私たちはそうした邪悪な力が働いていることに気づく。この力が明確に意識されるようになったとき，私たちは真理の砦を全力を尽くして守らなければならないのである。」(デビッド・O・マッケイ，*Conference Report*「大会報告」1911年10月，p. 59)

私たちは独力でこのサタンの誘惑に対抗しなければならないのだろうか。それとも共に力を合わせる人がいるのだろうか。確かに神は，聖徒たちがこの世にあって隠れることのない光として立つならば，喜んで下さるであろう。なぜならそのようにする人々は，福音の原則に生き，主の戒めを守る人々だからである。

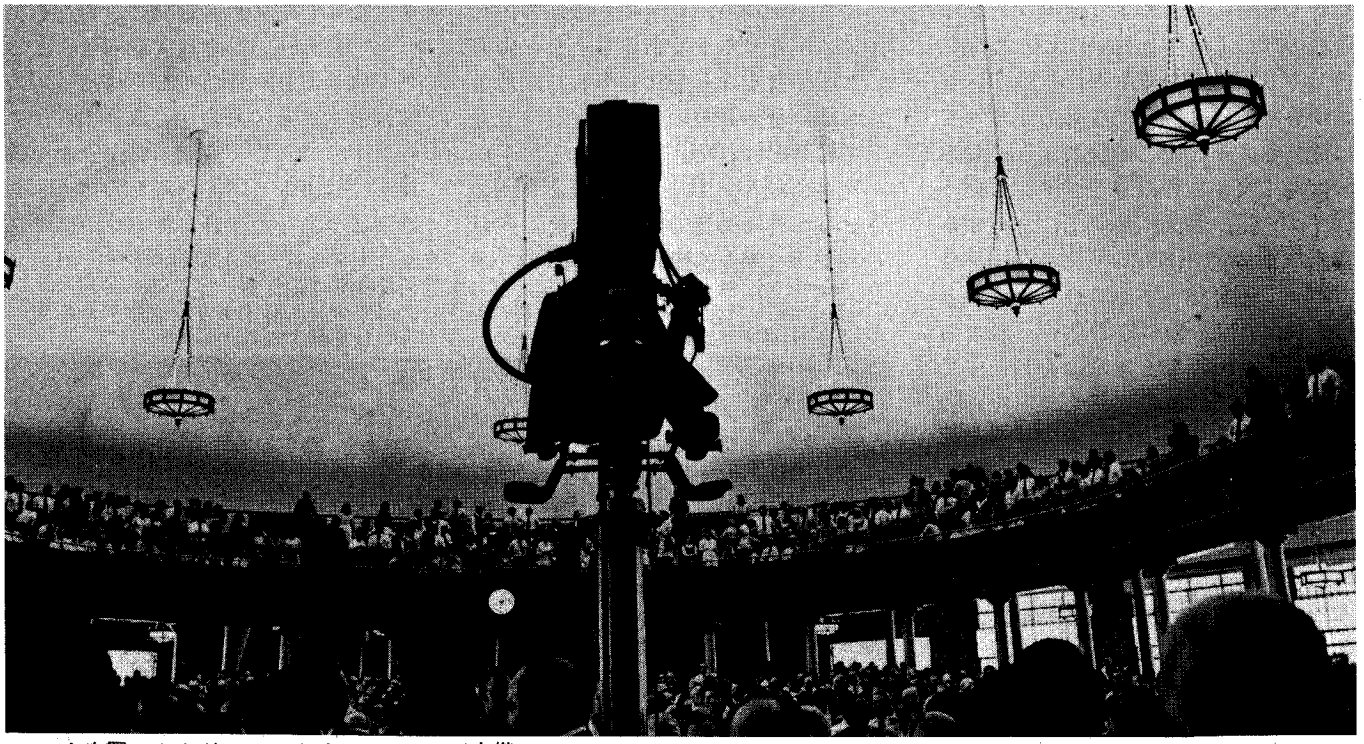
信仰と祈り，謙遜さ，そして永遠の世界から力を得ることにより，私たちは世のただ中にあって世の汚れに染まることなく生活できる。私たちは詩篇の作者と共にこう歌う。

「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも，わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと，あなたのつえはわたしを慰めます。

あなたはわたしの敵の前で，わたしの前に宴を設け，わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。

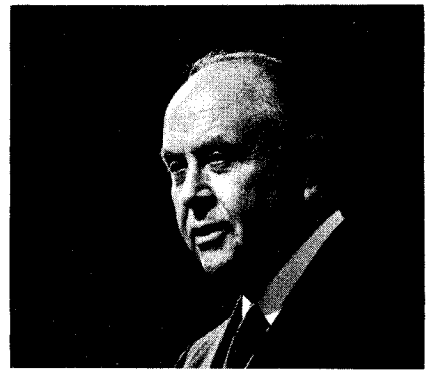
わたしの生きているかぎりは必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。」(詩篇23：4－6)

これが私たちの行く末となるよう，主イエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。



合衆国，カナダ，フィリピンへのテレビ中継

家族は永遠に



十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ヘイト

フェローシップする家族を祈りをもって選ぼう

本日タナー副管長から提議され，皆さんの支持を受けた教会組織の改組は，教会諸事の管理運営に主の神聖な霊感があることを再び私たちに示してくれた。大管長会が世界の隅々にまでイエス・キリストの福音を急速に宣べ伝える用意をしているのを目にし，また同時にその働きに加わることは，胸躍る経験である。それは必ずや成功するであろう。それを行なうのは私たちである。主は宣言された。「われはイエス・キリストなり。われは父の御こころによりて来り，その御こころを為す。」

「われに就きて学び，わが言を聴け。」（教義と聖約19：24，23）

主は人類に，信じて主の聖なるみ名によりバプテスマを受け，終りまで信仰をもって耐え忍ぶ者は皆救われると約束された（教義と聖約20：25参照）。今日教会は従来にもまして，万人が主のみ声に耳を傾けるように手を差し伸べる用意を整えている。と言うのは，主の永遠の誓約が確立され，それが主の民のためにひとつの旗となっているからである。それは使いとなって主の前に道を備えるはずである（教義と聖約45：2，9参照）。地の住民は福音を受け入れ，神の王国は進み行くであろう。主はこう言っておられる。「また喜びの音ずれを宣ぶるに，山の上，あらゆる高き所，また会い見るを許されたるあらゆる人々の中に於てすべし。

……悔改め，……バプテスマによる罪の赦し……を宣ぶるべし。」（教義と聖約19：29，31）

バプテスマは，人に不死不滅と永遠の生命をもたらすという主の願いを成就するために，すべての人がくぐらなければならない門である。

現在，全世界で使用されている家庭の夕べのテキストは，第1課が実に素晴らしいレッスンである（訳者注：日本では1977年4月より使用）。その課の題は，「家族は永遠に」で，テキストには，テーブルの上に結婚証明書，神殿推薦状，神殿の写真，バプテスマの証明書などを出し，それらがどういう関係にあるか家族に説明してもらうように書かれている。

テーブルの上に置かれた物はすべて，神殿結婚と「永遠の家族」に関係のあるものである。きょう私は，テーブルの上に出された物のひとつ，バプテスマ証明書についてお話したい。

「永遠の家族」となるには，夫婦がバプテスマ証明書を持ち，ふさわしい教会員として神殿推薦状を受け，日の光栄の結婚を示す結婚証明書を持つことが必要である。では，これからバプテスマを受けて，永遠の家族となるための数々の祝福を受ける何百万，何千万という天父の子らについてはどうであろうか。

教会の専任宣教師の働きにより，バプテスマの水に導かれる人々の数が全世界で増加している。しかし，それに教会員の熱心な協力が加わったら，成功はその何倍にもなるであろう。大半の教会員は福音を友人や隣人に積極的に紹介しようとしないようである。大勢の教会員が教会の発展や全世界の伝道活動の成功を胸を張って語るのに，知人や隣人を導くことはしていない。帰還した伝道部長に，「あなたの伝道部ではどうしたら改宗者がもっとふえると思いますか」と聞くと，異口同音にこういう返事が帰ってくる。「友人や隣人が長老たちを受け入れるように，教会員が手伝ってくれさえすれば」と。

私たちは自分の責任を忘れたのだろうか。主の言葉を忘れているのだろうか。

「見よ，われは民に証し民を警めんため汝らを遣わせり。されば，その警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。故に人々言逃れあることなし。」（教義と聖約88：81－82）

「われ，再び汝らに告げて一つの誡命を与う。汝ら長老，祭司，教師，また会員に至るまで，…… わが命じたることを準備し且つこれを為し遂ぐべし。……その隣人にとりて警めの声となる教えを説くべし。」（教義と聖約38：40－41）

宣教師となっている皆さんの息子，娘たちには，秩序と霊感により，望むらくはバプテスマを授けるべく，福音を教える訓練を受けている。宣教師にとっては一刻一刻が貴重であり，実りに至る時間でなければならない。皆さんは，宣教師が1,000軒の家庭を訪問する中でたったひとりの割合でしかバプテスマがないことを御存知だろうか。それが教会員の家を借りて教えた場合は，1,000人に600人の割合でバプテスマに導くことができる。教会員が確信

をもって一緒に参加すると，改宗者は600倍以上になるのである。

この素晴らしい主の若い僕たちは，皆さんのワード部や支部に以前にも増して大勢いる。宣教師は大きな希望と願いを持ち，十分な訓練と準備を経て出かけて行く。この福音を受け入れた家族は皆，それを隣人に分かち与える責任がある。ただ自然に，真心を込めて隣人への愛を示すことによって，福音に対する興味を抱かせることができるのである。エミリー・ディキンソンは書いている。「自分がどんなに高くにいるか，わたしたちは知らない，上に呼ばれるまでは。そしてそのとき，み旨に忠実であったなら，わたしたちの丈は天界に届く。」（*Familiar Quotations*「名言集」ジョン・バートレット編，p. 737）

隣人の間で宣教師が福音を説けるよう備えをする気持のない人々は，豊かな祝福を自ら拒む人々であり，キンボール大管長の勧告に従わない人々である。大管長は次のように語った。「この言葉（すべての会員は宣教師である）が新しいものでないことは承知している。私たちはこのことについて前にも話した。しかし，私たちが出て行かなければならないときが来たと思う。私たちは視野を転じ，目標を高くしなければならない。」（スペンサー・W・キンボール，"*When the World Will Be Converted*"『このとき世の人々は改宗に導かれる』地区代表セミナー，1974年4月4日）

予言者ニーファイは言った。「こころみの世で肉体によってした行いによって世の人々が裁かれねばならない日が必ずくるからである。」（Ⅰニーファイ15：32）

数週間前に飛行機の中で，私の友人がひとりの婦人と話を交わしたときのことである。彼は，先祖のことを知りたいので遠い親戚の者に会いに南カリフォルニアのアンダーソンへ行くところですと言った。そして隣りにすわっている婦人に，「ずっと昔に死んだ先祖になぜ興味があるのかとお思いでしょう」と言った。

「そうですね」という彼女の返事だった。

「先祖のことをいろいろ調べて，神殿で儀式ができるようにするんです。救い主が十字架上で亡くなられて体が墓にあった3日間，救い主がどこに行かれたか御存知ですか。」

「いいえ。どこですか。」

「使徒のペテロが言っていますよ。キリストはノアの時代に不従順だった霊が獄に入れられているところへ行って福音を説かれたんです。」そしてこう続けた。「もしその霊たちがいくら聞いてもどうにもならないとしたら，救い主がそんな人たちに3日間も伝道されると思いますか。」

「されるはずありませんね。そういうこと，今まで考えたこともありませんでしたわ。」彼女は言った。

友人はさらに死者のためのバプテスマと復活について説明した。「そうでないとすれば，死者のためにバプテスマを受ける人々は，なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば，なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか」（Ⅰコリント15：29）と，パウロの言葉を引用した。

「あなたが結婚されたとき，『死がふたりを分かつまで』と言われたのを覚えていらっしゃいますか。どちらかが亡くなれば結婚の誓いは終わるんです。」

婦人は，「そうですね。でも私，そんなふうに考えたこと，全然ありません」と返事をした。

彼は続けた。「私の妻は先月の初めに死んだのですが，彼女は永遠に私の妻です。地上で行なわれた結婚を天でも結ぶ神権という権能を持った人に司式をしてもらったんです。私たちは永遠に結ばれているんです。それに子供たちも永遠に私たちの子です。」

この出来事があってからすぐ，彼はリグランド・リチャーズ長老の「奇しきみわざ」に自分の名刺をはさんで婦人の家に送った。また，婦人の名前はやがて，ペンシルベニアのその町で伝道している専任宣教師に知らされた。宣教師たちは婦人と第1回目の集会をした後，このような手紙を書いてきた。「デービス夫人は大変親切でした。彼女にお会いになったときに，目の輝きをごらんになったでしょう。カミングス兄弟は御自分と愛する人たちが来世でも一緒だという確信と証を述べることによって，とても豊かな種をまいて下さいました。私たちは宣教師として平安を感じました。あの家族には備えがあるので，私たちの働きに必ず主の力添えがあると感じました。」

皆さんにお尋ねしたい。「永遠の家族」となるために大切なバプテスマ証明書，神殿推薦状，結婚証明書を覚えておいでだろうか。まずあなたの友人や隣人はバプテスマ証明書を得なければならない。カミングス兄弟が機上で婦人にした話は，このバプテスマ証明

大会で友人と

書を得たいという望みを心に植えつけた。

「そもそも今は警めを告ぐる時にして，多くの言を費すべき時にあらざるなり。主なるわれは，末の世に於て欺かれざればなり。」(教義と聖約63：58)

「また喜びの音ずれを宣ぶるに，山の上……に於てすべし。…… また，このことを為すには全くへりくだりてこれを為し，われを信頼し，……」(教義と聖約19：29－30)

去年の1月にオハイオ州の各ステーキ部では，伝道活動促進の一環として，「何がモルモンを駆り立てるのか」と題し，知恵の言葉についてプログラムを組んだ。教会指導者はこの集会に友人や隣人を大勢連れて集うように奨励した。ひとりのステーキ部高等評議員は，誘ってみなければならないと感じながらもきっと断わられるだろうと思い，そのままにしていた。

しかし結局，迷いながらもこれ以上後には延ばせないと心を決め，自分の言葉や行動が誤解されないように祈ってから，8歳の娘と手をつないで隣家に行った。彼らがドアをノックすると，暖かい歓迎を受けて中に招かれた。そこで彼は，世界の指導者である神の予言者の言葉を聞きに来て下さいと家族を誘った。その家族は行きましょうと答えてくれた。

そのほかの隣人，友人，仲間，そして娘のピアノの教師やその他大勢の人たちに話すことは，それよりもずっと簡単であった。彼が新たに知った勇気はさらに成功を生み，満ち足りた勇気を与えてくれた。彼の誘いに40人以上の人が応じた。集会にはバスを借りきって人々を運ばなければならなかった。

そして，あの最初に誘った隣人はどうなっただろうか。今や教会員となって，「永遠の家族」となる備えをしている。この家族がバプテスマを受ける前に，例の高等評議員がこう手紙に書いている。「もしも私が隣人に福音を伝えるのをしぶって，そのためにこの素晴らしい家族が福音の祝福にあずかれなかったらと思うと身が震えます。この素晴らしい経験を，すべての教会員にぜひ知ってほしいと思います。」

その隣人はどうして教会の話を聞く気になったのだろうか。こう言っている。「ほかの人がやって来て入信を進めてもきっと断わったでしょう。あなたの御家庭やあなたの清潔さ，あなた方の行ないに感心していたのです。いつもにこにこと親しげで，庭はきちんときれいになっていて，朝はみんながまだ寝ている時間にもう庭仕事を始めていました。あなた方やあなた方の教会のことをもっと知りたいものだと思っていました。」

主は宣言された。「そは，すべての人は悔い改めてバプテスマを受けざるべからざればなり。……

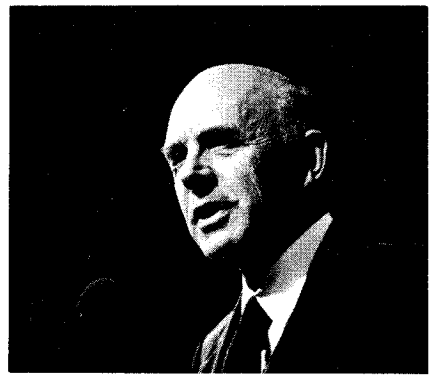
われは汝らの手によりて彼らのなしたる多くの罪を覚らしめ，悔改めをなして御父の国に来たらんために，人の子らの中に一つの驚嘆すべき業をなさん。」(教義と聖約18：42，44)

家族がひとつとなって，良い成果を得られるよう祈り，フェローシップする家族を決め，目標と達成の日を決め，必要なことをすべて行なうよう決意し，そして断食と祈りを繰り返すならば，私はお約束する。あなたの警めの声は聞かれるであろう。今は刈入れの時，集合の時代である。主はあなたの働きを祝福して下さる。あなたは友人がバプテスマの水に入る姿を見るであろう。

あなたに接する人々は，あなたの言葉は忘れても，あなたから受けた印象は決して忘れない。家族は永遠である。心からへりくだり，主なる救い主，イエス・キリストのみ名によってこのことを証する。アーメン

大会の合間のひととき。カリフォルニア州ヘイワードのデニス・シルバ兄弟と娘のメラニー

伝道活動のために



七十人最高評議員会会員
A・セオドア・タトル

資金の問題で伝道に出られない各国の友に，経済的な援助をしようではないか

私は第一定員会会長の召しが与えられたことを，大管長会の兄弟たちに感謝している。この召しを立派に果たすために最善を尽くすことを約束したい。

私たちの愛する予言者は，以前に南アメリカを管理しておられた。私がこの地域を旅行すると，決まって大勢の教会員から，キンボール大管長に私たちの愛を伝えて下さいと頼まれる。ここで大管長に，「サルードス，イー，グラン　アモール」と伝言できることをうれしく思う。

南米諸国には，伝道に出るようにというキンボール大管長の要請に応えようと努めている青年たちが大勢いる。しかし，乏しい資金や後援者のまれなことや，苦しい生活，厳しいインフレなどで，それが著しく困難である。仕事はある。しかし賃金が安い。従って，頼る家族のない青年には，経済的に備えるだけで何年もかかる。

そのほかの問題も，このチャレンジを複雑にしている。自分の家族を養わなければならない青年もいるのである。伝道のために大黒柱を失うことひとつでさえ，家族にとってはこの上ない犠牲である。また，青年が家族でただひとりの教会員で，家族の後ろ盾がないこともある。

むろん，息子を伝道に出すことのできる家族も，現に出している家族もある。しかし考えるべきは，この国々で教会がまだ新しいということである。私が責任を受けた8つの伝道部のうちの5つは，伝道を始めてまだ12年にもならない。あとの3つの伝道部も，最近の発展こそ目覚ましいが，20年にも満たないのである。

実際に教会に入ったばかりの家族にとって，教会は新しい。彼らは末日聖徒の伝統に不慣れであるし，伝道に出す心構えや準備を始めてまだ日は残い。

将来はもっと良い準備ができるであろう。しかしながら，本人や家族が全く犠牲を払わない場合は伝道に召さないことが教会の方針である。教会には，大きな犠牲を払って自分の伝道資金の一部だけは自分でまかなうことのできる青年たちが，実際に大勢いる。その立派な若者たちは，大切な目的のために自分自身を指導者にあずけている。彼らは豊かな霊性と証を持ち，何よりの大きな祝福である言葉，そして資金以外のすべての用意を整えて，奉仕の時を待っている。

教会では請求書を発行しない。しかし，特別に必要なときはそれを知らせるのが適当なことが往々にしてある。そこで，大管長会が教会宣教師資金を設置していることをお伝えしておきたいと思う。現在その資金は減少しつつある。私たちは普通，説教壇から募金をしないので，私もそうはしたくない。献金の呼びかけは心して避けてきたが，その宣教師資金に何がしかの送金があればありがたく受けるつもりであることを，ここでお知らせしておきたい。

自分で伝道資金をためてはいるが，さらに皆さんの援助があったならと思う青年を私は知っている。そのような青年たちのことを御紹介したいと思う。あるひとりの母親が伝道部長にこう頼み込んだ。「どうにかして息子を伝道に出せないものでしょうか。あの子だけが私の希望なのです。残念なことに父親だけでは一家が支えられません。8人の子がいて，収入はとても少なくて，食事も日に二食しかできないような有様です。でもあの子は本当に良い子です。伝道に出たがっているんです。私たちが一生懸命に切りつめれば，ひと月に数ペソは出せます。どうにかして，あの子が伝道に出られないものでしょうか。」

また，ある青年は大きな町の郊外に住んでいた。小さな店を兼ねた家は，薄壁のそまつな造りで，電燈も水もなかった。一家が改宗してから，セミナリーに出席した彼は，勉学の望みを日に日に増していった。彼は苦学して大学に入り，アルバイトで本を買い，家にも送金した。伝道に出たいという願いが強くなると，伝道資金をためるために2倍の努力が必要になった。彼は片手に本，片手にぼろ布やワックス，スポンジなどを入れたかばんを持ち，授業の合間に外で車をみがいては，次の授業に戻っていた。主は彼に仕事を祝福して下さった。収入がふえ，やがて指導者たちは彼が自力でできるだけの犠牲を払ったと判断した。

そのような若者が大勢いる。その一人一人が従順と犠牲の原則において，私たちの模範である。伝道の大きな望みを抱いたある女性は，材料を買ってクッキーを焼き，学校の昼休みにそれ

を売ってはどうかと助言を受け，早速実行した。小麦粉をたくさん買い，たくさんクッキーを作り，それを何週間も続けて，伝道を目標に毎日少しずつ資金をためた。

きょうこの話をお聞きの方々の中で，青年の貴重な2年間に自分の持てる中から何がしかの援助をして，伝道の特権を享受させてあげることのできる人は，大勢いるのではないだろうか。そのようにして，これらの約束の子たちの「養父母」となっていただけないであろうか。

私がこのことをお話するには，ふたつの理由がある。ひとつには，時間が大切だということである。私たちは，今の段階で最も大切なものは何かということを考えながら前進する必要がある。世は福音を聞かなければならないのである。パウロは言った。「聞いたことのない者を，どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては，どうして聞くことがあろうか。つかわされなくては，どうして宣べ伝えることがあろうか。」（ローマ10：14－15）そこで考えていただきたい。現在，十分な資金がなくては，どうして遣わされることができようか。

2番目の理由は，財産を正しく使うことについてかなり具体的に主が勧告しておられることである。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう。」（マタイ6：33）

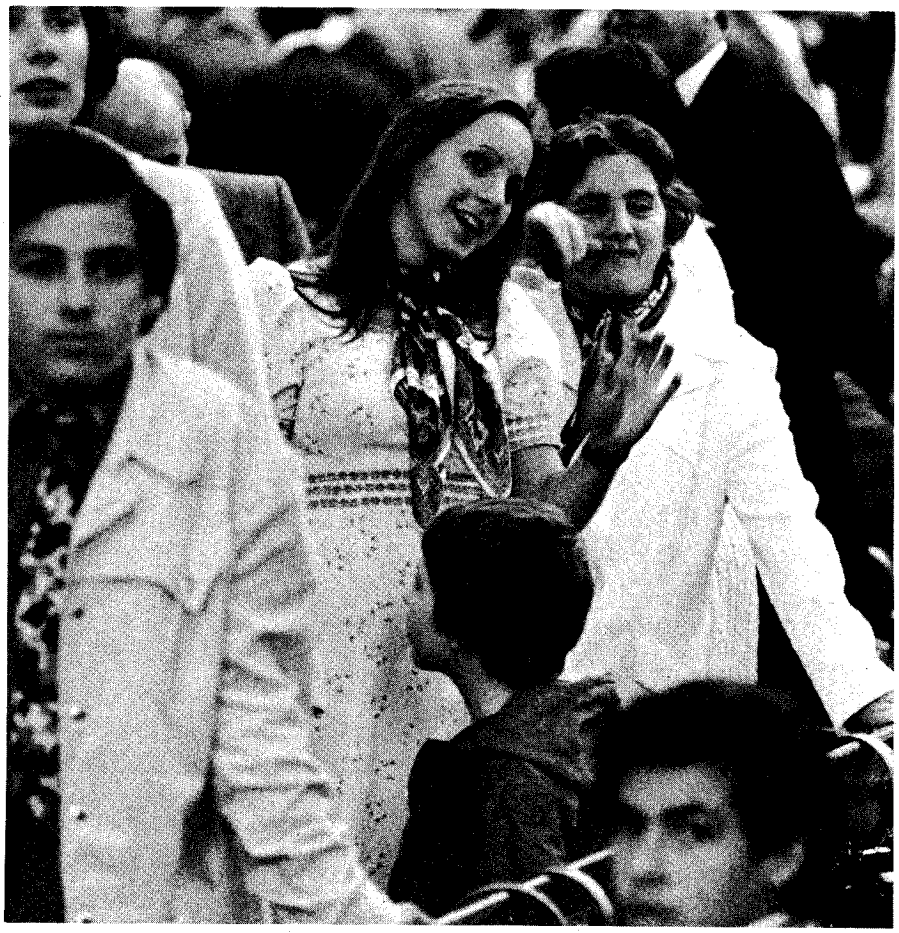
ヤコブは勧めている。「あなたたちは自分の兄弟を自分自身のように思え。かれらと皆親密にして，あなたたちのようにかれらも富者になるように惜まずにあなたたちの財産を与えよ。財産を求める前にまず神の王国を求めよ。あなたたちがすでにキリストに望みをもってから宝を求めたならばその通りに宝が手に入るであろう。しかし，その時あなたたちがその宝を求める目的は，裸でいる者に着物を着せ，飢えている者に食を与え，束縛されている者を救って自由にし，病んでいる者と悩んでいる者とを救うなど，およそ善事を行うことである。」（モルモン経ヤコブ2：17－19）

また，次のアルマの言葉の中に出てくるニーファイ人のようになれたならば，私たちはいかに祝福されることであろうか。

「そして，このように栄えていたとき，かれらは着る物のない者，飢えている者，渇いている者，病気をしている者，栄養の足らない者などを追い払わず，富に執着せず，貧乏な者があるなら，年よりと若い者，男と女，自由の民と奴隷とを区別せず，教会員であると非教会員であるとの差別なく誰にも同じように惜しまず物を施した。」（アルマ1：30）

私たちの時代に，主は次のように厳しく警告を下された。「われ汝に再び命ず。汝の持つ財産を貪ることなくして，……悔しむことなく汝の財産を領つべし。」（教義と聖約19：26）

兄弟の皆さん。私たちはこれまでこのことにあまりに無関心であった。なすべき仕事がある。それを行なうには皆さんの助けが必要である。事は急を要し，時は今である。皆さんの多くには，他の人への奉仕の扉を開く力がある。この機会を，主の恵みを得てみ業に力を添え，人々に救いをもたらす機会とし，財産を賢明に用いるための手段とするように祈る次第である。私は皆さんの多くがすでにこのことに貢献していることを承知している。奉仕の約束を果たすならば主も皆さんに対して約束を果たされる。私は神が生きておられることを証する。イエスはキリストである。この教会はキリストの教会である。地球はキリストによって，万物もキリストによって成った。私たちはただ主の物を管理する管理人である。それを喜んで分け与えることができるように，また「正しき業を行う者はよき報いを得，すなわちこの世に在りては平和を得，次の世に在りては永遠の生命を得ん」（教義と聖約59：23）という約束を実感として味わうことができるように。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。



主は万人に罪から立ち帰る道を備えておられる

七十人第一定員会会員
ロバート・D・ヘイルズ

悔改めは人を絶望の淵から引き上げ，長い暗黒の旅路を終わらせる

私もこの大会が歴史に残る大会であると申し上げたい。私は七十人第一定員会会員として，最高評議員会，十二使徒定員会を，また彼らから与えられるどの責任をも支持するものである。

きょう私がお話することは，福音が私たちの守り手であること，私たちが罪を犯したときには，福音の悔改めの原則の中に私たちを元に戻す力があるということである。最近私はある若い女性から，一通の手紙を受け取った。彼女は長く暗い旅路，そのまま行けば道徳的な罪に至る旅路を歩んでいた。完全な悔改めに伴う辛酸を味わった彼女は，今や正直な悔改めがもたらす喜びを感じ始めている。彼女の話は貴重である。彼女は自分の経験を人々に伝えてほしいと願っている。同じ旅路をたどらないようにだれかの助けになればという気持からである。その手紙から抜粋して読んでみたい。

「家を出て大学に入学したときからそれが始まりました。そのときまで，義しい両親に守られて，友人や仲間とふしだらに交際したことはありませんでした。

両親が作ってくれたよろいに最初にできたへこみは，『立派な帰還宣教師』の中にも良くない人がいて，ネッキングやペッティングをしていると知ったことでした。私は肉体関係も軽い程度なら自然だと考えるようになって，男の子たちとルーズな交際を始めました。

サタンは狡猾です。人を正しい道からはずれさせて，少しずつもっと大きな罪に誘って行きます。

何ヵ月かたつうちに，私は真理から次第に離れて行きました。教会に不活発で，モラルもルーズで，酒を飲み，タバコを吸っている友達と親しくなって，私は彼女と一緒に，自分からは決して行けないようなバーやナイトクラブに出かけました。

次に，私は教会の集会を休むようになり，祈りもしなくなりました。すると生活全体が変わりました。いつも晴れない気持で，成績は最低に下がり，ルームメートともうまくやっていけなくなりました。何もかも，すべてが悪い状態でした。

私は教会や教会の教えすべてにすっかり反抗的になっている自分に気がつきました。心の奥に恐れがあることも知りました。私は本当に『かじのない船』でした。

私は至るところで見せかけの安らぎと安堵の心を求めている自分に気づきました。両親は現実に遠くに離れていましたが，遠いところにいても私の心の葛藤を感じ取って心配しました。

そのうちに私はひとりの青年に会いました。彼も不活発でしたが，私は彼に愛を感じました。そのとき，本当に愛しているなら関係を持ってもかまわないという気持になったので，私は神の宮である自分の体を汚しました。そして妊娠しました。彼は私にその気があるなら堕胎の費用を出すと言いました。

私は初め，堕胎の考えそのものを拒否したのですが，いつも考えているうちにそれを正当化し始めるようになりました。そして，堕胎手術をしようと決心したのは，わずか2週間後のことでした。

その後間もなく，とても立派な男性に巡り会い，結婚することができました。教会に活発ではありませんでしたが，道徳的に立派で，正直で，実直な人でした。私が教会に活発になって，もう一度天父の王国で義しい者とされることを目標に，一生懸命に生活してきたのはそのときからです。数ヵ月前のこと，私はワード部の監督のところへ行って自分の犯した恐ろしい罪を告白しなければならないことを知りました。自分の罪は主の目から見て大きく，会員資格の剝奪か破門の処分を受けると思いました。でも私は監督に一部始終をお話しました。罪を清められて裁きの日に主のみ前に罪のない状態で立てるように，自分と自分の一生を主のみ手にゆだねる時が来たと考えたのです。

監督の約束をいただいたのは，ある日曜日の午後でした。彼は私の犯した大きな罪を聞くために，忙しいスケジュールをさいて下さいました。面接の前に，天父にどんなに祈ったことでしょう。監督は親切でした。勇気を出して何もかも話すように，隠さず話すように言われて，私もそのように努めたのですが，それができませんでした。のども胸もつまって言葉が出ないのです。そのとき，監督の言葉が祈りの答えなのだと突然わかりました。天父のみたまが私と共にいて，完全に告白するよう命じていたのです。真実をすっかり話すようにみたまが迫るのを感じまし

た。

過去の罪を認めることは，自分に対しても容易ではありません。監督に対してそれを認めなければならないときに，私自身，自分の罪がどういうものか正面から認めることはむずかしいことでした。そのことは考えたくないと思いました。

告白した後，監督は天父のみもとに帰るための第一歩を踏み出したことをほめてくれ，自分が本当に赦されたとわかる日のために，どんなことをしたらよいか教えて下さいました。監督は，私に赦しを与えるのは監督御自身ではないと強調して言われました。それは主が決められることでした。赦しは得られる。天父は私を愛しておられる。一生自分を責め続けて永遠の進歩を妨げることなく，将来の目標をはっきり悟ることができると，監督は教えて下さいました。そしてスペンサー・W・キンボール大管長の『赦しの奇跡』を読みなさいとおっしゃいました。この本のおかげで，赦しを得るまでの過程がどういうものかよくわかりました。監督と私はいくつか約束をしました。私が教会でもう一度立派にやって行けるように立ち直る道を見守っていただくためでした。

監督と面接をしてからも，私は本当に赦されるのかしらという心配で心が沈んだり，また，しなければならないことが手につかなかったりしました。『変わる』ということは容易でないことを知りました。それには時間が必要です。繰り返し努力することが大切です。

今，自分は主に近づいていることがわかります。以前にも増してはっきりと。このまま努力して成長して行けば，天のお父様は私を赦して下さることがわかります。それにもっと大切なのは，私も自分自身を赦すだろうということです。大切なのは，正しいと知っていることを屈することなくやり続けることです。

もし私の経験が人ごとではないように思えたら，心の底からお願いします。どうかそこで立ちどまって，御自分の生活を振り返って下さい。世間のうわべだけの道徳に惑わされないで下さい。それはサタンの一番有力な武器です。そこには永遠の意義など何もありません。永遠の家族になったときに私たちを待つ豊かな喜びから，私たちをそそのかして引き離すのはサタンです。

あなたは天父の子供です。その権利を守って下さい。御自分の人生に，私が味わったような悲惨や苦悩を持ち込まないで下さい。自分を永遠にみじめな有様にするようなことはしないで下さい。義しい人になって，永遠の幸せを得るようにして下さい。」

実際にあったこの話は，失意の淵から引き返して自分で新しい人生を切り開いた，若い女性の証である。

兄弟姉妹の皆さん。キンボール大管長は語っている。長い暗黒の旅路には自分自身から身を隠す深い峡谷も暗い洞窟もない。長い暗黒の旅から私たちを守るものは福音である。たとえ今暗黒のつらい旅路の果てにいたとしても，私たちは福音の悔改めの原則によって復帰することができるのである。

悔改めの段階は，聖典にはっきりと説かれている。

1．過ちを犯したことを認める。
2．すでに悔い改めつつあるその罪を決して繰り返さないと主に誓約する。「人罪を悔い改めしや否やは，見よ，彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ，その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」（教義と聖約58：43）
3．福音のすべての面で，以前に増して良い生活をするよう決意する。
4．犯した過ちの償いをする。
   a．主に祈って悔い改める。
   b．イスラエルの判事であり，ワード部の管理大祭司である監督に告白する。
   c．傷つけた相手に謝罪する。
5．悔改めの深さは犯した罪と同じ位深くなければならない。安易な道はない。傷つくが，それは同時に清めでもある。
6．悔改めと償いのその次の要素は時間である。
   a．自分自身と主と隣人に対して，自分が新しい人生を始めたことを証明するための時間
   b．聖典を勉強し，また幸せになり喜びを得るために一生懸命守らなければならない，戒めを守るための時間
7．自分を完全に赦し，また自分を傷つけた人に報復の気持を持たず完全に赦す。
8．最後に，最大の祝福である主の赦しがある。もはや傷つき失意をもって過去を振り返ることなく，希望と喜びと神や自分自身や全人類への愛をもって将来に目を向ける。

「見よ，およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され，主なるわれもはやこれを忘るべし。」（教義と聖約58：42）

「されど汝知るべし。正しき業を行う者はよき報いを得，すなわちこの世に在りては平和を得，次の世に在りては永遠の生命を得ん。」（教義と聖約59：23）

神は生きておられ，イエスはキリストであり私たちの贖い主であることを証する。御二方は私たちを愛し，人生の長い暗黒の旅から立ち返らせてくれる福音を与えて下さった。また，あなたが教会員であろうとなかろうと，福音の悔改めの原則には，私たちの旅がいかに長かろうが私たちを失意の淵から連れ戻して，今の世と来たるべき永遠の世に平安をもたらす力のあることを証する。この原則は私たちのだれにでも適用できるものである。悔い改めてバプテスマを受け，罪の赦しを得る非教会員にも，自分の罪を悔い改める教会員にもそうである。自分は元に立ち返れるかと模索の手を伸ばす人々のすべてに，主の恵みを乞い願うものである。

きょう，私たちが自分の人生を主にゆだねるよう，天父の祝福があらんことを。始める最良の時はきょうである。私たちが生涯の日々を雄々しく守って，終りまで耐え忍ぶことこそ，私の祈りである。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

堤防と生ける水

七十人第一定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

ヤコブの井戸でイエスが語られたあの水から絶えず潤いを得るならば，私たちの力は衰えることがない

私も七十人第一定員会の会員に召されたことをこの上ない光栄と思い，神聖なこの場で起きたすべてのことを支持する次第である。

ワースリン姉妹と私は，また再びここに皆様と集い，主が欧州でみ業をいかに祝福しておられるかをお話できることを感謝している。ドイツではこの2週間に新しく3つのステーキ部が組織された。私が在住している西ドイツと欧州の大半で，アメリカの建国200年が人々の話に上っていることをお伝えできるのもうれしい。多くの機会にこの国に対する敬意と愛が示され，個人の尊厳と自由の貴重な原則がたたえられている。

これら諸国の心情は，20年近い滞米生活を終えて帰国したときの有能な元駐米ドイツ大使，カルロス・ロムロ将軍の言葉に代表されるであろう。彼はこのように語った。「私はアメリカを賞賛し，愛しています。……お別れにあたって言うべきことは，賞賛と警告の両方です。アメリカ国民の皆さん，皆さんの国は霊的な国であることを決して忘れないで下さい。そうです，皆さんは有能な国民です。他の人同様私も，この国の工場や摩天楼や兵器庫に目を見張りました。しかしあらゆるものの根幹にあるのは，アメリカが人間一人一人に神性のひらめきが存在することを知って，神を愛し，神を恐れ，神を礼拝する国民として出発したという事実です。アメリカに不動の力を与えているのは，人の霊の尊厳に対するこの畏敬の心なのです。」

そしてこれはまた，アメリカに対する私の賛辞でもある。私たちは皆，物質が，愛する祖国の安全や力や自由そのもの，あるいはその根源とはならないことを知っている。

8月に，神の霊感を全身に受けた予言者スペンサー・W・キンボール大管長と数人の教会幹部が欧州で5つの地域大会を開催した。彼らは私たち全員に，いかに感動と霊感と証に満ちた経験を与えてくれたことか。出席した人々は高められ，霊的に養われ，自分の証を強められた素晴らしいあの機会を決して忘れないであろう。

オランダのアムステルダムで一緒に過ごした数日間に，教会員と談話していて，話が堤防のことになった。御存知のように，オランダの国土は広い範囲にわたって海面よりかなり低いところにある。海水を遮断する堤防の建設と水を運河に引き入れる仕事を通じて，勇敢で才知ある器用なオランダ人は文字通り海から生まれたと言えよう。

情容赦のない大海原から貴重な土地を闘い取る営みは700年以上も続いており，見たところそれに要する努力はいささかも減ってはいない。巨大な堤防，その防水壁は60フィート（およそ18メートル）もの高さにそそり立ち，上面は広く，車の往来の絶えない道路となっている箇所もある。堤防の内側はたいがいゆるやかな斜面となって緑の草地に続いている。従って堤防の上に立つと，軒を並べた家々の煙突を見おろすことができ，片側で泳ぐ魚が片側の木に止まっている鳥よりも高い位置にいる。

次いで，私たちの話は安全という問題に及び，人の心が呼び叫び，本能的に乞い願い，時には必死になって捜し続ける安全を，人に保証してくれるほどの高く，広く，強い堤防はないということに意見が一致した。

この点については，1953年2月9日号のタイム誌によく述べられている。それは次の通りである。「（先週）朝の4時，沈痛な教会の鐘の音とつんざくサイレンがオランダ人を眠りからさました。時すでに遅く，高波がオランダの歴史ある堤防をブルドーザーのようにかみ，70箇所以上を破り，オランダが幾世紀もの間海から勝ち得ていたものを再び奪い返して行った。…… 北部地方では波頭が30フィート（約9メートル）にも及び，…… ものの数時間でオランダ13,000平方マイル（約33,000平方キロ）のざっと6分の1，百万人のオランダ人が住む一帯が被災した。」この災害地と近辺の地方で，行方不明を除いて1,500人以上の死者が出たという。

また今年，アメリカのアイダホ州ティートン盆地のマウンテンウエストとビッグトンプソンリバーキャニオンを，何の前触れもなく突然に悲劇が見舞い，私たちは驚くと同時に，この世の命は実にはかなく頼りないことを悟り知らされたのである。この地球は人為的な力や地域固有の自然の力に絶えず脅かされ，その気まぐれと爪あとの荒廃とに私たちは呆然とする。私がここで申し上げる人為的な力，自然の力とは，

ここでもオランダでも広い宇宙のどこででも，地中や地上や地球のまわりに住むあらゆる生命を脅かしているおびただしい数の威嚇者のことである。

書店経営者たちの話では，ベストセラーに名を連らねる本は平和と幸福に関係した本だという。私たちの教会では，イエス・キリストの福音の中に人の情緒面，心理面の問題に対する確かな解答を持っている。そういう私たちにとって，緊急の課題は，「歩みを速め」，孤独な人，寄るべない人，飢え渇いた人，真理を追求する人に手を差し伸べ続けることである。

そこで，7年前に交通事故のため下半身麻痺になったジャック・ロバートソンというアメリカ青年の話をしたいと思う。今の私の気持を一番よく代弁してくれる話である。彼はアリゾナ州のスコッツデールの小学校教師であった。彼はそれまでイギリス海峡を泳いで渡りたいという大望を抱き，体力と持久力を鍛えるためにどんな天候でも毎日遠泳をし，それを2年間も続けていた。その彼が，下半身麻痺者としては初めて，海峡21マイル（およそ34キロ）の遠泳に挑んだのである。海流は定まらず，速度も速いため，対岸に着くにはそれよりはるかに遠距離を泳ぐ力が要求される。

ついに挑戦の日がやってきた。彼はウエットスーツに水かきとスノーケルをつけ，いとこのフィラボーム家のトムとドンにかかえられてドーバー海岸へ行き，そこから海に入った。トムとドンがボートで付き添い，1時間ごとに食べ物を口に運んだ。ジャックは15時間でフランス海岸に着く予定でいた。彼の話によると，「12時間は好調でした。でもそれからは，海流に逆らって泳がなければなりませんでした。」海岸は近かったが，コンディションは決定的に変わっていた。彼はこう語っている。「全力を振りしぼりました。トムがボートから『負けるな，頑張れ』と声援してくれました。フランスはすぐそこだったんです。でもそれでもまだまだ遠くでした。ぼくは最後の2，3マイルで精根尽き果ててしまいました。海流に負けたんです。」彼は途中にたちはだかる巨大な障害物を乗り切ろうとして，力を消耗し尽くしたのである。（*Stars and Stripes*「スターズ・アンド・ストライプス」より）

タバナクルの入場を待つ人々

人生は闘いである。昇栄も成功も勝利も，安物でもなければ容易に得られるものでもない。人生の海流がしばしば私たちに挑んでくる。なぜそうなのかを知るには，第IIニーファイ2章を絶えず読み返して，私たちの理解と信仰と勇気を確実にしておく必要がある。その要旨は次の聖句に示されている。「それは，すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。」（IIニーファイ2：11）

そこで，自分の霊的な力を保ち，生きた証を持つことによって人生の試練や嵐や海流に負けてしまわないようにするために，ひとつの提案をさせていただきたいと思う。その提案というのは，イエスがサマリヤのヤコブの井戸でひとりの婦人に語られたあの言葉に留意していただきたいということである。「しかし，わたしが与える水を飲む者は，いつまでも，かわくことがないばかりか，わたしが与える水は，その人のうちで泉となり，永遠の命に至る水が，わきあがるであろう。」（ヨハネ4：14）

そうして絶えず潤いを得，新たにされるならば，力はどうして衰えようか。人生は，その一番生気あふれるときには霊的であり，それは神への真心からなる魂の表現であることが，ここに明らかになる。私たち一人一人の霊的な自己は決して病まず，老いず，死にもしない自己であるが，養い，力づけることが必要である。生ける水を飲むこと，これこそがそのたったひとつの処方である。私の証は，神が生きておられること，イエスがキリストにましまし，しかもこの教会の頭であられること，スペンサー・W・キンボール大管長が私たちの予言者，聖見者，啓示を受ける者であり，救い主の真の教会の将来を導く者であるということである。このことを，持てる力のすべてをもってイエス・キリストのみ名により証する。アーメン。

完全という目標

七十人第一定員会会員
ウイリアム・H・ベネット

個々の戒めに従えば，私たちは永遠の生命にかなうすぐれた人格を育むことができる

「宗教詩傑作集」より

私たちの主なる救い主は山上の垂訓の中で，最大のチャレンジ，最も大切な目標を私たちに与えられた。「それだから，あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい。」（マタイ5：48）イエスはこのみ言葉の中で，すべての行動に卓越をめざし，自分の才能や能力を伸ばし，とりわけイエスの教えに一致した生活をするようにと，私たちにチャレンジしておられる。

卓越の追求は，私たちの人生の主要な事業となるはずである。それなのに，大勢の人がほとんど注意を払わない。恐らく，この世で完全になれる人などいるはずがないと考えて，当座の圧力に自分の行動を任せてしまうのであろう。私たちがこの世ですべての面では完全になれないことは確かだが，個々の活動においては完全に達することができるものである。さらに，私たちがこの世でなし得ること，なすべきことを行なわなければ，後々それをする機会を永遠に逸して，大きな永遠の祝福を失うかもしれない。

アメリカの詩人ホランドの言葉を考えてみよう。

天にはひと飛びで昇れない
上るはしごをかけるのだ
低い地上から丸天井の天へ
それから頂きをめざして順々に登る

ジョサイア・ギルバート・ホランド『ガダテム』ジェームズ・ダルトン・モリソン編，*Masterpieces of Religious Verse*

このことを踏まえて，この世で完全に達するための方法をいくつかお話したいと思う。

数週間前，カナダのモントリオールで夏季オリンピックが開催された。ルーマニアの14歳の少女，ナディア・コマネチが4つの種目に完璧な10点を出し，別の少女も1種目に10点を出したのを，テレビでごらんになっただろうか。あるいはトラック競技やフィールド競技で，短距離選手，跳躍選手，重量挙げや砲丸投げの選手が活躍するのをごらんになったであろう。また水泳選手や高飛込みの選手たちの競技を見られたことであろう。そのときに，いくつかの偉業を目撃したはずである。選手はコーチやトレーナーに助けられ，心身の完璧な調整をめざし，すべてをあげて自分の可能性の実現のために日夜を問わず努力してきたのである。チーム競技では，メンバーの結束が非常に重要である。たとえばリレーでは4人が1チームになる。大切なことはスピードを落とさずにバトンタッチをすることである。これの一番すぐれた4人が常に勝者となった。

運動競技の勝敗は，心構えと知識と技術にかなりの部分を負っている。持ち前の能力も大切だが，それだけでは足りない。数年前に行なわれたＭＩＡ主催のプログラム「自分に正直でありなさい」を記憶しておいでだろうか。プログラムの一環として，有名なスポーツ選手その他から霊感に満ちた手紙が寄せられ，全教会に紹介されたが，そのひとつに，合衆国の有名な棒高跳び選手，ロバート・リチャーズの話があった。彼は，立派な運動選手に共通のものは願望であるとして，1932年のオリンピック競技で出会ったオランダ出身の若い女性のことを語っていた。彼女は少女のときに立派な水泳選手になりたいと思ったが，小児マヒを患ってしまった。しかしそれでもあきらめずに自分の計画を進めて行った。進歩はゆっくりだったが着実で，プールを横断して泳げる日がやって来た。彼女はそれを，世界一の幸せ者だと喜んだという。それから，プールを縦断することができるようになり，泳げる距離は伸びて行った。彼女は来る日も来る日も頑張り通し，ついに1932年のオリンピックでは，世界最強の泳者たちを制して優勝したのである。

リチャーズは，ハロルド・コノリーのことも語っている。コノリーは生まれつき左腕がきかず，健康なのは片腕だけだった。しかしその片腕が何という腕だったことか。彼は16ポンドの砲丸投げで世界有数の人となった。

立派な競技者たちは物事を前向きに考える。彼らは達成できそうもない夢を見，とうてい及ばぬ星を求めて，「できる，やらなければ，やるぞ」と言う。そして時に信じられないほどの業績を残す。この負けじ魂は，戦争や不運な事故やその他の理由で，はためには不可能とも思えるものと闘う人生を余儀なくされた数多くの教会員にも，また

見られるのである。

「運動競技に言えることは，人生の他の面についても言える。画家や詩人や作家，音楽家，工芸家，その他数多くの分野の専門家たちがすべてに最善を尽くそうと熱心に努め，その上その最善をさらに向上させようと努力している。その良い例が，教会のモルモンタバナクル合唱団とそのオルガニストと，リチャード・L・エバンズ，さらに現在はスペンサー・キナードによる「スポークンワード」である。何年もこの素晴らしい番組に参加してきた合唱団の団員や他の人々と，それを聴いた何百万の人々は，到達しがたい完全の星に恐らくこの世で一番近くまで手を伸べたことを知るであろう。神は，献身一途な働きに彼らを祝福される。

霊的な事柄でも，私たちはこの世で完全になることができる。什分の一を納めること，正直なつきあいをすること，個人や家族の祈りをすること，アルコールやタバコや幻覚剤を手にしないこと，家庭の夕べを行なうこと，毎日聖典を読むことなどに。真心から望むならば，私たちにはそれができる。

完全な人はひとりもいない。だが，人はみな完全をめざして努力すべきである。人生の道でつまずいたり倒れたりしたときは，1960年オリンピックのアメリカ代表選手，クリフ・カッシュマンの言葉をかみしめようではないか。彼は400メートルハードルで銀メダルを獲得し，1964年オリンピックの金メダル最有力候補と目されたが，国内予選でハードルにつまずき，失格となった。慰めの言葉の数々が寄せられたが，彼はノースダコタ州の故郷グランドフォークスの若者に宛てた一通の公開書簡で，それに返答した。こう書いている。

「15年以上も前，僕は星を見つけた。オリンピック優勝という星を。そして実際にその星を追って走り始めた。1960年に，それをつかむまで3ヤード約90センチのところに来た。今年はつまずいて倒れ，星はあと4年のところに後退してしまった。……

2度目のスプリットで，何年ものトレーニングと苦労と汗と，ランニングの辛さやそれでできたまめ，その全部があっけなく無に帰してしまった。

でも，僕は頑張った。全く努力しないよりは，自分の努力が足りなかったことを認める方がずっとましだ。……

ばったり倒れたときには，それはもうがっかりした。でも今はほかにできることはない。起き上がって，傷口の砂を払って，それから一歩また一歩と，何マイルも何マイルも成功に向かって歩くしか。

成功にたどりつけないかもしれないことはわかっている。ハンディーは大きい。でも味方がある。望みと信仰だ。……僕さえ頑張れば。君はどうだい。……つかもうとするものの先まで手が伸びなければ，得られるものも得られないじゃないか。……

君たちのことで言わせてもらいたい。……君たちはお金も自由も車も以前よりたくさん持っている。でもちっとも幸せでない人が多い。スポーツにベストを尽くした満足感や良い成績を取った喜び，何でもいい。何かをやり遂げた気持，ベストを尽くしたという気持で後を振り返ること，これらを全く知らない人がいる。……

大地を見下ろすのでなしに，星を見てごらんよ。そして君が今までとてもできないと考えていたものにねらいをつけるのだ。下を見て腰をおろす場所がなくても，空を見上げてごらん。限りなく広がっているじゃないか。

だれにわかるかって？一生懸命努力してやり遂げたものに君だって自分でびっくりするかもしれないんだ。だから起き上がって，傷口から砂を払い落として，もう一度スタートするんだ。やってごらんよ！」

クリフ・カッシュマンについて最後に聞いた消息は，ベトナム戦争で行方不明になっているということであった。

教会は世界最大の仕事，御父の子供たちを救う働きに携わっている。教会員各人が自分の義務を知って，それを主に喜ばれる方法で専心実行することが大切である。関係する人すべてがなすべき仕事の全体像とそれに伴う自分の役割を知らなければならない。また人類に不死不滅と永遠の生命をもたらす主の仕事を教会の可能性いっぱいに援助できるように，あらゆる方面の力を結集し，それを調整して動かすことが大切である。私たちの目標は，福音に耳を傾け，それを受け入れ，それに従う神の子供たち全員を完全に至らせることである。

この私たちの最大の責任が果たせるよう，心から祈る次第である。主イエス・キリストのみ名により，アーメン。

訪問者センター（南側）から見たタバナクル

大いなる喜び

七十人最高評議員会会員
マリオン・D・ハンクス

世のことに忙しく駆けまわる中で，私たちは「なんのすぐれた事をしているだろうか」と問われた主の心がわかるようになっただろうか

きょうお話したいことはたくさんあるが，是非御紹介したい詩がある。このような詩である。「私たちは探検をやめない。あらゆる探検の果ては，出発したところに帰ってくること，その場所を初めて知ること。」

私は，主が啓示の中で「特別の証人」（教義と聖約107：25）と呼ばれたこの召しの神聖さと意義をより一層深く認識して，再び七十人の仕事をいただいた。それは何よりの聖い務めである。

ハンター長老はけさの素晴らしい説教の中で，救い主が当時すでに過去のものとなっていた聖典の中から引用してルシフェルに答えられたあの言葉を例にあげている。

「昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を受けねばならない』と言われていたことは，あなたがたの聞いているところである。」（マタイ5：21）続けて救い主はこう言われた。「しかし，わたしはあなたがたに言う。」（マタイ5：22）そしてそれから，話を展開された。主は，聞き手が自分たちのことを言っているとわかる話し方で話をされた。恐らくその人々は人を殺すような罪は犯していなかったであろう。しかし兄弟に理由もなく怒りを抱いていたのではないであろうか。「『姦淫するな』と言われていたことは，あなたがたの聞いているところである。」（マタイ5：27）しかし，聞く人々は心にこの罪を抱いて，神の憤りを買ったのではなかっただろうか。

「『目には目を，歯には歯を』と言われていたことは，あなたがたの聞いているところである。しかし，わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし，だれかがあなたの右の頬を打つなら，ほかの頬をも向けてやりなさい。」（マタイ5：38－39）昔は隣人を愛して敵を憎めと言われていたが，キリストは，弟子たる者は敵を愛し，自分を迫害する者を祝福し，自分を憎んで悪意を持つ人に善をなし，彼らのために祈るようにと言われた（マタイ5：43－44参照）。

はっきり悪いとわかる行為がある場合，真のキリスト教徒はそれに少しも加担してはならない。しかし，避けることも大切だが，積極的に善をなすことはそれ以上に大切である。「（あなたがたは）何のすぐれた事をしているだろうか」（マタイ5：47）と，救い主が問われたからである。

私は，人から害を被り，それに対する怒りと苦しみが高じて結局自分も間違ったことをしてしまった人とかつて話をしたときに，そのことを考えたものである。彼女の罪は重大で，何も知らない人々が被害を受け，彼女はもう立ち直れないのではないかと思われた。しかし，それは過ぎ去ってしまったことであった。彼女はへりくだって自らの罪を後悔し，完全な赦しの道に従ってその赦しを受けた。そして，平静な心と平安な気持を味わうことができた。私は失われた羊や貨幣や息子のたとえ話と，「罪人がひとりでも悔い改めるなら」（ルカ15：7）天に大きい喜びがあるという言葉を思い浮かべた。

私は彼女に言った。「あなたには天の喜びが本当におわかりでしょう。」

彼女はにっこり笑うと，「はい」と答えた。そして責めたりとがめたりする風は全くなしに，「ハンクス長老，私のワード部にどうしてもっと大きい喜びがないのでしょう」と言った。

私はその質問を情理を尽くして考えてみた。

パウロはそのような人のことを手紙に書いている。「あなたがたはむしろ彼をゆるし，また慰めてやるべきである。そうしないと，その人はますます深い悲しみに沈むかも知れない。

そこでわたしは，彼に対して愛を示すように，あなたがたに勧める。」（IIコリント2：7－8）

主は弟子たちに，一般の人以上に必要や機会や戒めに対する期待を大きく抱いておられる。より大きな謙遜さと，聞く耳と，深い悔改めと，慈悲と，赦しと，信仰と，奉仕，犠牲を望んでおられる。

主は多くの教えを様々な方法で教えられた。あのたとえ話の中のサマリヤ人は祭司やレビ人が知らなかったものを知っていた。困っている人には援助する責任があるということである。だれが自分の隣人なのかと考えるのは無意味である。困っている人に対しては，自分がその隣人である（ルカ10：30－37参照）。

別のたとえ話で，さげすまれていた取税人は独善的なパリサイ人が知ろうとしなかったものを知っていた。それは，すべての人に神の慈悲が必要で，

聖なる神のみ前に心底へりくだってそのみこころを行なうならば，だれでも慈悲を受け，昇栄できるということである。従順や謙遜を神よりも人に対して示している者，救い主ではなく自分の名誉を求める者は神に受け入れられず，地に投げ捨てられるであろう（ルカ18：10－14参照）。

そのことを痛感したのは，ある夜に知恵遅れの人々やその家族，友人たちのグループと会ったときのことである。私は，主がどれだけの力と時間と信仰が，障害を負った人々を助けることに費やされたかと考えた。病人，盲人，足なえ，らい病人，心に迷いのある人，情緒や精神や霊が乱れている人，このような人々を主は祝福された。ジョセフ・スミスがこのように言うのは何の不思議もない。「神がこの世に送られたあらゆる者は進歩が可能である。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 354）

私はその夜，障害を負う神の子供たちに成長の機会が与えられ，主の弟子たちがその大きな責任を受け入れることこそ神の望んでおられることであるという思いが胸に湧き上がるのを覚えた。「互に重荷を負い合いなさい。そうすれば，あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。」（ガラテヤ6：2）私たちは「何のすぐれた事をしているだろうか。」

聖典全体を通じて，高遠な期待が主と使徒たちによって語られている。信じ，悔い改め，儀式に従い，みたまの光の中を歩み，信仰をもって耐え忍ぶようにと。その通りである。しかしそれと同時に，礼儀や身だしなみややさしい同情，親切，思いやり，忍耐，寛容を示し，また責めることをせずに赦し，愛して，主の弟子たることを示すようにと言われている。

ローマ人への手紙には，弟子たる者は「兄弟の愛をもって互いにいつくしみ」，「泣く者と共に泣き」，「できる限りすべての人と平和に過ごし，つつましく（正直に）歩き」，「悪に負けてはいけない。かえって，善をもって悪に勝ちなさい」と言われている（ローマ12，13参照）。

「互に愛し合うことの外は，何人にも借りがあってはならない。人を愛する者は，律法を全うするのである。

『姦淫するな，殺すな，盗むな，むさぼるな』など，そのほかに，どんな戒めがあっても，結局『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』というこの言葉に帰する。」（ローマ13:8－9）

「すぐれた事」をしている真の弟子は，私たちの間に大勢いる。重度の先天性身体障害者で豊かな包容力とやさしい心を持った立派な婦人のことが思い出されるが，彼女は他の障害者に対する功労賞を受けたときに，子供の頃のひとつの出来事について語った。遊び友達から体の欠陥を冷やかされた彼女は，傷つき，泣きながら家に帰った。すると父親が大きなたくましい腕で彼女をひざに抱き上げ，一緒に涙を流しながら，「このような日がいつか来ると思っていたよ。でも，自分の人生を充実した幸せな人生にする方法を学んだら，この日はおまえにとって重大なまたとない日になるのだよ」と話して聞かせたという。父親はこう言った。「子供たちがおまえのことをそう言うのは間違っていない。でも公平じゃないし，思いやりもないね。おまえは背中にこぶがあるし，ほかにも障害がある。でも，それはおまえのせいではないんだよ。父さん，母さんのせいでもないし，天のお父様のせいでもない。このまだ不完全な世界で起きるいろんなことのひとつなんだ。みんなの言ったことは本当だが，それは公正でないし，思いやりのないことだね。でもそれと反対に，おまえ自身が一生の間，ほかのだれよりもずっと公正に思いやり深くいろんな人に接するように努力したら，きっと幸せになれる。おまえの人生はきっと充実した，価値のあるものになるよ。」

その婦人は言った。「私はそのように努力してきました。他の人々よりももっと公正に思いやり深くあろうとしただけです。」

ピエール・ド・カルダンは書いている。「エーテルや風や潮流や引力を利用した後に，神のために愛のエネルギーを利用する日がやってくる。その日は世界史で二度目に人類が火を発見する日である。」（*In Toward the Future*

金曜日午後の大会で歌った扶助協会の会員

「未来に向けて」)

アルフレッド・ノイズの *Watchers of the Skies*「空の番人」に，博学の天文学者タイチョ・ブラーへの友人と地球が動いていることを知った王が交わした会話がある。「空に放られた玉か。」王は心配そうに言う。「地球がそんなに軽く動くのなら，わしの領土はどうなる？　おお，一体しっかり立っていられるものは何なのじゃ。」「ありませぬ。この世界のどこにも，愛を除いては。その他のものはみなはかない夢，いつかは破れてしまいます。」(アルフレッド・ノイズ，*The Torch-Bearers Watchers of the Sky*「たいまつ持ち，空の番人」p. 75)

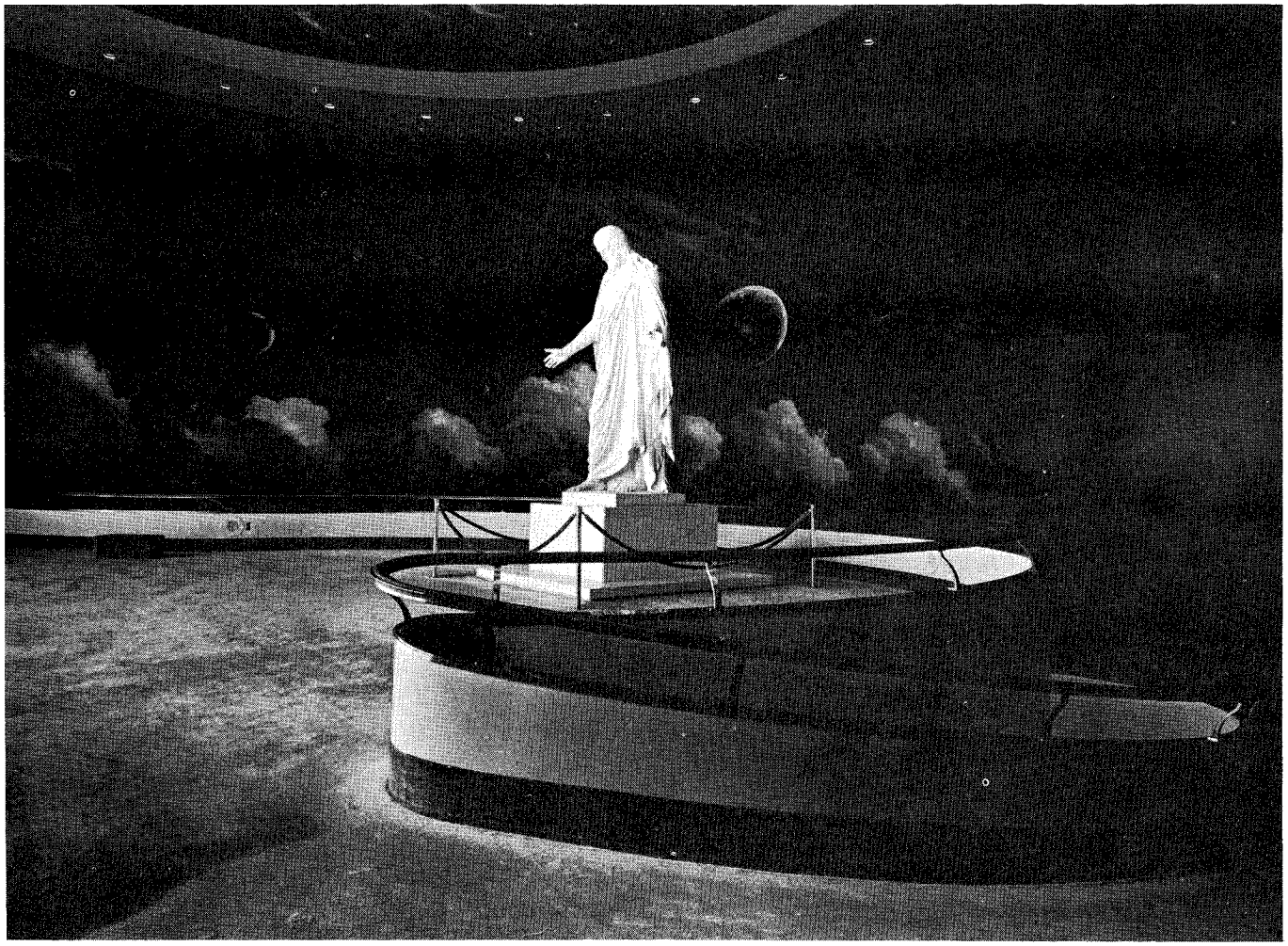
あらゆる律法がこのことに，神を愛し互いに愛し合うことに包含されている。

シェイクスピアの「ジュリアス・シーザー」の終りに，考えさせられる一節がある。死の間近なブルータスがキャシャスの遺体を見つめてこう言った。「諸君，いま僕が諸君の前で流している涙よりも，もっと大きな涙の負債を僕はこの死者に負っている。だが，それも今に償おう，キャシャスよ，今に償おう。」(第5幕第3場，中野好夫訳)

私たちはだれでも自分の涙を流すとき償いをしようと必ず思う。互いに関心と愛を持つようにという主の期待に添えなかった嘆きや悲しみ，主について多くを学び，語るときに，自分に主の愛の温かさがなく，主が大事とされる数々の事柄について本当の主の弟子ではなかったという嘆き，悲しみがあるであろう。

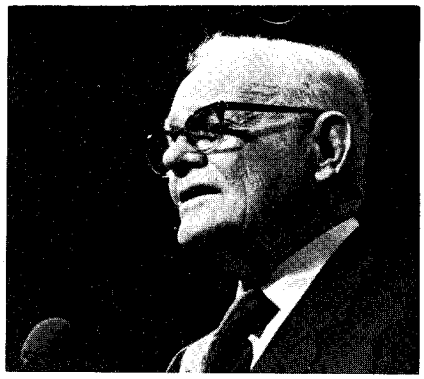
しかしもしも私たちがすべての訓戒，忠告，探求，奔走の中で，主が「なんのすぐれた事をしているだろうか」と私たちに問われた意味を理解し始めたとしたらどうであろうか。生活は向上してお互いにもっと関心を寄せ合うようになるだろうし，悲しむ人々を赦し，慰め，愛し，もっと正直，勤勉になり，もっと公正に，思いやり深くなるであろう。そうすることにより，愛する息子や娘が再び立ち返って来たときに大きな喜びが自分たちのワード部にあるようになったならば，私たちの流す涙はうれし涙，歓喜の涙となるであろう。

神が私たちにそれを得させたもうように。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。



訪問者センターに立つキリスト像，バーテル・ソルバルセン作

「われらは正直なるべきことを信ず」



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

偽りはゆゆしい罪悪であり，悔い改めなければ，この世にあって絶えはてる。そして彼らの受くべき報いは……第二の死である

愛する兄弟姉妹，お友達の皆さん。けさは正直ということについて少し申し上げたいと思う。

初めに，1976年4月23日のブリガム・ヤング大学第101回創立記念日の際，ロックフォードカレッジのジョン・A・ハワード学長が語った話を引用したい。ハワード学長は，犯罪の著しい増加について述べた後，次のように語った。

「犯罪は，不正直が世にはびこるにつれて増加しています。確かにその通りであると思います。できないとわかっていることを公約し，もろもろの事業を行なうときは国民に経済的負担をかけないと信じ込ませる，このような政治家の不正直が世に満ちると，それにつれて犯罪が多くなります。人が私利私欲にばかり心を奪われているところでは，いくら社会の福利について考えたところで，それは無意味です。原則が都合によって変えられてしまっているからです。

至る所に見られる『卑劣な行ない』は，今や人を欺く行為以上に無礼な行ないと見なされています。生徒の名誉心に訴えて監督者なしで試験を行なうかつての無監督制度は，各所でその姿を消しています。かつては高潔をその基としていた名誉心も，今では不正直を基とするものに変わり，盗人の仁義となってしまったのです。」（イリノイ州ロックフォード，ロックフォードカレッジ，ジョン・A・ハワード学長）

1842年の春，予言者ジョセフ・スミスは，ジョン・ウェントワース氏から，末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史と教義に関する声明を発表するよう求められた。この要請に応えて，予言者は「末日聖徒イエス・キリスト教会信仰箇条」として知られている13の条項を発表した。第13条の初めにはこう述べられている。

「われらは，正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行うべきを信ず。」

これらの言葉は人の行ないのすべてを網羅しているので，ここですべてについて言及するつもりはない。初めに述べられている「正直」ということに限定したいと思う。また，正直，不正直ということもあまりに漠然としているので，次の定義に則ってお話したいと思う。「正直とは，偽りを言わないこと，盗まないこと，欺かないこと，偽証しないことである。」　私はこの場を借りて，偽りを言うことと偽証すること，盗むことと欺くことの区別をするつもりはない。

正直に関する事柄について話すことは必要なことである。なぜなら，このことは新聞や雑誌にしばしば取り上げられているばかりでなく，人は詩篇の作者が祈りの中で「主よ，偽りのくちびるから，欺きの舌から，わたしを助け出してください」（詩篇120：2）と訴えたときの気持と同じ気持にさせられているからである。

オリバー・ウェンデル・ホームズはこう言っている。「罪はあまたの道具を備えており，それは偽りの言葉によって巧みにあやつられる。」（*The Chambered Nautilus*「潜水艦ノーチラス号」より）

また，ウイリアム・ペンは次のように述べている。「話の責任を与えられたら，真実を語るようにしなさい。なぜなら，あいまいな言葉にはうそがあり，うそは地獄に通じているからである。」（*Fruits of Solitude*「孤独の実」より）

J・ルーベン・クラーク副管長はこう語っている。「うそほど卑劣でひきょうなものはない。偽りで人を汚すことはこの上ない罪悪である。」（「南アフリカ伝道部会報」1971年1月19日）

偽りがこの地上で最初に語られたのは，エデンの園においてであった。サタンがイブに，たとえ善悪を知る木の実を食べても，死ぬことはないと言ったのである。

実に，サタンはあらゆる偽りの父であったし，現在もそうである。主はモーセに言われた。「これを以てそのサタンわれに叛きて，われ主なる神のすでに人に与えたる人の自由意志を滅ぼさんとなし，しかもまたわが持てる権能を自らに与うべきことを求めたるにより，われわが生みたる独子の権能によりて彼を投げ落さしめたり。

而して彼はサタンと成り，実にあらゆる偽りの父なる悪魔となりて人を欺きだまし，以てわが声に聴き従わぬすべての者を欲するままに虜となすなり。」（モーセ4：3－4）

またニーファイの弟ヤコブはこう語った。「偽りを言う者は禍なるかな。かれは地獄に落し入れられるからである。」（IIニーファイ9：34）　偽りを

言う者は「悪魔，あらゆる偽りの父」（IIニーファイ2：18）と地獄で暮らすことになる。

偽りを言うことは極めて忌むべきことであるため，主御自身は偽りを言われない。巨大な塔が建てられ，言葉が乱された時代に，ジェレドの兄弟は素晴らしい体験をしている。主はその指をジェレドの兄弟にお示しになり，こう言われた。

「『汝はわが指のほかに見たるものありや。』そこでジェレドの兄弟は『主よ，指のほかには何も見ざりき。御姿をわれに見せたまえ』と願った。

すると主は『汝はわれがこれより告ぐることを信ずるや』と言いたもうたから，

ジェレドの兄弟は『主よ，汝は真実の満ちたる神なる故，**偽りが言えず**真実を宣うことを知る』と答えた。」（イテル3：9－12）

それから約2千年の後，ヤコブの子イノスも同様に証している。イノスは罪の赦しを得るために，一日中祈った。「すると一つの声が聞えて『イノスよ，汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せになった。

私イノスは**神が必ず偽を仰せにならないことを知っていたから，**私の罪はすでにこれで取り消されたのである。」（イノス5－6）

神は偽りを言われないだけでなく，偽りを憎まれる。

ダビデの子ソロモンはこう言っている。「主の憎まれるものが六つある。否，その心に，忌みきらわれるものが七つある。」そして初めに「高ぶる目，偽りを言う舌」をあげている（箴言6：16－17）。

聖典の各所で，偽りを言うことはゆゆしい罪であることが述べられている。ホセアは，主がユダヤに災いを引き起こすと言われた5つの罪悪のひとつに偽りをあげている。

「イスラエルの人々よ，主の言葉を聞け。主はこの地に住む者と争われる。この地には真実がなく，愛情がなく，また神を知ることもないからである。

ただのろいと，**偽り**と，人殺しと，**盗み**と，姦淫することのみで，人々は皆荒れ狂い，殺害に殺害が続いている。

それゆえ，この地は嘆き，これに住む者はみな……絶えはてる。」（ホセア4：1－3）

主は，アナニヤとサッピラの場合を例に出して，偽りの報いは直ちに与えられるということを，初期の教会員の心に刻みたもうた。当時，聖徒たちの間には，物の売買，利益の分配を「それぞれの必要に応じて，だれにでも」行なうという制度がとられていた。

「ところが，アナニヤという人とその妻サッピラとは共に資産を売ったが，

共謀して，その代金をごまかし，一部だけを持ってきて，聖徒たちの足もとに置いた。

そこで，ペテロが言った，『アナニヤよ，どうしてあなたは，自分の心をサタンに奪われて，聖霊を欺き，地所の代金をごまかしたのか。

売らずに残しておけば，あなたのものであり，売ってしまっても，あなたの自由になったはずではないか。どうして，こんなことをする気になったのか。あなたは人を欺いたのではなくて，神を欺いたのだ』。

アナニヤはこの言葉を聞いているうちに，倒れて息が絶えた。このことを伝え聞いた人々は，みな非常なおそれを感じた。

それから，若者たちが立って，その死体を包み，運び出して葬った。

三時間ばかりたってから，たまたま彼の妻が，この出来事を知らずに，はいってきた。

そこで，ペテロが彼女にむかって言った，『あの地所は，これこれの値段で売ったのか。その通りか。』彼女は『そうです，その値段です』と答えた。

ペテロは言った，『あなたがたふたりが，心を合わせて主の御霊を試みるとは，何事であるか。見よ，あなたの夫を葬った人たちの足が，その門口にきている。あなたも運び出されるであろう』。

すると女は，たちまち彼の足もとに倒れて，息が絶えた。そこに若者たちがはいってきて，女が死んでしまっているのを見，それを運び出してその夫のそばに葬った。

教会全体ならびにこれを伝え聞いた人たちは，みな非常なおそれを感じた。」（使徒4：35；5：1－11）

しかし，報いが直ちに下されるか否かいずれであっても，悔い改めない偽り者は最終的に報いを受けることについて，黙示者ヨハネは次のように述べている。

「わたしはまた，新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り，海もなくなってしまった。

また，聖なる都，新しいエルサレムが，夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて，神のもとを出て，天から下って来るのを見た。

また，御座から大きな声が叫ぶのを聞いた，『見よ，神の幕屋が人と共にあり，神が人と共に住み，人は神の民となり，神自ら人と共にいまして，

人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。もはや，死もなく，悲しみも，叫びも，痛みもない。先のものが，すでに過ぎ去ったからである』。

すると，御座にいますかたが言われた，『見よ，わたしはすべてのものを新たにする』。また言われた，『書きしるせ。これらの言葉は，信ずべきであり，まことである』。

そして，わたしに仰せられた，『事はすでに成った。わたしは，アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいている者には，いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。

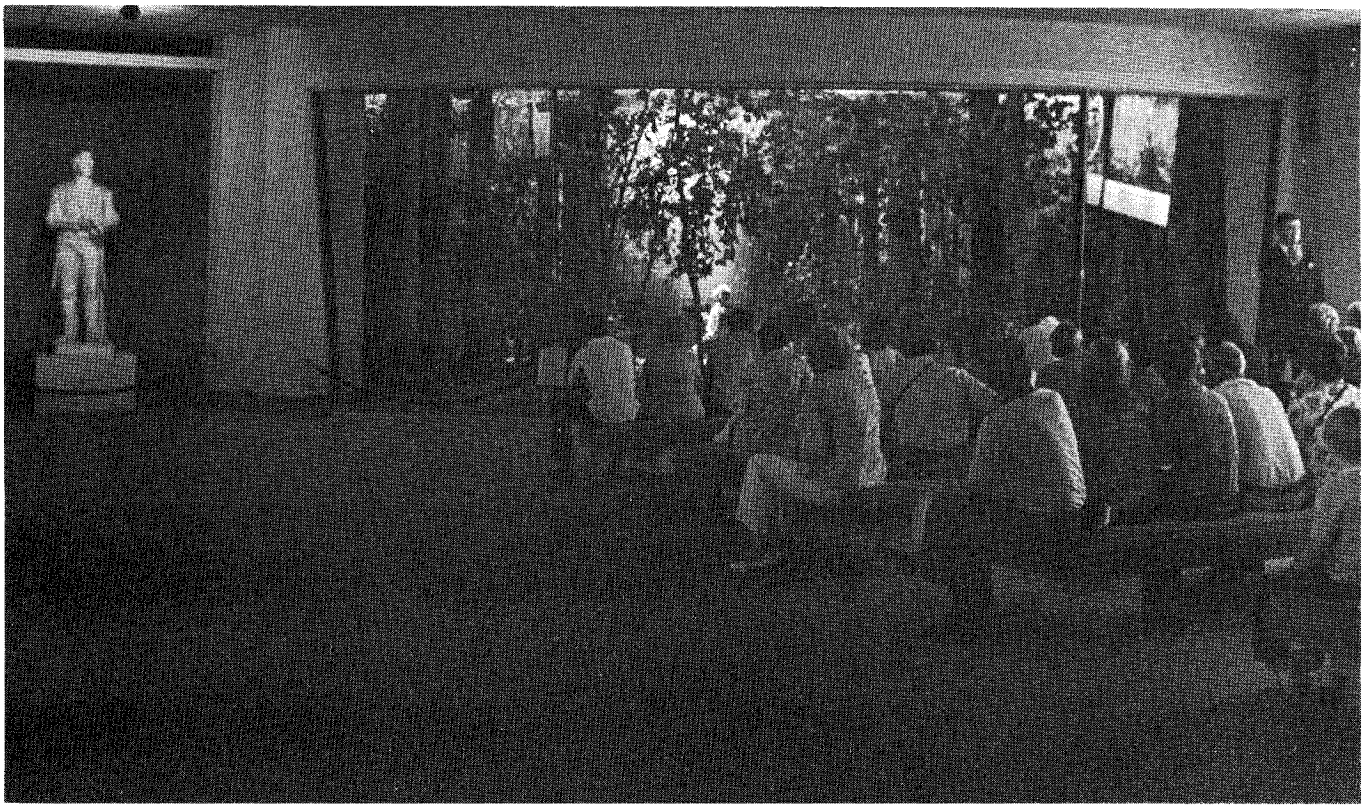
勝利を得る者は，これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり，彼はわたしの子となる』。」

そして偽りを言う者は次のようになるのである。

「しかし，おくびょうな者，信じない者，忌むべき者，人殺し，姦淫を行う者，まじないをする者，偶像を拝む者，すべて偽りを言う者には，火と硫黄の燃えている池が，彼らの受くべき報いである。これが第二の死である。」（黙示21：1－8）

これまでの話をまとめると，次のようになる。

1．サタンは偽りの父であり，エデンの園でイブに語ったのが，この世で最初の偽りである。
2．神は偽りを言われない。



ジョセフ・スミスの最初の示現の話に聞き入る訪問者

3．神は偽りを憎まれる。
4．偽りは，ゆゆしい罪悪である。
5．偽りを言う者は，この世にあって絶え果てる。
6．悔い改めない偽り者には，「火と硫黄の燃えている池が，彼らの受くべき報いである。これが第二の死である。」（黙示21：8）

教義と聖約42：21には次のように述べられており，予言者ジョセフ・スミスはこれを教会の律法としている。

「汝ら偽りを言うなかれ，偽りを言いて悔い改むるこころなき者は捨てらるべし。」これはすなわち，教会から破門されるということである。

同章27節にはこう述べられている。

「汝ら隣人の悪口を言いまたこれに害を与うることなかれ。」

兄弟姉妹，クラーク副管長の言葉を思い出していただきたい。「真理ほど強い武具はない。何の装飾もない全くの真理は，ねたみや憎悪，恨みその他すべての罪悪の矢を払いのけることができる。このようなものはほかにない。」（「南アフリカ伝道部会報」1971年1月19日）

私たちは，正直の大切さを信じている。主は，私たちがこの正直という徳を実践できるように助けて下さる。

うそを言うことに劣らず忌むべき行為であり，世にはびこっている罪悪は，欺くこと，盗むことである。これらも，聖典の各所で罪ありとされている。主はシナイ山からイスラエルの民に次のように命じられたが，この戒めは今日の私たちにも及んでいる。

「あなたは盗んではならない。

あなたは隣人について，偽証してはならない。」（出エジプト20：15－16）

この戒めについて，主は，この最後の神権時代に与えられた律法の中でも命じておられる。

「汝ら盗むなかれ。盗みて悔い改むるこころなき者は捨てらるべし。」（教義と聖約42：20）

これは，盗みをして悔い改めない者は，教会から破門されるということである。

今日の社会で，この戒めを破る者の割合は驚くほど高い。昨日キンボール大管長が，盗みや欺きの忌むべき行為のひとつとしてあげた万引きひとつを取り上げてみても，「合衆国における1年間の被害総額は10億ドルにのぼる。」（*Security Key*「セキュリティー・キー」1976年5月号）

また次のような報告もある。「在庫品の紛失の70パーセントは，従業員の盗みによるものである。しかも従業員の76パーセントが，自分たちの会社から何かしら盗んでいる。」（*Deseret News*「デゼレトニューズ」1976年1月29日付）

「われらは，正直なるべきことを信ず。」

兄弟姉妹に証申し上げる。これまで申し上げたことは真理であり，全能者から与えられたものである。神は，この末の日にこれらの原則を明らかにされた。これに従うとき，私たちは栄え，完全となり，堕落した状態から立ち上がって，世の贖い主のみもとに帰ることのできる状態となるのである。これらが真実であること，また回復された福音が真実であることを証する。贖い主イエス・キリストのみ名により，へりくだり申し上げる。アーメン。

伝道に伴うみたま

七十人第一定員会会員
カーロス・E・エイシー

自己中心的な生活を避け，福音を分かち合うとき，私たちは麗しいみたまを感じ，共に徳に導かれる

昨日解任された七十人最高評議員会の方々に感謝と敬意を表したいと思う。私がこの6ヵ月間に受けた指導と援助を心から感謝している。これから新たな最高評議員会を支持し，与えられた責任に尽力したいと思っている。

数年前の伝道部長セミナーで，ヒュー・B・ブラウン長老がこう言われた。「神から，ただひとつの望みをかなえて下さると言われたら，私はこうお願いするでしょう。宣教師一人一人がその召しにおいてみたまを感じ，みたまを享受できるようにして下さいと。」さらに続けてこう言われた。「もしすべての宣教師がこのみたまを感じることができるなら，世界の各所で奇跡が起きるでしょう。」

私がかなえてもらいたいと思っている願いも，ブラウン長老と同じである。しかし，専任宣教師だけでなく，教会員すべてにこのみたまを感じていただきたい。老若を問わず，すべての教会員がこの特別なみたまの勧めと助けによって，イエス・キリストの福音を宣べ伝えることができるようにと切に望んでいる。すべての末日聖徒は，伝道のみたまと切っても切れない関係にある。

この伝道のみたまは，モーサヤの息子たちのような偉大な宣教師の話を読むと，一層よく理解できる。彼らは，神のみ言葉を同胞であるレーマン人に伝えることを切望していた。そのときの気持が次のように記されている。

「モーサヤ王の息子たちはまた万民に救いの道を教えたいと思った。それは一人と雖も亡びることを考えるに忍びず，また一人と雖も永遠の責苦を受けることを思ってさえもかれらはふるえおののいたからである。

このように主の『みたま』はモーサヤ王の息子たちを感動させた。」（モーサヤ28：3－4）

福音の光が人々の生活を照らしたときに起こったこうした驚くべき現象は，モルモン経に限らず他の聖典にも随所に見出すことができる。真理の光というものは，ほとんど無意識のうちにそれを人々に分かち合いたいという望みを起こさせるものである。私たちは，新しいことを知ることによって心が開けると，それをほかの人にも知らせたいと思う。天の力によって，私たちの霊が高揚されると，人にもそれを感じてもらいたいと思うのである。また，生活が価値あるもので満たされると，人にもそれを得てもらいたいと考える。特に自分の愛する人には，同じ喜びを味わってもらいたいと思うのである。

リーハイが夢で，「一本の木を見たが，それになっている実は人を幸福にするに足るものであった」と言っているのを覚えておられるだろう。リーハイは行ってその実を食べ，大きな喜びに満たされた。さらに次のように記されている。「私は妻子にもまた食べさせてやりたいと思い始めた。それは，これがどんな木の実よりもすぐれて好いことが解ったからである。」リーハイは家族に手招きをし，来てこの実を食べるようにと「大きな声で」呼んだ（Ⅰニーファイ8：10－12，15参照）。

先頃，私はある改宗したばかりの若い兄弟の証を聞いた。その人は確かに「みたま」によって語っていた。その中で彼は，心から望んでいることは自分の家族や友達にこの回復された福音を伝えることであると語っていた。彼は目に涙を浮かべ，声を震わせながら，こう言った。

「私は家族や友達に，私が知っていることを知ってもらいたい。

私が感じていることを感じてもらいたい。

私が行なったことを行なってもらいたいのです。」

これこそ伝道のみたまである。このみたまが私たちに自己中心的な生活を避け，人の福祉を考えるよう勧めてくれるのである。尊い伝道の業に携わったことのある人，友達の改宗を助けた人，伝道中の息子や娘を援助した人，宣教師と親密な関係を築いた人，これらの人はそれが真実であることを証することだろう。

福音を伝えることの素晴らしさのひとつは，関係する両者すなわち教える者と学ぶ者が，共にみたまを感じ，徳に導かれることである。予言者ジョセフ・スミスを通して，次のことが明らかにされた。「教ゆる者も受くる者も互いに相悟り，両者共に徳に導かれて共に悦ぶなり。」（教義と聖約50：22）

みたまの力によって教え，証したある宣教師の言葉に耳に傾けてみよう。

「金曜日の晩，私は年配の夫婦をその息子さんに証を述べる機会がありました。私は彼らの目を見つめて，『私

はジョセフ・スミスが森で祈りの答えを受けたことを知っています』と言いました。私の心は燃えるような思いで一杯でした。レッスンプランは素晴らしいものです。しかし，証を述べること，求道者にみたまを感じさせることはそれ以上に素晴らしいものです。』

徳に導かれることについてひとつの経験をお話したいと思う。

数年前，ある宣教師から，彼らが教えていた立派な夫婦について相談を受けた。この夫婦は何度もレッスンを受け，時折教会に出席していた。しかし，彼らには確かな証が得られないという問題があった。

私は心の中で祈ったとき，その主人にこう尋ねるよう促された。「宣教師にお会いになる前から，いつも祈っていらっしゃいましたか。」

「いいえ，最近までめったに祈ったことはありません。」彼はそう答えた。

そこで私は，「今は祈っていらっしゃいますか」と尋ねた。

「ええ，私たちはいつも祈っています。食事の前には必ず祈りますし，家族の祈りもしています。仕事のことでもよく祈ります。」

私は彼に，祈りを続けて行なうよう勧め，次の聖句を一緒に読んだ。「あなたたちがもし祈らねばならぬことを教える『みたま』の言葉に聞き従うならば，あなたたちは祈らなくてはならないことを覚えるであろう。悪魔は祈れと人に教えず，かえって祈ってはならないと教える。」（IIニーファイ32：8）

するとその人は，これまでそのみたまの勧めに耳を傾けてきたことを話してくれた。

次に私は，キリストの教えについて彼がどの位知っているか尋ねた。すると彼はためらうこともなく，宣教師と会うまではほとんど知らなかったと答えた。しかし，宣教師から救いの計画をはじめ多くの大切な事柄を学んだことを私に知ってもらいたい様子だった

キリスト像に見入る人々

ので，次の聖句を一緒に読んでもらうことにした。「今，神の御言葉を種子になぞらえて話すと，あなたたちが一つの種子を自分の心の中に蒔くとき，もしもその種子が真理の種子すなわち善い種子であって，あなたたちが不信心の心でこの種子を抜きとったり，主の『みたま』に逆らったりすることがなければ種子は次第に胸の中でふくれ始めるであろう。そこで，あなたたちは種子がふくれ始めることを感ずると，次のように思う。すなわち，これはまことに善い種子，善い言葉に違いなく，私の心を大きく開き，私の理解力を増し，私はようやく好い味を感ずると。」（アルマ32：28）

この言葉が真実であり，良いものであることを理解させ，また主のみたまを感じさせるのに，説教らしいことは全く必要なかった。

私が尋ねた3つ目の質問はこうだった。今度は奥さんに尋ねた。「宣教師にお会いするまでの御主人はどのような方でしたか。」

彼女はためらいがちに答えた。「以前は私のことをあたりまえの存在と思っていましたし，子供のことにもあまり関心を向けませんでした。でも今は素晴らしい夫になり，父親になりましたわ。」

私は彼女が正直に話してくれたことに感謝し，次の聖句を一緒に読んでもらうことにした。「わが宣べたることを信ずる者にはわが『みたま』の示しを与えるにより，かれは知る力と証を立つる力とを授かる。わが言葉は善を行えと人に説きすすむるものなる故に，わが『みたま』の示すところによりてわが言葉の真実なるを知ればなり。」（イテル4：11）

彼女も，家の中の雰囲気が一変して，それが夫の生活を変えたということを進んで証してくれた。

最後に，御主人にキリストに対する信仰についてうかがった。彼は，宣教師からレッスンを受けるまではおぼつかない信仰であったこと，救い主について疑問を抱いていたことを打ち明けてくれた。しかし，彼の信仰は宣教師の教えと証によって強められた。私は次の聖句を一緒に読むことにした。「すべての人々はみな善悪の区別を弁えるためにキリストの『みたま』を授かる。さて今私は判断の方法をあなたたちに教えよう。善を行えとすすめ，またキリストを信ぜよとすすめるものは皆キリストの権能によってその賜として来るのであるから，それが神から出たことは何の疑いもなく充分確に知ることができる。」（モロナイ7：16）

この話合いの終りに，その求道者は生活の中に新たな尊いみたまがもたらされたことを感謝していた。祈りの力，新たな知識，善を求める心，信仰の再発見，これらが彼らの生活に新たな展望と目標を与えたのである。

そればかりか，この場合教える立場であった私自身も，この経験から恵みを得た。私の心は燃え，適切な聖句を見出し，みたまによって語ることができたのである。

伝道活動にはそれを促すみたまがあることを証したい。私たちが聖句を開いてそれについて話しながら，非教会員の友だちとエマオまで歩くとき，私たちの目はさらに多くの真理に開け，心は燃えるに違いない。美しの門にいる肉体的，霊的な足なえに右手を差し伸べ，彼らを立たせるたびに，私たちは正しい方向に歩み，心から神を賛美するに違いない。私たちがヤコブの井戸を訪れ，友だちに生ける水を飲ませるたびに，私たちの渇きはいやされ，世の救い主に一層近づくことができるのである。

先週，東部のステーキ部大会に出席するために飛行機に乗ったときのことである。心が沈み，気分がすぐれなかった。私は指定の席に腰を下ろし，カバンを開けて，ある印刷物を取り出した。隣は空席だった。私はだれも座らないでほしいと思った。話しかけられたりして，気を散らされたくなかったからである。ところが，扉が締まる直前に長髪の若者が飛び込んで来て，ひとつ残っていた私の隣の席に腰かけた。私は不愉快な気分になったことを認めざるを得ない。服装や体臭は，それこそ紛々たるものだったからである。

彼は私と何やら話したいようだった。私はそんな彼を無視して，書類にペンを走らせた。しかし，離陸して間もなく，彼の方からこう話しかけてきた。「私のことで気分を害されたと思いますが，私がこのような格好をしている理由を申し上げてもよろしいでしょうか。私はカナダから，ユタの技術者セミナーに出席したんです。セミナーの最後はワークショップだったものですから，一日中グリースとほこりの中にいました。それでごらんの通りです。シャワーを浴びる時間も，着替えをする時間もなく，この飛行機に飛び乗った次第です。お許し下さい。」

ああ，何と恥ずかしいことを。私は自分勝手に決め込んでしまったことを恥ずかしく思った。

私はそのように思ったことを悔い改め，心から失礼な態度の許しを請うた。それから簡単に自己紹介をし，福音に関する会話が続いた。そして，シカゴに到着するまで私たちは一緒に聖典を読み，話し合った。ちょうど先にお話した夫婦の場合と同じように。そして，固い握手をし，彼は宣教師のレッスンを受ける約束をして別れたのだった。

この経験からわかるように，私たちは，自己中心的な生活を避け，福音を分かち合おうとするなら，麗しいみたまを感じることができる。このみたまは，燃えるような証，聖典を読むこと，人々への深い関心を通してもたらされるのである。

私がひとつだけ望みをかなえていただくとすれば，それは，教会員，教会員ではない人，宣教師，友達などあらゆる人々が伝道のみたまを感じ，それを享受することである。「ああ私が天使になって私の心の願いを達することができたら善いものを。私の願いとは出て行って神のラッパのように地を震わせる声で話し，万民に悔改めをすすめることである。」（アルマ29：11）

私たちすべてがアルマのような気持を抱き，こう叫びたいという望みをもつときこそ，私の願いはかなえられるのである。イエス・キリストのみ名により，アーメン。

「光　だ！」

七十人第一定員会会員
ジョン・H・グローバーグ

人生の嵐がいかにすさまじかろうとも，予言者は私たちに，この世でも来世でも幸福が見出せるよう，その道を示して下さる

愛する兄弟姉妹ならびにここにお集いの皆さん，皆さんの信仰と祈りによって，聞く者と語る者が共に神のみたまの力を感じることができるようにと願っている。なぜなら，みたまによって語り，聞くときにこそ，永遠の恵みが得られることを知っているからである。

ひとつの出来事とそれが今日どのように応用できるかについてお話したいと思う。これは20年ほど前に南太平洋のごく一部の人々の間に起こったことであるが，時がたつにつれてその重要性が認められ，今日では極めて重大なものとなっている。

この経験を身近に感じていただくために，この話を私が経験したこととして聞いていただきたい。

若い宣教師であった私は，地方部長として，教会の諸事を管理し，散在する15の小島の人々に福音を宣べ伝えていた。私たちはもっぱら帆船で島々を廻った。島から島へ，何週間も何ヵ月も旅をしながら，私たちは，風や海流だけでなく，特に天父の愛に頼るようになった。それはこの上なく貴い経験であり，まさにチャレンジの時であった。私たちは，船酔いや無風状態，言葉，食物，習慣など，いろいろな面で困難に陥った。しかし，霊的には天父に近づいていた。天父の愛と慈悲によって，苦痛や数々の問題は次第に小さなものとなり，やがて消えていくのだった。

ある日私たちは，遠く離れた島から，ひとりの宣教師が重病であるという知らせを受けた。天候は荒模様であったが，責任のあることを考え，祈ってから，様子を見にその島に向かった。海が荒れているため，船足が鈍り，到着した頃は午後も遅かった。宣教師の状態はかなりひどく心から祈りを捧げた後に，癒しの儀式を施した。その間，彼を本島の病院に連れて行くように，しかも今そうするようにと強く感じた。

天候はますます悪くなった。海は荒れ，雲は厚く，風は強かった。その上時間も遅く，太陽は今にも沈み，長い暗い夜を迎えようとしていた。しかし「今すぐ連れて行くように」と強く感じた私は，それに従った。これこそが，何にも代えがたい導きだったのである。

不安は多かった。暗闇，嵐，港の入口がさんご礁のためにきわめて狭いことなど，消極的な意見がどんどん出てくる。今はやめた方がいいと言う者もいた。しかし間もなく，経験豊かな船長とやや心配気な地方部長を含めた7人が，病気の宣教師を連れてボートに乗り込んだ。こうして，みたまの勧めによって，本島への航海が始まったのである。

船出することを決定した頃から風雨は激しさを増し，今や大しけとなった。太陽が地平線の下に隠れると，あたりは全くの暗黒の世界である。私の心も疑いと不安の暗闇に埋没しそうだった。厚い雲と降りしきる雨は，星も月もない荒海，そして安らぎのない体と心を一層暗くした。私は，新約聖書に出てくる病気の息子の父親と同じ心境であった。その父親はこう叫んだ。「信じます。不信仰なわたしをお助けください。」（マルコ9：24）　主は助けを与えたもうた。そして今も助けを与えて下さるし，これからもそうであろう。私はそれを知っている。

船が揺れ，さんご礁に接近したとき，全員が本島への唯一の通路を示す明かりを捜した。どこにあるのだろう。夜はその暗さを一層増し，嵐の激しさはその限りを知らないかのようだった。雨は顔を打ち，容赦なく目に流れ込む。その目はいたずらに命の光を捜し求めていた。

そのときだった。私は波がさんご礁に当たって砕ける音を耳にした。近い，近すぎる。明かりはどこだ。うまく通路を抜けることができなければ，おびただしい歯を持つ巨大な怪物であるさんご礁のえじきになってしまう。あらゆる状況が私たちを，有無を言わせず破滅へとひきずり込んでいくようだった。

すすり泣く者，うめく者，また極限の状況に抗しきれず，わめき出す者もいた。多くの者が「もっと右だ」あるいは「左だ」と叫び，窮地の真ただ中にあったそのとき，私は船長を見た。沈着な，知恵と経験にあふれた不老の顔であった。彼は前方の暗闇をじっと見つめていた。とそのときである。彼の荒れた唇がかすかに開いた。そして，一点を凝視しながら舵輪を回し，喜びの声を発した。「光だ！」

私には見えなかった。しかし船長には見えたのである。なぜ彼に見えたのか，私はわかった。航海の豊かな経験

をもつ彼の目は，荒れ狂う嵐の中でも曇ることはなかったし，経験の浅い者の言葉に左右されることもなかったからである。こうして私たちは最後の大波を乗り越えると，少し穏やかな海に入ることができた。

さんご礁のとどろきは背後に去り，破滅のいまわしい計画もくい止めることができた。私たちは安全な港に入った。目的地に着いたのである。私たちが暗闇の中にひとつの小さい光を見つけたのはこのときだった。それは船長が言ったその場所にあった。もし私たちが光を認めるまで待っていたら，船はさんご礁に乗り上げ，粉々に砕けていただろう。しかし，豊かな経験をもつ目を信頼したおかげで，私たちは助かったのである。

これは，私たちにきわめて大切なことを教えている。長年の経験と訓練を通し，また神の召しによって，はるか彼方を，より良いものを，はっきりと見ることのできる人がいるのである。そしてその人は，私たちがまだ気づかないうちに，私たちにふりかかろうとしている霊と肉の双方に関わる災いや死から，私たちを救ってくれるのである。

私は，20年近く前のあの航海と同じものを，今感じている。私たちは今日，道徳の価値を吹き飛ばそうとする激しい嵐の中にいる。そしてそれは，私たちが港にたどり着くまでにますますその激しさを加えていくであろう。

例えば，いわゆる人口過剰という問題があり，このままゆけば将来恐るべき事態をひき起こすと言われている。そして，仮定の上に立った事柄や数字をもとに，意見が闘わされている。また，いわゆる「家族計画」，人工妊娠中絶の自由を要求する声，また多くの面で個人の権利を誇張する声をよく聞く。今や，私たちは病める世界にいる。助けを必要としているのである。しかし，これを救うためだからと言って，某教授の計画やあるグループの主張，ある宗派の感情的な叫び，また人が考え出したいかなる哲学にも耳を傾ける必要はない。ただ予言者の静かな声に耳を傾けさえすればよいのである。予言者はこう述べている。「あなたの家族を自然の状態におきなさい。主があなたに送ろうとされた霊たちをすべて受け入れ，あなたの家族を遅らせることがないようにしなさい。いつも互いに思いやり，堕胎の罪にかかわらないようにしなさい。」　この言葉の中にこそ安寧がある。予言者はこのような嵐をはじめ，いかなる嵐の中にあっても，私たちを導いて下さるのである。

説教の同時通訳の準備をする通訳者

話をもとに戻すが，私は，私の命そして私の管理下にあった病気の宣教師の命を救ってくれた，あの立派なポリネシア人の船長がいてくれたことを，主に感謝している。私は彼の経験（その多くは楽しいものではなかったと思うが）に心から感謝している。彼の知恵，目に感謝している。また，彼が状況の厳しさに屈せず，しっかりと安全な航路を進んで行ったことを感謝している。

そのとき私は，彼がこれまでの彼の経験すべてをもってしてもできないことを成し遂げたと感じた。彼は，あの絶望的な状態にあって，忠実で航海好きな先祖から受け継いだ力と強さを不思議な方法で引き出したのである。それはポリネシア人をよく知っている人のみが理解することのできるものである。私は，彼と，リーハイの忠実な子孫たちに，心からの賞賛と愛を表わしたい。

同じように，またさらに深い気持を持って，私は今日偉大な予言者がいることを感謝している。このような時代にあって，主は，試され，訓練され，導きを受け，神の権能を受けている人をお与えになった。この人は，自らの大いなる経験に加えて，忠実な指導者である先祖の力と強さ，ならびに神と天使の力の強さに頼っているのである。

証申し上げる。神は生きておられる。天父は私たちを愛しておられる。また，イエスはキリストであり，世の救い主である。イエスは，私たちの助け手であり，私たちに助けが必要なときに，個人的に助けを与えて下さる。私はこのことを知っている。

また，ジョセフ・スミスは神の予言者である。今日，スペンサー・W・キンボール大管長は，光を見ることができ，私たちと世の人々を救うことができる方である。私たちはすべてが暗闇や恐れ，絶望の中に埋没しそうなとき，破滅が近づき，人々や悪魔の激情によって解決できそうもない問題に捕えられてしまったようなとき，キンボール大管長が「光がある。この道だ」と静かに語る言葉に耳をすましていただきたい。この予言者の言葉に耳を傾け，それに従うなら，私たちは安全に港に導かれることを証申し上げる。イエス・キリストのみ名により，アーメン。

良い状態で死を迎える

七十人第一定員会会員
スターリング・W・シル

死は卒業の日のようなもので，私たちがどのような者であるかを評価される時である

人生で最も大切なふたつの出来事は，誕生と死である。良い状態でこの世に生を受けること，すなわち良き両親のもとに生まれて，信仰深い家庭で育てられるということは，何と感動的なことか。しかし，それにも増して大切なのは，良い状態で死を迎えることである。いつであったか，総大会のときに，私は誕生とそれに続く人生の大切さについてお話したことがある。けさは，死と死後の生活の大切さについてお話したいと思う。

時々私たちは死について学ぶ絶好の機会を逃してしまうことがある。それは，死を喜ばしくないものと考えているためである。また，喜ばしくないものについては考えたくないので，時として死から顔をそむけ，心を閉ざしてしまうこともある。いずれにせよ，死を無視したところで，死が存在しなくなるというわけではない。古代エジプト人は死をきわめて論理的な方法で処理していた。祭のときには決まってされこうべを人々の前に飾ったのである。すなわち，死のイメージを人々に掲げ，だれもがいつかは自分もこうなるのだと常に心に留めることができるようにしたのである。

私は，ここにおいて皆さんを脅すつもりはさらさらないが，きわめて重要なこの世での生活は，やがては終りを告げるということを申し上げたい。ある人が言ったように，過去の事実から判断すると，生きたままでこの世を去る人はまずいない。生を受けたその瞬間から，だれもが，取り消されることのない死の宣告を受けて生活している。そしてそれは必ずいつの日か執行されるのである。私たちがこのことに対して十分な備えをすることができるように，主は再三再四警告を与えておられる。ある人は墓碑銘に「いずれこうなることはわかっていた」と刻んで，死が必ず訪れるものであることを示している。

ある晩，私はアテネが滅びた時代に書かれたギリシャの悲劇を読み返していた。あるローマの将軍がアテネの哲学者を捕え，彼に殺すつもりであることを話した。ところが，そのアテネ人は全く心を乱した様が見えない。将軍は，彼が死というものを理解していないのだと思った。そこで，「死ぬということがどういうことなのかお前にはわかっていないのだな」と言うと，そのアテネ人は，「あなたよりよくわかっているつもりです」と答えた。そしてこう続けた。「あなたこそ，死がどういうものかわかっていません。死は生を意味することを知らないからです。死ぬことは生きるための第一歩です。それは古臭く，疲れ果てた働きの終りであり，より気高く，素晴らしい働きの始まりです。神々と善きことの世界に赴くために，偽り者たちのもとを去ることです。』

人生で最も重要な出来事は死であると申し上げたが，私たちは死ぬために生き，生きるために死ぬのである。死は門出である。永遠の生命に至る道である。死に至るまでのわずかな時間をどのように送るかは，きわめて大切なことであると思う。すなわち，あなたの人生の最後の時が訪れたとき，どのような人でありたいか，ということである。

この最後の時こそ鍵となる最も大切な時である。これが他のすべての時を裁く基準となる。人は最期を迎えるまで，自らの人生の成否を語ることはできない。ソフォクレス（アテネ三大悲劇詩人のひとり）は次のように言っている。「その日が楽しい一日であったかどうかは，夜になってみなければわからない。』

確かに，ナザレのイエスあるいはイスカリオテのユダの最期に何が起こったかを知らずに，その生涯を述べることのできる者はだれもいない。ある人が自分の最期にあたって考えたことをお話したいと思う。これは，古いファウストの伝説集に述べられている。ドクトル・ヨハネス・ファウストは，1540年にドイツ，ウィッテンブルクで死んだ。しかし，死ぬ24年前に彼はサタンに魂を売り渡してしまった。彼はサタンにこう言っている。「もしお前が24年の間，敵を負かし，また友を助けるときに私に力を貸すなら，私は永遠に魂をお前に引き渡そう。』

この考えは，そのときのファウストにとっては賢明に思えたことだろう。24年とは長い期間だからである。永遠と言えるくらいの長さかもしれない。しかし24年後はどうであろうか。それに対して，サタンは将来をよく見越して，こう言った。「私はファウストが生きている間は彼に仕えよう。彼の魂

説教に耳を傾ける大管長会：左よりマリオン・G・ロムニー副管長，スペンサー・W・キンボール大管長，N・エルドン・タナー副管長

と引換えに私は助けを与えよう。』

こうして24年間の最初の一日が始まった。ファウストは良きにつけ悪しきにつけ，あらゆる経験をした。そして時がたち，ファウストは，自分で気づかないうちに，私たちのだれもがそうされるように，死の宣告を受けたのである。ここで初めて自分がしてきたことの重大さを考えた。どれほど自分を欺いてきたかが，このときになってわかったのである。彼は，悪魔との契約を破棄したいと思った。しかしそれはできないことである。そして彼はこう祈った。「おお神よ，わが魂をあわれみ給うことがおできにならないなら，この絶え間のない苦痛だけでもやわらげたまえ。ファウストを千年いや何十万年でも地獄に留めておいてもかまわない。しかし，いつの日か救いを与えたまえ！」

こう祈ったものの，ファウストは契約があるため，これは決してかなえられるものでないことがわかっていた。そして最後の1時間ファウストは腰を下ろし，時を刻む時計をじっと見つめていた。そしてついにその時が来た。その瞬間，ファウストは「地獄へ落ちる！」と言い残して死んだのである。

ファウストは初めにその最期のような気持でいたら，このようなみじめな所へ行くことはなかったはずである。私の親戚に，小説を決まって最後の章から読む人がいる。読み始める前に結末を知りたいのである。人生に関して言えば，これは実に良い考えであると思う。

私たちが人生の目標を見失って，星の光栄に属する者となっていたことがあとでわかったとき，それが一体どのような状態か，私にはわからない。わかるのは，小さな星の輝きが真昼の太陽の光と比べものにならないように，自分が日の光栄の王国からはるか遠く離れたところにいるということである。私たちは，日の光栄の王国については

よく知っている。それは神のみ業に雄々しく携わり，神のすべての戒めを守った人のために，神が用意された場所である。また，日の光栄の王国に属する方々が大勢この地上を訪れているので，その方々についてもよく知っている。彼らが訪れるたびに，訪れを受けた人々は，彼らを筆舌に尽くし難い方々であると語っている。

予言者ジョセフ・スミスは，御父と御子の訪れを受けたときに，「筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方」（ジョセフ・スミス2：17）と言っている。すなわち，日の光栄の王国に属する方々を言い表わす言葉はないのである。

この世の生活においてさえ，言い表わし難いことがいくつかある。例えば，クリスマスの朝の孫娘の目である。彼女の目は期待に輝いており，顔から輝き出るものが何かしらある。私にはそれがわかる。しかし，それについて皆さんにお話することはむずかしい。彼女の目は光を放っていた，顔が輝いていた，晴れやかな顔であったと説明したとする。しかし，どれも当たっていない。彼女の目は，色も形も大きさも普段と変わらない。しかし，言い表わし難い何かが顔から発散していたのである。

予言者ジョセフ・スミスは，1836年4月3日にカートランド神殿にみ姿を現わされた復活したもうイエスについて，次のように説明している。「その眼は燃ゆる炎の如く……」（教義と聖約110：3）それは単なる輝きではない。輝きに優ること数百万倍だと思う。しかし，孫娘の目に発光体がなかったように，実際，燃える炎はそこにはなかったのである。ジョセフは，言葉では表わせないものを表現しようとしている。そしてこう述べている。「その顔は日の輝きにも勝りて光り輝き……」これほどの輝きを持っておられたのである。

私たちは時々，イエスは私たちとは違った種類の御方ではないのだろうかと考えるが，予言者ジョセフ・スミスは，イエスと同じように復活した天使モロナイの15，6回の訪問を筆に表わすことを試みた。モロナイは，アメリカ大陸に住んでいた軍人であった。最後の37年間というもの，モロナイはたったひとりで生きていた。彼はこう言っている。「父も一切の親族も戦で殺されたから私は一人のこって友もなく行く所もない。」また，「私の命が安全な所を求めてさまよっている」と言っている（モルモン8：5；モロナイ1：3）。

モロナイには，温かい浴室もなければ，おいしい朝食を用意してくれる人も，清潔な衣服を与えてくれる人もいなかった。私たちは，このような長年の孤独な生活の中で，彼の性格がある程度弱くなっていたのではないだろうかと想像する。そして，モロナイは最後の時を迎え，墓の傍らに立って私たちにこう告げたのである。「さらば，すべての人たちよ。私はじきに行って私の霊と私の体とが再び相合するまで神のパラダイスで安息に就く。私は勝利を得て空を飛んで来て，生きている者と死んでいる者との永遠の裁判官である偉大なエホバの楽しい法廷であなたたちに逢う。」（モロナイ10：34）

それから14世紀の歳月が流れた。1403年間というもの，モロナイについては何も知られていない。こうして1823年9月21日の晩，モロナイはすでに復活体を得，栄光ある姿で，ジョセフ・スミスの傍らに立ったのである。予言者はモロナイについて記そうと努めた。予言者は，不可能なことであると言いながらも，あえてそれを試みている。そして，次のような言葉で表現している。「このお方の全身は筆にも口にも絶した輝きに充ち，御顔は誠にいなづまのように輝いていた。」（ジョセフ・スミス2：32）モロナイの体が壮麗であったばかりか，その衣も光り輝いていた。「その衣の白さと言えばいかなるこの世の白さをも絶した白さであった。また私はいかなるこの世のものもあれほどに勝れて白く輝いて見せることができたとは思えない。」（ジョセフ・スミス2：31）

私たちは皆，この体を喜ばしい宮居にするために何をしなければならないか知っているはずである。私たちは入浴して，体を清潔に保ち，最も適した衣服を身につけている。宝石でそれを飾ることもある。お金があれば；ネックレスやブレスレットやダイヤモンドの指輪などを買ってそれを身につけ，その身を輝かしい麗しいものとする。また，化粧品や毛抜きを使ったりもする。これらはそれほどの効果を発揮するものではないが，私たちは常にそれを行なっている。

あなたが高価な服で身を飾ることを楽しみとしているのであれば，高価な体に服を着せることを，どのようにお考えになるだろうか。その体は太陽のように輝き，理解を絶する美しさを持ち，鋭い感覚と豊かな識別力，そして愛と理解と幸福を受け入れる大きな力を具えているのである。私たちはこのことを心に留めておくとよい。すなわち神は，人を麗しいものとするために，世界一の美容院を経営しておられるということである。

ソクラテスは非常に素朴な人であった。彼は「内なるものを美しくさせたまえ」と祈っている。私たちは，輝かしい霊性を高めることによって，美しくなっている素朴な人々を知っている。神を敬う心は，何も飾っていない体をも美しくすることであろう。立派な知的，霊的な特質は，私たちの体をそのように変えるのである。

こうして，私たちははじめにいたところに帰る。立派な生活を送り，良い状態で死を迎え，日の光栄の王国で永遠にわたって神と住まう，何と素晴らしいことだろう。使徒パウロは言っている。私たちは死ぬが，「見よ，生きて」いる（IIコリント6：9）。

ある思索家の祈りを皆さんに紹介したい。

「偉大なる神よ，私の卑しい願いの中で最も卑しいもの，それは自らを失望させることのないように助けたまえということです。」（ソーロー「祈り」）

皆さん一人一人に神の祝福があって，全力を尽くして各自の務めを遂行できるように，イエス・キリストのみ名によってへりくだり祈るものである。アーメン。

塩のききめ

十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

キリストに従う者は，塩のききめを持つ者とならなければならない

神の人アブラハム・リンカーンについてお話したいと思う。

リンカーン大統領は，類まれな偉人のひとりと言える。彼の偉大さは，主に対する旺盛な知識欲と従順の所産である。

彼は神を信じ，神を身近に感じて生活した。誠心誠意祈り，その大切な職にあって自分が神の霊感に導かれていることを知っていた。

リンカーンは心から聖書を信じ，愛読しており，あるとき次のように語った。

「聖書はその書自体が宣言している通りの書物であると信じる方が理にかなっていると思うようになって久しい。確かに聖書は，私たちが従うのに良き書である。」（ジョン・ウェズレー・ヒル，*Abraham Lincoln—Man of God*「神の人アブラハム・リンカーン」p. 126）

リンカーンは，南北戦争の時代，聖書を使い，またそこに述べられている原則を応用することによって，合衆国を導いた。彼は信仰が篤く，祈りを欠かさない，非常に謙遜な人であった。このような生活を送ることによって，彼は次のような偉大な事柄を学んだ。

「私は神の導きを幾度となく受けてきた。また自分の意志以外の何かの力によって動かされたことも数多い。それは天からの力であると信じて疑わない。……全能者は私にある事柄をさせたいとき，またさせたくないとき，私にそれがわかるように方法を備えて下さる。私はそれを確信している。」（同上 p. 124）

神は，国家の諸事を全般にわたって導いておられること，また民が主に仕えるときには主の祝福が与えられるが，仕えなければ祝福を取り上げられてしまうことを，リンカーンははっきりと知っていた。

彼は次のように語っている。

「神の支配する力を信頼すること。へりくだり悲しんで自らの罪と背罪を告白すること。その際，心からの悔改めは慈愛と赦しをもたらすという確固とした望みをもつこと。『主を神とする民のみが祝福される』という，聖書に述べられており，またすべての歴史が証明している崇高な真理を認めること。これらは国民と同様国家の義務でもある。」（同上 pp. 390−91）

このことを踏まえた上で，彼はさらに，国家も個人と同じように，神のみ手による罰を免れることはできないと述べている。

彼は，南北戦争は国家が奴隷制度を認めていたがために神が下された罰である，と信じていた。また，奴隷制度は誤っており，半束縛，半自由の状態では国家が持続できないことを知っていた。従って彼は，奴隷を解放するために必要な行動を起こしたのである。

ある日，リンカーンは次のように語った。「私たちが正しいことを行なわなければ，神は私たちを滅びるままに任せるであろう。……正しいことを行なえば，神は私たちをこの荒野から安全に導き出し，勝利を得させ，この北軍を復興させて下さるだろう。」（同上 p. 129）

また，次のような感動的な言葉をも残した。「私は自分が間違っていないことを知っている。なぜなら，キリストが教えておられるように，自由は義であり，キリストは神であることを知っているからである。」（同上 pp. 285−86）

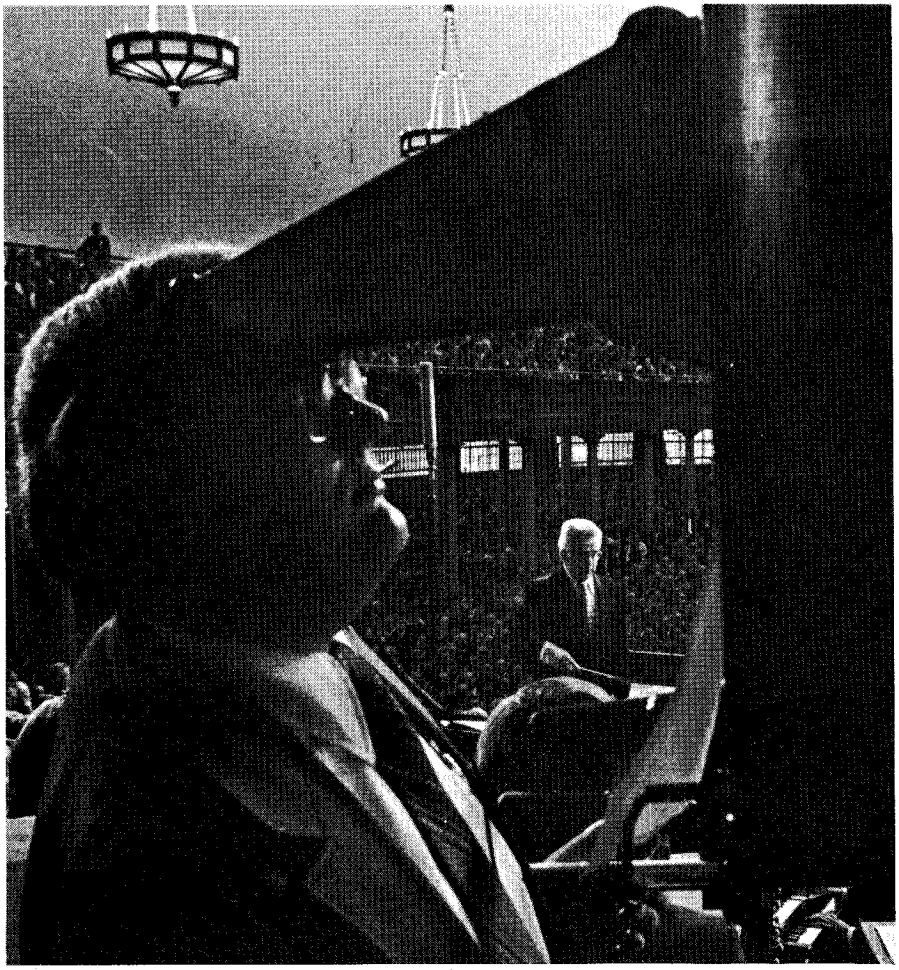
さらに，リンカーンは述べている。「神はこれまで私たちが取り返しのつかない失敗を犯すことのないよう守って下さった。またこれからも守って下さると思う。私たちが行なうべきことは，主を信頼し，主の命令に従い，主のみこころを行なうことだけである。」（同上 p. 126）

「全能者が……人類の諸事に直接介在されることは，聖書の中で最も明白に言われていることのひとつである。」（同上 p. 124）この偉大な南北戦争の指導者はこう語っている。

リンカーンは，聖典から学んだ事柄をそっくり実行に移していた。例えば，申命記の中で神は，エジプトから逃れるイスラエルの民に，神の戒めに従うならば，地上で最も偉大な民とすることを約束された。

考古学者や歴史学者たちは，古代にすぐれた，高度の文明を有する民がいたことを明らかにしているが，神は十二支族をそれらのどの民よりも偉大な民としようとされたのである。しかしこれには，民が主に仕えたときに，という条件が付いていたのである。

申命記28章には次のように記されている。「もしあなたが，あなたの神，



テレビカメラマンとタバナクル合唱団指揮者ジェラルド・オトレー

主の声によく聞き従い，わたしが，きょう，命じるすべての戒めを守り行うならば，あなたの神，主はあなたを**地のもろもろの国民の上に**立たせられるであろう。」（申命28：1）

主が告げておられるように，主は古代イスラエルの民を「主の造られたすべての国民にまさるもの」にしようとされた。「あなたは主が言われたように，あなたの神，主の聖なる民となるであろう。」（申命26：19）

主は彼らに自由と繁栄を約束し，また他の民を悩ましている疫病から免れることができると言われた。さらに，彼らの地には戦いが起こらず，これから先も敵から戦いをしかけられることはないであろうと約束された。

「主はあなたをかしらとならせ，尾とはならせられないであろう。あなたはただ栄えて衰えることはないであろう。きょう，わたしが命じるあなたの神，主の戒めに聞き従って，これを守り行うならば，あなたは必ずこのようになるでしょう。」（申命28：13。レビ26参照）

逆に言えば，主に従うことを拒むなら，主はイスラエルの民から祝福を取り上げ，罰を与えて最も小さい民にすると言っておられる。すなわち，彼らは頭でなく，尾になり，しかも，繁栄することなく，ついには世界に散らされるのである。

イスラエルの民はどうなっただろうか。イスラエルの民は周囲の国々を眺め，彼らをうらやみ，彼らのようになりたいと思った。彼らが邪悪で，偶像を崇拝していたことは知っていたが，彼らにはどことなく人を引きつけるものがあると感じていたようである。イスラエルの民は利己主義と高慢のために目が曇り，彼らのようになろうと躍起になった。こうして彼らは，他の国々の民と同じように，破滅への道をたどり，彼らを偉大な民とするために神が与えられた数々の原則を捨てたのである。彼らはこのようにして祝福にあずかる機会を失い，不従順のもたらす苦汁をなめた。これは，歴史の流れを変えるほどのきわめて重大な損失である。

同じことが古代アメリカについても言える。西半球にはふたつの民が住んでいた。ふたつの民は古代イスラエルの民に与えられたと同じ戒めを受けていた。そして，この地で繁栄するためには，この地の神すなわちイエス・キリストに仕えなければならない，さもなければこの地から一掃されるであろう，と言われていた。

しかし，どちらの民も，この戒めを守り抜くだけの信仰がなかった。そして，イスラエルの民に与えられたと同じ機会すなわち地上で偉大な民になるという祝福を放棄してしまった。双方とも罪に陥り，滅びてしまったのである。

リンカーンは何と言っていただろうか。「神の支配する力を信頼すること……は国民と同様国家の義務でもある。」

そのほかに何と言っていただろうか。「主を神とする民のみが祝福される。」

この原則は古代イスラエルの時代，またジェレドの民，ニーファイの民にとって真実であったように，今日においても真実である。すなわち，**主を神とする民のみが祝福されるのである。**

しかし，リンカーンはこのほかにも数々のことを教えている。神の祝福は神を認める国民に限って与えられる。また同じく，主に仕える人のみが主の祝福を受けるとも言っている。

リンカーンの言葉を思い出していただきたい。神の支配する力を信頼し，へりくだり悲しむ心で自らの罪を告白し，愛と赦しを求めることは，国家と個人双方の義務である。

ほかにリンカーンは何と言っていただろうか。あたかも予言者のようにこう語っている。「私たちはこれまで，天の最高の恵みを受けてきた。……他のどの国にも劣らず，人口，富，力を増し加えてきた。しかしながら，**私た**

ちは神を忘れてしまっている。私たちに平和を与えて下さり，私たちの数を増し，富ませ，強めて下さった尊いみ手を忘れ去り，これらの恵みがすべて，自分たちのすぐれた知恵と徳によってもたらされたと，不実な心で考えている。……私たちはうぬぼれが強すぎて，贖いと守護の必要性を感じることができなくなってしまった。また，心が高ぶりすぎて，私たちを創造して下さった神に祈ることができなくなってしまっている。」（同上 p. 391）

リンカーンはさらにこう続けている。「感情を害された神のみ前にあって自らを低くし，自分の罪を告白し，慈悲と赦しを求めて祈ること，私たちにはこれらのことを行なう責任がある。」（同上）

リンカーンが言った事柄を行なう勇気が，私たちにはあるだろうか。

神は，この世が罪と堕落，高慢と無礼，利己主義とどん欲，欲望で満ちていることを御存知である。私たちはこのような世の中に住みたい。またこれらの悲惨な有様を耐え忍びたいと，本当に思っているのだろうか。人類は，清い生活のもたらす自由と喜びを求めず，不潔や邪悪を楽しむことが本当にできるのだろうか。

自由は義の中にのみ見出すことができるものである。不潔や邪悪がもたらすものは奴隷制度，堕落，死である。

救い主はあるとき，塩について語られた。また，ききめをなくした塩についても語っておられる。

すべての国家は個人の集まりで構成されている。従って，個人が邪悪であれば国家も邪悪なものとなり，また私たちが義なる民であれば国家も義なるものとなるのである。

義は各個人から始まらなければならない。一人一人が自分は周囲の人々に良い影響を及ぼす地の塩であることを認識しなければならない。特に，キリストに従う者はききめのある塩となる必要がある。

主の警告を思い起こしていただきたい。「もし塩のききめがなくなったら，何によってその味が取りもどされようか。もはや，なんの役にも立たず，ただ外に捨てられ，人々にふみつけられるだけである。」（マタイ 5：13）

リンカーンはこう言っている。「私たちが正しいことを行なわなければ，神は私たちを滅びるままに任せるであろう。」 まさしくその通りである。なぜなら，神は人を強制的に天に連れ戻そうとはされないからである。

しかしながら，主はリンカーンよりも力強く，不従順は主に対する侮辱であると，はっきり言っておられる。邪悪が放つかおりは，主の前にあって悪臭となるのである。

どのようなときに私たちは主に従う者が有すべき塩のききめを失うだろうか。主に仕えることをやめることによって，また従順でなくなることによってそれを失っている。

例えば，教会の集会に出席することをどうでもいいように考えるようになるとき，塩のききめを多少なりとも失っていると言えないだろうか。

祈り，什分の一と献金に心をとめないとき，私たちの塩のききめはどうなるだろうか。

キンボール大管長は一昨日，隣人に福音を伝えない者の塩のききめはどうなるかと私たちに尋ねられた。

私たちは神の聖なる安息日を守らずして，塩のききめを保てるだろうか。

私たちは不正直，不親切，あるいはねたみ深い者であるとき，私たちは神の感情を害してはいないだろうか。

貞操を失うとき，すなわち，金銭では買えない純潔の賜を失うとき，塩のききめはどうなるだろうか。神を愛してはいるが清さを保たないとき，不潔が清さをしのぐとき，不潔が主に侮辱を与えるとき，塩のききめは全く失われてしまうのではないだろうか。

家族の中で不義の罪を犯すとき，また残酷な行為に走るとき，私たちの塩のききめはどうだろうか。

教会の方針に反対したり，選ばれた指導者に反抗したりするとき，私たちの塩のききめはどうなるだろうか。不実の中に効力があるだろうか。

教会を去り，偽りの予言者の滅びに通じる教えを受け入れるとき，主の王国に自分の住む所を見出すことができるだろうか。ききめのある塩と言えるだろうか。

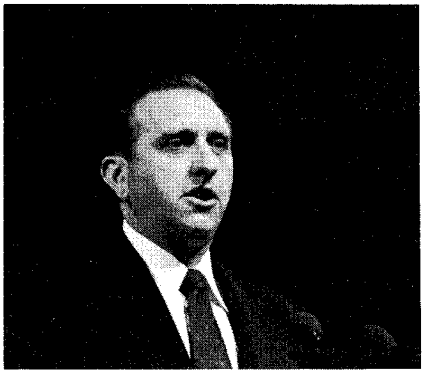
神の王国に自分の住む所を確保することについて，ヒーバー・J・グラント大管長は次のように語っている。

「私は，義務を怠り，教会にそむき，教会の敵となった人々を見てきた。それは教会でどのような職についているかに関係がない。」 彼らは神の戒めを守っていなかったからである。グラント大管長はこう続けている。「私が心から祈ることは，すべての男女が，自分の生活を設計するのはほかでもない自分自身であることを心に留めていただきたいということである。……私たちすべての心には，相反するふたつのものがある。そして，何かを行なおうとするときには必ず一方のものがこう言う。『ちょっと待て，おまえはこれをする必要はない。時間のむだだ。何か別なことをすべきだ。』

グラント大管長はさらに続けている。「他方，何が正しいかを私たちに告げてくれる小さな細い声がある。そして，この小さな細い声に耳を傾けるなら，福音にそって生活することができるよう，またそれを人々に勧めることができるよう私たちの強さと力，証と能力は増し加えられる。」（*Improvement Era*「インプルーブメントエラ」1937年12月号 p. 735）

リンカーンはこう言っている。「私たちの偉大で素晴らしい，慈悲深い造り主を信頼しようではないか。その御方はどのような窮地にあっても私たちに背を向けるようなことはなさらない。その御方はすずめが落ちるのも知っておられ，髪の毛の数さえも御存知である。また御自分に信頼を寄せている死者をも忘れてはおられないのである。」（「神の人，アブラハム・リンカーン」p. 334）

私たちの神，主を信頼し，主に従おうではないか。これこそが，国家にとっても個人にとっても安全な道である。これらを聖なるイエス・キリストのみ名によって証申し上げる。アーメン。



どちらの道を

十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

理性，選択の力，祈り，静かな細い声を聴く力――これらは神より賜わった特性であり，私たちの行く手を照らすものである

北部ユタの山岳地帯を抜けてグレートソルトレーク盆地に入り，カーブを描いて南下する黒いアスファルトの帯。インターステート15と呼ばれるフリーウェイである。工場や市場から出荷される品物，そしておびただしい数の人間が，このフリーウェイを通って目的地に運ばれる。

数日前，帰宅の折に車でこのインターステート15の入口にさしかかったときのことである。フリーウェイに入るランプのところに3人のヒッチハイカーがいた。それぞれ自分の行先を書いた紙を持っている。ひとりのには「ロサンゼルス」，もうひとりのには「ボイシ」と書いてあった。しかし，私はもうひとりのヒッチハイカーが持った紙を見てはっとした。そして，そこに書いてあった言葉がしばらく頭から離れなかった。彼が掲げた紙にはカリフォルニアのロサンゼルスともアイダホのボイシとも書かれていなかった。「どこでも」それだけだった。

ただで乗せてくれる気まぐれなドライバーの意のままに，どこへ行ってもかまわないというヒッチハイカー。このようなヒッチハイクに払う代価はいかに大きいことであろうか。計画も目標も行先もない旅。どこへも通じる道は終着点のない道であり，その道を行く者の夢は破れ，機会はむだに費やされ，その人生は何らなすところなく終わってしまう。

私たちはこの若いヒッチハイカーとは違う。あなた方も私も，どこへ行くかを選ぶ賜を神から与えられている。使徒パウロは，人生を決勝点のはっきりした競走にたとえた。コリント人にこう説いている。「あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は，みな走りはするが，賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも，賞を得るように走りなさい。」（Ⅰコリント9：24）しかし熱中するあまり，賢人の勧告を見過ごしにすることのないようにしよう。「必ずしも速い者が競走に勝つのではなく，強い者が戦いに勝つのでもない。」（伝道9：11）賞は，終りまで耐え忍ぶ者に与えられるのである。

私たち一人一人はこう自問する必要がある。「私はどこへ行こうとしているのだろうか。」「目的地にはどのような方法で到達するのか。」「神の子である私たちの真の行く末は何か。」

人生の競走について思いをはせたとき，私は別の競走を思い出した。話は子供の頃にさかのぼる。この頃の私の経験をお話することによって，先にあげた，だれもが抱く重大な疑問に対する答えを見出すことができると思われる。

10歳位だったろうか。私はよく友達とポケットナイフで柔らかい柳の木を削り，小さなおもちゃの舟を作って遊んだ。その不細工な舟に木綿の布で作った三角形の帆をつけ，プロボ川のやや流れの急な支流に浮かべて競走をする。小さな舟は急な流れに勢いよく上下したかと思うと，淵のところでは，ゆっくりと優雅に進んでいく。私たちは舟を追いかけながら岸辺を走った。

そうしたある日のこと，ゴールに向かって先頭を切って進んでいた舟が，突然大きな渦に近づいたかと思うと，とうとう渦の中に巻き込まれてしまった。舟はただぐるぐる回るばかりで，なかなか流れに戻れない。そのうち渦の端の浮遊物と共に，あの欲の深い緑藻の，手のような腺毛に捕えられ，全く動かなくなった。

私たちが作った舟には，舟を安定させるための竜骨もなければ進む方向を決めるためのかじもない。また動力もない。あのヒッチハイカーのように，行先は「どこでも」，ただ流れのままにどんどん下っていくばかりなのである。

私たちには神から賜わった特性があり，それが私たちを目的地に導いてくれる。私たちがこの地上に来たのは，人生の流れに漂うためではない。思考と理性と達成の力によって進むためである。

天父は，私たちを寄るべないままにこの永遠の道に旅立たせたわけではなかった。天父の導きを得る手段をお授け下さったのである。それによって私たちは，人生の偉大な競走の終りには無事に天父のもとに戻ることができる。そう，それは祈りである。心の中の静かな細い声のささやきである。また聖典も忘れてはならない。私たちはこれから人生の荒海を乗り越えなければならないが，聖典は，そうした海をすでに乗り越えた船乗りが書いたものである。

この人生の旅路にあって，要求されるのは個人の努力である。私たちにはどのような備えができるだろうか。航

海を安全なものとするためにはどうすればよいであろうか。

まず第一に，目標を心にはっきりと描く必要がある。目的は何か，ということである。予言者ジョセフ・スミスはこう勧告している。「私たちの存在の意図するところ，そして目標は幸福である。幸福に至る道を歩めば，最終的にはその目標に到達することができる。幸福に至る道とは，徳と高潔，忠実と神聖の道であり，神の戒めをことごとく守ることである。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」pp. 255－56）この言葉は，目標だけでなく方法をも教えている。

第二に，私たちは絶えず努力しなければならない。神のみこころが子供たちに表われた最も貴重な出来事の数々は，子供たちが何かしら目的を持って努力していたときに起こったことにお気づきだろうか。主はエマオに行く途中の弟子たちにみ姿を現わされた。よきサマリヤ人はエリコへ行くところであった。またニーファイはエルサレムへ戻るところであったし，父リーハイは貴き約束の地へ行く途中であった。カーセージへ赴くジョセフ・スミスや聖徒の安住の地へ向かって大平原を進むブリガム・ヤングも忘れてはならない。

第三に，私たちは定められた道からそれてはならない。私たちの行く手には，分かれ道もあれば曲がり角もある。信仰の試しや世の誘惑は避けられない。おごりに満ちた生活をして遠回りをすることは許されない。中には破滅と霊の死へ通じる道もあるからである。あらゆる面から私たちを脅かす道徳の流砂，罪の渦，そして「みたまの導きを受けていない思想」という急流を避けようではないか。ルシフェルと呼ばれる狡猾な笛吹きは，陽気なメロディーを奏でながら，神が定めたもうた安全な道から何の疑いも抱かせずに離れさせようとする。愛情に満ちた両親の勧告，私たちを守ってくれる神の教えから離れさせようとするのである。ルシフェルの笛は老獪で，その言葉は甘い。彼がねらうのは人間のくずではない。神に選ばれた者たちである。ダビデ王はその調べに耳を傾け，従い，そして堕落した。時をさかのぼればカインの例があるし，新約の時代ではイスカリオテのユダがそうである。

第四に，私たちは賞を得るために喜んで代価を支払わなければならない。見習い工は，数々の資格を得て初めて一人前の職工になる。弁護士も資格を得て一般に認められるまでは弁護士としての活動はできない。医師も同じである。インターンとしての生活を終えて初めて，私たちの要求に応じることができるのである。

やるか，やらぬか
彼方の目標にチャレンジするか，今のままで満足するか
決めるのは君だ
（エドガー・G・ゲスト『君だ』，*The Light of Faith*「信仰の光」p. 133）

考えてみていただきたい。迫害者サ

訪問者と握手を交わすキンボール大管長

ウロはどのようにして伝道者パウロになったのか。漁師シモンはどのようにしてみたまの力にあふれた使徒パウロとなったのか。そして，十字架があったればこそ復活祭を祝うことができるということを。

人生の競走の模範は，私たちの長兄である主に見ることができる。主はまだ子供の頃，次のような金言を残された。「わたしが父の家にいるはずのことをご存じなかったのですか。」（ルカ2：49） そして成長された後，憐みや愛，従順，犠牲，献身を模範によって教えられた。あなた方にとっても私にとっても，主の教えは同じである。「わたしについてきなさい。」

主の言葉に耳を傾け，それに従った人のひとりに，モルモンの宣教師，ランドール・エルズワースがいる。彼については新聞やテレビですでに御承知のことであろう。

6ヵ月前のこと，末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師としてグァテマラで伝道していた彼は大地震にあい，かろうじて命は取りとめたものの，落ちてきた梁（はり）の下敷きになり，両足がマヒし，その上腎臓の機能も著しく損なわれた。

応急処置の後，彼は両親の住むメリーランド州ロックビルの近くの大きな病院に運ばれた。私は幸いにも，病院で行なわれたインタビューをテレビで見ることができた。その一問一答はこうである。「歩けますか。」「いえ，まだ。でも歩けるようになります。」「伝道を完全に終えられると思いますか。」「ほかの人は無理だと考えるでしょうが，私はやります。」

ニュースキャスターはマイクを手にこう続けた。「大統領からお見舞いの手紙をいただいたそうですね。」「はい。フォード大統領のお心づかいには心から感謝しています。でも，私はもう一通の手紙を受け取りました。この国の長である大統領からではなく，私の教会，末日聖徒イエス・キリスト教会の長であるスペンサー・W・キンボール大管長からです。私はそれを大切にしています。大管長は私のために祈って下さっています。それに家族や友人，そして宣教師の同僚もみんな祈ってくれています。私はグァテマラに帰ります。主は私に，グァテマラの地で2年間伝道するように望んでおられます。私もそうしたいと思います。」

私は妻に向かってこう言った。「彼にはけががどの程度か知らされていないんじゃないかな。病院側の公式発表の限りでは，グァテマラへ帰るのはちょっと期待できないからね。」

信仰の時代，奇跡の時代が過去のものでなく，今も連綿として続いていることに何と感謝したらよいだろうか。

それから何日も，何週間も，そして何ヵ月も，新聞とテレビの目は彼を追い続けた。ランドール・エルズワースが置かれたこの状況を，ルドヤード・キプリングはこう歌っている。

騒動と人々の叫ぶ声は消え
首領や王たちが世を去っても
汝のいにしえの犠牲は今も生きる
それは，へりくだり悔いる心
天群の主はわれらと共にある
決してそれを，忘れてはならない
決してそれを，忘れてはならない
（*Rudyard Kipling's Verse*「ルドヤード・キプリングの詩」p. 327）

神はへりくだり悔いる心を持ったランドール・エルズワースをお忘れにはならなかった。足の感覚が，少しずつではあるが戻り始めたのである。ランドール・エルズワース長老自身の言葉を借りよう。「努めて忙しくしました。自分を忙しい状況に追い込んでいったのです。病院では，回復のための治療を日に2度受けられるようにお願いしました。とにかく，自分の力で歩きたかったのです。」

伝道委員会は，ランドール・エルズワースの目を見張るばかりの回復を評価し，グァテマラへの帰還を許可した。その知らせを受けた彼はこう語っている。「初めのうちは，あまりうれしくて何をしたらいいのかわかりませんでした。それから自分の寝室へ行って泣きました。そして，ひざまずいて天父に感謝の言葉を捧げました。」

2ヵ月前，ランドール・エルズワースは自分の足でタラップを昇り，機上の人となった。もちろん彼が伝道のために召された地，愛する人々のいる地へ戻るためである。この彼の帰還について，疑いの目をもって見る人も多かった。しかし数多くの人々が，神のみ力と信仰の奇跡，それに決意がもたらす報いに目を見張ったのである。彼の行く手には，正直で神を畏（おそ）れ，また同時に心から神を求める息子，娘たちが大勢待ち受けている。彼らは天父のみ言葉を聞くであろう。真理を知るであろう。儀式を受け入れるであろう。「肉にあるとげ」を克服したこの現代のパウロが，彼らに真理を教え，永遠の生命に導くために帰って行ったからである。

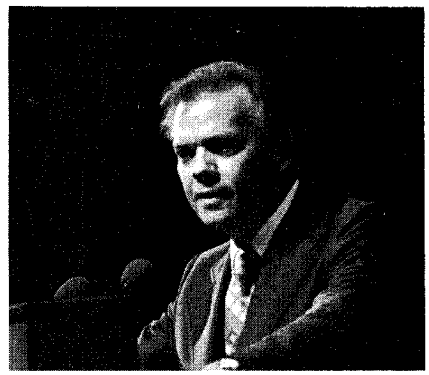
ランドール・エルズワースのように，私たち一人一人が自分がどこに行こうとしているかを知り，その目標に到達するのに必要な努力をたゆまず，しかも喜んで行ない，そして回り道をすることがないように。また人生の競走に勝利を収めるのだという信仰と決意を固く持ち，時には，それに伴う非常に大きな代価をいつでも支払えるよう備えておくことができるように。そのようにするならば，私たちはこの世の生涯の終りに，永遠の裁き主から次のような賞賛の言葉を得るであろう。「良い忠実な僕よ，よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」（マタイ25：21）

そのとき，私たちの旅路は終りを告げる。そこは「どこでも」かまわないといった漠然としたところではない。天の家，神の日の光栄の王国における永遠の生活が私たちの行き着くところなのである。

これを私たちの目標とすることにより報いが得られんことをイエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

小さな声に従いなさい

七十人第一定員会会長会
ポール・H・ダン



心の中ではいつも小さな声が語りかけているんだよ。そうしてその声は君に義務を果たすように勧めている。また君が罪から離れるように警告している

この大会を迎えるにあたって，私の心に浮かんだことがひとつある。心臓の切開手術から数ヵ月経た昨年12月のことであった。その月，私は手術を担当した医師のひとりから，彼と一緒に日曜学校のプログラムに参加するように求められた。私は彼に続いて説教壇の席に着いた。彼の説教は実に素晴らしいものであった。彼が席に戻ったとき，私は心に促されるものを感じてこう言った。「兄弟姉妹の皆さん，この方は文字通り私の心を動かしてくださいました」と。

私はキンボール大管長とふたりの副管長，十二使徒，その他の兄弟たちの偉大なメッセージに深く心を動かされた。ちょうど1週間前，私は恵まれてオレゴンでのステーキ部大会に出席する機会を得たが，この歴史的な総大会に臨んでそのときのことを思い出している。驚いたことに，そのとき会衆の中に偉大な信仰と能力の持ち主である私の最初の監督が出席しておられたのである。（私がその監督を知ったのは，ハリウッドに引っ越した15歳のときであった）身長は6フィート余り，200ポンドを越す堂々とした体軀の監督は，その体に似合った大きな心臓の持ち主で，私にとっては忘れられない人である。今でもそのときの監督の言葉が心から離れない。「いいかい，ポール。心の中ではいつも小さな声が語りかけているんだよ。そしてその声は君に義務を果たすように勧めている。また君が罪から離れるように警告している。そして一番不思議なことは，その声が音でもなく，ましてや言葉でもないのに聞こえるということだ。その声に従いなさい。」　私は先週も彼から，今でもその声に従っているかと尋ねられた。

「ポール，強い人は滝と同じで，いつも自分の進む道を切り開くのだよ。そのことを決して忘れないようにしなさい。」　私はこう教えてくれた賢明で立派な教師を今でも覚えている。また，父が「私はお前に立派な名前を授けた。良い名前は金の帯にも勝る。そのことを忘れないように」と言ってくれたことも覚えている。

私はすべての少年少女がその生涯において立派な父親，監督，教師を持つべきであると思う。多くの若者はそのような状態にあるが，そうでない若者もいる。私はこのような考えを持っている予言者や教会の指導者に感謝している。

私の人生にはもうひとり偉大な人物がいる。その人は，私の生涯に永遠にわたる大きな影響を与えてくれたコーチである。私は，宣教師の努力によって今，彼も私も共にイエス・キリストの福音をさらに完全に知るように努力していることをお伝えできて，本当にうれしく思っている。

ある野球チームに入ろうとして，彼の事務所を訪ねて行った日のことは今でも忘れない。当時まだ15歳だった私は恐ろしかった。入口の外で5分ほどぐずぐずしていたが，勇気を奮い起こすと，恐る恐るドアをノックした。「どうぞ」　私はドアを開け，中に入った。

「何か御用ですか。」

「はい。チーム加入の申込みはどこですればよいのでしょうか。」

「その前に，君にちょっと聞きたいことがあるのだが。君は野球をしたいかね。それともチャンピオンになりたいかね。」

「僕は野球をしたいんです。」

「そうか。残念だが今のところは一杯なんだ。」

期待していた答えが返ってこなかったので，私はがっかりして事務所を出た。廊下でしばらく考えた後（勇気をもって試してみるようにと教えてくれた父に感謝している），私は勇気を奮い起こしてもう一度ドアをノックした。「どうぞ」　同じように声がして，私は再び中に入って行った。

「おや，まだ何か用があるのかい？」

「はい，さっき僕がお尋ねしたことがわかってもらえてないのじゃないかと思って。僕は申込みをどこでするのかお聞きしたのです。」

「私も君に聞いたよ。野球をしたいか，それともチャンピオンになりたいか。」

私はそれまでの答えが通用しないことがわかったので，今度は「僕はチャンピオンになりたいです」と答えた。

「よろしい。ではここにサインして。」私は言われる通りにした。「私たちはチャンピオンを育てる。」　そう言うと，コーチは私の方を見て，君はこれまで契約書に署名したことはあるかと尋ねた。

「いいえ，一度もありません。僕は

まだ15歳です。」

「ここの規定では，いろいろな原則を守ることを約束することになっているのだ。」

彼は一番下の引出しからタイプ済みの契約書を取り出した。それには，私たちがこの大会で耳にしてきた標準が記されていた。「これを家に持って帰って，両親と一緒に読みなさい。そしてこの条件に同意できるようだったら，署名をして，明日持って来るように。」 私はその通りにした。ともかくも私はチームの一員となったのである。

契約書の約束は，私が末日聖徒としてすでに守っていなければならないものであった。私たちはシーズン中連戦連勝で勝ち抜き，同じく連勝のライバルの高校と決勝試合で州の優勝を争うことになった。コーチは，試合を翌日に控えてグラウンドで練習をしていた私たちを，バッティング・ケージのところに集めた。そして二言，三言激励の言葉を述べると，ふいに私の前に立ってこう言った。「ああ，そうだ。あすの決勝戦は君が先発だ。」 私の心は激しく動揺した。コーチは試合に臨んでさらに注意を与え，それからチームの名二塁手の前に立った。皆さんもよくご存知の，後にシカゴ・ホワイト・ソックスに入団して長年活躍した選手である。コーチは彼を見ながらこう言った。「ジミー，君の指のそれはニコチンのしみじゃないか？」 ほかのみんなと同じように，ジミーは体を清く保つことを決意していたはずであった。ジミーは急いで手を引っ込め，きまり悪そうに「はい，そうです」と答えた。

コーチはチーム全員を前にして，ジミーに次のように言った。「君は私との契約書に署名した。そうだな」

「はい，署名しました」

「そして，君は契約を破った」

「はい，破りました」

「罰はわかっているだろうな」

「はい，わかっています」

「それではユニフォームを脱ぎなさい。除名だ」

コーチ，あすは決勝戦です，私はそう言いたかったが（ジミーの打率は3割8分5厘，失策はひとつもなかった），コーチは試合のことよりもジミー本人のことを考えていた。ジミーがユニフォームを脱いだ後も，コーチはいつもジミーと親しく交わった。

翌日は私の登板日だった。私はマウンドに立ち，アル・ヤリアンと相対した。ヤリアンは後に，莫大な契約金でニューヨーク・ヤンキースに入団した選手である。試合は延長戦に入って13回，その回に投球カウント1－0とした次の第2球をヤリアンに打たれてしまったのである。打球は二塁をゴロで襲った。いつもならジミーが守っているポジションである。ところが代わりの二塁手が硬くなってトンネルしてしまい，ボールは外野に抜けてしまった。こうして相手に労せずして得点を許し，結局私たちのチームは敗れたのである。久しく歳月を経た今，私は試合よりも原則の方がはるかに大切であることを教えてくれた偉大なコーチとの出会いに感謝している。

このような経験や立派な人々からいろいろなよい影響を受けたことをあれこれ思うとき，私は若人が教会指導者にきわめて頻繁に尋ねる「なぜ教会ではそんなに多くの集会を開くのか」という質問について考える。主はこの理由を知っておられ，予言者を通して若人の皆さんや私たちに答えておられる。「さて見よ，われ汝らに一つの誡命を与う。汝ら相集る時は，……互いに教え導くべし。」 その理由は，「汝らの行いてわが教会を導く方法を知らんため」である（教義と聖約43：8）。私はこの大会ならびに以前に行なわれた大会で，いかに行動するかを学び得たことに感謝している。「感謝を神に捧げん，予言者の導き」である。

あなた方の多くと同じように，私も末日聖徒でない人々の前に立つ機会がしばしばある。そのチャレンジは実に素晴らしいものである。少し前，私は末日聖徒でない運動家の大団体を前に小さな賞を与えられた。大会に先立ち，栄誉の殿堂入りした私の尊敬する人物が，演壇に立って話すことになっていた。彼は卓越したスポーツマンで，多くの人の尊敬を勝ち得ていたにもかかわらず，私は彼がみだりに主のみ名を用いるその言葉使いに憤慨してしまった。私はじっとすわったまま，このような状況のもとで，末日聖徒としてどう振る舞うべきか考えた。そして再び私の生涯に大きな影響を与えてくれた予言者の勧告を思い出した。手術を受けたときの経験に基づく助言であった。小さなストレッチャーを押して予言者を病室に運んでいた看護人が，エレベーターのドアとストレッチャーの間に手をはさまれ，無意識のうちに二言三言主のみ名をみだりに口にしたのである。予言者は肉体的には病気であったが，霊的にはきわめて元気であった。予言者は頭を起こすと，こう言われた。「どうかそのような言い方はおやめになって下さい。その方は私の一番の友人ですから。」

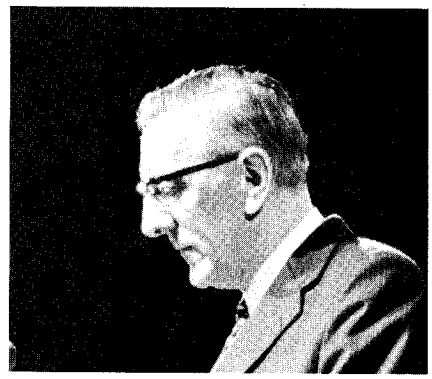
尊敬するそのスポーツ選手の話を聞きながら，私の心にも同じ思いがよぎった。彼が話し終えて席に戻ると，私は彼のひざに手を置いて言った。「ひどいですね。私があなたを理想にして育ったことは御存知だったでしょう？正直に申し上げて，今夜のあなたはあの像の品位を落としてしまいましたね。」

「私のワークショップがお気に召さなかったのですか。」

「いいえ，そうじゃありません。ワークショップはよかったです。ただ話をするたびに他の人々や私の気分を害してしまったのです。私は今夜，友人として言葉使いをきれいにされるようにお勧めします。」

私は使徒パウロやジョセフ・スミス，とりわけ現代の予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長のことを考えた。そしてそのとき，またそれ以後何度も，人々は私たちが心に思っていることを知りたがっているものだということがわかった。あとは，私たちにそのことを口に出して言う勇気があるかどうかである。偉大な人々の影響を受けて人格を磨き，勇気と決意をもって出て行くことができるよう，また世の人々の模範となれるように。神が生きておられ，イエスがキリストであり，そして今この場に予言者がおられることをイエス・キリストのみ名により証し申し上げる。アーメン。

人々の救い手



七十人第一定員会会員
ジェイコブ・ディエガー

今日の荒れ狂った世の海から人々を救い出すのは私たちである

兄弟姉妹ならびに友人の皆さん，再び皆さんと心をひとつにすることができて心から感謝している。また主の助けを得てお話ができるように願っている。

大会はいつでも実に素晴らしい経験である。「大会」という言葉はソルトレーク・シティーをはじめ，教会指導者の語る言葉をじかに聞いたり読んだりできるあらゆる地域を一変させてしまう，不思議な力を持った言葉のように思われる。

総大会は，直接この場にいて，また出版物や現今の驚異の通信機関を通じてその模様を耳にし目にするすべての人々の日常生活に大きな影響を及ぼす。総大会は予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の通り大いなる霊的高揚とこの地上に存在する主の真の教会の重要性を象徴するものである。

「シオンに集ることに就きては性急にこれを為すべからず。また逃げ走りてこれを為すべからず。ただ教会の長老たち，時々に受けたる知識により大会にて相議る所の如くこれを為すべきなり。」（教義と聖約58：56）

私がこの新しい職に召されたのは，ちょうど半年前のきょうであった。時間の都合上，そのとき以来私や私の家族が受けてきたたくさんの素晴らしい祝福についてこの場でお話することはできないが，東南アジアのフィリピン地域において責任を遂行する際，主の愛と恵みがあったことを皆さんの前で主に感謝したいと思う。

香港で生活し主のみ業に働くことは，私たち家族の大きな喜びであり幸せである。私は心からへりくだって申し上げたい。私はほかのどんな仕事よりも，また自分が過去に従事したどんな職業よりも，全時間を教会のために捧げる現在の務めが好きである。私は過去，いくつかの国で数多くの魅力ある職業に就き，また貴重なビジネス経験をしたこともあるが，教会の仕事や奉仕に匹敵するものはない。兄弟姉妹や同胞に仕えること以外に喜びや満足を得られるものはないことを証申し上げる。

私はまたこの壇上から，私の担当地域のステーキ部長や伝道部長，地元にあって彼らと共に熱心に働いている兄弟姉妹，ならびに宣教師の主のみ業に対する驚くべき忠実さと献身に感謝したいと思う。彼らを訪ねることは私に与えられた大きな特権であり，その機会を通して私は大いに霊感を受けた。私の信仰と証は彼らの素晴らしい模範によって強められたのである。彼らの教会の責任を果たすことに対する献身，忠実さ，意欲，伝道に対する熱意は，東南アジアの地に天父の王国を築くための実に貴い捧げ物である。時と場所を問わず，大管長会が昨年全ステーキ部長，伝道部長に出した指示と指針に厳密に従い，彼らに私の教会での経験をお話することでお役に立つのであれば，これほどうれしいことはない。大管長会からの書簡には次のように記されていた。

「地域担当教会幹部は，担当地域にある教会各部門の代表者の仕事を相互調整し彼らの職務と責任に精通してその地域に生じた問題の解決にあたっていただきたい。」（大管長会から地域担当教会幹部への書簡，1975年9月3日付）

現在のところ，アジアにおいて教会を確立していくには，まだ解決しなければならない問題がいくつかある。なおその上，現時点で8つの伝道部に，回復された福音をまだ知らない天父の子供たちが2億3千万人いる。彼らは福音を受け入れ，聖霊の導きを得て改宗しなければならない。

「汝らはまた，わが選民を集むべき召を受けたり。そはわが選民はわが声を聞き，その心を頑固にせざればなり。」（教義と聖約29：7）

これら2億余の民を天父の王国に招き入れることは，恐ろしく大きな仕事である。しかし私は，教会に改宗した兄弟姉妹についての素晴らしい証を何度となく耳にしてきた。皆さんに申し上げたい。「だれを救うかはだれにもわからない」と。

きょうの話を始めるにあたり，故国オランダの私の先祖が6代にわたって住んだ海辺の小さな村スヘベニンゲンのことを振り返ってみたい。私の先祖は漁師で，ほかに漁船の建造や縫帆，漁網の修繕のような漁業関係の仕事をしていた。彼らの多くはまた，水難救助という危険な仕事に自発的に加わっていた。彼らは勇敢で経験豊かな人々で，いつでも救助艇をこぎ出して水難救助にあたる準備ができていた。強い西風が吹くたびに何隻かの漁船が遭難し，漁師たちが船の索具にしがみつい

て必死で死と闘わねばならないことも多々あった。来る年も来る年も，海難事故による犠牲者は跡を絶たなかった。

あるとき猛烈な嵐で漁船が遭難し，一双のこぎ舟が船員の救助に向かった。猛り狂った山のように押し寄せる波。不気味な夜の暗闇の中，激しい暴風雨をついて船員たちの救助に向かう男たちは，一人一人しっかりとオールを握り，全力をふりしぼってこぎ出さねばならなかった。

難波した船までは無事たどり着いた。しかし救助艇は小さく，一度に全部の船員を救助することができなかった。そしてやむなく，ひとり甲板に残ることになった。救助の船が転覆する恐れが十分にあったからである。救助にあたった男たちが波止場に帰って来たとき，何百人という人々が嵐の夜の中，松明を手に彼らを待っていた。しかし再び救助に引き返すことはできなかった。彼らはすさまじい風と雨と波との闘いで疲れ切っていたのである。

そこで地元沿岸警備隊の隊長は2回目の救助に向かう志願者を募った。そのときちゅうちょしないですぐに申し出た人々の中に，ハンスという名の19歳の若者がいた。油布服を着たハンスは，母親と一緒にずっと救助作業を見守っていたのであった。ハンスが志願して出ると，母親はあわてふためいた。「ハンス，行かないでおくれ。お前のお父さんはお前が4歳のとき海で死んだし，お前の兄さんのペテもこの3ヵ月行方不明になったままなのに。母さんにはお前しかいないのだよ。」

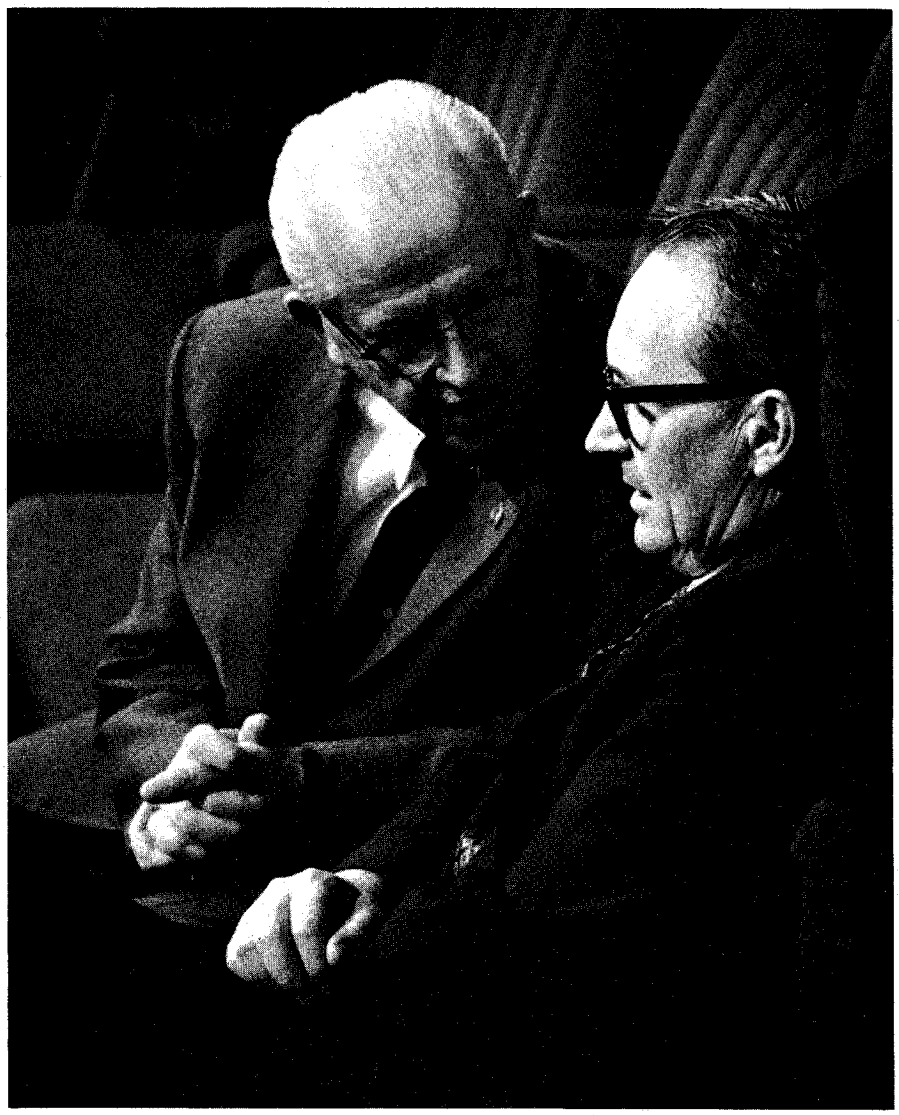
しかしハンスは答えた。「お母さん，僕は行かなきゃならない。これは僕の義務なんだよ。」母親は泣きながら，いても立ってもいられない様子で海辺を歩き始めた。ハンスは舟に乗り込み，オールを手にすると，夜の闇に消えていった。

1時間以上にわたる荒海との死闘が終わって（ハンスの母親にはいつ終わるとも知れない長い時間であった），再び夜の海に舟の姿が見えた。舟が次第次第に海岸に近づいて来る。沿岸警備隊の隊長は声が届く距離にまで舟が近づくと，両の手を口に当てて，力いっぱい嵐に向かって叫んだ。「残るひとりは救助できたか？」

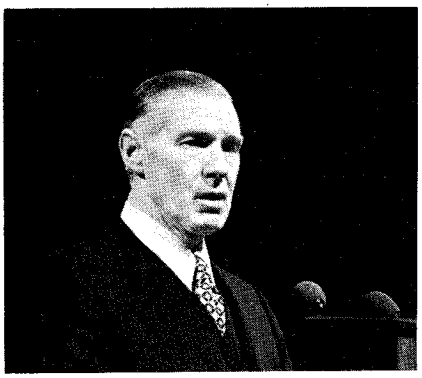
そのとき，松明で海を照らしていた人々は舟のベンチから立ち上がるハンスの姿を見た。ハンスは力一杯叫んだ。「救助しました！それから，ペテ兄さんも見つけたと母に伝えて下さい！」

兄弟姉妹の皆さん，私たちの中には現在19歳になる息子を持っている方もいれば，やがてそうなるという方も多くおられると思う。ジョージ，ジュアン・ペドロ，ギョーム，ハインリッヒ，パーホ，シン・トン，国によって名前は違っても，ハンスを彼らの模範としていただきたい。彼らを宣教師という救助チームに参加させていただきたい。彼らがだれを救うかは，皆さんにはわからないのである。人生の荒波にもまれている人かも知れないし，人生の海で行方不明になったと報告されていた人かも知れない。人が彼らの伝道活動を通じて救われたならば，御父の王国において彼と共に彼らの喜びはどんなに大きいことであろう。

兄弟姉妹の皆さん，私は主が私たちに雄々しさを与えて下さるように祈っている。つまり，私たち一人一人が勇気をもって救助活動に従事し，人々に福音を伝え，人々の生活の中に聖霊の導きをもたらすということである。イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈り申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会長エズラ・タフト・ベンソン長老(左）と十二使徒評議員会会員L・トム・ペリー長老



救い主との個人的な関係

七十人最高評議員会会員
ジェームズ・E・ファウスト

日々の祈り，無私の奉仕，従順，救い主の属性について知ること，聖典の研究を通して救い主を知る

皆さん共々私は，S・デルワース・ヤング会長ならびに七十人最高評議員会の方々の偉大な働きに感謝している。私は彼らが働いていたと同じ評議員会で，また第一定員会で働くことを謹んでお引き受けする次第である。

南米から帰国して，200年前の革命を記念する掲示板や看板を見るのは，興味深いことであった。私たちには，革命がなく，より多くの啓示が与えられる世の中が必要であると思う。私の考えるところ，南米における最大の変化は，この教会と現在サンパウロに建築中の神殿から影響を受けたことによる霊的革命である。どのような影響を受けたかは，「聖徒たちをととのえて，……神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致」(エペソ4：12，13)を得るようにとエペソ人に宛てたパウロの勧告の中にすべて言い尽くされている。

世の贖い主であり神の御子であるイエス・キリストを個人的に知るようになったことについてお話するにあたり，私は心からへりくだると共に内心畏れを感じている。

最近，南米でこのようなことがあった。よく訓練されたすぐれた宣教師のグループが，「世の中で一番必要なことは何か」と尋ねられたので，その中のひとりが賢明にも，世界中で一番必要なことは，すべての人が救い主との関係をもち，その関係を深め，また毎日，絶えず主と交わることであると答えたというのである。救い主とこのような関係を築くことにより，私たちの心の内には，神の子としての属性が今までの束縛から解き放たれて満ちあふれる。神と自分との神聖な関係について知識を得，その知識を自分のものとすること以上に，その人の生活に大きな変化をもたらすものはないのである。

私たちは主なるキリストを単に知ろうとするだけでなく，主が招かれたときに主とひとつとなり（ヨハネ17：21参照），「御霊により，力をもって……内なる人を強くして下さるように」（エペソ3：16）熱心に求めなければならない。私たちが主を身近な存在として感じられないのは，主を自分とは隔たりのある遠い存在として考えるからであり，また主と神性なつながりを保てないのは，主を感情，感覚，体を持ちたもう実在の御方としてとらえていないからである。

では，どのようにすれば主の神としての人を高める力を，一人一人が自分自身への祝福として得ることができるであろうか。私たちの感情というのは，他人が立ち入ることのできないものである。従って，まず「静かな確信」から出発しよう。これは私たちが心の内にしばしば感じるもので，しかも真実の声であると証を通して理解しているものである。こうした確信の真実性は，いつも他人に証明できるとは限らない。一種の認識という形をとって現われるからである。私たちの心に湧きあがるこのような確信は，もとをただせば神からのものではないだろうか。

また，心に湧きあがってくるものを知識として知りたいという強い気持はないであろうか。なぜならこの感情は非常に個人的なものであり，口では言い表わせないものだからである。主なるキリストは，このような内なる確信について，「そのことに就きて心安かれと告げ」ると言われた（教義と聖約6：23）。

ここで私は皆さんに，主と交わるための基本的かつ欠くことのできない基準を提案したいと思う。この5つの基準は，まことの泉である贖い主のもとから毎日「生ける水」が流れるよう，その水路を大きく開くものである。

1．祈ることにより毎日主と交わる。 熱心な真心からの祈りは一方的なものではない。だれもが直面する試練や困難，痛み，嘆きを軽くしてくれる癒しの水のように，主のみたまが豊かに注がれるであろう。では，どのような祈りを捧げるとき主は私たちの祈りを聞き届けて下さるであろうか。私たちは祈るとき，主を完全な知識と理解，愛と憐れみを持ちたもうた身近な存在，力の真髄として考え，また主が私たち一人一人に大きな期待をかけておられることを認識しなければならない。

2．毎日無私の奉仕をする。 キリストに従う者は，もったいぶった信仰の告白よりはその行ないによって測られるべきである。マタイ伝の中に真の基準がこう記されている。「これらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである。」（マタイ25：40）　ある賢人が次のような言葉を残している。「自分独りで自分のために生きている人間は，交わる仲間に汚されやすい。」（チャールズ・ヘン

リー・パークハースト *The International Dictionary of Thoughts*「世界思想事典」より引用）

3．毎日より従順になるよう，また完全に近づくよう努力する。「汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず」（IIIニーファイ27：27）と主は言われた。イエスの完き贖罪により義人は完全になることができるのである（教義と聖約76：69参照）。

4．日々主が神であることを知る。主なるキリストと日々個人的な関係を持つためには，キリストの弟子にならなければならない。聖典には，「人はどうしてまだ仕えたこともなく，見も知らず思いもかけない主人を知ることができようか」（モーサヤ5：13）とある。

5．毎日聖典を研究する。キンボール大管長は，次のように述べている。「私は主との関係に無頓着になったり，主の声が聞かれず，また自分の声も主の耳に届かなくなったようなときは，自分が主から遠く離れていることがわかる。しかし聖典に没頭すると，隔りは小さくなり，再び霊性を取り戻すことができる。」（"What I Hope You Will Teach my Grandchildren"『私の孫たちを教育して下さる方々に望むこと』セミナリー・インスティテュート関係者への説教より，1966年7月11日）

主に犠牲を捧げるアダムとイブ。デニス・スミス作（訪問者センター）

純粋な疑問を抱いておられる方々に，ナザレのイエスを目撃した人々がどう言わなければならなかったか申し上げたい。古代の使徒たちはその場にいた。そして一部始終を見ていた。また実際に経験を共にした。そういう点から，彼らの語ること以上に信じる価値をもったものはほかにない。ペテロは言っている。「わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを，あなたがたに知らせた時，わたしたちは，巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが，そのご威光の目撃者なのだからである。」（IIペテロ1：16）　またヨハネは，「自分自身で親しく聞いて，この人こそまことに世の救い主であることが，わかったからである」（ヨハネ4：42）と記し，近代の証し人ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンはこう断言している。「われらは，彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また，御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。」（教義と聖約76：23）

ペテロは，私たちが「神の性質にあずかる者」（IIペテロ1：4）であると勧告している。メシヤの影響力と教えは，人生におけるそれ以外の関心事を超越するはずである。私たちは常に永遠の富に向かって努力しなければならない。なぜなら，神の国は私たちのただ中にあるからである（ルカ17：21参照）。

教義と聖約によれば，神は私たちが求めるいかなることも聖霊によって私たちの知と情に告げられると約束しておられる（教義と聖約8：1－2参照）。

自らを聖くすることにより，「神その面を汝らに現わ」（教義と聖約88：68）し，「もし汝ら誠心誠意わが光栄を顕さんとすれば，汝らの全身光明に

充たされて汝らの中に暗黒なく，その光明に充ちたる体はすべての事を理解せん」（教義と聖約88：67）という日が来るであろう。

人生の様々な試練にあって，自分が捨てられたように感じたり，悲しみや罪，落胆，失敗，弱点のために自分が実際以上に小さく見えてしまうとき，私たちは神の恵みを通して，無条件の愛によって慰められるのを覚える。その慰めは赦し忘れ去る愛であり，人を高め人に恵みを与える愛である。高い段階への新しい始まりを支える愛であり，それによって絶えず「恩恵に恩恵」（教義と聖約93：13）を加えられるのである。

キンボール大管長は，次のように述べている。「真理に関する霊的な知識は，洞窟を照らす電気の光であり，霧を晴らす風や太陽である。……また沼地の丸太小屋に代わる丘の大邸宅，かまに代わる刈取り機である。……またとうもろこしの皮に代わる滋養分の多い実である。……真理に関する霊的知識は，他のいかなるものに勝って重要なものである。」（スペンサー・W・キンボール *Faith Precedes the Miracle*「奇跡に先駆ける信仰」p. 14）

これまでの生涯を通じて，また現在の召しにあって，特に最近の私自身にとってのゲッセマネの間，私はへりくだった心でひざまずき，唯一の方法である祈りによって主に助けを求めた。また，しばしば霊の苦しみにうめきながら，命よりも大切なこの職に感謝するようになれるようにと，熱心に神に願い求めた。これまで私は，心がうずくときやひどく苦しい状態のときの恐ろしい孤独，サタンにもてあそばれる経験を何度かしたが，最後には主のみたまの温かい慰めに包みこまれるのを感じた。

また，押しつぶされそうな重荷や自分はふさわしくない，価値がないという自己疑惑，見捨てられたというはかない気持を経験した後で，前の百倍もの大きな力を得たこともあった。また主と交わり，主から指示を受けようとして何度も霊のシナイ山に登ったことがある。それはまるで実際の変貌の山にやっとのことで登り，神のみ前において大いなる強さと力を感じたときのようであった。こうしたときに受けた一種の神聖な思いは私にとって励ましとなり，また親しい友となってくれることもしばしばだった。

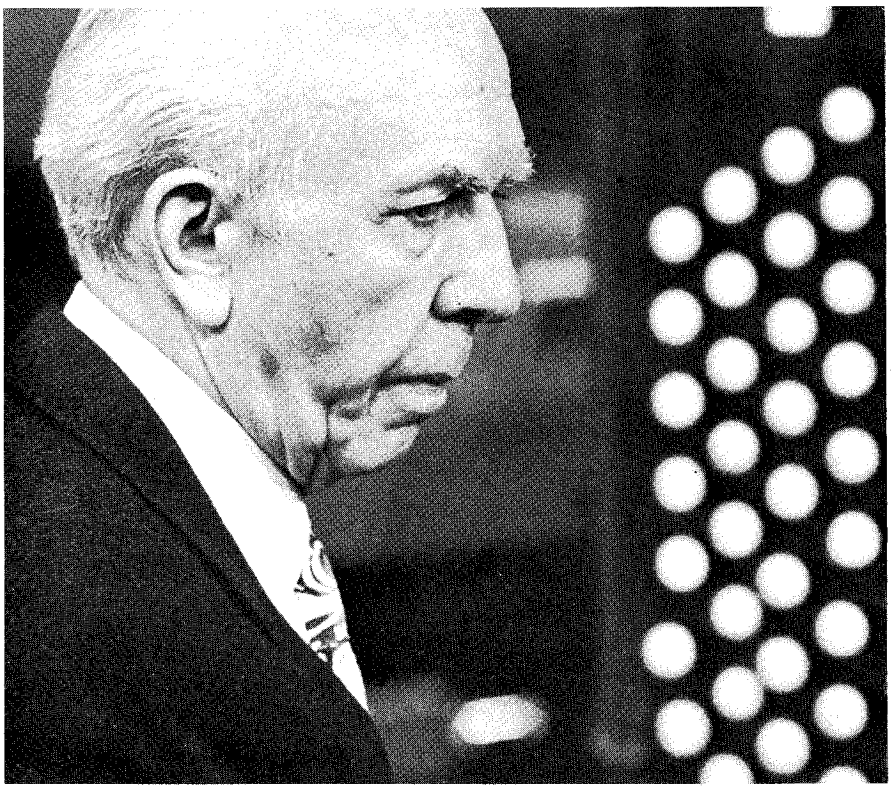
私たちは困難な時代に直面しているというのが私の証である。私たちは従順であることに雄々しくなければならない。私たちは将来，霊的持久力を試すように求められるであろう。なぜなら苦難と困難の時代が来るからである。しかし，救い主との個人的な関係に確かな慰めを得ているならば，静かな勇気を与えられるであろう。私たちは近くにおられる神から静かな確信を得るのである。

「わが子よ，汝心安かれ。汝の不幸汝の困苦はただこれ束の間なり。

然り而して，もし汝よくこれを耐え忍ばば，神は汝を高きに挙げたまわん。かくして，汝あらゆる敵に勝つことを得ん。」（教義と聖約121：7，8）

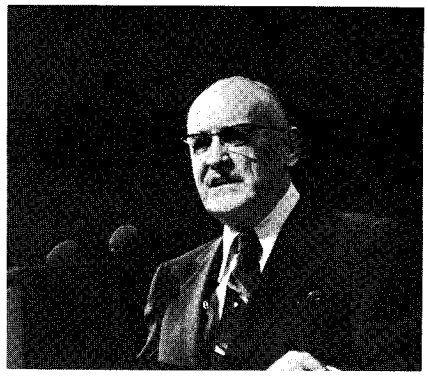
新しい召しを受けるにあたり，私は自分がごく平凡な人間であることを知ったが，ひとつの特別な賜に対して感謝している。私には，ナザレのイエスが私たちの救い主であるという確かな知識がある。また救い主が生きておられることを知っている。ごく幼いときから，私はそのことが確かであることを知っていた。これまで私はこの純粋な信仰を疑ったことがない。必ずしも理解していたわけではないが，それでも私はそれが私にとっては口に言い表わせないほど神聖なものであることも，知識によって知っていた。

私はイエスがキリストであり，メシヤ，贖い主，神の御子であることをはっきりと知っており，全身全霊をもって証し上げる。願わくは，「汝の救い主なるわれに来れ」（教義と聖約19：41）という主のみこころに従うことができるよう，聖なるイエス・キリストのみ名により，へりくだりお祈り申し上げる。アーメン。



アレクサンダー・シュライナー

親



七十人第一定員会会員
O・レスリー・ストーン

子供の養育に関心を払う家庭は幸福な家庭と言える

兄弟姉妹ならびに友人の皆さん，私はこれから子供を育てることに関する両親の責任についてお話したいと思う。

話を進めるにあたって，まずデビッド・O・マッケイ大管長の言葉を引用させていただきたい。マッケイ大管長は両親の責任について次のように言っている。

「『信頼されることは愛されることよりはるかに賞賛されることである』と言われている。男女を問わず，寄せられる信頼の中で最も偉大なものは，小さな子供の命を託されることである。

他の人の金銭を預かっている人が義務の履行を怠った場合，銀行員であれ公務員であれ，逮捕されて刑務所送りとなる。また，政府機密を委託されている人がその機密を漏らして自国を敵の手に渡した場合，その人は国賊と呼ばれる。

それでは，自己満足のための怠慢や勝手気ままな欲望のために子供を育てることを全く怠り，それによって人類に与えられてきた最も偉大な信頼に忠実でないことを証明する親を，主は何と思われるだろうか。」（*Treasures of Life*「人生の宝」p. 71）

マッケイ大管長は，義務を怠る親として次のような例を挙げている。

1．子供たちの前で言い争う親。

2．神を汚すような言動や下品な行為で家庭の雰囲気を汚す親。

3．家庭での日々の生活を教会の教えに合わせない親。

4．子供に従順を教えない親。

5．「子供の好きなようにさせよう」と言って子供に信仰を教えることを軽視する親。このような親は，親としての責任を果たしていない親である。(「人生の宝」pp. 72－74参照)

そして次に，このような質問と提案をしている。「親であるあなたは自分をどのようにして評価しているだろうか。あなた個人のたな卸しをして，自己に課せられた神聖な義務を果たしているかどうか調べなさい。」

教義と聖約の次の言葉は，子供に福音の原則を教える上での親の責任を明らかにするものである。

「……子供を有する両親あらば，その子供八才の時，悔改め，生ける神の子キリストの信仰，バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば，罪その両親の頭に留るべし。

およそシオン……に住める者の律法はかくの如し。」（教義と聖約68：25－26）

ここで注意しなければならないのは，この聖句は，罪が日曜学校や初等協会，セミナリー教師の頭にとどまるのではなく，両親の頭にとどまると言っている点である。

この件についての，A・セオドア・タトル長老の次の言葉は重要である。

「両親としての責任を顧みないことがあって良いはずではなく，また保育所や学校，まして教会へ両親の責任を転嫁することはできない。家族に対する責任は神の命令によるものである。両親はこの命令に背くとき，永遠の救いを捨てることになる。」(『祭壇，天幕，井戸』「聖徒の道」1973年8月号，p. 67)

このことから，できる限りのことをして子供に福音の知識と人生の真の目的を徐々に教え込むことが，すべての末日聖徒の親の神聖な義務であることがわかる。

言うまでもなく，そうするためには私たち自身が改宗しなければならない。子供に末日聖徒であるように望むのであれば，私たち自身が末日聖徒でなければならないのである。ヒュー・B・ブラウン長老はかつてこのように語った。「自分が心から信じていないことを効果的に教えられるはずはない。……生活と教えが矛盾してはならないのである。」（*Eternal Quest*「永遠の探求」pp. 179，181）

若い両親の方々は，自分の子供を主の道にそって正しく教えられるよう自らを備えていただきたい。子供たちに生ける神への信仰を教えなさい。また常に祈ることと，主から与えられた律法と戒めを守ることを教えなさい。

ブラウン長老は次のように述べている。

「現代は利己主義と欲望が渦巻き，産児制限が行なわれ，安易に離婚に走り，家庭の破壊や少年犯罪が激増している時代である。また低俗な娯楽や怠慢が横行する規律のない時代である。このような時代にあって，基本的に価値あるものを追求することと，国家の最も基本となる単位は家庭であり，母親は家庭という人格育成学校の最も重

要な教授であるということに注意を集めるのは，よいことである。」（*Vision and Valor*「識見と勇気」p. 24）

私たちが正しいことや善いこと，思いやりを学ぶのは家庭においてである。家庭は最初の学校であり最初の教会なのである。子供が大人に成長したとき幸福な義しい生活が送れるように備えるには，子供のうちに強め養うのが最も良い方法である。この最も大切な預りものである子供を正しく育てるということが，両親の最大の関心事となっている家庭は幸福な家庭と言えよう。

両親には食物や住居，生活必需品をあてがう責任と等しく，すべての面で子供たちに正しい模範を示す責任がある。

覚えていただきたいのは，家庭にあって親は子供たちの振舞い，習慣，考え，信仰に影響を及ぼすということである。生活態度というものはほとんど人生の初期に確立され，年をとってからそれを変えることは非常に困難であり，容易なことではない。

子供を育てる両親への大切なメッセージが，ナオミ・ランドール姉妹作の「わたしは神の子」に歌われている。私は，この歌は教会の数多くの歌の中でも最も素晴らしいもののひとつではないかと思う。子供日曜学校を訪問して世界中の子供たちから聞くのがこの歌である。次に，この歌の歌詞を引用してみたい。

1．神の子です
　わたしやあなた
　いろんなおめぐみ
　かんしゃします

2．神の子です
　わたしやあなた
　みことば正しく
　わかるように

3．神の子です
　わたしやあなた
　みこころおこない
　また天に住む

※　わたしをたすけて
　みちびいて
　いつかみもとへ
　ゆけるように
　※は1，2，3繰り返し
「子供の歌」B－76

テンプルスクエアのガイドと語り合う訪問者

ところで，子供は成長するにつれて次第に他に依存しなくなる。十代の子供は時々，大きくなったので親からの世話は必要ないという感情にかられるが，そのときこそ以前にも増して親を必要としているときなのである。

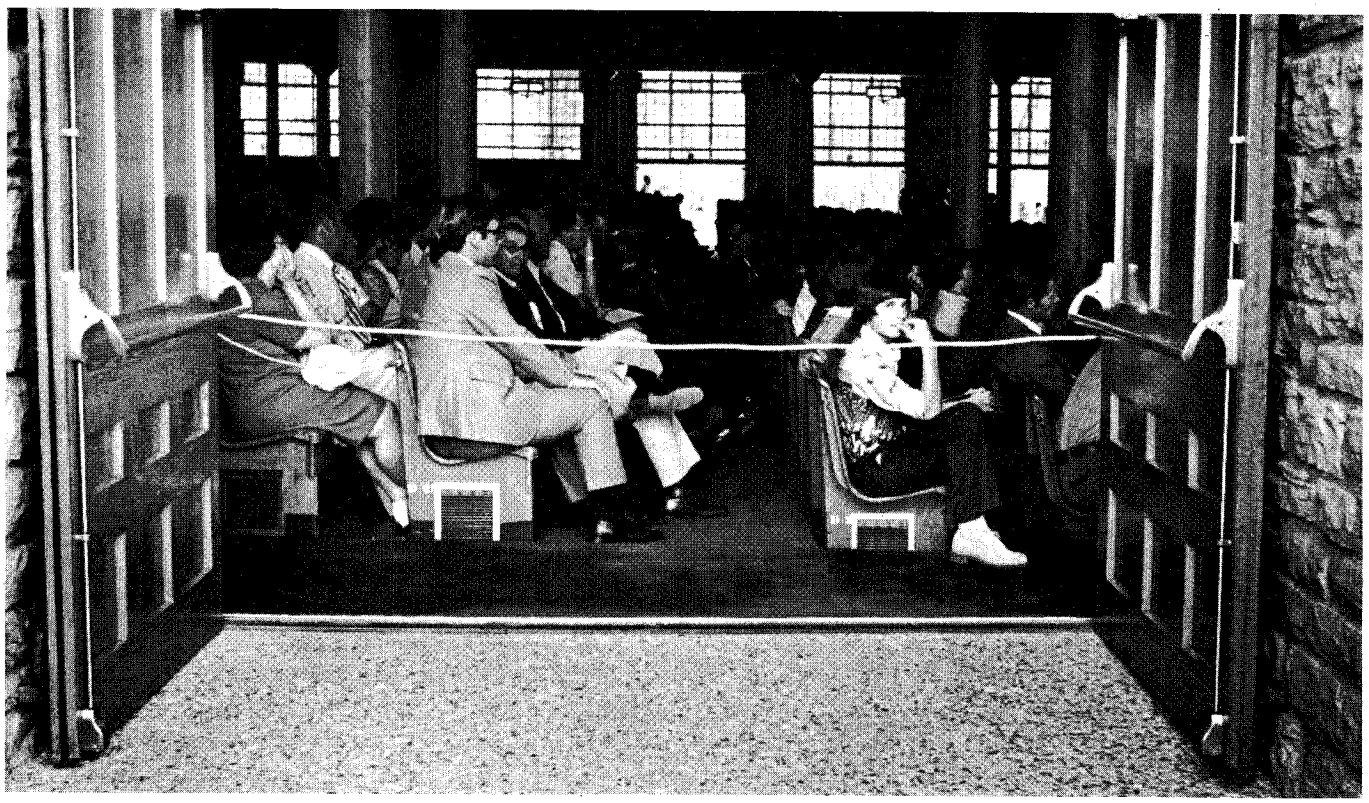
今日，教会の若人は重大なチャレンジに直面している。彼らは何を最も必要としているだろうか。

彼らは確かな知識と分別のある理解，導く手を必要としている。また清潔で落ち着いた本物の家庭を必要としている。彼らは真に父親たる父親，真実の意味での母親たる母親を必要としている。単なる先輩や家主以上のものを求めているのである。若人には，親として当然払うべき関心を払い，家庭を第一にし，子供を救うことと，行く手に起こる様々な誘惑の風に揺らぐことのないように子供たち自身とその考えを教育することが，親としての基本的な最も大切な義務であると考えている，愛に満ちた理解のある両親が必要なのである。

現代の若人は何でも知りたがっており，真理を渇望している。彼らは，親である私たちが彼らの疑問に正直な納得のいく解答を与えてくれることを求めている。従って教師と教師から教わる真理が矛盾したものとならないように私たちの生活そのものが言行一致の精神で貫かれていなければならない。

ダニエル・ウェブスターはかつて次のように言った。

「大理石に刻むなら，やがて崩れてしまう。真鍮に刻むなら，時がそれをぬぐってしまう。また神殿を建てても，



いつか崩壊してちりに帰してしまう。しかし，ひたすら神を恐れる心と同胞への愛をもって人の不滅の心に働きかけ，高潔な教えを吹きこめば，永遠に光り輝く何ものかを人の心に刻むことになるのである。」（バートン・スティーブンソン *The Home Book of Quotations*「引用集」p. 1312）

ストーン姉妹と私には現在16人の孫がいるが，私たち夫婦にとって彼ら以上にかわいいものはない。私たちは彼らを正しく育てるために彼らの親が努力を払っていることを最も感謝している。

若人の皆さんに申し上げたい。両親と親しくしていただきたい。そして義に向かって歩めるように助けていただきなさい。

現世の最も大いなる祝福は，主の戒めを守ってはじめて得られるものである。また，約束されている祝福はこの世だけでなく，永遠のものである。

今日の私たちの予言者であり指導者であるスペンサー・W・キンボール大管長は，神の戒めを守ることは幸福な生活を送る上での代価であると述べている。

両親である皆さんの中で，裁きの日にあなたは親としての務めを果たさなかったと言われたい人がいるだろうか。あなたの生活は主から託された子供たちにとって悪い模範だったので，主の僕に値しない者であると言われたいだろうか。

主から与えられた勧告を次のように言い換えてみるとよくわかる。「あなたがたの光を子供たちの前に輝かし，そして，子供たちがあなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ5：16参照）

両親も子供も共に福音に従って生活するならば，教義と聖約に記されている次の大いなる祝福を受けるにふさわしい者となることができるであろう。「もしわが誡命を守り終りまで忍ぶならば永遠の生命を得ん。これ神のあらゆる賜の中最大なるものなり。」（教義と聖約14：7）

何という素晴らしい約束であろう。戒めを守り終りまで耐え忍ぶならば，永遠の生命は私たちのものとなるのである。主が御自分の約束を違えられることは決してない。教義と聖約の中で主が述べておられる言葉を思い起こしていただきたい。

「汝らわが言うところを行わば，主なるわれこれに対して責任あり，されど，汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」（教義と聖約82：10）

皆さん一人一人がふさわしい生活を送り，この約束すなわち永遠の生命を自分自身と自分の家族のものとすることができるように。正しい生活をするならば，この素晴らしい祝福は私たちの手の届くところにある。主イエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。

☆　　☆

聖典を調べなさい

七十人第一定員会会員
ヘンリー・D・テイラー

毎日，聖典の研究をすることにより証を強め，永遠の生命への道を歩む

救い主はこの地上で教えと恵みを施されていたとき，人々に次のように勧告された。「聖典を調べなさい。あなたがたは，聖書の中に永遠の命があると思って調べているが，この聖書は，わたしについてあかしをするものである。」（欽定訳ヨハネ5：39）

私たちは聖典をどのように考えているだろうか。ひとりの熱心な研究家は次のように説いている。「話されたものであっても書かれたものであっても，聖霊の力によって神から人へ伝えられたメッセージは聖典の言葉となる。これが筆記され，教会により受け入れられると，標準聖典の一部となり，それより後は，読む人または研究する人に利益をもたらさずにはおかないものとなるのである。」（ブルース・R・マッコンキー *Mormon Doctrine*「モルモンの教義」p. 682）

キンボール大管長は，私たちが聖典を研究するように強く述べておられる。「今年は聖典を読み，よく理解して，聖典に述べられている原則と霊感あふれる勧告を自らの生活に取り入れるようにしていただきたい。そのようにするならば，正しい行ないにより，必要なときに個人的な啓示や霊感を受けることができるだろう。」（『改宗者の教会』「聖徒の道」1976年6月号，p. 249）

リー大管長も毎日聖典を読むように勧告している。リー大管長は，証を強め養うことの必要性を次のように教えている。「毎日聖典を読んでいないと，証は次第に弱くなり，霊性は下がってしまう。」（ハロルド・B・リー，十二使徒会地区代表セミナーより，1970年12月12日）

ジョセフ・スミスは若くして，熱心な聖典の研究者であった。教会本部ビルの一室には，寝室で聖書を手に椅子に腰かけているジョセフを描いた絵が飾られている。ジョセフがヤコブ書の一節を読んだのはそのようなときであったにちがいない。その聖句は，脳裏から離れなかった重大な疑問を解決する上で導きを与えるものとなった。私たちのよく知っている聖句である。「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に，願い求めるがよい。」（ヤコブ1：5）ジョセフ・スミスは一大決心をしてこの勧めに従った。父親の農場にある森の中に人目を避けて入り込むと，彼はひざまずいて熱烈な祈りを捧げた。そして，天父と復活された主であり救い主，イエス・キリストである御子の突然の訪れを受けたのであった。この劇的な訪れは，この神権時代にジョセフ・スミスが受けた最初の示現である。

日々の生活において大切なのは，聖典の知識を得，それを活用することである。あるすぐれた教会の教育者は，数十年前，「聖典は，永遠の生命に導く標識である」と教えている。（ジョージ・H・ブリムホール *Long and Short Range Arrows*「ふたつの矢」ブリガム・ヤング大学出版部，1934年，p. 189）

末日聖徒は，聖書（新旧約），モルモン経，教義と聖約，高価なる真珠，大管長会の公式声明を教会の標準聖典として受け入れている。

まず聖書に関して言えば，聖書は旧約39書，新約27書の合計66書から成るものではなく，ひとつの書であるという誤った考えがある。聖書を構成する書の数は非常に多く，それらはモーセからヨセフに至る約2,500年間の長い期間に及ぶものである。また多くの著者によって書き記されている。従って資料は非常な多様性を持ったものと言える。旧約聖書の最初の五書はヘブル民族の初期の記録であり，ヨセフスその他の著述家によればモーセが記したものであるとされている。これらの書は「モーセの五書」と呼ばれる。（B・H・ロバーツ，The Seventy's Course in Theology『七十人のための神学講座』参照，「デゼレト ニューズ」1907年1：23より掲載）

モルモン経は御承知の通り，天使モロナイが保管していた金版からジョセフ・スミスが翻訳したものである。モルモン経は，主とアメリカ大陸の古代住民との物心両面での交わりを描いた記録であり，その中には，復活された主である救い主イエス・キリストが人々を訪れたもうたときの美しい光景も記されている。そこは私たちにも最も霊感を与えてくれるところである。

教義と聖約は，予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示と彼の後の大管長会により追加された啓示から成っている。私が最近調べた版には次のように記されている。「旧版の『教義と聖約』には，『信仰篇』と題する講話がついているものもあったがこの版には入

れてない。この講話は千八百三十四から同三十五年の冬期間，オハイオ州カートランドで経営された長老たちのための学校に於て使う目的で作られたものである。しかし，これは神学上の講話または学課としてのほかには教会員に提供されてもいなかったし，また教会員から承認されてもいなかったものである。」（教義と聖約の解説より）

高価なる真珠には現在，ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示と翻訳と談話が記されている（タイトルページ参照）。初めに，8章から成るモーセの書があり，第1章は1830年6月に，第2章以降は1830年12月に啓示されたものである。次いでアブラハムの書。5章から成っている。これはアブラハムとエジプトに売られたヨセフによる記録である。アブラハムの書は2本のパピルスの巻物からジョセフ・スミスにより翻訳されたが，この巻物は1831年，フランスの有名な旅行家アントニオ・セボロによりエジプトの地下納骨堂で発見された4体のミイラと共に棺に納められていたものである。（*History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」2：348参照）

高価なる真珠の第3の書は，ジョセフ・スミスの著になるもので，主として彼の生涯の記録から抜粋したものである。次は予言者のジョン・ウエントワースへの書簡から抜粋した信仰箇条である。この書簡はニューハンプシャー州の歴史を記している友人に情報を提供したいというウエントワースに宛てたものである。（「教会歴史」4：535参照）

高価なる真珠には最近，新たに聖文が追加された。1976年4月の総大会でタナー副管長が発表された声明は以下の通りである。

「私はキンボール大管長から，皆さんの指示の挙手を必要とする非常に重要な事項を読むように要請された。1976年3月25日，ソルトレーク神殿において開かれた大管長会と十二使徒評議員会の集会で，次のふたつの啓示が高価なる真珠に付け加えられることが承認された。

第一は，1836年1月21日，オハイオ州カートランド神殿において，予言者ジョセフ・スミスに与えられた日の光栄の王国に関する示現である。これは福音の知識なくしてこの世を去った人々の救いに関するものである。

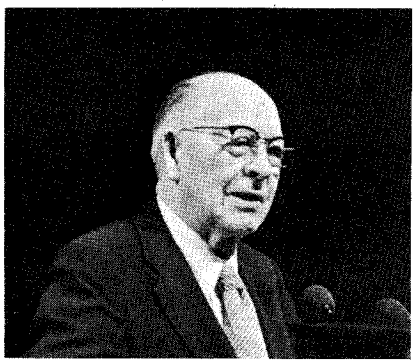
第二は，1918年10月3日，ユタ州ソルトレーク・シティーにおいてジョセフ・F・スミス大管長に与えられた示現である。これは，主イエス・キリストが霊界を訪れた次第を明らかにし，死者の贖いの教義を確立するものである。」（「聖徒の道」1976年8月号，p. 441）

昨日，私たちは教会幹部を支持する際，予言者，聖見者，啓示を受ける者として指名された方々を支持した。私たちは彼らが主から啓示を受けておられることを堅く信じている。リー大管長はこのように述べている。「今日，予言者の口から出る聖典の言葉は，山から湧き出る水が最も清いように，その源として最も清い。神の最も純粋な言葉は，すなわち最も汚れを知らない言葉は，この時代にあってイスラエルを導くように備えられた生ける予言者の口より出ずる言葉である。」（ハロルド・B・リー *Ye are the Light of the World*「あなたがたは世の光である」pp. 55－56）

私たちは聖典を研究し，その中に記されている真理について熟考する必要がある。なぜなら，聖典は私たちを永遠の生命に導く言葉だからである。

私は現在，霊感を受けた兄弟たちが教会を導いていることを証申し上げる。彼らの声に耳を傾け，彼らの教えに従うように，主イエス・キリストのみ名によりお祈り申し上げる。アーメン。

七十人第一定員会会員ウイリアム・R・ブラッドフォード長老（左）とジョージ・P・リー長老



キリストに対する純粋な信仰

十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ

人類はイエスの福音に手を加え，人間の考えを入れて不純なものとした

兄弟姉妹の皆さん，私はこの部会ならびに今大会のこれまでの部会を通じて最後に証を述べる機会をいただき，非常に光栄に思っている。なぜなら私は，この業が主の業であり，イエス・キリストが世の贖い主，主の教会の頭であり，ジョセフ・スミスが主の予言者であることを確かに知っているからである。ジョセフ・スミスは主の再臨への道を備えるため，末の日に主の王国をこの地上に確立した。

この夏の休暇中，私はちょっとした病いで数週間家に引きこもったままであった。しかしその機会を利用して，私は数冊の書物を読み，祝福師の祝福や大管長からいただいた祝福にも目を通した。それらの祝福は，伝道部長として二度任命されたとき，また管理監督として任命されたとき大管長からいただいたものであり，あとのひとつは24年前の4月，聖なる神殿において，副管長ならびに十二使徒定員会会員の助けを得て，デビッド・O・マッケイ大管長が私の頭に手を按き，私を主イエス・キリストの使徒に聖任して下さったときのものである。

祝福の中でマッケイ大管長は私に，私は主の証し人であり，主の聖なる使命と主の予言者ジョセフ・スミスの聖なる召し，回復された福音の真理について証を述べなければならないという責任を与えられた。そしてこの24年半の間，マッケイ大管長から私に託された責任に従順に応えるよう努めてこられたことは私の喜びである。私はこの責任を通して大きな喜びと幸福を味わってきた。

私は今，予言者ニーファイが語った言葉の意味をひしひしと感じている。ニーファイは「わが神は私の肉体が燃えんばかりに，私の中にその愛を満したまい」と記している（IIニーファイ4：21）。皆さんはこのニーファイのような経験をされたことがあるだろうか。みたまを感じて鳥肌が立ったようなことがあるだろうか。今，私はパウロの言葉について考えている。パウロは言った。「神の良きみ言葉と，きたるべき世の力とを味わった者たちが，そののち堕落した場合には，……ふたたび悔改めにたち帰ることはできない。」（ヘブル6：5－6）

さてパウロが述べているように，私たちは現世においても来たるべき世の力を味わうことができると私は思う。

私には多くの富める友人がいるが，彼らがその富で物を買って喜びの涙を流している姿を見たことは一度もない。しかし伝道地の証会で謙遜な人々が，また主の僕たちが神のみたまの力を受けて喜びに涙する光景は何度となく目にしてきた。これは事実である。

小さな田舎の町に住んでいた幼少の頃であった。私は日曜学校の教師がバプテスマのヨハネの言葉を教えてくれたことを覚えている。その言葉は，ヨハネが罪の赦しを受けるために水でバプテスマを施したときに言ったものであった。「わたしよりも力のあるかたが，おいでになる。わたしには，そのくつのひもを解く値うちもない。このかたは，聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。」（ルカ3：16）　子供の頃私はその火がどういう意味なのか見当もつかなかったが，長い年月を経た今ははっきりと理解している。私は自分が主のみたまの力を得て生来の能力以上に高められ，この福音が真実であることを多くの機会に証してきた。その証は私の存在そのものである。私はきょう，この場でその証を皆さんにお伝えしたい。

ここで使徒パウロの言葉について少し申し上げたいと思う。パウロは次のように述べている。「ただ恐れるのは，……あなたがたの思いが汚されて，キリストに対する純情と貞操とを失いはしないかということである。」（IIコリント11：3）　ここで私が全世界の皆さんに申し上げたいのは，人間の思いは汚されて，キリストに対する純情と貞操を失い，主の聖なるみ言葉によって啓示された純粋な真理よりも，人の戒めを戒めとして教えているということである。

次にイザヤの言葉を読んでみよう。「これは彼らが律法にそむき，儀式を変え，とこしえの契約を破ったからだ。それゆえ，のろいは地をのみつくし…。」（欽定訳イザヤ24：5－6）

また，コンスタンチヌス大帝が紀元325年にニケーアの宗教会議を召集したときのことについても考えてみたい。この会議で，召集された318名の監督は討議に4週間を費やし，神ならびにイエス・キリストの神性と個性について論じ合ったのである。考えてみてい

ただきたい。彼らの心は混乱し汚れていたのである。そうでなかったとしたら，彼らは聖典の純粋な教えに従っていたであろうし，その問題を決定するために4週間も討議を続ける必要はなかったであろう。福音が回復されたことにより，この純然たる真理が私たちと私たちが推し進めている偉大なみ業の中にあり，私たちの思いが汚されていないことを主に感謝するものである。

もうひとつお話し申し上げたいことがある。何十年か前にマサチューセッツ州で伝道していたときのこと，復活祭を間近にして，私はある退職した牧師とその牧師の家で話し合ったことがある。私はその牧師に，神会について彼の考えを聞かせてくれるように求めた。彼は，教会員が一般に抱いている神に対する気持と教会の教えについて語り，また自分は天父と御子と聖霊がひとりの神であり，しかもその神は骨肉の体を持ちたもう御方ではなく霊の御方であること，そしてこの地球にも，また木や花などの生命にもしみ渡っている力であることを信じていると話してくれた。

そこで私は聞いた。「それでは人々は何のために復活祭を祝っているのですか」

「キリストの復活を祝うためですよ」

私はもう一度尋ねた。「厳密に言ってそれはどういう意味ですか。石が転がされて主がよみがえられたとき，主の霊は主の体にもどってひとつになったのではありませんか。女たちが墓にやって来たとき，ふたりのみ使いがひとりはイエスの体を横たえてあった台の頭の方に，ひとりは足もとの方に座っていました。そして女たちにこう言ったのです。『あなたがたは，なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは，ここにおられない。よみがえられたのだ』と。（ルカ24：5－6） あなたは主が何度使徒たちの前にお現われになったかよく御存知のはずです。主は使徒たちに御自分の手と脇腹にある傷あとに触れさせ，こう言われました。『さわって見なさい。霊には肉や骨はないが，あなたがたが見るとおり，わたしにはあるのだ。』（ルカ24：39） それから魚とはちの巣を取って，使徒たちと共に食べられました。主は弟子たちと40日間過ごされた後，昇天されましたが，そのとき，白い衣を着たふたりの人が彼らのそばに立っていて，言いました。『ガリラヤの人たちよ，なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは，天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で，またおいでになるであろう。』」（使徒1：11）

それから私はこの牧師に，こう言った。「骨肉の体を持って天に上げられたキリストよりも霊のキリストを信じられるのは，一体どうしてなのですか。あなたは主が再びお亡くなりになったと，つまり復活の初穂になられたのではなくてただの霊の御方であると思っていらっしゃったのですか。主が復活の最初の実となられたのは事実であり，霊の復活ではないのです。」

牧師は少し考えた後，「これまでそのように考えたことはありませんでした」と言った。

ところで，モーセはこのような状態が広まることを知っていた。それは，モーセがイスラエルの民を約束の地に導いて行ったとき，民に向かって彼らはその所に長くとどまることはできず，国々に散らされるであろう，そして人が手で作った，見ることも，聞くことも，食べることも，かぐこともない木や石の神々に仕えるであろうと言っているからである。（申命4：28参照）今日のキリスト教界が信じている神は，まさしくこのような神ではないだろうか。モーセはずっと昔にこのような状態になることを知っていたが，ただそのままにはしておかなかった。モーセは，末日において（私たちはその末日に住んでいる）イスラエルの民が神を求めるなら必ずや見出すと言っている。そして現に，イスラエルの民は神を見出したのである。

キリストに関する不純な考えは，石で打ち殺されたステパノが見た光景と比べて何と異なっていることであろうか。ステパノは天を見つめているとき，イエスが神の右に立っておられるのを見たのである。イエスが骨肉の体を持っておられなかったとしたら，どうして神の右に立つことがおできになったであろう。また足がなかったならどうしてお立ちになることができたであろう。そこでこのステパノの示現とこの神権時代にジョセフ・スミスが受けた驚嘆すべき示現とを比較していただきたい。ジョセフ・スミスの証によれば，そのとき真昼の太陽にも増して輝く光が下りてきた。そしてその光のただ中にふたりの御方，御父と御子がおられた。御父は御子を指して「こはわが愛子なり，彼に聞け」と仰せになったのである（ジョセフ・スミス2：17）。

これがキリストに対する純粋な信仰である。世の人々が私の述べてきた純粋な事柄に従うなら，どうして神を超空間的な実在であると信じることができるだろうか。

イエスは八福の教えの中で何と言われただろうか。イエスは「心の清い人たちは，さいわいである。彼らは神を見るであろう」（マタイ5：8）と言われた。今日のキリスト教会の不純な考えに従って，神が超空間的なただの

順番を待って

霊の御方であるとするならば，彼らはどのような神を見るのであろうか。木や草や花を見るのだろうか。末日聖徒はそうではない。私たちは主が大いなる栄光と力をもって来臨される日を待ち望んでいる。神が超空間的な実在となり，主と御父が同一の存在となれるようにその肉体を捨てられたと考えるのは筋が通らない。

御父と御子が骨肉の体を持ちたもうた別々の御方であるという真理は，この末日に福音が回復されたことにより明らかにされた，偉大な真理のひとつである。私はそのことに対して証を持っている。イエスは生きておられ，この教会の頭であられる。パウロが言ったように，主の教会は「使徒たちや予言者たちという土台の上に建てられたものであって，キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」（エペソ2：20） 私はイエス・キリストがこの教会の頭であり，現在もこの教会を導いておられるという証を持っているので，分別のある人が，主が御父と共に現われたもうたときからこの教会が成し遂げてきた事柄を研究して，なぜそれが人間の業であると考えるのか私にはわからない。

これから予言者ジョセフ・スミスについてお話するにあたり，少し証をさせていただきたい。20数年前，ジョン・A・ウィッツォー兄弟がまだ健在だったとき，バレット・ホールで教義と聖約に関する一連の講義をされたことがあった。リチャーズ姉妹も私も共にその講義を聞いた。ウィッツォー兄弟はそこにイネッツ・ウィットベック姉妹を伴ってきていた。彼女は実に朗読の上手な姉妹であった。「ウィットベック姉妹，どこどこを読んで下さい」ウィッツォー兄弟はそう言って，頼んだものであった。そして立ち上がると，次のように言った。「では大学生の諸君，大学教授の皆さん，皆さんはこのような文章を書くことができますか。」そして「私にも書ければと思うのですが，残念ながらとてもできません」とつけ加えた。ウィッツォー兄弟はふたつの大学の学長を務め，世界各地で使用されているテキストを数多く記されたほどの方である。この教会は経済や産業，教育の分野に多くの偉大な指導者を送り出してきた。しかし，予言者ジョセフはほとんど学校教育を受けていなかったにもかかわらず，彼が貢献した事柄を試みようとした者はひとりもいなかった。

教会初期の頃，ジョセフ・スミスは大学教育を受けた多くの賢い人々に取り囲まれていた。彼らの中には，自分たちの方が予言者ジョセフよりも上手に啓示を書けるのではないかと思う者がいた。そこで主は彼らを試された。主は予言者に彼らの中で最も賢い人を選び，その人に主が予言者ジョセフを通して与えられたと同じ啓示を書かせるように言われた。そして彼が同じように書くことができるなら，主が予言者を通して与えられた啓示が真実であることを証しなくても何のとがめも受けないと言われたのであった。しかし予言者と同じ啓示を記せた者はだれもいなかった。私たちの指導者は現在も過去も才覚に長けているが，予言者ジョセフが貢献した域に近づくことのできる者はだれもいない。

世の贖い主のほかに，予言者ジョセフ・スミスほど多くの啓示された真理を与えられた者はこの地上にいないことを証申し上げる。教義と聖約を読み，研究して，それをジョセフ・スミスが書いたものであると考える人はだれもいないはずである。

教義と聖約第76章を例にとってこのことを説明しよう。聖書を読むとパウロは，（それがパウロ自身であるとは言っていないが）第三の天――第一と第二の天がなければ第三の天はあるはずがない――に引き上げられたキリストにあるひとりの人を知っていた。またこの人はパラダイスに引き上げられた。(私たちはそれよりも下級の場所があることも教えられている，)しかしパウロは自分が見たことを書くのを許されなかった。私たちがどのように生きるべきかということ，あるいはシル長老が述べられたように日，月，星の天に上げられる人々を主がどのように裁かれるかということについても記すことを許されなかった。(IIコリント12：2－4；Iコリント15：40－42参照)

しかしその啓示は取って置かれ，この神権時代の予言者に明らかにされた。教義と聖約第76章がそれである。この啓示を受けたとき，予言者はこう述べている。「それは永遠の世界の記録から写し取ったものである。」（*History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」1：252） 私たちの聖典の多くは，人類がこの地上に住まうずっと以前に記されたものである。私たちがキリストすなわち地の基が置かれる前に殺された子羊について読む理由はここにある。キリストは文字通り殺されただけでなく，主の偉大な永遠の計画の中にあって御自身を捧げられた。主はその命を犠牲にされることになっていたのである。

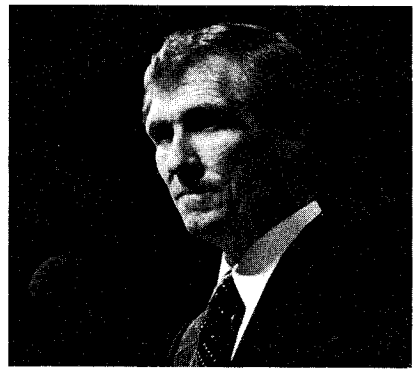
私は皆さん方一人一人の上に神の祝福があるように願っている。ジョセフ・スミスが私たちに与えてくれた教義と聖約や高価なる真珠，モルモン経，それに三人の見証者の驚嘆すべき証はほんの始まりにすぎない。小さな出発なのだ。分別のある人や真理を愛する人で見証者の証を読んでモルモン経が真実であるかどうかを知りたくないと思う人はいない。彼らは最後の部分に記されている約束の言葉を読むに違いない。そこには，モルモン経を読んでそれが真実なものかどうかをキリストのみ名によって信仰をもって永遠の父なる神に問うならば，神は聖霊の力によってその記録が確かなものであることを示したもうに違いないと記されている。（モロナイ10：4－5参照）

私はその言葉が神のみ言葉であることを証する。この教会は主の教会であり，やがて地を征するであろう。幹部の兄弟たちが各地で開いている大いなる地域大会を目にして，私は大勢の人々が，しかも群れをなしてこの教会に加わるのもそう遠い日のことではないと思わずにはいられない。なぜなら，それが永遠の昇栄への唯一の道だからである。

神の祝福が皆さん一人一人の上にあるように願いつつ，主イエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。

10月2日㈯　神権部会における説教

生ける予言者



七十人第一定員会会員
レックス・D・ピネガー

スペンサー・W・キンボール大管長の一挙一動は，その召しを証している

愛する兄弟の皆さん，私は新しい七十人第一定員会の兄弟たちと予言者を心から支持するものである。主は予言者を通じて，兄弟たちを新しい責任に召された。今宵私たちは，主の生ける予言者スペンサー・W・キンボール大管長から主のみ言葉を伺う。若い諸君は，予言者について何度か聞いたことがあろう。この4年間というもの，そのような予言者のおひとりと身近に接することのできる立場にあったということは，私にとって素晴らしい機会であった。今宵，私は，2，3の個人的な体験談をお話したいと思う。私はこれからお話する体験を通して，今日主イエス・キリストの予言者，聖見者，啓示を受ける者として働いておられるスペンサー・W・キンボール大管長の召しと使命が，正に神聖なものであるという確固たる証を得たのである。

私は，キンボール大管長が大管長になられたときにその場に同席する特権を得た。神権者たちが挙手をしてキンボール大管長を支持したとき，私の胸中には静かな確信があった。それは，これこそ正に天父のみこころであるという確信であった。

キンボール大管長は，予言者ジョセフ・スミスと同様，勇気ある行動の人である。またみたまに対する感受性が鋭く，み業に対しては実践の人である。私は大管長を，飛行機やバスの中，待合室，ホテル，それに教会堂でも見てきた。大管長はいついかなる場合でも，読書し，準備し，耳を傾け，説教と模範とによって教えておられるのである。大管長が，人々のためにイエス・キリストの福音を説くときに取る方法は，大管長独特の霊感あふれる，心暖まるものである。大管長は，忙し過ぎたり，疲れ過ぎたりして，個々の人々が必要としている事柄を見過ごしにするようなことは決してないように思われる。絶えず私たち一人一人を励まして，もっと高い，また秀でた生活へ導こうとしておられる。

最近，車椅子に乗ったひとりの青年が，相談があって私の事務所へ来た。彼は，自分の病気が不治の病であると通告されていた。そこで祝福を求め，死ぬ前に教会幹部に会いたいと思って来たのであった。レクター長老と私が彼と話していると，キンボール大管長が入って来られた。大管長は，この青年のことを小耳にはさむと，すぐに出かけて来て，彼としばしの時を過ごされたのである。大管長は人々のために時間を作って下さる方である。

また別の折，ヨーロッパでの地域大会からの帰途，ニューヨークで待合せの時間がかなりあった。キンボール大管長は，過酷な日程でかなり疲労していたにもかかわらず，ドイツ・ミュンヘン伝道部へ向かう途中の6人の宣教師を自分から訪ねて行かれた。大管長は彼らの家族について尋ね，また一人一人に伝道に赴く気持を尋ねられた。そして彼らに，伝道部で一番立派な宣教師になるよう諭された。また勤勉であり忠実であるよう励まし，そのように努力すれば必ず成功すると約束された。その宣教師たちの気持は非常に高められ，彼らは，雄々しく働こうと決心したのである。キンボール大管長は，人々を教化し，霊感を与えられる。

1975年に地域大会のためにアルゼンチンへ出かけたとき，キンボール大管長は，青少年の大聴衆に向かって説教された。大管長は話を始めて間もなく，用意しておいた原稿をわきに置くと，自分の体験談を話し始められた。そして彼らに「皆さんは，だれから自分の声をいただいたのですか」と尋ねてから，声帯の手術の際の体験を話された。大管長は，主がその声を保たせて下さったと説明された。また，その声は以前の声と同じものではなく，昔ほど歌を楽しく歌えることもなくなった。しかし確かに，声は出すことができると話された。大管長は，御自分の声がきれいな声ではないと言われたが，あの晩，そのことについて説教されたとき，実に美しい声をしておられたと申し上げておこう。大管長の説教の際，青少年たちは，通訳の言葉を聞く前にすでにその言葉を理解できたほどであった。大管長はそのとき，次のようにも言われた。「伝道に出ることは，什分の一を納めるようなものである。強制はされない。正しいことだからそうするのである。それが主の方法だから，伝道に出たいと思うのである。救い主は，『もしも都合がついたら行きなさい』とは言われなかった。『全世界に出て行って』（マルコ16：15）と言われたのである。」キンボール大管長はまた，若い男性がいつもふさわしい状態でい

神権部会

るよう助け，そして彼らを伝道に出るよう励ますのは，若い女性の責任であると言われた。

大管長は説教を閉じるにあたって，「皆さんの声は，福音を説くために主が与えて下さったのではないですか」と質問された。そして大管長は，御自分の声も私たちの声も皆，イエス・キリストの福音を説き，予言者ジョセフ・スミスに啓示された真理を証するためにあることを知ったと証された。キンボール大管長は，私たちに人生の正しい見方を教えて下さる。

私たちの愛する予言者は，私たちに，もっと良い宣教師になりなさい，歩みを早めなさいと説かれるだけでなく，その方法も示して下さる。1975年，妻と私はキンボール大管長御夫妻と一緒にコロンビアのボゴタへ出かけた。空港で出発を待っていると，航空会社の代表者が私たちに会いに来た。すると予言者は，その立派な青年の自己紹介を受けるとすぐに手を差し出して，「この次にあなたと握手するときには，あなたにぜひこの教会の会員でいて欲しいと思いますよ」と言われた。するとこの青年は，何のためらいもなく予言者の目をしっかりと見つめて，「はい，私もそう思いますよ」と答えたのである。大管長は伝道部長の方へ向き直ると，その青年に福音を教えるよう，伝道部長に約束をとらせた。ボゴタでキンボール大管長が宣教師たちに語られた言葉は，本当によい模範となるものであった。「全精力と思いを主のみ業にささげなさい。そうすれば，皆さんの生涯は豊かなものとなるでしょう。」その日私は，予言者の思いが，召しに伴う実務上の責任を果すということだけでなく，召しの精神に添った生活をすることに置かれていることがわかった。

私は，予言者の取られたこの伝道方法が極めて効果的であることに強く胸を打たれて，自分でもプエルトリコで試してみた。数週間の後，私は地方部大会に出席するために，プエルトリコのサンジュアンへ出かけた。午前の部が終わった後，マルチネスという兄弟が，非教会員の母親と妹たちを連れて私のところへやって来た。私が説教壇の手すりに寄りかかっていると，キンボール大管長の言葉が私の心の内で鳴り響くのが聞こえた。そして私はこう言った。「お母さん，この次にあなたと握手するときには，あなたにはぜひこの教会の会員でいて欲しいと思いますよ。」驚いたことに，そして喜ばしいことに，この婦人は即座に心から「はい，私もそう願っています」と答えてくれ

た。大会から5週間経って，マルチネス家族はバプテスマを受けた。その3週間後，父親も家族にならってバプテスマの水に入った。私は少なくとも6回こうした経験をした。私の人生は，キンボール大管長の示された模範に従うことにより，豊かなものとなっている。

この夏，妻と私は再度恵まれて，キンボール大管長夫妻や他の教会幹部やその奥さんたちと，スカンジナビアとヨーロッパの地域大会に同行する機会を得た。デンマークのコペンハーゲンでの最後の部会を終えると，私たちはそろって，円蓋聖堂という有名な大聖堂を訪れた。この巨大な建造物の中には，デンマーク最大の彫刻家バーテル・ソルバルセンの，最も愛されている作品であるクリスタス像と十二使徒像がおさめられてあった。キリストの堂々たる彫像は，礼拝堂の前の展示室の中で，祭壇をはるかに見下ろしてそびえていた。その両側には，礼拝堂の両壁に沿って，等身大の使徒像が置かれていた。裏切り者のイスカリオテのユダの代わりとして，パウロが入っていた。この素晴らしい芸術作品を眺めていた私たちは，ペテロが両手に大きな鍵を握っているのに気づいた。またヨハネは聖典を持っていた。他の使徒たちも，それぞれ自分を示す象徴を持っていた。それは，生計を立てた手段を示すものでもあったし，また殉教の様子を示すものでもあった。キンボール大管長は，これらの像を一つ一つじっと眺めておられた。

私たちが聖堂から出ようとすると，年の頃は60歳位であろうかと思われるデンマーク人の管理人が，出口近くで私たちの退出を待って立っていた。キンボール大管長は彼と握手すると，私たちに大聖堂の訪問を許可してくれた厚情に対して感謝の言葉を述べられた。それから大管長は，イエス・キリストによって設立された教会について，またその教会の重要性について説明を始められた。近くにいた人々は皆そこに集まり，予言者の教えに耳を傾け始めた。

大管長は簡潔な言葉で説明を始められた。確かこのような言葉であったと思う。「友人の皆さん，この彫像を作った人は，確かに主から霊感を受けていました。クリスタス像の美といい，荘厳さといい，正に素晴らしいものです。ソルバルセンがここデンマークで彼の仕事をしていた間，1821年から1844年にかけて，ジョセフ・スミスもアメリカで彼の業を行なっていました。ソルバルセンはジョセフ・スミスのように福音を知ってはいませんでしたが，みたまを受けていました。彼は，霊感を受けてこのようなキリスト像や使徒像を製作したに違いありません。彼はこの像に，生命を吹き込もうとしたのです。」

大管長は，御自分のまわりにタナー副管長，モンソン長老，パッカー長老を呼び寄せると，さらに話を続けられた。「私たちは，主イエス・キリストの生ける使徒です。十二使徒がいますし，他に3人の大管長会会員がいます。私たちは，ペテロ同様，本当の鍵を持っています。そして私たちは毎日その鍵を使っていますし，またいつでも使える状態にあります。」それから大管長は私を紹介すると，「この人が，本当の七十人です」と言われた。「救い主が十二使徒と七十人を召されたことを覚えておられるでしょう。救い主は，御自分の前に道を備えさせるため，出かけようとしたすべての町に，それに先立って七十人をふたりずつ送られたのです。私たちは皆さんに，イエス・キリストの真実の福音を教えることができます。」

予言者が自らの召しについて証するのを耳にし，生ける使徒の重要性をかくもありありと説明するのを聞くことができたということは，何と霊的な感動を呼び覚ますものであろうか。その像は確かに美しく，できばえも見事なものではあったが，所詮は大理石にすぎない。その像の表現している本当の神権指導者をただ，思い起させるものでしかないのである。しかし私たちは，主イエス・キリストの生ける予言者や使徒と共にいて，どれほど祝福された思いをしたことか。兄弟の皆さん，私たちは「大理石」以上の者でなければならない。私たちは予言者の指導に従い，キリストの「生ける模範」とならなければならない。私たちの周囲にいる人々に実際に救いのおとずれをもたらす者とならなければならないのである。

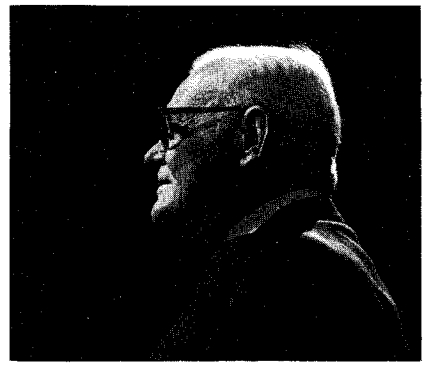
スペンサー・W・キンボールが主の予言者として神聖な召しを受けているという私の証は，支持の挙手をしたときに生まれたあの麗しい確信に比べ，はるかに大きくなった。大管長が個人と対するときも，群衆と対するときも，非公式の場でも，そしてまた教会員，非教会員と交わるときも，絶えず自ら模範を示しておられる姿を目にして，私は，大管長が一人一人に深い関心を寄せておられることを知ることができた。また，大管長の不屈の伝道精神，そして全精力と思いを主のみ業のためにささげるという固い決意を，理解し，感ずることができたのである。こうした模範を一つ一つ拝見するたびに，私の心の中には，ここに本当の神の予言者がおられるという証が湧き上がってくる。

皆さんに証申し上げる。イエスはキリストである。イエスは，この教会すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会の頭であって，生ける使徒を従えておられる。そしてその使徒の中でも頭として立つのがスペンサー・W・キンボール大管長である。確かにこの方は，神権の権威と権能の鍵を持っておられる。この権能こそ，救い主御自身がこの地上におられたときに用いられた権能なのである。

このことを考えてみていただきたい。主は私たちを非常に愛しておられるがゆえに，私たちを安全にみもとに導き戻すために地上にこれらの偉大な方々を置いて下さった。この方々をとくと眺めていただきたい。またその勧告に対して，心をとぎ澄まして敬虔に耳を傾けていただきたい。

皆さんも心の中に，聖書を通じて，私がこれら真理について持っている証を受け入れることができるように，イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

神の賜



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

嵐もなぎも私たちの義務を妨げることはできない

兄弟の皆さん，私は，今のパッカー兄弟の素晴らしいお話に心ゆくまで耳を傾けることができた。私も主のみたまを受け，みたまによって思うところを語り，皆さんの心に触れるお話ができるように願っている。

きょうの話の主題として，私はパウロが愛する子テモテに与えた訓告を選んだ。

「あなたに注意したい。わたしの按手によって内にいただいた神の賜物を，再び燃えたたせなさい。」（IIテモテ1：6） 私たちは皆，神権すなわち神の賜をいただいている。それは，然るべき神権と権能を持った人の「按手」によって授けられた。

これは，聖霊の賜の授与にも神権への聖任についても言えることであろう。とにかく私はある帰還宣教師の報告を聞いたとき，パウロの訓告を思い出したのである。

その宣教師の話によれば，彼と同僚が下宿していた家の奥さんは福音に興味があったが，御主人の方はそうではなかった。しかし御主人はやっと少し心が傾き，宣教師が何をする手だてもなくなったとき，初めてふたりの話を聞きたいと言い出した。その後，雨まじりの嵐のため外に出ることもできず，伝道するとすれば彼しかいなくなったあるときふたりの宣教師は初めて下宿先の主人にレッスンを教えた。最初はあまり関心がなさそうだったが，宣教師がレッスンを終えると，立ち上がって次のように言った。

「君たちは今私に話したことがわかっているのかい？」

ふたりの宣教師はそのつもりであった。

「信じているのかね？」

「はい，信じています」

「それでは」 下宿の主人はそう切り出すと，きっぱりと言った。「君たちは自分が何を言っているのかわかっていないんだ。君たちは，御父と復活した御子イエス・キリストが1820年に実際にこの地上を訪れて，親しくひとりの少年に現われ，メッセージを与えられたと言った。もし君たちがそのことを本当に信じているなら，どんな嵐が来たって君たちの仕事ができないはずはないだろう。そのようなメッセージがあるのだったら，家にいないで戸別訪問をして，メッセージを伝えなければいけないのではないかな。」

この出来事について考えたとき，私は嵐がどれだけ皆さんや私の妨げになるだろうかと自問した。私がきょう皆さんに提起する問題はこのことである。私の観察したところ，私たち神権者の多くは，按手によって授けられた神の賜を燃え立たせる必要があるように思われる。そのためのひとつの方法は，学習を通じて福音に対する理解を絶えず鋭く深くすることである。

何年も前になるが，私の運転する車でスティーブン・L・リチャーズ副管長と一緒にステーキ部大会に出かけたときのことである。私は，福音を理解することの大切さについて，リチャーズ副管長から忘れがたいことを学んだ。そのとき，リチャーズ副管長と私は，聖徒たちがもっと忠実に教会の標準を守るようにするにはどうすればよいか話し合っていた。リチャーズ副管長は私にこう言った。「私は，教会員がもっとよく福音の原則を理解していれば，もっと完全に戒めを守れると思います。」私は彼の意見に同意したし，今も変わりはない。

パウロはテモテへの手紙で，テモテに「愛する子」とあいさつを送り，初めにテモテの「偽りのない信仰」を引いて，次のような訓戒を与えた。

「あなたに注意したい。わたしの按手によって内にいただいた神の賜物を，再び燃えたたせなさい？

というのは，神がわたしたちに下さったのは，臆する霊ではなく，力と愛と慎みとの霊なのである。

だから，あなたは，わたしたちの主のあかしをすることや，……決して恥ずかしく思ってはならない。むしろ，神の力にささえられて，福音のために，わたしと苦しみを共にしてほしい。

あなたは，キリスト・イエスに対する信仰と愛とをもって，わたしから聞いた健全な言葉を模範にしなさい。」（IIテモテ1：2，5，6－8，13）

すべての教会員はもちろん，特に私たち神権者はパウロのこの勧告を心に留めなければならない。というのは，ペテロが言ったように，私たちは「選ばれた種族，王国の神権者，聖なる国民，神につける民」であり，「それによって，暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを，〔私たちが〕語り伝え」なければならないと私はいつも思っているからである（欽

定訳Ⅰペテロ２：９参照)。

ペテロはこれを宣言した後に，具体的な行動をあげている。すなわち，私には「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを，語り伝え」なければならない。私たちにはそれができるのである。

「たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。」これは，ペテロが挙げたひとつの行動である。〔この言葉は，私通，あらゆる性的倒錯，卑俗な行為，あらゆるみだらな行ないなどの不道徳に陥らないようにとの警告である〕

ペテロはさらにこう語っている。「異邦人の中にあって，りっぱな行いをしなさい。そうすれば，彼らは，あなたがたを悪人呼ばわりしていても，あなたがたのりっぱなわざを見て，かえって，おとずれの日に神をあがめるようになろう。」(Ⅰペテロ２：９，11-12)

これは，救い主の戒めの中にも見られる。「そのように，あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ５：16)

続いて，ペテロは律法に従うように強調して，次のように述べている。

「あなたがたは，すべて人の立てた制度に，主のゆえに従いなさい。主権者としての王であろうと，

あるいは……長官であろうと，これに従いなさい。

善を行うことによって，愚かな人々の無知な発言を封じるのは，神の御旨なのである。」(Ⅰペテロ２：13－15)

不法がはびこっている現代社会において，ペテロのこの訓戒に従うためには，目を覚ましていなければならない。主は私たちに，主の律法と国の法律の両方を守るように命じられた。「われ誠に汝らに告ぐ，わが律法はこの地に於て守らるべきなり。何人もその国の律法を破ることなかれ。そは神の律法を守る者はその国の律法を破る要なければなり。」(教義と聖約58：19，21)

ペテロの語ったことをすべて取り上げるつもりはない。ただ内にいただいている神の賜を燃え立たせるようにしていただきたい。ペテロは次のような言葉で結んでいる。

「最後に言う。あなたがたは皆，心をひとつにし，同情し合い，兄弟愛をもち，あわれみ深くあり，謙虚でありなさい。

悪をもって悪に報いず，悪口をもって悪口に報いず，かえって，祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは，祝福を受け継ぐためなのである。

いのちを愛し，さいわいな日々を過ごそうと願う人は，舌を制して悪を言わず，くちびるを閉じて偽りを語らず，悪を避けて善を行い，平和を求めて，これを追え。

主の目は義人たちに注がれ，主の耳は彼らの祈にかたむく。」(Ⅰペテロ３：８－12)

兄弟たち，このことは，まさしく私たちの願うところではないだろうか。なぜなら，主が私たちの祈りに耳を傾けて下さるからである。

私たちはバプテスマの水に入り，永遠の父なる神の前に，「喜びて御子の御名を受け，御子を常に忘れず，またその下したまえる誡命を守ること」(教義と聖約20：77)を証明し，さらに「神権に属ける誓詞と誓約」(教義と聖約84：39)を交わした後，ペテロが言ったように，「罪に死に」(Ⅰペテロ２：24)，「肉における残りの生涯を，もはや人間の欲情によらず，神の御旨によって過ごすため」(Ⅰペテロ４：２)に，心を尽くし，勢力を尽くし，思いを尽くし，体力を尽くして精励すべきであると私は思う。

時間が限られているので，ここでは，「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを，語り伝える」ために，個人の生活をどう処すべきかについては詳しくお話することができない。しかしながら私は，ペテロが強調した私たちの義務に対して皆さんの注意を喚起したいと思う。ペテロは次のように述べている。「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく，神に従って自ら進んでなし，恥ずべき利得のためではなく，本心から，それをしなさい。

また，ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで，むしろ，群れの模範となるべきである。」

そうする者には，次のような約束が与えられている。「大牧者が現われる時には，しぼむことのない栄光の冠を受けるであろう。

同じように，若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また，みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ，へりくだる者に恵みを賜うからである。

だから，あなたがたは，神の力強い御手の下に，自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。

神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから，自分の思いわずらいを，いっさい神にゆだねるがよい。

身を慎み，目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が，ほえたけるししのように，食いつくすべきものを求めて歩き回っている。

この悪魔にむかい，信仰にかたく立って，抵抗しなさい。」(Ⅰペテロ５：２－９)

ペテロは，第二の手紙の１章で，福音の原則と主の戒めを倦まず絶ゆまず熱心に学び，応用することを特に強調している。

ペテロは初めに自分が使徒であることを明らかにし，それから「神と救主イエス・キリストとの義によって，……同じ尊い信仰を授かった」人々に説いている。

またペテロは，私たちに次のように述べている。「いのちと信心とにかかわるすべてのことは，主イエスの神聖な力によって，わたしたちに与えられている。それは，ご自身の栄光と徳とによって，わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。

また，それらのものによって，導く，大いなる約束が，わたしたちに与えられている。それは，あなたがたが，世にある欲のために滅びることを免れ，神の性質にあずかる者となるためである。〔この言葉は，いつも私の心をとらえて離さない。私にとって最も印象深い言葉である。主の命令を守る者は，

神の性質を身につけるというのが，その意味である〕」 それからペテロは，次のように勧告している。「あなたがたは，力の限りをつくして，あなたがたの信仰に徳を加え，徳に知識を，知識に節制を，節制に忍耐を，忍耐に信心を，信心に兄弟愛を，兄弟愛に愛を加えなさい。

これらのものがあなたがたに備わって，いよいよ豊かになるならば，わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について，あなたがたは，怠る者，実を結ばない者となることはないであろう。

これらのものを備えていない者は，盲人であり，近視の者であり，自分の以前の罪がきよめられたことを忘れている者である。

兄弟たちよ。それだから，ますます励んで，あなたがたの受けた召しと選びとを，確かなものにしなさい。そうすれば，決してあやまちに陥ることはない。

こうして，わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが，あなたがたに豊かに与えられるからである。

それだから，あなたがたは既にこれらのことを知っており，また，いま持っている真理に堅く立ってはいるが，わたしは，これらのことをいつも，あなたがたに思い起させたいのである。

わたしがこの幕屋にいる間，あなたがたに思い起させて，奮い立たせることが適当と思う。

それは，わたしたちの主イエス・キリストもわたしに示して下さったように，わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っているからである。

わたしが世を去った後にも，これらのことを，あなたがたにいつも思い出させるように努めよう。」

この後，ペテロは驚くべき証を述べている。

「わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを，あなたがたに知らせた時，わたしたちは，巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが，そのご威光の目撃者なのだからである。〔ペテロはここで，自分がかの山で救い主とモーセとエライジャ（エリヤ）にまみえたときのことを言っている〕

イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが，その時，おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである，『これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である』。

わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて，天から出たこの声を聞いたのである。」（IIペテロ1：1－18）

先程申し上げたように，ペテロはここで，ヤコブ，ヨハネと共に「変貌の山」で経験したことを述べている。

ペテロは，さらに次のようにも語っている。「こうして，予言の言葉は，わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも，夜が明け，明星がのぼって，あなたがたの心の中を照すまで，この予言の言葉を暗やみに輝くともしびとして，それに目をとめているがよい。」（IIペテロ1：19）

予言者ジョセフ・スミスは，次のように言った。

「ひときわ確なる予言の言とは（ペテロが述べたこと），ある人が聖き神権の権能を通じて啓示によりてまた予言の『みたま』によりて永遠の生命に入るを結び固められたることを知るを指す。」（教義と聖約131：5）

予言者はまた，次のように語った。「キリストを信ずる信仰を持ち，罪を悔い改めて，罪の赦しを受けるためのバプテスマを受け，（按手によって）聖霊すなわち第一の慰め主を受けた後，絶えず神のみ前にへりくだり，義を渇望し，神のすべての言葉に従って生活するならば，主はやがてその人に息子よ，あなたは昇栄するであろう，と言われるであろう。主がその人を十分に試し，どんな困難にあっても主に仕える決心をしていると認めたとき，その人は自分の受けた召しと選びとが確かなものとなったことを知るであろう。次いで彼は，主が聖徒たちに約束された別の慰め主を受けるという特権にあずかるであろう。ヨハネ伝14章のヨハネの証に記されている通りである。」（*History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」3：380）

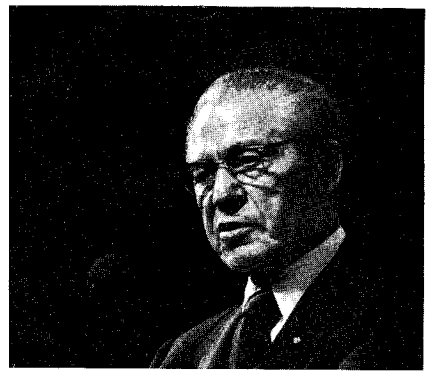
これまでお話してきたペテロの訓戒と証をよく考えてみると，なぜ予言者ジョセフが「ペテロは，あらゆる使徒の中で最も卓越した文才の持ち主である」（「教会歴史」5：392）と述べたのか，容易に理解できる。

最後に，テモテに宛てたパウロの言葉を読んで終わりたい。「あなたに注意したい。……按手によって内にいただいた神の賜物を，再び燃えたたせなさい。」（IIテモテ1：6）願わくは私たちが皆，自らが公言する通りの神権者となれるように。なぜならば，そういう状態にあれば嵐もなぎも私たちの義務を妨げることはできないからである。

イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈り申し上げる。アーメン。

七十人第一人定員会会員スターリング・W・シル長老（左）とヘンリー・D・テイラー長老

長時間働くことをいとわず



第一副管長
N・エルドン・タナー

すべての父親は，世の諸悪から自らと子供たちを守る最善の方法を知ることが必要である

兄弟の皆さん，この歴史的なタバナクルに神権者の皆さんがこうして集っている光景は，まことに偉大で壮観である。また現在他の建物にも，大勢の人々，すなわち主のみ名によって働く権威と権能を持った神の神権者たちが集まっている。私たちは皆，神の王国を確立する業に活発に携わることを願い，また神の予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長の明確な呼びかけに応じる備えをなしたいと思っている。実に主は，キンボール大管長を通して，今この地上で語り，そのみ業を指示しておられるのである。

私は神権者たちの前に立つといつも決まって，非常に重大な責任が自分に課せられていることを感じる。また同時に，みたまと主の祝福が下されて，私の話している間私たちの思考が促されるよう願い，へりくだって祈る。

私たちがこのようにイエス・キリストの教会に属し，神権を所有していることは実に大きな特権であり，祝福である。またこの大きな祝福と特権にあずかっている民は，全世界で私たちだけである。しかし私たちは本当にこのことをそのように考えているのだろうかと思うことがしばしばある。

この特権には，キンボール大管長から聖任を受けたばかりの執事に至るまで，すべての神権者が負わなければならない重大な責任が伴うことを決して忘れてはならない。私たちは主によって召されたという意識を決して失わないようにしよう。私たちは皆，神権を尊び，与えられた召しに全力を尽くすよう主から期待されているのである。

私たちはこれまで，今日の世の諸悪について耳にしてきた。また現在耳にしているし，これからも引続き聞くことだろう。この世にそうした悪が存在することは紛れもない事実であり，しかも事態は非常に深刻である。今の世はほとんどその害悪に毒されている。皆さんの多くはこのような話にはもううんざりしていることと思う。私もそうである。まるで傷もののレコードを聞いているようなものである。

ここで，イリノイ州のロックフォード大学のジョン・A・ハワード学長の言葉を少し読んでみたい。これは4月にブリガム・ヤング大学の卒業生に語ったものである。ハワード学長は，開拓者たちが平原を越えてソルトレーク盆地に来たときに直面した数々の苦難と，彼らの払った犠牲について述べ，こう語った。

「皆さんの世代の人々が取り組んでいる仕事は，決して安易なものではないと思います。皆さんが花を咲かせようとしている砂漠は決して干上がってはいません。しかし，もっと多くのものが求められることでしょう。なぜならば，この地の昔の開拓者とは異なり，皆さんが立ち向かっている荒野は変わりやすく，感じやすく，捕え所がないからです。実際，皆さんが征服しなければならない荒野は，文明という隠れみの（蓑）に身を包んでいます。従って，二重の対処が要求されます。すなわち，まず，何が真正で何が偽りかを明らかにして欺まんを暴露すること，そして正しいものを支持し偽りのものに反対する行動を起こすということです。

現在，道徳の退廃はテレビ番組を見ても明らかですが，数多くの大学においても同様の道徳観が根をおろしています。今や同棲生活は当たり前のこととなり，不法な薬物の飲用も何ら驚くに当たらないというのが一般の大学生の考え方です。犯罪は，不正直が世にはびこるにつれて増加しています。確かにその通りであると思います。できないとわかっていることを公約し，もろもろの事業を行なうときは国民に経済的負担をかけないと信じ込ませる，このような政治家の不正直が世に満ちると，それにつれて犯罪が多くなります。

皆さんのような年齢の方々には，10年前の時代がどのようであったか，想像もつかないでしょう。下層社会で使われている野卑な言葉などは，講演の会場や劇場や映画館ではほとんど聞かれませんでした。男女が同じ屋根の下へ住む学生寮などというものは国中を捜してもどこにもありませんでした。また，夜遅くひとりで町を歩いても，ほとんど危険なことはありませんでした。売店で公然とわいせつ雑誌が売られることもありませんでしたし，地方のモーテルのロビーでわいせつなトランプが手に入るということもありませんでした。また，書店でもわいせつ雑誌は売っていませんでした。」

ハワード学長はさらにこう言っている。「合衆国内では，皆さんのようなグループはないと思います。皆さんは宗教上の義務を守るよう絶えず教えられ，

聖徒たちと，ジェームズ・A・カリモア長老（右）

また長時間働くこと，原則を守るために犠牲を払うことをいとわず，自立の尊さを十分に理解している方々です。私のこの判断が正しければ，皆さんは非常に祝福され，大きな特権を授かっていることになります。」

これはブリガム・ヤング大学に対する素晴らしい賛辞である。ここで心にとめていただきたいのは，こう語ったのが，教会員ではない他の大学の学長であったということである。彼は今日の世情に通じており，このテーマで話す資格を具えた人である。ブリガム・ヤング大学の責任は何であるかを，彼は明確に指摘している。

私は彼の話を読んだ後，直ちに自分にこう問うてみた。「何がブリガム・ヤング大学をこのように力強いものとしたのだろうか」と。このような大学となった理由を幾つか挙げてみたいと思う。

まず第一番目の理由は，それが神権の指示の下に設立され，神権の力の下に運営されていることである。学長を含め，ほとんどの学校関係者は男女を問わず，福音に対する強い証を持ち，自分が何者であり，どこから来たのか，またなぜこの世にいるのかを知っている。また，言葉と模範によって回復された福音の原則を教えることを願い，そのための備えをしている。

第二は，この大学に通っている学生のほとんどが，各自の家庭で全く同じ原則を教わっていることである。彼らは自分が神の霊の子供であることと，神のみもとに戻るためにはどのように自らを備えればよいかを理解している。

第三は，若人が教会の組織と役員ならびに教師の模範を通して，成長を遂げる上での大きな力を得，さらに大学のステーキ部と支部で役員，教師，会員として教会のプログラムに参加することによって豊かな恵みを得ていることである。

第四は，力強い証と豊かな体験とを持つ帰還宣教師の大きな力が，学内に宗教的な雰囲気を生み出すのに多大の貢献をしていることである。

この機会をいただいて，私が非常に重要な警告であると考えている事柄についてお話したい。それは，私たちはすでに成功している，救われている，悔改めを必要としない，自己の改善に

努める必要はない，福音の教えにもっとよく従うように努力するには及ばない，といった態度を持つことである。教会や大学，また私たち個人は，このような考え方を持ってはならない。

ハワード学長がＢＹＵの学生の責任について語ったことが真実であるならば，またそれは真実であるが，このことは教会とその役員，および会員に対しても言えることである。前に述べたように，これはイエス・キリストの教会である。神権があり，神権によって導かれている唯一の教会である。この教会には，すべての民に福音を説き，人々にキリストの再臨に対する備えをさせる務めが課せられている。そしてこれを果たせるのは，私たちが神権を尊び，それぞれに与えられている職と召しに全力を尽くすときだけなのである。

私たちが世の悪に対抗するためには，教会としても，個人としても，これまで以上の努力を払わなければならないことは明らかである。現在大管長会と教会幹部は，悪と誘惑が教会内部にまで手を伸ばしており，大勢の若人の生活に，また成人会員の生活にさえ影響を与えていることを，非常に憂慮している。大勢の会員に，重大な影響が及んでいるのを見ると，胸も張り裂けんばかりである。私たちは，人の値が神の目に大いなることを知っている。従って，愛と思いやりと警告をもって力の限りを尽くし，すべての会員を力づけ，真理と正義の道にあって導きを与えたいと思っている。「恐ろしい罪悪がニーファイ人の中で行なわれた。ニーファイはこの有様を見て胸を痛め心に苦しみ悲しんで叫んで言った。」（ヒラマン 7：）　私たちはこのときのニーファイのような心境である。私たちはどのようにすれば自分自身と子供たちと他の人々を世の諸悪から最もよく守ることができるだろうか。私たちはいつも考えている。また，すべての家族，すべての父親，すべての成人，すべての神権指導者が同様に考えているに違いない。

ジェームズ・Ｅ・タルメージ長老が書いた『不完全な電池のたとえ話』（アルバート・Ｌ・ゾーベル・ジュニア，*The Parable of James E. Talmage*「ジェームズ・Ｅ・タルメージのたとえ話」参照）を参考にし，言葉を換えてお話したい。研究室である実験をするために，強力な一次電流が必要であった。そこで彼は，12槽から成る電池を１個準備するように助手に頼んだ。その助手は通常の方法に従い，酸性溶液を入れる12の容器を準備して，炭素棒と亜鉛棒を両極としてそれに浸した。そして，各槽を「直列」につないだ。こうすれば，合計した分に等しい電力が得られるはずである。ところが，彼は細部にまで十分な注意を払わなかった。完全に働くかどうかを確かめずに，上べだけを整えたのである。

タルメージ長老はその電池を使おうとしたが，十分な働きをしなかった。そこでその電池を調べたところ，すべての電池槽が均等な働きをしていなかった。非常に反応の活発なものがいくつかあり，ガスを発生して液が熱湯のようになっていた。そこで生じたエネルギーは内部抵抗のために消費され，電力が得られず，従って電流も小さかったのである。

タルメージ長老は電池を取りはずし，各槽を別々に調べた。すると，最初の８個は良好であったが，９個目が全く不調であった。そこでこれを別にして，残りのものを試験したところ，よく働くことがわかった。９番目の電池槽が不良の原因であったことは明らかである。またそれは，他の電池槽よりもガスの発生がひどく，気泡も多きかった。タルメージ長老はそれを取り除いて残りの11個を結線したところ，電池の発生電流は大きく，受信機を作動させるのに十分であった。地球の反対側の爆薬に点火できるほどの電力が得られたのである。

後に，作動不良の電池槽を調べてみると，短絡のために泡とガスの発生がひどいことがわかった。酸のために数箇所にわたって絶縁が侵され，電流によって容器内の腐食が全体的に著しく進行していたためである。正しい作動の法則を犯していたために，容器自体が腐食状態に陥っていたのがその原因であった。この電池槽は１個の電池槽として価値がなかったばかりでなく，全体の中でも障害となった。つまり，順調な働きをする他の電池に大きな抵抗を与えたことは，むしろ有害であったと言える。

しかしタルメージ長老は，その電池槽を有効に使えると考えて廃棄処分にしなかった。彼は部品をすみからすみまで調べて，ナイフで腐食箇所を削り，取り除いた。そしてそれを洗浄して再び組み立て，試験をしたのである。すると次第にエネルギーが出始め，間もなく他の電池槽とほとんど同じくらいに働くようになった。しかし彼は引続きそれを見守った。最初のときのような信頼を覚えなかったためである。これは，タルメージ長老が実際に体験したことである。しかし彼はこれをたとえ話と呼び，私たちは電池のようなものであると言っている。実際に声を張り上げ，感情をあらわにして変則的な行動をとる人，中には攻撃的な態度に出る人さえもいる。しかし彼らは何か良い働きをしているだろうか。彼らのエネルギーは，欠陥ある自己の内部抵抗で消費されているのである。

また，睡眠と夢をむさぼっている人々がいる。彼らは怠惰で休止した状態にあり，その有用性から判断した場合，死んだ状態である。さらに，一生懸命に働きながら，そのことを黙して語らない人々もいる。彼らの心からの献身は，交わる人々の生活に大きな影響を与えるのである。不純な電池は罪人のようなものである。内部部品の腐食は作動に直接影響を及ぼす。また私たちは人にこのような欠陥がある場合，これを罪と呼ぶ。特に，法を犯す場合がそうである。清く，能力があり，自発的に物事を行なう人々と交わるとき，彼らはその障害となる。そして，全く無力とならないまでも，全体の力はわずかひとりの欠陥によって減じられるのである。

神権者は，主のみ業を推し進める上で，決して欠陥のある電池になろうとは思わないだろう。私たちは皆，献身と働きを主に喜ばれるような生活を送りたいし，また神の王国の確立を手伝っているという気持を味わいたい。このた

めには，私たちは油断をせず，力の限りを尽くして，サタンとその軍勢の悪計を退けるようにする必要がある。特に，人々が主の教えに背を向けがちな繁栄の時代にはそうである。

今日，教会員はこれまでになく経済的に安定しているようである。教会も急速に発展し，かつてなく世の人々に受け入れられるようになってきた。そのため，安心感も増してきたように思われる。しかしこれは人々を教会から引き離す原因となっている。この世の事柄にあまりにも心を捕われているためである。ニーファイはサタンの誘惑の手に落ちないように警告し，次のように述べている。

「ごらん，その時に悪魔はある人々の心に入って荒々しい行いをさせ，またこの人たちに善い事を怒らせる。

またほかの人々をなだめ，この人たちをすかして肉欲をほしいままにさせるから，その人々は『シオンの中では万事よろしい。シオンは栄えて実に何事もみなよろしい』と言う。このように悪魔はこの人々をだまし，心を配って地獄へつれて行くのである。」（IIニーファイ28：20－21）

今日特に人々を引き離している3つの事柄について考えてみたい。まず第一は，安息日を聖く守っていないこと，第2は知恵の言葉を破っていること，第3は不貞である。これ以外にも多くのことが挙げられる。

安息日がレクリエーションの日となってきたように思われる。大勢の人々は家庭のテレビでスポーツを観戦している。また，試合場へ出向く人々もいる。さらに，選手として，あるいは観客として試合に参加する人は多い。また余裕のある人々はボートやオートバイ，キャンピングカー，釣り道具，その他のスポーツ用品を持っており，日曜日を含む週末にそれを最大限に活用しないのは浪費につながると考えている。

世俗の楽しみを追い求めることは，大勢の若人を禁じられた道に誘うことになる。そしてその道に陥った若人は，やがてアルコール飲料やタバコ，幻覚剤を口にするようになる。これらはすべて習慣性があり，彼らはついにはこうした習慣性の物質とつながりを持つ他の数多い悪に身をまかせてしまうことだろう。一般に飲酒や喫煙やセックスは，人との交流を深め，集団にとけ込むのに大切であると考えられているが，しかしこれは非常な害悪である。また特に，テレビもこれと同様の悪影響を及ぼすものである。

ポルノグラフィーも世に満ちており，あらゆる方面にその悪影響が及んでいる。皆さんはそれがどのようなものか御存知であろう。そこで私はこのことだけを申し上げておきたい。ポルノグラフィーを目にし，耳にし，話題とする者は，成人であると若人であるとを問わず，必ず汚れに染まり，社会の道徳性を危くすることだろう。性倒錯者や暴行犯人，窃盗者は，その心の思いに従ってそのような状態となり，さらにその状態が彼らの現在の行為を促しているのである。

不道徳や不貞は今日の世では当たり前のこととなっており，テレビや映画では数々の性倒錯行為が見られる。そしてこれを目にする若者たちは，それが生活のあり方なのだという考えを持つに至っている。自分自身を清く，汚れなく，純潔に保つことの重要性は，いくら強調しても足りないほどである。純潔を保つことは，この聖なる神権を持つ資格であり，また自分と家族を永遠の生命に備えさせるために必要だからである。

私たちには，悪に対抗し，若人を強めるひとつの手段として，家庭の夕べプログラムが与えられている。これは子供たちに祈ることと，主のみ前に正しく歩むこととを教えるプログラムである。

また私たちは，世にありながらも世のものとなってはならないことを，常に心に留めておかなければならない。私たちは決して世の道に従ってはならず，あえて世と異なった者となる必要があるのである。私たちを変わっていると言う人々に影響されないようにしなければならない。主はイスラエルの民に次のように言われた。

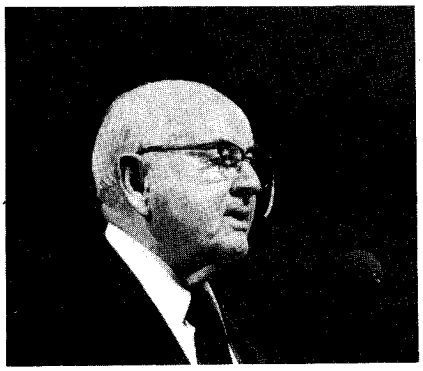
「あなたはあなたの神，主の聖なる民だからである。主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで，自分の宝の民とされた。」（申命14：2）

兄弟の皆さん，ここで皆さんに私の証を申し上げたい。私はこの場に自分が立っていることを知っているように，確かに，神が感情・感覚・体をお持ちになった生ける神で，私たちがそのかたちに造られた者であることを知っている。神は私たちに関心を寄せておられ，また私たちの成功を願っておられる。「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3：16）神は私たちに道を示し，私たちが神権者として働き，暮らせるようにして下さった。また，神とその御子イエス・キリストは，この世を訪れて完全な福音を回復して下さった。そのために私たちは幸いにも福音を持ち，自分は何者であるのか，なぜこの世にいるのか，天父のみもとに帰るためにはどうすればよいのかをよく理解しているのである。神はすべての少年たちに，いつも良い模範となる生活を送るように期待をかけておられる。

私は今宵，私の声の届く範囲内にいるすべての男性の方々に申し上げたい。今私が話したような状態を各自保持しているかどうか，それぞれ評価し，主に喜ばれる生活を送るように決心し，またいかなる場所にあっても人に良い感化を及ぼせるようにしていただきたい。これを行なうならば，私たちは天父のみもとに招かれることだろう。

私たちがこの世で業を終えたとき，かの場所で再び会えるように，主イエス・キリストのみ名によってへりくだり祈るものである。アーメン。

☆　　☆



私たちのリアホナ

大管長
スペンサー・W・キンボール

私たち一人一人には，人生の荒野と嵐の中にあって絶えず導きを与えてくれるリアホナ，すなわち良心がある

愛する兄弟の皆さん，この会において，いくつかの事柄についてお話したいと思う。こうして23万人もの方々と共に集まりを持てることは実に素晴らしいことである。恐らく人数はもっと多いことであろう。私たちは今晩再び皆さんをこの会に歓迎するものである。この会に集った私たちに主の祝福があらんことを。

ここで皆さんの注意を促したいことを2，3申し上げる。すでに合衆国西部のステーキ部の全ステーキ部長会宛には手紙を出しているが，これまでペニーパレードで集まったお金は初等協会小児医療センターの財政援助金として使用されていた。これらの基金は，人種，主義，宗派，支払い能力を越えて，援助の必要な子供たちの入院費用に当てられてきたものである。しかしペニーパレードを打切った関係上，現在病院は小児基金を設立している。そして1977年2月に基金獲得プログラムを実施する予定である。そしてこのプログラムで得た基金はすべて，引続き慈善活動で使用することになる。このプログラムに皆さんの支援をいただければと私たちは考えている。

もうひとつ，皆さんの関心と支援をいただきたいことがある。それは，1年以上も前に扶助協会中央会長会から，大管長会と十二使徒定員会に申請のあった，教会の女性のための記念像の建設についてである。予言者ジョセフ・スミスが1842年3月17日にノーブーで扶助協会を組織したことから，この記念像はノーブーに建設するのがよいと考えられた。大管長会と十二使徒定員会は，これを検討した後，主に教会の女性たちの自発的な寄付によってこの事業の資金を得るということで，この申請を承認した。現在その事業は進行しており，寄付が集められている。

ステーキ部長ならびに監督は，この計画を受け入れ，それぞれの扶助協会会長が必要な寄付を募ることができるように励まして下さるよう，私たちは心から願っている。また，兄弟たちの支援があり，いかなる人の気持も損なうことなく，この資金が集められるものと確信している。大勢の方々からの寄付があれば，各人の額は少なくてすむ。また兄弟たちも，この価値ある事業に寄付したいという気持を起こしていただければと思う。扶助協会中央会長会は，創設記念日の3月17日までに資金集めを終えたいと考えている。この事業に皆さんの力を貸していただければ幸いである。すべての姉妹は扶助協会へ少しでも寄付いただけるものと思う。またそうする人は，その事業に協力しているという気持を抱くであろう。

もうひとつ申し上げたいことがある。大学，教会を問わず，いろいろな組織で教えを述べる人は，常にオーソドックスな真理を説いていただきたい。過去の教会幹部が説いていたからと主張して，聖典にそわない教義を言い広めることのないように，私たちは皆さんに警告する。例えば，アダム神の考え方がその例である。私たちはこの説に反対するものである。すべての人はこの説やその他様々な偽りの教義に注意していただきたい。

ここで，若人の皆さんに少し申し上げたい。皆さんは自分自身を，14歳で栄光ある示現を受けた予言者ジョセフ・スミスの立場に置いてみたことがおありだろうか。サウル王のために琴を弾いたダビデについてはどうだろうか。また，数多くの夢と示現を見て，ある夢の中で父と母と，兄弟たちとその家族全員が自分の前に身をかがめる様を見たヨセフについてはどうだろうか。皆さんは自分自身をニーファイの立場に置いて考えたことがおありだろうか。ニーファイは，非常に困難な状況の下にありながら，神に背を向けた兄たちには従わず，ただひとりでエルサレムの市に入り，リーハイとその家族の子孫にとって大切な金版を手に入れた。皆さんは自分自身を，兄たちと父の家族を導くことになった若いニーファイの立場に置いて考えたことがおありだろうか。

父が天幕の入口のすぐ前である品を見つけ，興奮した様子でみんなを呼び集めた，その声を聞いたニーファイの立場にあなた自身を置いていただきたい。それは丸い球であり，前夜父リーハイが受けた主の命に従えるようにと与えられたものである。 主は夜の間にリーハイを訪れ，翌朝荒野に旅立つよう命を下されたのであった。その球を見た家族は非常に驚いたに違いない。それは「純良な真鍮」でできた「珍らしい細工の円い球」で，彼らはそのようなものを見たのははじめてであった

大会に出席した4人の女子大学生

（Ⅰニーファイ16：10）。その玉には2本の針があり，それらの針は一行が前進するときに，その進む方向を指すように作られていた。その仕組みはわからないが，1本の指針は荒野の中で進むべき方向を指した。そしてそれを見るのはリーハイであった。

この珍らしい細工の球の働きを注意深く見るならば，それが「信仰と熱心と注意の強弱に従って」働き，進むべき方向が示されることに気づくであろう（Ⅰニーファイ16：28）。もっとよく調べてみると，単に方向が示されるだけでなく，主の道が「読みやすく」球に書き記されていることがわかる。それに気づいたとき，あなたはどう思うだろうか。また，その指示は主のみこころに従って，それに対する家族の「信仰の強さと，これに従う熱心の強さとに応じて時々書きかえられた」（Ⅰニーファイ16：29）。これについてはどうだろうか。

それは，あなたが決して見たことのないもので，珍らしい細工が施されていた。針が指す方向は一定であった。しかし，記されている事柄は必要に応じて時々書きかえられた。

自分自身を，兄たちよりも霊的なニーファイのような弟と想像していただきたい。あなたは，球，すなわちリアホナと呼ばれた球に記された指示によく心を留めた。球に記された指示に従った家族はさらに豊かな土地に導かれ，食糧を得ることができた。そのことを知ったときの様子を想像できるだろうか。また，長旅で食糧が底をつき，子供たちが飢えて泣いている。あなたは極めて純良な鋼でできている弓と矢を持っていたが，力が強くその弓を折ってしまった。また，兄たちの木製の弓もその弾力がなくなっていたので，家族の食糧にする獣をとることがむずかしく，兄たちはあなたのところに来て非難した。その様子も想像していただきたい。

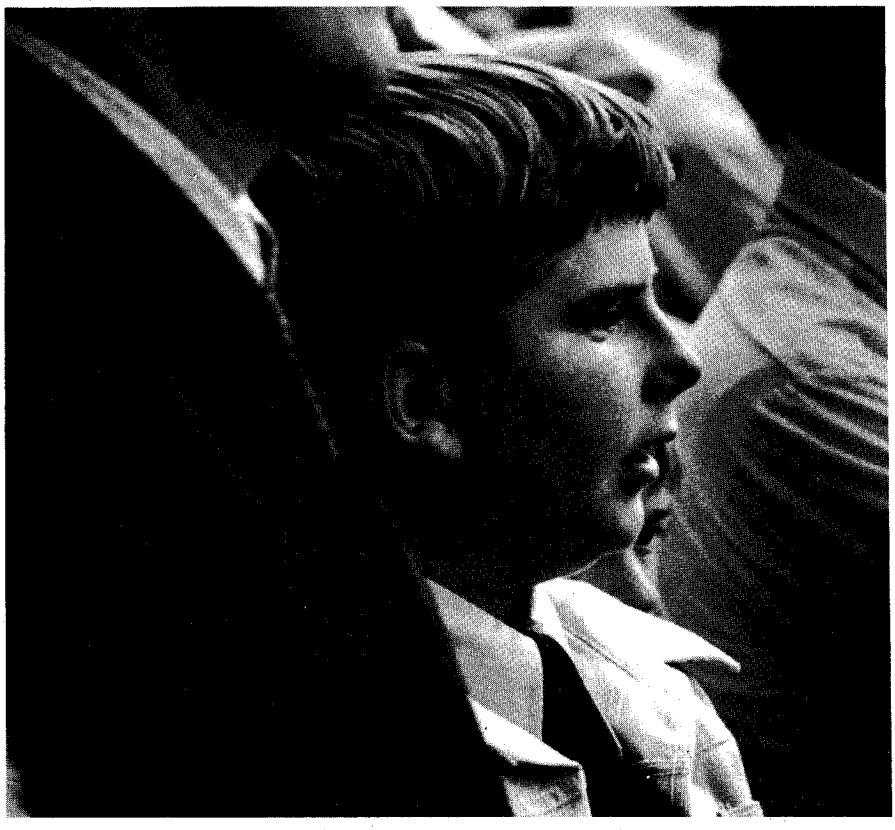
兄たちは「荒野の中で逢った艱難と苦しみのために非常に不平を言い」，父やあなたばかりでなく，この千上がった荒野に導いてこられた主をさえも非難したのであった」（Ⅰニーファイ16：20）。食糧はなかった。あなたは兄たちの非難と不平に悩まされながら，弓を作り，まっすぐな枝から一本の矢を作った。そして，その新しい弓と矢と，石と石投器で身を固め，父のところへ行って，食物を得るためにどこへ行けばよいか尋ねた。愛する父が主に求めれば霊感を受けることができると思ったからである。この様子を想像していただきたい。

しかし，あなたの父も，家族がこの非常な苦難の中に放置されていることに対して主に不平を言い始めていた。兄たちばかりでなく，あなたの父も信仰と謙遜さを欠いて，主より懲らしめの言葉を受けたことを知ったら，あなたの気持はどうだろうか。主が父に「球を見て書き記してあることをよく心に留めよ」と告げられたとき，兄たちと父と家族全員がその球と指針に目を凝らし，そこに書かれていることを見た（Ⅰニーファイ16：26）。そして球面に映し出される様を見た兄たちと家族全員は，その球がこの世のものでないことを知り，恐れおののいた。この様子を心に描けるであろうか。その球の針がそれに対する「信仰と熱心と注意の強弱に従って」動くのを知ったときのあなたの恐れはどうであろうか（Ⅰニーファイ16：28）。

長い間旅を続け，数々の艱難にあった後，あなたは兄たちを説き伏せて船の建造を手伝ってもらい，大洋に船出した。それから間もなく，指針の働きが止まり，その上船がもと来た方へ吹きかえされた。それは兄たちが信仰を失い，無礼で粗暴になったためである（Ⅰニーファイ18：9参照）。このような状況に陥ったらどうであろうか。また，両腕と両足首が痛むほど，手足を縛られたらどうであろうか。主の言葉に従い，信仰を抱くだけで針が動くことを知ったらどうであろうか。また，天使が来てあなたを守り，この束縛から解き放ち，兄たちが悔改めの気持を起こしたとき，針が動き，あなたは目的地に着いた。そのときはどうであろうか。

球すなわち羅針盤を意味すると解釈されているリアホナは，リーハイが荒野を旅するときにその道を示すために，特に主によって備えられたものである。あなたはこのような球を持ちたくはないだろうか。過ちの中にあるとき，あるいは誤った道にいるときにいつもそれに気づくように，正しい道を示し，メッセージを記してくれる球を。

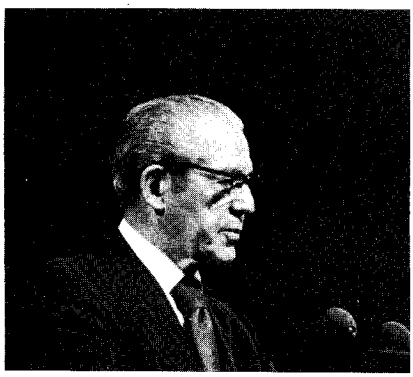
若い兄弟たち，皆さんは全員それを持っている。主はすべての少年，すべての人に，誤まった道へ入るときにそれを告げてくれる「良心」というものを与えられた。従って耳を傾けるならば，いつでもそのささやきを聞くことができるのである。言うまでもなく，そのささやきを聞くことを習慣化することは可能である。しかし無視するならば，やがて聞こえなくなることだろう。



皆さんは自分自身の内に，羅針盤のような，リアホナのような何かがあることを認識しているに違いない。すべての子供にはそれが与えられているのである。両親から十分に教えを受けてきた子供は，8歳になると善悪の判断ができる。従って，自らの内にあるリアホナを無視するならば，ついにはそのささやきを得られなくなることだろう。しかし私たち一人一人は正しく導いてくれるものを持っているということを心にとめるならば，すなわち自分のリアホナ，良心とも言われるリアホナの指示に聞き従うならば，船は誤まった航路に迷い込むことはなく，苦しみも生じず，家族も食べ物を求めて泣き叫ぶことはないであろう。

兄弟の皆さん，私たちはこの会場に共に集い，恵まれた時間を過ごしてきた。私たちは今しがた，この会場から地球を3分の1回った地，オーストラリアのメルボルンから電話をいただいた。大会の話が非常にはっきりと聴取できているということである。

兄弟の皆さん，私たちは今晩，この会において素晴らしいメッセージを数々聞いた。それらを心の中に思いめぐらし，身にも霊にも深く刻み込んで，主から託されたこの偉大な業を推し進めることができるように，主の祝福のあらんことを。主は生きておられる。世の救い主も生きておられる。そして主は私たちのために計画を定めておられる。私たちは主から，ふさわしくない生活を送るならば自分のリアホナは働かないことを知らされている。私たちは主が告げておられることをことごとくは理解できないかもしれない。しかし，この大会で兄弟たちの語る事柄すべてを真剣に考えていただけるものと思う。私はそのことを信じ，祈っている。兄弟たちは私たちを導く人である。兄弟の皆さんに主の祝福があるように。平安と喜びと慰めがあるように。このことをイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



大会の目的

第一副管長
N・エルドン・タナー

大会は警告の声を発するところであり，私たちは耳にした警告を，必ず隣人に伝えなければならない

全世界のいずれの地にあっても，人々はそこで開かれる地域大会に，大きな関心を寄せているようである。そこで，きょう私は，なぜこのような大会が開かれるのか，またどのように運営されているのか，人々の反響はどうか，そして様々の地域で開催することによってどのような成果を得ているかという点について，簡単に説明したいと思う。特に，今年の夏，ヨーロッパで開かれた地域大会のことを中心に説明したい。

キンボール大管長が説明したように，全世界における教会の発展には目を見張るものがあり，もはや教会本部があるソルトレーク・シティーで開かれる4月と10月の総大会だけでは実情にそぐわなくなってきている。まず，世界各地から訪れる人々をすべて収容することは不可能である。その上，大会に出席したいと思っても来ることのできない人が数多くいる。そこで，私たちが人々のところに出向いて大会を開いているのである。

こうして地域大会が，世界各地の主要都市で開かれている。大管長はそこで人々と会い，人々はまた予言者や他の教会幹部ならびにその夫人たちと直接に会うことができるのである。その第一の目的は，人々に福音を彼ら自身の環境のもとで，彼ら自身の言語で伝えることである。そして聖徒たちが責任を完うするように励まし，彼らの信仰と献身の度を増し，警告の声を発するのである。

現在，末日聖徒が居住している国は75ヵ国に及んでいる。その中で教会の組織がある国は58ヵ国で，話されている言語も様々である。これまで私たちは28ヵ国において，延べにして10回の地域大会を開催してきた。各部会の出席者も1,600から，多いところでは16,000人を数えている。それらを合計してみると，世界各国から，約20万人の人々が出席したことになる。

通常，本部からは大管長会の2名，十二使徒定員会の2名，ほかに大会が開かれる地域の担当教会幹部を含む2，3名の教会幹部が出席する。もちろん，全員が夫人同伴である。

大会は通常，次のような内容で行なわれる。

夜の文化プログラム。その地域の国々の代表者が行なうプログラムである。どの地域のプログラムも見事と言うほかはなく，地元の会員たちのすぐれた才能を見ることができる。

次に，母親と娘の集いがある。そこでは通常，大管長会の夫人たちと大管長会のひとり，ほかに教会幹部数名，そして地元の姉妹ひとりが話す。その中で強調されることは，教会，補助組織ならびに社会における教会の姉妹たちの大切な役割と，家庭生活に及ぼす女性の影響力についてである。さらに姉妹たちは，神の協力者として神の霊の子供たちをこの世にもたらすという神聖な計画に携わり，彼らに福音を教え，天父のみもとに帰る備えをさせることほど偉大な責任，あるいは満たされる経験はないと教えられる。

父親と息子たちのためには，神権会がある。

また大会中に特別な夕食会を開いて教会幹部とその夫人たちが，地元のステーキ部，伝道部の神権指導者や夫人たちと交わる機会を持っている。また一般大会では，大管長会，その他の教会幹部，ならびに地元の指導者たちが教えを説く。

大会に出席する人はと言えば，たいてい教会員の少ない，またしばしばほとんどいないような市町村から集まってきた人々である。多くの人々は数百キロもの道のりを何日もかけて旅行をし，多大な犠牲を払ってこの大会に出席している。

大会では，いつも地域担当教会幹部が話をする。私はここで，彼らが担当地域で素晴らしい働きをしていることに感謝したい。彼らがその地域と人々についてよく理解していることは，すべての人にとって非常に有益である。彼らが伝えるメッセージはいつも霊感にあふれたものである。また，地元の会員たちも立派に成長し，福音に対する理解を増し，信仰を示し，自ら福音の教えにそった生活をすると同時に，他の人々もその教えに従えるよう助けている。

音楽は100名から300名の会員たちより成る地元の合同聖歌隊が発表する。そのために多くの会員が遠くからはるばる集まって来て，長い間練習を重ねている。私は彼らに心から感謝の意を表したい。名地域の立派な音楽指揮者たちに，いつも深い感銘を覚えている。また大会が終わり，「感謝を神

にささげん」や「神よまた逢うまで」などの讃美歌を歌うとき，いつも大勢の人々は感激し，そのほおを涙で濡らす。

私たちは訪問する町々でしばしば記者会見を行ない，教会と福音のもたらす成果について語る。そしていつも，福音に従って生活しているモルモンは一般の人々より健康で，幸福で，世の中でも成功を収め，長生きをしているという，好意的な報道を受けている。霊的な集会と並行して行なわれるこの報道を通して，信仰と献身の度はますます深まり，熱意と躍動がみなぎるのである。

教会の新しい改宗者と話すのも，ひとつの喜びである。ある女性は，神が生きておられ，実際に感情，感覚，体を持ちたもう御方であり，自分が神の霊の子供であり，やがて文字通りの復活にあずかること，さらには，福音に従って生活し，戒めを守るならば，神のみもとで永遠の生命を受けられることを，初めて理解でき，とても大きな励ましを得たと語ってくれた。

ほかにも，子供を亡くしたある母親が，神の権能によって自分たち夫婦がこの世にあっても永遠にわたっても結ばれ，その子供とも結び固めができること，そしてそのような結婚のもとに生まれた子供たちは永遠に家族の一員であることを，福音の教えによって知り，初めて希望を見出したと語っていた。

このような献身的な会員たちに与えるメッセージは，わかりやすく，簡潔な言葉で語られる。もちろん必要な国では通訳を通してである。私は，各地域の兄弟姉妹たちにはまわりの人々に良い影響を及ぼすという重大な責任があることを指摘する。彼らには落胆することは許されない。いつも模範的な生活を送り，家族に戒めを守ることを教え，福音の教えを隣人に宣べ伝えなければならないのである。

この少数の教会員に関連して，1830年に教会が組織されたとき，登録会員はわずか6名でしかなかったことを述べておきたい。それにもかかわらず，主は彼らに全世界に福音を宣べ伝えるよう告げられた。これは落胆せずにはおれないようなチャレンジであったに違いない。しかし，たび重なる艱難や迫害にもめげず，彼らはそのチャレンジに応えた。次々に土地を追われ，家を焼かれ，家財道具を奪われ，神殿は破壊された。にもかかわらず，福音のゆえに，信仰を守り通したのである。今日，教会員は350万人を突破し，福音のメッセージを宣べ伝える宣教師も24,000人を越えている。

また私は，ノーブーの暖かい家庭を後にし，荒野を旅して行かなければならなかった初期の開拓者たちの大きな犠牲についても述べておきたい。彼らは旅の途中で，死と略奪に悩まされた。しかし，自分たちが所属しているのはイエス・キリストの教会であることを知っていたので進み続けたのである。私たちは皆銘記しておかなければならないことがある。それは，救い主御自身も迫害を受け，最後に十字架にかけられ，私たちのために生命を捧げられたということである。その結果，私たちが主の教えを受け入れ，それに従っ

て生きるならば，不死不滅と永遠の生命を得て，主と共に住むことができるのである。

私たち教会員は，背教と回復についてもよく理解する必要がある。また，ジョセフ・スミスの神聖な使命についても証を持つことが必要である。さらに知恵の言葉をよく理解し，それを守り，神のみたまは汚れた体に宿らないという教えを完全に受け入れなければならない。

私はここで，地域大会で話した方々の麗しい心と霊感に満ちた言葉を皆さんにお伝えできたらと思う。しかし，時間も限られているので，前回の地域大会で話された説教の中から，いくつかを取りあげてみたい。

キンボール大管長は，優しく，愛に満ちた眼差で歓迎の辞を述べ，主の祝福が人々に注がれるようにと語った。そして，戒めを守り，正直で正しい生活を送り，世の人々の模範となるようにと勧告した。

その中から，ここでは純潔という問題について述べてみたい。大管長は，人々が誤解することなく完全に理解できるように，はっきりと説明した。大管長は，たとえとして嵐の海をさまよう船を取り上げた。多くの船が船同士や氷山との衝突，座礁により，荷物や乗客もろとも失われてしまっている。そこで，危険な状態から脱出できるまで絶えず警報を発し続けるような装置が開発されていることを説明した。

若人は大海を航行しているようなものである。警告に注意を払わなければ，大惨事にあう。大管長は次のように述べた。

「教会の指導者として，また青少年と彼らの福利に多少なりとも責任を持つ者として，私は青少年に声を大にして，はっきりと申し上げておきたい。『皆さんは今，非常に危険な水域にいる。数多くの危険に遭遇すると思われる時期にある。帯をしっかり締めなさい。そうすればこの艱難にもめげず，生き残ることができるはずである。』私たちは警告を受けたならば，それに耳を傾け，生活に応用しなければならない。浅瀬や岩場や危険水域に近寄らないようにすることが大切である。」

また大管長は姦淫，私通，その他の性的な倒錯行為を厳しく戒めた。パウロの警告を引用して，「不品行な者たちと交際してはいけない……その悪人を，あなたがたの中から除いてしまいなさい」（Ⅰコリント5：9，13）と語られた。

さらに続けてこう語った。「もし若人がこの基本的な教えをよく覚え，いつも良き友を持ち，自分たちの標準を下げるような人々と決して交わらないようにしたら，どうだろうか。これまでも何度となく繰り返してきたが，この不品行な行為（姦淫）は，大小を問わず様々な罪を伴う邪悪な行為であり，主が非難しておられるものである。それは，アダムの時代やモーセの時代，パウロの時代ばかりでなく，現代でも同じである。教会はいかなる性的な倒錯行為も決して許さない。」

キンボール大管長は，このような罪の重さを強調しながらも，心から悔い改めるならば赦しの道も閉ざされたわけでないと述べ，次のように教義と聖約を引用している。

「見よ，およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され，主なるわれもはやこれを忘るべし。人罪を悔い改めしや否やは，見よ，彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ，その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」（教義と聖約58：42－43）

そして，次のように言われた。

「道徳に関する教会の立場はよくわかっていると思う。それは着古した服ではない。色あせ，流行遅れになった，糸のほつれた服ではない。神はいつの時代にも変わることがなく，その誓約も教義も普遍である。教会が昔の価値観を変えようとしないのは，それが古いからではなく，むしろ長い歴史によって正しいことが証明されているからである。

不当な性行為は，不幸，落胆，不快しかもたらさず，ほとんどの場合嫌悪感が残るだけである。たった一晩の暗い一時のために，生活は粉々に砕かれてしまう。失われた純潔は永久に戻らず，盗まれた美徳は取り返すことができない。予言者イザヤは次のように述べている。『主の器をになう者よ，おのれを清く保て。』（イザヤ52：11）」

トーマス・S・モンソン長老は，地域大会は私たちが心によく思い図り，祈りを捧げ，内省し，決心するときであると述べた。彼は自由意志について語り，こう述べていた。

「この自由意志の賜，この選択の権利ほどこの上なく大切で，永遠にわたって意義あるものはない。あなたはどのような選択をするだろうか。この地域大会を終えて家に帰るとき，何の変化もなく帰ることのないようにしよう。むしろこの建物を出るときに，胸を張り，思いを満たし，感慨をとどめ，身と心を躍らせながら，歩もうではないか。」

モンソン長老はまた，生活の中で目標を達成する具体的な方法について提案してくれた。その第1は，耳を傾けることである。つまり，主の言葉，予言者の言葉，両親の言葉，また私たち一人一人にささやきかける静かな細い声に耳を傾けることであると強調した。そして大会の出席者全員に，「ルシフエルのような，罪をもたらす笛吹きの軽快なメロディーに耳を貸さず，真理の声に注意深く耳を傾けるように」と勧告していた。

モンソン長老があげた第2の提案は，学ぶことである。そしてヤコブ書の聖句を引用した。「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて，ただ聞くだけの者となってはいけない。」（ヤコブ1：22）　私たちは聖典や良き書物から学び，教会幹部のような立派な人々の生活から学び取る必要があると，モンソン長老は語った。

第3の提案は，勤労である。モンソン長老はニーファイの言葉を引用し，「私は主が命じたもうたことを行って行う」（Ⅰニーファイ3：7）と述べた。そして私たちに，神の王国を築くよう努めることによって，証を分かち合うようにと語った。

モンソン長老が提案した最後の言葉は愛である。救い主は律法学者に対して，一番大切な第一の戒めは神を愛することであると答え，「自分を愛する

ようにあなたの隣り人を愛せよ」（マタイ22：39）という第2の戒めについても語られた。

モンソン長老は最後に次のように語っている。

「やがてこの歴史的な大会も終りをつげようとしている。会衆は去り，会場のライトは消え，オルガンから流れていた旋律も聞こえなくなる。しかし，私たちは二度と同じ自分に返ることはないだろう。私たちは予言者の声，スペンサー・W・キンボール大管長の声を耳にした。また愛をもって共に主を礼拝した。私たちは天父の導きがあったことを感じた。皆さんは，それぞれ耳を傾け，学び，働き，そして愛することを決心なさったことと思う。私たちが決心したことを実行できるように，主はいつも助けの手を差し伸べておられる。『見よ，わたしは戸の外に立って，たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら，わたしはその中にはいるであろう。』（黙示3：20）」

また，ボイド・K・パッカー長老の『警めの声』という説教では，この大会のテーマが美しい言葉をもって説かれていた。パッカー長老は教義と聖約第1章の主の言葉を引用した。

「而して，この末の世にわが選びたる弟子たちの口より，すべての人々に警めの声は及ばん。

この末の世の弟子たちは進み行けど，一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ，彼らに命じたればなり。」（教義と聖約1：4－5）

パッカー長老は，先日のアイダホ州のティートンダムの決壊について述べ，家屋や教会，さらに町全体に洪水が及んだ模様を克明に説明した。790の家屋が完全に破壊され，学校，教会，会社の建物など，約800余りの家屋がひどい損害を受けた。濁流による被災者は約7,800人に達し，そのほか盆地に住む25,000人から30,000人の人々が危険にさらされた。

「しかし，その土曜日の朝，人々の間に何が起こっただろうか。正に奇跡である。死者は何人かいたが，溺死者はわずか6名しかいなかった。あのように大きな災害でありながら，なぜ死者がこれほど少なかったのだろうか。

理由はこうである。人々は警告を受けていた。多くの人々はその日の朝，落ちつかず，胸騒ぎを感じていた。そのため，警告が発せられたとき，直ちに避難することができた。人々は警告に心を留めていたからである。末日聖徒は警告に注意を払っている。それは次のような啓示を読んでいたからである。

『そもそも今は警めを告ぐる時にして，多くの言を費すべき時にあらざるなり。主なるわれは，末の世に於て欺かれざればなり。』（教義と聖約63:58）」

パッカー長老は，科学的に計算すれば，約5,300人の生命が奪われたとしても不思議でないのに，その数はまことに少なかったと述べている。その洪水は屋根に上がれば助かるといったたぐいのものではない。家屋が完全に押し流されるような洪水だったのである。多数の人々は何キロも離れた高台に避難しなければならなかった。人々が助かったのは，警告に耳を傾け，その警告を隣人に伝えたからである。

パッカー長老は再び啓示の中から繰り返した。「汝らの旅行中に警告をなしたる者たちに，主を呼びてその受けたる警めを暫しの間心中に深く考えしむべし。……見よ，われは民に証し，民を警めんため汝らを遣わせり。されば，その警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。」（教義と聖約88：71，81）

さらにパッカー長老はこう述べた。「人々が助かったのは，次のようなことがあったからである。警告が発せられると，人々は皆，家族や隣人に向かって警告の声をあげた。……彼らは行き当たりばったりにそうしただろうか。いやそうではない。人々は大声をあげ，叫んで警告し合った。自動車の警笛を鳴らし，あらゆる手段を用いて，警告を発した。『谷から逃げろ。洪水がやってくるぞ！』

溺れた6名のうちのひとりは，ダムのすぐ下にいたため，なすすべがなかった。他の5名は警告に耳を貸さなかったか，何かを取りに戻ったかで溺れたのである。人々は皆警告を受けると，すぐに隣人に警告を与えた。それは正に偉大な奇跡のドラマである。奇跡の連続であった。そしてこの大災害自体が，ひとつの警告として人々の心に浮かび上がってきたのである。

最後にパッカー長老はこう結んだ。「今はまさに主の計画における土曜日の朝である。私たちは喜んでその業に励み，日々の生活に邁進している。しかし私たちの中には，不安で，心の落着きを失っている者も少なくない。この大会を通じて，私たちは予言者や使徒たちの叫ぶ，警告の声を耳にしてきた。彼らは叫んでいる。『谷から逃げよ。高台に避難せよ。洪水の危害から逃れ，罪悪や霊の災いを退けよ。』私は再度繰り返したい。この警告を与える義務があることを。』

兄弟姉妹ならびに友人の皆さん，地域大会の目的，総大会の目的，そしてこの大会の主要な目的は，この警告の声を発することである。そして，その警告を受け，警告の声を耳にしたあなたは，あなたの隣人に警告を与えなければならない。私たちが与えられた警告に耳を貸さず，隣人に警告を発することをしなければ，私たちは皆失われてしまうであろう。

多くの人々がその心と耳をふさぎ，主のみ言葉から離れ去っている現在，イエス・キリストの福音の原則をさらに勤勉に，忠実に，熱心に宣べ伝えることは，それを信じている者全員に課せられた義務である。私は神が生きておられ，イエスがキリストであり，この教会が，予言者スペンサー・W・キンボール大管長を通じて主が導いておられる主の教会であることを証したい。私たちがそのような生活を送り，神に背を向けて戒めを破るときに受ける滅びから，家族や愛する者と共に救われるように。

また，私たちが皆，正義のみ業に携わり，愛の心を持ち，真理の証を述べて，予言者の語る警告の声に耳を傾け，隣人に警告を発することができるように，イエス・キリストのみ名によって心から祈るものである。アーメン。

正しい自己管理

十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン

私たちは自己を正しく評価することによって自己を再認識し，
自己のイメージを高く持ち，自尊心を育むことができる

ある有名なフットボールコーチが最近，優秀な選手の条件としてある特別な資質をあげていた。優秀な選手はチームワークに秀でているだけでなく，個人技においても他に抜きん出ていなければならない，と彼は言う。一流の選手になるためには，肉体的にも精神的にも，必要なすべての資質を具えていなければならない。個人としての誇りも必要であるし，自己のイメージも確立していなければならない。また忍耐や自制心の点でもチームメートや友人に，「彼は冷静ないい選手だ。何をどうすればよいかよく知っている」と言われるようでなければならない。

正しい自己管理は，自尊心を育む大切な美徳のひとつであり，この自尊心は人を動かす大きな力となる。自分が何者であるかを知り，そのように振る舞うことは，ひとつの美徳である。私たちが神のかたちに造られていることは大いなる祝福であり，また同時に大きな責任を伴うものである。

「あなたがたは神の宮であって，神の御霊(みたま)が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が，神の宮を破壊するなら，神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら，神の宮は聖なるものであり，そしてあなたがたはその宮なのだからである。」（Ⅰコリント3：16，17）

正しい自尊心を持てば，いいかげんな振舞いはしなくなる。また正しい自己のイメージは自尊の心を育む基となるものである。自分自身を目的を持って効果的に訓練するためには，この正しい自己のイメージが必要である。ここで，自己管理の基本について，少し検討を加えてみたい。

一般的に言って，本の表紙やカバーは，その本の中味を売り込むためのものである。同じように，私たちが死後に受ける裁きも，生命の書の表紙に左右されることはない。そこで「問題は中味なんだ。髪の長さやひげの長さではない」と言う人がいる。そういう人に一言申し上げたい。「確かに，私もその通りだと思う。しかしそれが本当なら，どうしてあなたはあえて別の自分を見せようとするのか。」　私はこれまで，容姿の問題についていろいろな人と話してきたが，その人たちの考え方を変えさせる上で効果的な方法は，その人の自尊心と印象とイメージにやさしく訴えることであると言える。

自己のイメージは着る物によって高められるものである。ふさわしく，慎み深く，着る人を美しく見せ，また人に安らぎを与える服装は，着る人の心を高めてくれる。逆に華美な，あるいは慎みのない服装は，良くない印象を与え，誤解を生む。また，ふさわしくない服装から誤った行為に走ることもある。私は盲人の友を数名知っているが，いつも彼らに賞賛と尊敬の気持を抱いている。彼らは自分自身もほかの人も見ることができない。にもかかわらず，いつも小ぎれいで，端正な身なりをしている。これは，その盲人が自分自身に対して良いイメージを持つことができるように，盲人自身や盲人の世話をする人々が努力しているのである。目の見えない人がこのように努力しているのに，目の見える私たちが内にないもので外観を装うとするならば，それは私たち自身にとっても，他の人にとっても，大きな不正であると言わなければならない。

ここで，それぞれ次のように自問してみてはいかがだろうか。「私は自分の服装に誇りを持てるだろうか。自分にふさわしい服装だろうか。」　予言者ジョセフ・スミスが経験した輝かしい訪れほど，ふさわしい容姿を表わしている例はないであろう。ジョセフ・スミスはこう述べている。「私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方……を見た。」（ジョセフ・スミス2：17）

私たちがいろいろなところに出かける準備をするとき，一番時間をかけるのが，身なりをきちんとすることである。ある母親はこう語っていた。「私が髪をとかし，口紅をぬって，きれいなドレスを着ていると，子供はいつも『お母さん，どこかに行くの』と言います。わが家ではおめかしできないのでしょうか。そのとき，私は家にいて家事をするときに，ほとんど身なりに関心がなかったことに気づきました。買物に行くときか人を訪問するとき以外は，ずっと仕事着のままだったんです。よそを訪問したり，教会に行ったりする特別な場合以外は，忙しいことを理由に身なりに気を配っていませんでした。ですから，特別な理由もなしにおめかしすると，子供がけげんに思うのも無理のないことですね。」

私たちがこの人生で絶えず希求するもののひとつに，自己を知るということがある。このことについて，トーマス・ハリス博士は次のような言葉を述べている。至言である。「たいていの人は，いつまでたっても劣等感に悩む無力な子供の状態から脱けきらず，内に秘めた力を発揮することができない。大丈夫だという気持だけでは，欠点も情緒面での問題も克服できない。そうした欠点や情緒面での問題によって自分自身が無力な者とされるのを拒んでいるにすぎないからである。人は自分のありのままの姿を受け入れなければならないが，それと同時に，自己の生活をさらによく管理するよう努めなければならないのである。」

自己についてよく理解し，神がすべての人に賜と才能を与えておられることを認識することは，価値あるチャレンジである。「何となれば，賜は多くあれどすべての人は神の『みたま』によりてその一を受くればなり。

ある者はある賜をたまわり，また他の者には別の賜をたまわり，かくしてすべての者これによりて益を得るなり。」（教義と聖約46：11－12）

自己の限界と潜在能力に絶えず注意を払うことは，自尊心を高めるのに役立つ。私たちは自分が神の子であるという事実を絶えず心に留める必要がある。神は私たちをよく御存知であり，私たちの祈りを聞き届けて下さる。神は私たちを愛しておられる。正しい自己のイメージを抱くことによって，私たちは日々の行ないと生活を，また心を幸福の道に向けることができるのである。私たちに神から授かった属性があることを知っていることは，何と誇らしいことだろうか。かつてアブラハム・リンカーンはこう語った。「自分自身の価値を認め，自分が偉大な創造主の子孫であると主張する者は，容易に自らをみじめな状態に置くことはない。」（1862年8月14日，ワシントンで黒人代表に語った植民地化問題に関する演説より）

私たちに課せられた義務は，自己憐憫，自己卑下，放縦を避けることである。私たちは神との関係を正しく理解するならば，一瞬たりとも，また一日たりとも次のような疑問に悩まされることはないだろう。「私にはこれを受ける価値があるだろうか。」「神は私のためにならないことをなさるだろうか。」「なぜ私は友達が持っているような才能を持って生まれてこなかったのだろうか。」

私たちが家族，隣人，その他いろいろな組織の人々と正しい関係を保つためには，まず私たちの方から心を開き働きかける必要がある。礼儀正しく，自己を大切にする気持を忘れてはならない。他人と交わるときは，謙遜な気持がなければならない。私たちは正しい自己管理をすることによって，まずチームの一員となる。コーチやキャプテンや花形選手となることは，その次の問題である。このような関係や生活の中でこそ，「もしひとつとならずば汝らはわがものにあらず」（教義と聖約38：27）という真理が新たな重要性を帯びてくるのである。

そのほかに，効果的な自己管理をする上で大切なことは自己訓練である。自分の行ないを制すること以上に，大きな満足感を得られるものがほかに何かあるだろうか。健康をもたらす習慣，誠実さ，忍耐，決まったことをきちんと行なうこと，人との対話，そして自制，これらはいずれも個人の心の貸借対照表の中で大きい資産となり得る。こうした特徴が外に現われるようになると，自己管理がよくできていることがわかるのである。自己に誠実である人は，神と家族，そのほか日々交流のある人々に対しても正直に接することができ，あらゆる人々との関係においてその誠実さを保つことだろう。従って人は，その進む方向が定まっていなければ，まっすぐに歩むことはできない。いかなる時，いかなる状況のもと

訪問者

でも，自分はどこを目ざしているのかを知る必要がある。自らの価値を低下させる道ではなく，逆に向上させる道を歩んでいれば，悪の訪れを回避することができる。価値ある業に邁進し，神の王国を第一に求める姿勢は，正しい自己管理と自己の才能の正しい応用の結果として生まれてくるのである。

自己訓練を教えるときは特に，あざけったり，恥をかかせたり，泣かせたりすることによって態度の改善を図ろうとせず，逆に自己を尊重し，大切にすることを教えるようにしなければならない。私たちの生活の中で起こる大きな悲劇のひとつは，この自尊心を傷つけられることである。しかもそれはたいてい自分自身が招いた苦しみに起因している。この自尊心を築くのは，気持を卒直に述べ，模範を示し，礼儀正しく接する態度である。人は他人から自分の望んでいる理想の人として扱われることによって，大きな励ましを得るものである。私の経験では，たいていの思慮深い人は，脅しや権力によって説得するよりも，親しい態度で諭した方がよく聞くものである。

健康をもたらす習慣についても同じことで，相手を非難したり不快にしたりするよりも，この世と永遠の双方にとって価値があることを適切に強調した方が，一般にはよく改善されるものである。太っている人には，適当な食事療法をし，運動をした方が健康にも容姿にもよいことを勧めるべきである。ほとんどの人は，しんらつな非難を浴びせられるよりは，自分が行なったこと，あるいは行なおうと誠実に計画したことに対して，心から理解してもらう方がよくそれに応じるものである。

私たちは恨みや悪意の中で自分を失ってしまい，健康の面で自らを訓練する力を弱めていること，あるいはそれを全く失っていることが往々にしてある。最近，私は覚せい剤を常用しているひとりの若者と話す機会があった。「なぜ覚せい剤などを使用するのだね」という私の問いに対して，彼はこう答えた。「母に仕返しをしてやりたかったからです。」　また結婚して子供のいる若くて美しい女性で，カクテルを愛飲している人がいた。私はこう尋ねた。「どんなきっかけで飲むようになったのですか。」　すると彼女は答えた。「夫の父が私につらくあたるんです。」もし覚せい剤やアルコールを常用する適当な理由があるとすれば――私はまだそんな理由を知らないが――このふたりの友が述べた理由に勝るものでなければならない。神と人間の栄光は，英智を働かせて自己管理をするところにある。

ふさわしい服装をし，身なりを整え，髪を端正に整えることと同じように私たちの自己のイメージと品行にとって大切なものは，優しい声，ふさわしい言葉使い，良い作法，他人の権利の尊重，そして礼儀である。

個人的にも，また公衆の場においても，公正な考えを抱き，適切な言葉を使い，礼儀正しく振る舞う人を見るとき，私たちは恥ずかしさを感じ，心が高められる思いがする。礼儀作法を守ることは，社会生活に必要な品位と和を保つ上で欠くことのできないものであり，私たちが第一に関心を示さなければならない問題である。しかしながら私たちがよく目にし，耳にするのは，この礼儀作法を身につけるということよりも，食事療法や運動によって容姿を整え，人々に受け入れられるということの方である。礼儀は自然な形で態度や言葉に表われるのが最も素晴らしい。礼儀は昔の人々が作り出した遺物でなく，長い間培われてきた生活方式なのである。モーセがシナイ山から持ち帰ったのは十戒だけではない。モーセは誤解の生じないようにはっきりと，紳士としての振舞いについて規定していることを，私たちは心に留める必要がある。同国人，他国人の区別なく礼を尽くし，目の見えない人，口のきけない人，老人，疲れている人を敬い，うわさ話を慎むよう告げている。

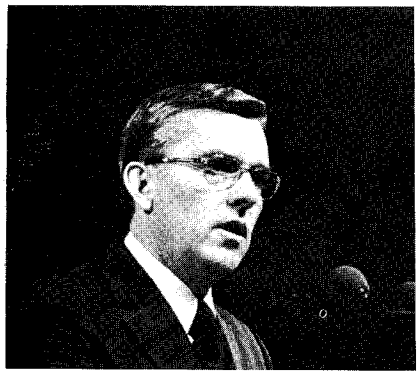
礼儀は特定の友人や特定の場に限られる特別な行為ではない。特殊な社会環境や特殊な人々にだけあてはまるといったうわべだけのものでもない。家であろうが会社であろうが，あるいは高速道路を走っているときであろうが，非常に大切な，ひとつの生活様式なのである。予期せぬ出来事から来る衝撃を和らげ，動揺を抑えてくれるものである。私たちは親しいからとか，状況が状況だからとか言って，無作法を正当化したり，大目に見てもらったりすることはできない。人との交流の場で自然に表に出てくるものは，私たちが日頃から家庭で教えられ，培っている礼儀作法なのである。

また約束や集会の時間を守ることも自己訓練の一要素であり，自己を尊ぶことの表われである。時間の厳守は，知性ある人がその友に送る，礼儀正しい賛辞のひとつである。その人の時間に対する観念は，新しいグループや友人たちに初めて接するときの紹介状のようなものである。時間を守るという礼儀や分別を持たない人は，同時に落着きも平静さもない人である。

友人との関係で忍耐強い人は，自己訓練のよくできている人である。そのような人は話すときも思慮深く，聴く耳を持っている。決してほら吹きでも，おしゃべりでも，また無作法でもない。のべつまくなしに話す人ではなく，話す必要のあることだけを話す人こそ賢い人である。

私がきょう心に願い，祈ることは，私たちが自分自身に対して新たな義務感として認識を持ち，自己のイメージを高め，そして自尊心を育むということである。私たちは神の子供であり，神から与えられた属性を持っている。私たちは皆指導者となるために学ぶ機会を得ているし，またそうする義務がある。そして「彼は冷静ないい選手だ。何をどうすればよいかよく知っている。彼は自分自身をよく管理できる人間だ」と言われるような生活をしようではないか。そうするときに，私たちは王国でさらによい働きができ，またロレンゾ・スノー大管長が述べた，「人が現在あるがごとく神もかつてあり，神が現在あられるごとくに人もなり得る」という感銘深い言葉をよく理解できるのである。これこそが正しい自己管理である。

この話と証を，私たちの完全なる模範者イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



宣教師の備え

七十人第一定員会会員
M・ラッセル・バラード・ジュニア

両親と教会指導者への提案

兄弟姉妹の皆さん，私は伝道部長の任を受けていてこの大会に出席することになったが，まるで戦地にいる司令官が前線から本部に召還され，総司令官，統合参謀本部ならびにその他の幹部に戦況を報告しているような気持である。

この戦いは銃や兵器を使っての激しい戦争ではない。天父の子供たちを獲得するための，正義の軍隊と悪の軍隊との激烈な戦いである。しかも正に現実の戦いなのである。

私は伝道地においてその前線の責任をあずかる者として，心から証したい。敵は非常によく訓練されており，この永遠の戦いの戦術に通じている。悪魔の軍隊はあらゆる罪深い行ないを考え出し，雑誌，ラジオ，映画，テレビなどすべての手段を利用して，その目的を遂げようとしている。恐らく，最も巧みな方法は，人々の心と思いを見すかし，神と御子イエス・キリスト，さらにはその教会に対する関心をそらすために用いる，無感動，無感覚の気持であろう。

偉大な予言者モルモンはこう教えている。「それで善いものはみな神から出るし，悪いものは悪魔から出る。悪魔が神の敵であってたえず神に背き，人を誘惑してこれに罪を犯させいつも悪い事をさせようとする者である…」（モロナイ7：12）

私は自分の経験から，キンボール大管長が求めているような速さで教会を築くためには，私たち全員がもっとよい福音の教師となるように努力し，備えなければならないと考えている。私は，バプテスマを受けて，新たに教会員となった人々の生活に，非常に大きな喜びがもたらされている様子をしばしば目にする。また，バプテスマ会のたびに，ひとりの人を改宗に導くために，会員と宣教師がどれほど多くの準備をしなければならないかを思い起こすのである。

そして，私はこう自分に問いかける。「私たちは両親として，また指導者として，どうすれば正義の原則を守る方法を若人にもっと効果的に教えることができるだろうか」と。

その答えとしては，よりよい訓練と準備しかないように思われる。私は大会で初めて話す機会をいただいたが，この準備をするにあたって，助けの必要性を感じた。そこで宣教師のところに行って，伝道に出る前にどのような準備をしたか尋ねてみた。彼らの回答から何がしかのことが学べるものと思う。

最初の質問はこうである。「どうすればもっとよく伝道の準備ができたと思いますか。」

宣教師たちは，次のように答えた。「聖典をもっとよく勉強しておけばよかったと思います。セミナリーや他の教会のクラスにもっと積極的に参加しておけばよかった。」「祈りの方法や主との関係をもっとよく理解しておけばよかった。」「もっと早くから，自分の証を確かなものにするように努力しておけばよかった。」

教会の若人の皆さんに申し上げたい。皆さんは，永遠の福音の真理に関する知識をもって，すなわちイエスはキリストであり，キリストの教会が生ける予言者を通してこの地上に回復されたこと，またモルモン経が神のみ言葉であることをよく知って，伝道に出るように，と。

私は次のニーファイの言葉が好きである。「それであるから，私はキリストの言葉をよく味わえとあなたたちに勧めた。それはキリストの言葉は，あなたたちのしなくてはならないことをみな教えるからである。」（IIニーファイ32：3） 若人の皆さん，主の道を研究し，学ぶ時間をさらに多く取り，人生で最も価値ある投資をしてはいかがだろうか。今それを行なうならば，あなたは主のみたまを伴侶として伝道に出ることができるであろう。そして，人々に福音を熱心に，またわかりやすく教えたいという望みを遂げることができるに違いない。

皆さん一人一人の上に主の祝福があって，自分が価値ある存在であることをはっきりと自覚し，この大いなるみ業において果たす重大な役割をよく認識した宣教師となれるように。また，伝道に出る前によく準備することによって，証が深くしっかりと根を張り，たとえ艱難の風が吹こうとも，その嵐を乗り切って，この偉大な教会の発展に十分に貢献できるよう祈っている。

次いで，私は宣教師に次のように質問した。「お父さんはあなたにもっとよく準備をさせるために，どのようなことができたでしょうか。」

次にあげるのが彼らの返事である。「神権についてもっと教えてもらえたはずです。」「神権が正義の業を推し進めるための力であることを理解できるように教えてほしかった。」「父から祝福を受けたかった。」「お金の上手な使い方について教えてもらいたかった。」「目標を立て，それを達成する方法について教えてもらいたかった。」「一緒に祈ったり，父の証を聞いたりする機会があれば良かった。」

ここで私自身の経験を話したいと思う。トロントに着いて間もなく，私たちは子供を学校に入学させる準備をした。5歳の息子は幼稚園に行くことになっていたが，当日行くのをいやがった。そのことで妻と私は少し心配した。そこで私は息子を部屋に呼んで，宣教師たちが「電気椅子」と名づけていた椅子に座らせ，面接をしたのである。

大きな黒いすによじ登るようにしてかけた息子に向かって，私は尋ねた。「何かパパにできることは……」

私はそのときの心配気な息子の顔を決して忘れることはできない。息子は少し唇を震わせながら，こう答えた。「パパ，幼稚園行きたくないの。」

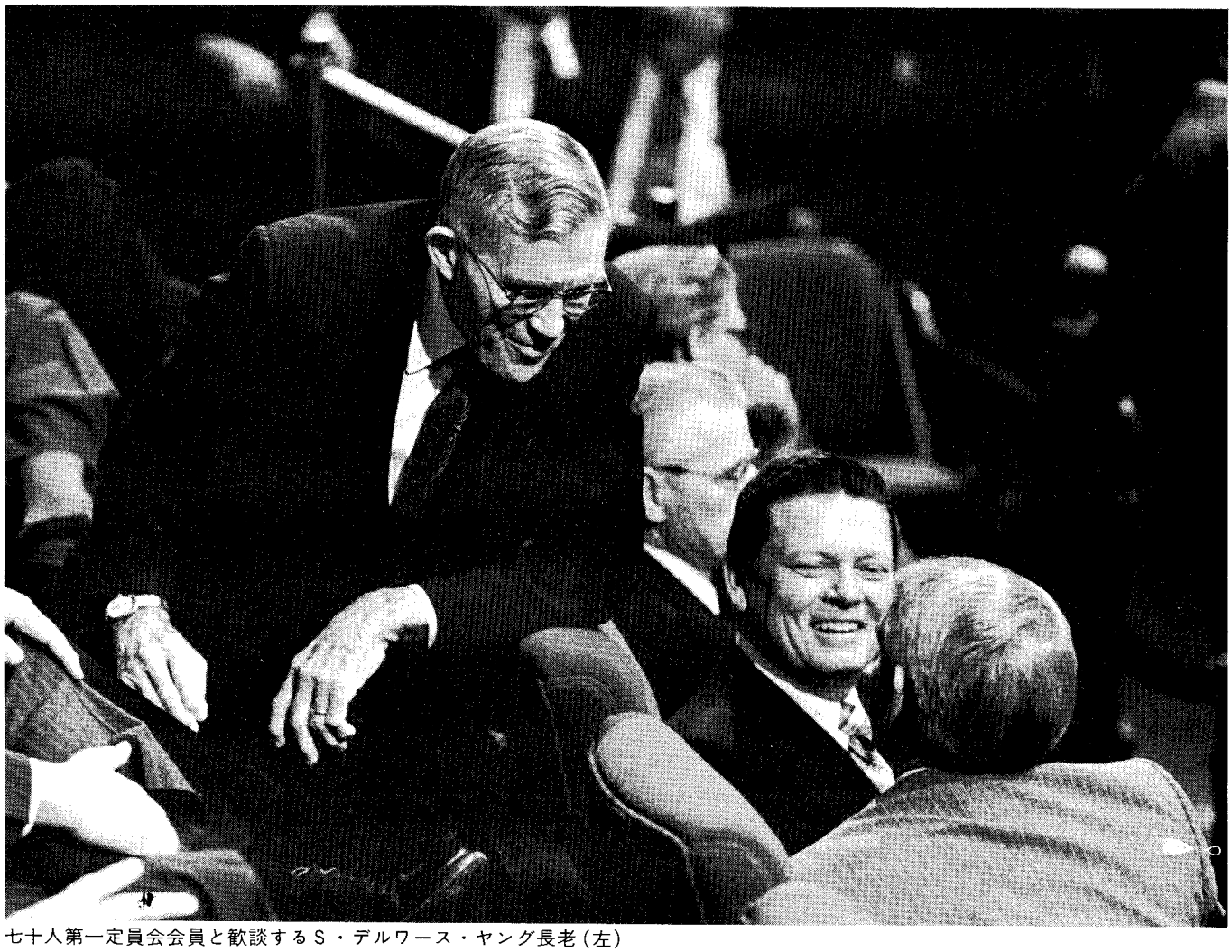
私は息子の気持がよくわかった。前に住んでいた町には同年齢の友だちが何人かいたが，伝道本部の近所には同じ年齢の友だちがひとりもいなかったからである。私は言った。「クレイグ，君にはいつも友だちがついているだろう。一緒にひざまずいて，その友だちに君を助けてくれるように祈ろう。」

主はクレイグにこのことから勇気を与えて下さった。それから私たちは毎朝話すようになり，いつも私が祈りを捧げた。

こうして2週間ほどたったある朝を境に，クレイグは私の部屋に来なくなった。そして父と子の特別な祈りもなくなった。クレイグは勇気を得，友だちを見つけたのである。以後，わが子との毎朝の特別な時間がなくなって寂しく思ったのは，むしろ私の方だった。私は伝道中のこの体験が末長くクレイグの記憶に残り，彼が召されて伝道に従事し主に仕えるとき，大きな力の源となるようにと願っている。

父親である皆さん，あなたは第一線の神権指導者である。宣教師はほとんど例外なく，父親を愛し，尊敬している。教会の将来の宣教師を訓練し，備えるのは，世界中にあなたをおいてほかにいない。

次に，教会の素晴らしい母親の皆さんに，長老たちの言葉をお聞かせしたい。「お母さんはあなたにもっとよく準備させるために，どのようなことが



七十人第一定員会会員と歓談するS・デルワース・ヤング長老（左）

できたでしょうか。」

「母には，料理，掃除，洗濯，買物，健康管理，繕い物，即席料理，その他あげればきりがありませんが，家事についていろいろ教えてほしかったと思います。」　立派な宣教師となるためには，霊的な結びつきも必要だが，宣教師がこの世的な事柄にあって満たされることも，私たちが想像している以上に重要である。

母親である皆さん，子供たちを他の人が何を必要としているかよく気づく子供に育てていただきたい。子供たちに，人間関係をよく保つための基本原則を教え，実行させていただきたい。子供たちの肩を抱き，その目を見つめ，楽しい実り多い伝道のために，これらの方法を学んでおくよう言っていただきたい。あなたの息子や娘は，母親の愛ある眼差に必ずや応えることだろう。

この対話の中で，宣教師たちは指導者に対する愛についても述べていた。そして，ステーキ部長，監督，神権指導者，教師も，彼らをもっとよく準備させることができたはずだと指摘していた。宣教師に期待されることをもっと具体的に説明してくれていたら，面接ももっと多く，しかも細部に至るまでしてくれていたら，主に従う気持をもっと早く起こさせていてくれたら，またどのようにしたら積極的に熱意を持って取組む姿勢が生まれるかについて教えてくれていたら，と語っていた。

宣教師たちが伝道に出る前にこれらの原則についてもっと教わっていれば，彼らは初めから歩みを速め，伝道の業を一層速めることができるはずである。そうすれば，彼らは伝道に出た最初の日から，聖霊の力によって福音を説くことができるからである。

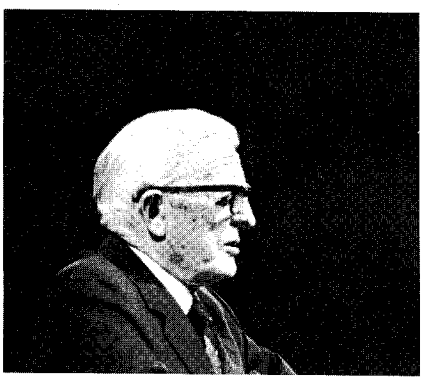
キンボール大管長は，1974年に伝道に召された伝道部長たちにこう述べた。「福音伝道の収穫は急を要する問題である。今や人も国家も，その行く末を自らの手で選びつつある。あらゆる人々は重大な危機に瀕している。正に戦場にいるのである。私たちは過去の世代に対しては責任がないかもしれないが，しかし現代の人々に対する重大な責任を回避することはできない。私たちは今，時と人と宣教師，そして偉大な可能性を託されているのである。」（1974年6月27日，伝道部長セミナー）

私たちに託された偉大な可能性とは，天父と御子イエス・キリストのみもとに永遠に住めるように世の人々を備えることである。このために，私たちは福音を全世界の人々に教えなければならない。教会外の友人の皆さん，しばらくの間，次のことを自分に問うていただきたい。「私はどこから来たのか。死んだらどこに行くのか。」きょう，私は，教会員と宣教師に，さらに一生懸命に備えをして，私たちが知っているこの真理をこれまで以上によく皆さんに分かち合えるよう勧めてきた。私たちは皆さんを愛している。どうかこのメッセージに耳を傾けていただきたい。私たちは，今日神がこの地上で認められた唯一の神権の権能によって，このイエス・キリストの真実の福音を説いているからである。私たちは皆さんの御質問に答えることができるし，またイエス・キリストの完全な福音がこの地上に回復されたという証拠をお見せすることもできる。私たちはこの真理について説くので，皆さん自身が判断していただきたい。私たちは皆さんにモルモン経を差し上げる。皆さんは御自分でそれを読み，主イエス・キリストの第二の証人であるこの書物が，聖書と同じように神のみ言葉であり，私たちのメッセージの真実性を証するものであることをお知りになるに違いない。

友人の皆さん，この教会の会員以上にイエス・キリストの福音を効果的に教えるための備えをよく行なっている人々が地上にいるだろうか。どうか時間を割いて，この栄えある回復のメッセージに耳を傾けていただきたい。

私は皆さんに証する。この教会は今日この地上における唯一のイエス・キリストの教会である。また，私たち教会員のこの世における大切な使命は，この福音の真理を，天父のすべての子供たちと分かち合うことである。私たち一人一人の上に主の祝福があって，私たちが聞く耳を持ち，目を開いて，共に福音に従って生活し，この福音しかもたらすことのできない本当の喜びを見出すことができるように。イエス・キリストのみ名により心から祈るものである。アーメン。

タバナクルの入場を待つ人々



われら誓約を交わす民なれば

七十人第一定員会会員
ジョセフ・アンダーソン

私たちの求める幸福は，神と交わした誓約を守ることによって得られる

いつの時代にも，義なるイスラエルは，誓約を交わす民である。

古代のイスラエルは，生ける神，感情，感覚を具えた神を礼拝していた。人はその神のかたちに創造された。この点で，彼らは，他のすべての民と異なっていた。

またもうひとつ違う点は，彼らが毎週安息日を遵守していたことである。エホバはイスラエルに，他の国々はこれをもってイスラエルを特別な民と認めるであろうと語っておられる。

エホバはイスラエルに，什分の一として収穫の10分の1を収めるように命じられた。これもまた，神の民としての重要な特徴である。

主はアブラハムと誓約を交わし，アブラハムを偉大な国民とし，彼の名を大いなる者とすると告げられた。主は次のように語っておられる。「あなたを祝福する者をわたしは祝福し，あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは，あなたによって祝福される』（創世12：3） この永遠の誓約はイサクに，また次いでイスラエルと呼ばれたヤコブに確認された。

アブラハムの子孫に関する限り，この誓約は文字通り実現されている。アブラハムとその子孫により，この世のすべての国民は祝福されている。イスラエルの子らは全地に散らされている。ほかにも祝福の成就を見ることができる。すなわち，贖い主が出たのはアブラハムの血統からであった。そしてその救い主のこの世におけるみ業と犠牲により，過去，現在，未来にわたるこの世のすべての民が祝福を受けるのである。

主はまたアブラハムと次のような誓約を交わされた。「わたしはこの地をあなたの子孫に与える。エジプトの川から，かの大川ユフラテまで』（創世15：18）

現在アブラハムの子孫は，その地と祝福を求めて戦っている。

「さて，モーセが神のもとに登ると，主は山から彼を呼んで言われた，『このように，ヤコブの家に言い，イスラエルの人々に告げなさい。

あなたがたは，わたしがエジプトびとにした事と，あなたがたを鷲の翼に載せてわたしの所にこさせたことを見た。

それで，もしあなたがたが，まことにわたしの声に聞き従い，わたしの契約を守るならば，あなたがたはすべての民にまさって，わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。

あなたがたはわたしに対して祭司の国となり，また聖なる民となるであろう』 これがあなたのイスラエルの人々に語るべき言葉である。』

それでモーセは行って民の長老たちを呼び，主が命じられたこれらの言葉を，すべてその前に述べたので，民はみな共に答えて言った，

『われわれは主が言われたことを，みな行います』。 モーセは民の言葉を主に告げた。（創世19：3－8）

しかし，古代イスラエルは主と交わした誓約を守り通すことができなかった。その結果主の怒りが下り，災いが彼らに及んだ。

今日の末日聖徒イエス・キリスト教会の聖徒も，神の誓約を交わしている民である。

福音は永遠の誓約である。教義と聖約の1章で，主はジョセフ・スミスに次のように語っておられる。「主なるわれ，この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば，わが僕ジョセフ・スミス（二代目）を呼び天より語りて彼に誡命を下せり。

わが永遠の誓約は確立せられ，完全なるわが福音，弱き者たち単純なる者たちにより，世界のいやはてまでも宣べられ，また王と統治者との前に宣べられんがためなり』（教義と聖約1：17，22－23）

また教義と聖約22章には次のように記されている。「この事は新しき且つ永遠の誓約にして，すなわち始めよりありしところのものなり』（教義と聖約22：1） これが主イエス・キリストの福音である。

45章で主は再び次のように語っておられる。「またかくの如く，わが永遠の誓約を世に遣りて世の光となし，またわが民とこの光を求め来る異邦人とのために一つの旗となし，わが前に道を備うるためわが前に立つ一人の使となしたり』（教義と聖約45：9）

水に沈めるバプテスマも，この誓約，この永遠の誓約の一部である。人は，バプテスマの水に入る前に，福音について学ばなくてはならない。また主が語っておられるように，これは永遠の

誓約であり，世の光であり，主の民の光であるという信仰を持たなければならない。そして悔い改め，悪の道を捨てることによって誠意と信仰を示し，その後バプテスマの誓約を交わす。この聖なる儀式を有効なものとするためには，イエス・キリストから正当な権能を受けた者が儀式を執り行なう必要がある。

水に沈められるバプテスマの後，私たちは権能を受けた主の僕の按手によって聖霊を受けなくてはならない。こうするときに，ふさわしければ霊感や啓示による個人的な導きを受ける準備が整うのである。

これらの誓約はすべて，主の戒めを守ることに関係しており，約束された祝福はその戒めを守るか否かにかかっているのである。

私たちがこの地上に来る前の霊界での出来事について，アブラハム書の中で神々は次のように語っておられる。

「而して，これによりて彼らを試し，何にてもあれ，主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

而して，最初の位を保つ者は更に附け加えられ，最初の位を保たざる者は，最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。」（アブラハム3：25－26）

バプテスマの水に入るとき，私たちは主の戒めを守るという誓約を主に交わす。

また聖餐にあずかるとき，私たちはその誓約を新たにする。私たちの主である救い主による贖いの犠牲を思い起こすために，その象徴を受けるのである。そのとき私たちは主のみ名，すなわち私たちの救い主であるイエス・キリストのみ名を喜んでその身に受けることを明らかにする。そして常に主を忘れず，主が下された戒めを守ることを誓約する。私たちがこれらのことを行なうならば，主のみたまは常に私たちと共にある，と主は約束しておられる。私たちは主と交わした誓約を守るならば，主は確かにその約束を果たして下さるであろう。

古代イスラエルの場合と同様に，什分の一の律法は，現代のイスラエルに啓示された永遠の誓約の中で最も顕著なものである。主は次のように宣言しておられる。「見よ，人の子の来るまで今より後を『今日』と称えらる。誠に『今日』は犠牲の日，わが民の『什分の一』を捧ぐる日なり。この『什分の一』を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。」（教義と聖約64：23）

1831年8月7日，安息日の遵守について主は教会に次のような戒めを下された。

「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様，祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。

訪問者センターで

そは誠にこの聖日は，汝命ぜられて働きを休み，いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。

さりながら汝の誓言は，正しく毎日常に神に捧げられざるべからず。

されどこの主の聖日に於ては，いと高き者に汝の捧物と聖式とを奉りて，兄弟たちに向い主の前に於て汝の罪を告白するを忘るべからず。

而して汝この日には他に何事をもなすことなかれ。ただ汝が断食を完からしめんため，「言い換うれば汝悦びを以て充されんため，真心をこめてその食物を支度することのみを為すべし」（教義と聖約59：9－13）

さらに，これらのことを行なうならば，地に満ちるものはすべて私たちに与えられるという約束の言葉が続いている（教義と聖約59：16参照）。この中で主は，地に満ちるものとは何かについて詳しく述べられた。

私たちは，この戒めに従って生活しているだろうか。そうでないときに，主と交わした誓約を守っている人々にもたらされる祝福にあずかることができるだろうか。主は次のように語っておられる。「されど汝知るべし。正しき業を行う者はよき報いを得，すなわちこの世に在りては平和を得，次の世に在りては永遠の生命を得ん」（教義と聖約59：23）

神権を受けるとき，私たちは誓約と約束を交わしてそれを受ける。教義と聖約の中で主は次のように語っておられる。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権〔メルケゼデク神権とアロン神権〕を得，而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは，『みたま』により聖められてその肉体再新さる。

主は言う，またすべてこの神権を受け入るる者は，われを受くるなり。

そは，わが僕らを受け入るる者はわれを受くればなり。

また，われを受け入るる者はわが父を受くるなり。

而して，わが父を受け入るる者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。

而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。

この故にこの神権を受くる者は，すべてわが父のこの誓詞と誓約とを受け，而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし」（教義と聖約84：33，35－40）

私たちの中には，神権を受けた後に誓約を破り，これに背く者がある。私たちはこれらの人々が悔い改め，その過ちに対する赦しを求めるよう，また神権の誓約を尊び，主の戒めを守る者に約束されている祝福にあずかるにふさわしい者となるよう，切に願うものである。

主は予言者ジョセフ・スミスを通じて与えられた啓示の中で，日の光栄の王国には三種の天界すなわち三種の栄光の階級があり，天父の王国の最高の栄光を得るためには，新しくかつ永遠の結婚の誓約を交わさなくてはならないことを明らかにしておられる（教義と聖約132：15－21参照）。言い換えれば，永遠にわたる結婚をしなければならないのである。主のみ手による祝福を受けるためには，定められた律法に従わなければならない，と主は説明しておられる。主は次のように語られた。「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて，あらゆる祝福はこれに基くなり。

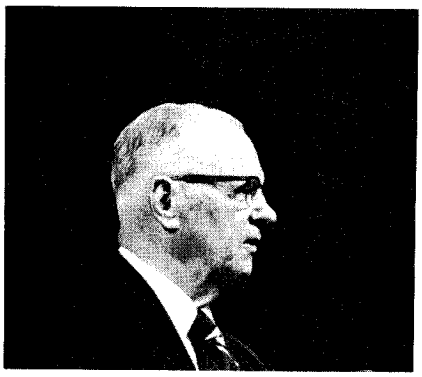
すなわち，われら何にても神より祝福を受くる時は，この祝福の基く律法に従うによりて然るなり」（教義と聖約130：20－21）

従って，結婚の誓約を交わし，約束の聖きみたまによって結び固められるためには，この末の時代にその権能の所有者として主が任命し認められた人を仲立ちとして，これを行なわなければならない。家族の絆を永遠のものとする誓約は，この上なく重要なものである。永遠の御父とその御子のみもとに戻り，永遠の生命を得るためには，それに関わる誓約を守らなければならない。古代のモルモン経の予言者は，次のように語っている。「アダムが堕落したのは人類を生ずるためであり，人類が現世に在るのは幸福を得んためである」（IIニーファイ2：25）　真の喜び，すなわち天父のみこころにかなう喜びを得るためには，福音に結びついた誓約と戒め，新しくかつ永遠の誓約を尊ばなければならない。

大会訪問者

この神権時代の最初の予言者ジョセフ・スミスは，次のように語った。「幸福は私たちが存在する目的であり目標である。従って，もし幸福につながる道を歩むなら，幸福は究極の目的となるであろう。この道とは，徳，高潔，忠実，清いこと，そして神のあらゆる戒めを守ることである」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.255）

神は生きておられる。イエスはキリストであり，スペンサー・W・キンボール大管長は主の予言者である。また，生命と救いの計画である主の永遠の福音，すなわち新しくかつ永遠の誓約が，この地上に回復されたことを，イエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。



使徒パウロの教え

十二使徒評議員会会員
デルバート・L・スティブレー

パウロの言葉は疑問に対する答えと導きと力を与え，それに従う者は平安と幸福を得る

兄弟姉妹ならびに友人の皆さん，きょう私は使徒パウロの言葉を引用しながら話を進めていきたいと思う。この言葉は1900年以上も前に与えられたものである。話を始めるに当たり，パウロについて少し御紹介しよう。パウロはユダヤとローマ双方の市民権を持ち，タルソのサウロとして知られていた。やがて彼は，イエス・キリストを主とし王として受け入れる人々を猛然と迫害するようになった。しかしこれは悪意によるものではない。彼は信念をもってユダヤ教に敵対する者を懲らしめていたのである。

ところが，聖徒を迫害するためにダマスコへ向かう途中，突然天から目もくらむばかりの光がさして，サウロは力を失い，地に倒れてしまった。すると次のような声があった。「サウロ，サウロ，なぜわたしを迫害するのか。」これに対してサウロは，「主よあなたはどなたですか」，「主よ，わたしは何をしたらよいのでしょうか」と尋ねた（欽定訳使徒9：4－6参照）。

するとキリストは「あなたが迫害しているイエス」（使徒9：5）であると言い，サウロに，ダマスコへ行けばさらに指示を与えると告げられた。盲目となったサウロが，連れの者に手を引かれてダマスコに行くと，そこには，主の弟子であり僕であるアナニヤという者がいた。彼はサウロの目を癒し，次のような事柄を伝えた。すなわち，神のみこころを知り，その声を聞く者として神がサウロを選ばれ，サウロは復活したキリストについて万人に証を宣べ伝えなければならないというのである。サウロはアナニヤからバプテスマを受け，それ以来主の王国の建設のために献身するようになったのである（使徒9：4－19参照）。

こうして召されたサウロは，信仰の偉大な擁護者となり，力強く義を説く教師となり，何ものも恐れず世の人々に福音を説く説教者となった。サウロはまず会堂に集まったユダヤ人のもとに行った。次いで3回伝道旅行に出かけ，復活されたキリストの教えを多くの人々に宣べ伝えたのである。このようにしてサウロは，異邦人に伝道する間に，パウロという名で知られるようになった。改宗者を愛し，彼らに関心を抱くパウロは，彼らの成長ぶりをつぶさに見るため彼らを訪れ，また勧告の手紙を書き送った。

私は使徒パウロを心から尊敬している。またその勇気，誠実さ，篤い信仰強い証に敬服の念を抱いている。その教えはまことに麗しいものである。パウロの教えは今日の人々にも等しく当てはまることを私は知っている。パウロこそ，復活されたキリストのまことの証し人として特別に選ばれた人である。

では，証し人としてのパウロの責任は何であろうか。信仰と悔改めとバプテスマの教えを説き，救い主の神聖な使命を証し，イエスおよび父なる神と人との関係を明らかにし，人々の証を強くし，教義を釈き，キリストの教会の教えを強調すること，これが彼の責任であった。パウロはまた，人々の日常生活を指導し，世の人々に警告を与えている。

末日聖徒イエス・キリスト教会の指導者はこれを目標とするべきではないだろうか。あらゆる集会，またあらゆる時をとらえて，指導者は信仰を高め，証を築き，決意を強め，人々を祝福し，義務と責任を教え，指導力を培い，霊性を高め，警告を与えなければならない。

ではパウロの言葉を引用しながら話を進めて行きたいと思う。

パウロは，自己の信仰理念をローマ人に次のように勇敢に伝えている。「わたしはキリストの福音を恥としない。それは……すべて信じる者に，救を得させる神の力である。」（欽定訳ローマ1：16）

「兄弟たちよ。あなたがたに，はっきり言っておく。わたしが宣べ伝えた福音は人間によるものではない。

わたしは，それを人間から受けたのでも教えられたのでもなく，ただイエス・キリストの啓示によったのである。」（ガラテヤ1：11－12）

テモテには次のように語っている。「だから，あなたは，わたしたちの主のあかしをすること……を，決して恥ずかしく思ってはならない。」（IIテモテ1：8）

パウロはさらに次のように教えている。「主は一つ，信仰は一つ，バプテスマは一つ，……すべてのものの父なる神は一つである。」（エペソ4：5－6）

この教えはまさに真実である。だれ

ひとり自ら定めた律法で天の王国に入ることはできない。神の計画に従うことこそ，この目標を達成する唯一の道なのである。キリストはそのための良き教師であり，模範である。

パウロは次のように宣言している。「すべて神の御霊に導かれている者は，すなわち，神の子である。

わたしたちが神の子である。

もし子であれば，相続人でもある。神の相続人であって……キリストと共同の相続人なのである……

神は，神を愛する者たち……と共に働いて，万事を益となるようにして下さることを，わたしたちは知っている。」（ローマ８：14，16－17，28）

パウロはテモテに次のように勧告している。「こういうわけで，あなたに注意したい。わたしの按手によって内にいただいた神の賜物を，再び燃えたたせなさい。

というのは，神がわたしたちに下さったのは，憶する霊ではなく，力と愛と慎しみとの霊なのである。」（IIテモテ１：６－７）

パウロはまた復活について明白に説いている。「それとも，あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは，彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

もしわたしたちが，彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら，さらに，彼の復活の様にもひとしくなるであろう。」（ローマ６：３，５）

パウロは自分の伝道活動について，次のように述べている。「わたしが福音を宣べ伝えても，それは誇にはならない。なぜなら，わたしは，そうせずにはおれないからである。もし福音を宣べ伝えないなら，わたしはわざわいである。」（Ｉコリント９：16）

また伝道に意欲を燃やす人々に対して，パウロは次のような勧告を与えている。

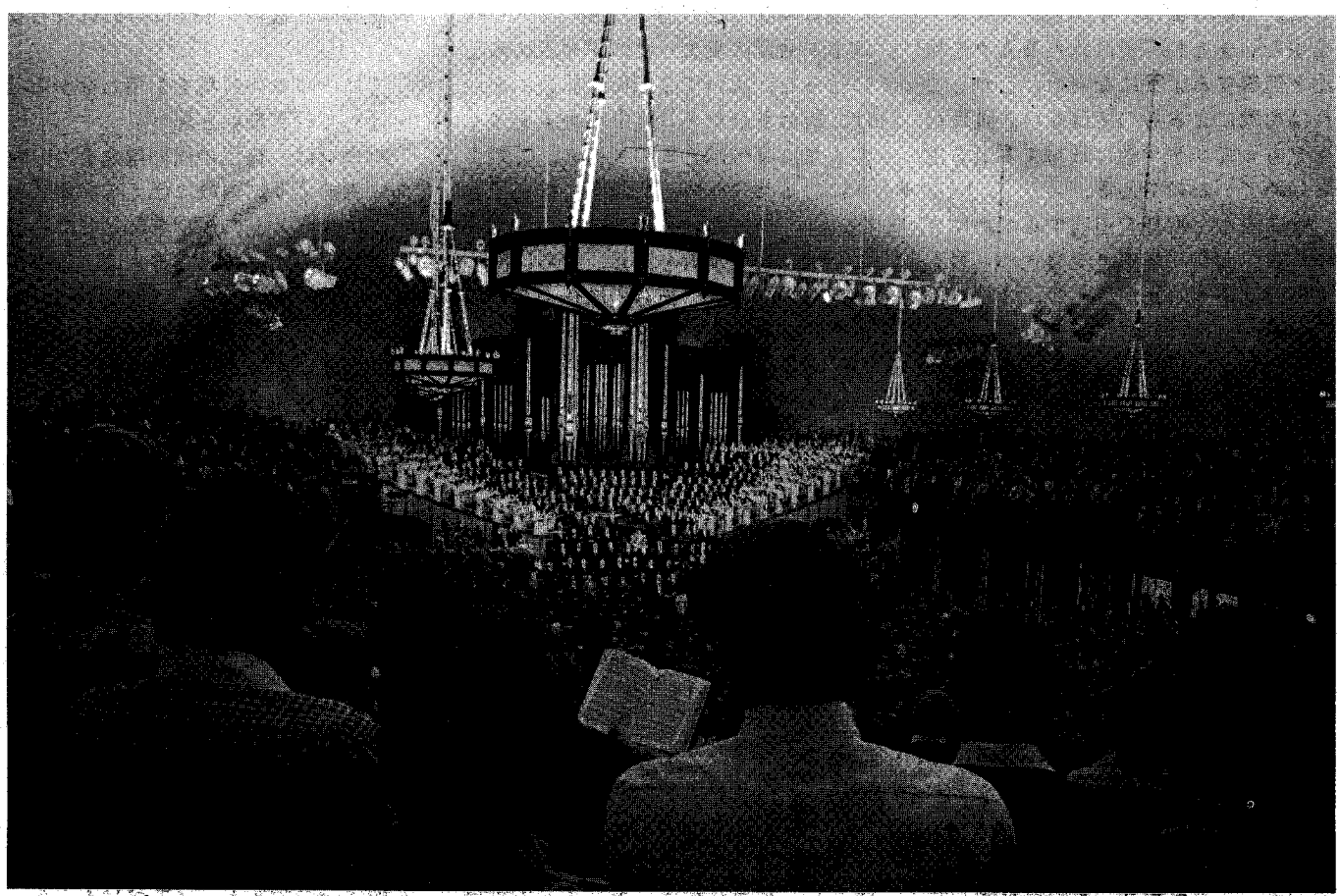
「つかわされなくては，どうして宣べ伝えることがあろうか。」（ローマ10：15）

「かつ，だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく，アロンの場合のように，神の召しによって受けるのである。」（ヘブル５：４）　アロンは啓示により神から召された。

パウロは，また信仰の一致を強調している。「さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって，あなたがたに勧める。みな語ることを一つにし，お互の間に分争がないようにし，同じ心，同じ思いになって，堅く結び合っていてほしい。」（Ｉコリント１：10）

「神は無秩序の神ではなく，平和の神である。」（Ｉコリント14：33）

パウロはコリント人に次のような問いを発している。「キリストはいくつにも分けられたのか。パウロは，あな



シオンの歌を歌う聖徒たち

たがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも，あなたがたは，パウロの名によってバプテスマを受けたのか。」（Ⅰコリント1：13）

「わたしたちが前に言っておいたように，今わたしは重ねて言う。もしある人が，あなたがたの受け入れた福音に反することを宣べ伝えているなら，その人はのろわるべきである。」（ガラテヤ1：9）

使徒パウロは聖徒に対して，真のキリスト教徒として生活し，昇栄を得る備えをなすよう明確に述べている。パウロは指導者に向かって次のように語った。

「それと同様に，主は，福音を宣べ伝えている者たちが福音によって生活すべきことを定められたのである。」（Ⅰコリント9：14）

彼はまず信仰とは，「望んでいる事がらを確信し，まだ見ていない事実を確認することである」（ヘブル11：1）と説き，次のような約束を与えている。「だから，信仰による者こそアブラハムの子であることを，知るべきである。」（ガラテヤ3：7）

また「信仰の戦いをりっぱに戦いぬ」（Ⅰテモテ6：12）くよう告げている。

祈りの大切さを強調するにあたり，パウロは次のような助言を与えている。「そこで，まず第一に勧める。すべての人のために，王たちと上に立っているすべての人々のために願いと，祈と，とりなしと，感謝とをささげなさい。

それはわたしたちが，安らかで静かな一生を真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。」（Ⅰテモテ2：1−2）。

「そうすれば，人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が，あなたがたの心と思いとを，キリスト・イエスにあって守るであろう。」（ピリピ4：7）

パウロは絶えず聖徒たちに，聖典を読み研究することの必要性をこう語っている。

「幼い時から，聖書に親しみ，それが，キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を，あなたに与えうる書物であることを知っている。

聖書は，すべて神の霊感を受けて書かれたものであって，人を教え，戒め，正しくし，義に導くのに有益である。

それによって，神の人が，あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて，完全にととのえられた者になるのである。」（Ⅱテモテ3：15−17）

また家族に対しては次のような指示を与えている。「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように，妻を愛しなさい。」（エペソ5：25）

「妻もまた夫を敬いなさい。」（エペソ5：33）

「若い女たちに，夫を愛し，子供を愛し，慎み深く，純潔で，家事に努め，善良で，自分の夫に従順であるように教えることになり，したがって，神の言がそしりを受けないようになるであろう。

若い男にも，同じく，万事につけ慎み深くあるように，勧めなさい。

……良いわざの模範として示し，人を教える場合には，清廉と謹厳とをもってし，非難のない健全な言葉を用いなさい。」（テトス2：4−8）

「父たる者よ。子供をおこらせないで，主の薫陶と訓戒とによって，彼らを育てなさい。」（エペソ6：4）

「子たる者よ，何事についても両親に従いなさい。これが，主に喜ばれることである。」（コロサイ3：20）

またすべての人々に対して，パウロは次のように教えている。「こうして，あなたがたは，神に愛されている子供として，神にならう者になりなさい。

また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって，わたしたちのために，ご自身を，神へのかんばしいかおりのささげ物，また，いけにえとしてささげられたのである。

あなたがたは，だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない。これらのことから，神の怒りは不従順の子らに下るのである。」（エペソ5：1−2，6）

またほかにも大切な教えを与えている。「すべてのものを識別して，良いものを守り，あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。」（Ⅰテサロニケ5：21−22）

「昼歩くように，つつましく歩こうではないか。」（ローマ13：13）。

「貧しい人々をかえりみるように」（ガラテヤ2：10）。

「惜しむ心からでなく，また，しいられてでもなく……すべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」（Ⅱコリント9：7）

「互に重荷を負い合いなさい。」（ガラテヤ6：2）

「だれに対しても……善を行おうではないか。」（ガラテヤ6：10）

「兄弟愛を続けなさい。」（ヘブル13：1）

「互いに情深く，あわれみ深い者となり，神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように，あなたがたも互にゆるし合いなさい。」（エペソ4：32）

「金銭を愛することをしないで，自分の持っているもので満足しなさい。」（ヘブル13：5）

「神の言をあなたがたに語った指導者たちのことを，いつも思い起しなさい。」（ヘブル13：7）

パウロはさらに次のように勧告している。「御霊を消してはいけない。予言を軽んじてはならない。」（Ⅰテサロニケ5：19−20）

「それゆえ，今後わたしたちは，互にさばき合うことをやめよう。むしろ，あなたがたは，妨げとなる物や，つまずきとなる物を兄弟の前に置かないことに，決めるがよい。」（ローマ14:13）

「すべての無慈悲，憤り，怒り，騒ぎ，そしり……を捨て去りなさい。」（エペソ4：31）

「最後に言う。主にあって，その偉大な力によって，強くなりなさい。」（エペソ6：10）。

「真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。」（エペソ4：24）

「いつも喜びなさい。全き者となりなさい。互に励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和に過ごしなさい。そうすれば，愛と平和の神があなたがたと共にいて下さるであろう。」（Ⅱコリント13：11）

パウロはまた，富の危険性を指摘し，富を正しく用いることの必要性を強調

している。その賢明な勧告に耳を傾けてみよう。

「わたしたちは，何ひとつ持たないでこの世に来た。また，何ひとつ持たないでこの世を去って行く。

金銭を愛することは，すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため，信仰から迷い出で，多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。」（Ⅰテモテ6：7，10）

「この世で富んでいる者たちに，命じなさい。高慢にならず，たよりにならない富に望みをおかず，むしろ，わたしたちにすべての物を豊かに備えて楽しませて下さる神に，のぞみをおくように，また，良い行いをし，良いわざに富（むように）。」（Ⅰテモテ6：17－18）

さらにパウロは，以下のような価値ある警告を与えている。

「不信者と，つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。」（Ⅱコリント6：14）

「主の杯と悪霊どもの杯とを，同時に飲むことはできない。」（Ⅰコリント10：21）

「まちがってはいけない，神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを，刈り取ることになる。

すなわち，自分の肉にまく者は，肉から滅びを刈り取り，霊にまく者は，霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。」（ガラテヤ6：7－8）

「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は，わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。」（ローマ6：23）

しのび寄る悪に対するパウロの予言を読むと，今日の世界にはそれに似た状態が数多くあることがわかる。

以下の警告に，深く心を留めていただきたい。

「人々が健全な教に耐えられなくなり，耳ざわりのよい話をしてもらおうとして，自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め，そして，真理からは耳をそむいて，作り話の方にそれていく時が来るであろう。」（Ⅱテモテ4：3－4）

「しかし，このことは知っておかねばならない。終りの時には，苦難の時代が来る。

その時，人々は自分を愛する者，金を愛する者，大言壮語する者，高慢な者，神をそしる者，親に逆らう者，恩を知らぬ者，神聖を汚す者，無情な者，融和しない者，そしる者，無節制な者，粗暴な者，善を好まない者，裏切り者，乱暴者，高言をする者，神よりも快楽を愛する者，信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。…

彼女たちは，常に学んではいるが，いつになっても真理の知識に達することができない。」（Ⅱテモテ3：1－5，7）

「彼らは神を知っていると，口では言うが，行いではそれを否定している。彼らは忌まわしい者，また不従順な者であって，いっさいの良いわざに関しては，失格者である。」（テトス1：16）

パウロが警告しているように，神を敬わない状態が今日の世界に見られる。またそれはさらに広まりつつある。パウロはその点について警告する一方，次のような導きと勧告を与えている。

「それだから，悪しき日にあたって，よく抵抗し，完全に勝ち抜いて，堅く立ちうるために，神の武具を見につけなさい。

すなわち，立って真理の帯を腰にしめ，正義の胸当てを胸につけ，平和の福音の備えを足にはき，その上に，信仰のたてを手に取りなさい。それをもって，悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

また，救のかぶとをかぶり，御霊の剣，すなわち，神の言を取りなさい。

絶えず祈り……なさい。」（エペソ6：13－18）

「主のみこころにかなった生活を（する）」（コロサイ1：10）

「最後に，兄弟たちよ。すべて真実なことすべて尊ぶべきこと，すべて正しいこと，すべて純真なこと，すべて愛すべきこと，すべてほまれあること，また徳といわれるもの，称賛に値するものがあれば，それらのものを心にとめなさい。」（ピリピ4：8）

そしてパウロは，わたしたちを「強くして下さるかたによって，何事でもすることができる」（ピリピ4：13）ことを断言している。

パウロは，主イエス・キリストに従った生活を常とし，昇栄に向かって絶えず努力することの大切さを印象的に説いた。初期の教会の聖徒たちにそうであったように，使徒パウロの言葉は，今日の私たちに疑問に対する答えと導きと力を与えてくれる。パウロの言葉に限らず，現在のすべての聖典の言葉を，祈りの気持でよく考えるならば，私たちの生活はより堅固で豊かなものとなるのである。

私たちが現世で至上の幸福を得，来たるべき世で昇栄を得るために必要な事柄すべてをパウロは何と麗しくまた完璧に述べていることか。パウロは，私たちの愛する今日の予言者スペンサー・W・キンボール大管長と同じく，大胆にまた率直に人々に真理を宣言した。今日の予言者ならびに使徒パウロの勧告に従うならば，私たちは決して道を踏み誤まることはないのである。

使徒パウロの教えが誠に神聖なものであることを，私は心から証する。パウロの教えを受け入れ，それに従って生活することにより，真心から光と真理を求めるすべての人々は平安と幸福を得るであろう。これらのことをイエス・キリストのみ名により，へりくだって申し上げる。アーメン。

☆　　☆

何も失うものはない

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

現在教会へ来ていない方々へ：「福音に立ち返って下さい。あなたの心の切なる望みがかなえられるでしょう。」

かつて教会に集っていながら，何らかの理由で現在遠のいている人々が，たとえ好奇心からであっても，どこかで，この日曜日午後の最後の大会の模様に耳を傾けていてくれたらと願っています。私はその方々にお話したいと思います。聖きみたまの力によって話せるように心から祈っています。

まず初めに，最近テンプルスクエアに送られてきた手紙を読んでみましょう。

「拝啓

私はモルモン教会の会員ではありません。

私は神もイエス・キリストも全く信じたことがありません。また，自分が知らない霊のようなものを愛するすべも持ち合わせていません。私は洗礼を受けたとき，キリストを受け入れました。けれどもそれは，救われなければ地獄へ行くといつも言われていたからです。『救い』ということがいつも私の心に引っかかっていました。私は長いこと教会へ行っていません。それは，自分で理解もしていないことをいつも押しつけられてきたからです。

先日，（ある人から）『幸福の探求』のパンフレットを見せてもらい，その説明を受けました。目から鱗が取れる思いでした。モルモン教会を通して，神は私に悟らせて下さったのです。…

心の中の『小さな声』が，神を求めるように告げました。これまでの私にとっては，神が存在しようがしまいが大して問題ではありませんでしたが，今は違います。

神はどのような御方なのか。なぜ存在するのか。神にはなぜ私が必要なのか。私はなぜこの世にいるのか。なぜ迷っているのか。全くの迷いに陥っているのはなぜか。ぜひとも知りたいと思った疑問が，数限りなくあります。どこに行って，どのように尋ねればよいのかわかりません。神とモルモン教会について知ることができるように方法をお教え下さい。私の歩む道をお教え下さい。返事をぜひお願いします。パンフレットでも，手紙でも，メモでも，葉書でも，何でも結構です。

敬具」

この手紙の主のように，世の中にはひとり寂しく真理に飢え，助けを呼び求めている人々が大勢います。またそのほかにも，名目上教会員でありながら，現在は教会を離れており，再び戻りたいと願ってはいるがどうすればよいかわからず，また努力する勇気もない人々がいます。彼らもまた，静かに内省するとき，「私はなぜこの世にいるのか。なぜ迷っているのか。どうぞ，どうぞ私に道を示して下さい」と心の中で呼んでいます。

これらの人について考えるとき，あの麗しい話が思い起こされます。その話を主の言葉のままお読みしたいと思います。

「ある人に，ふたりのむすこがあった。

ところが，弟が父親に言った，『父よ，あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで，父はその身代をふたりに分けてやった。

それから幾日もたたないうちに，弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き，そこで放蕩に身を持ちくずして財産を使い果した。

何もかも浪費してしまったのち，その地方にひどいききんがあったので，彼は食べることにも窮しはじめた。

そこで，その地方のある住民のところに行って身を寄せたところが，その人は彼を畑にやって豚を飼わせた。

彼は，豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが，何もくれる人はなかった。

そこで彼は本心に立ちかえって言った，『父のところは食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに，わたしはここで飢えて死のうとしている。

立って，父のところへ帰って，こう言おう，父よ，わたしは天に対しても，あなたにむかっても，罪を犯しました。

もう，あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ，雇人のひとり同様にしてください』。

そこで立って，父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに，父は彼をみとめ，哀れに思って走り寄り，その首をだいて接吻した。

むすこは父に言った，『父よ，わたしは天に対しても，あなたにむかっても，罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』。

しかし父は僕たちに言いつけた，『さあ，早く，最上の着物を出してきてこの子に着せ，指輪を手にはめ，はきものを足にはかせなさい。

また，肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか。

このむすこが死んでいたのに生き返り，いなくなっていたのに見つかったのだから』。」（ルカ15：11－24）

霊的な受け継ぎを手に入れながら現在教会を離れ，空しい生活を送っている兄弟姉妹に申し上げます。福音に立ち返る道は開かれています。

放蕩息子のたとえ話に，「彼は本心に立ちかえって」とある言葉に注意して下さい。

あなたも自分の置かれている状況を振り返り，戻りたいと願っているのではありませんか。

たとえ話の中の息子は父の家の雇人にでもなれればと思いましたが，父はそうではありませんでした。遠くに息子の姿を認めると走り寄って接吻し，さらに着物を着せ，指輪をはめ，はきものをはかせ，彼のために祝宴を催しました。

あなたの場合も同じです。立ち返る一歩を踏み出せば，友人は両手を広げてあなたを迎え，暖かくあなたを歓迎することでしょう。

人が教会を離れるには幾つかの理由があります。軽率な人に傷つけられてつまずき，彼のそうした行為は教会のせいだと誤解する人。不慣れな地域に引っ越して孤独になり，教会との交流を失って過ごす人。

教会外の交際や習慣に心を引かれ，それは教会員としての生活とは相容れないものだと考えている人。また，自分は教会の人々よりも世の知恵に長けていると考え，優越感を抱いて教会員の交わりから身を引く人もいます。

ここでその理由に対して長々と弁明するつもりはありません。あなたも弁明しないで下さい。過去に捕われるのはやめましょう。あなたにふさわしい言葉を予言者イザヤが残しています。

「あなたがたは身を洗って，清くなり，わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き，悪を行うことをやめ，善を行うことをならい……

主は言われる，さあ，われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても，雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても，羊の毛のようになるのだ。

もし，あなたがたが快く従うなら，

N・エルドン・タナー副管長（左）とスペンサー・W・キンボール大管長

地の良き物を食べることができる。」（イザヤ1：16－19）

これこそ福音によるものです。マッケイ大管長がいつも言っていたように，悪人は善人に，善人はさらに善人になるのです。また，変わるには過程があります。重大な罪を犯した人々でも立ち直ることができるように，教会にはその手続きが定められています。

プライドを重んじるあまり道を誤ることのないようにしましょう。もしそれが問題であるならば，旧約聖書からひとつの話を紹介したいと思います。

スリヤ王の軍勢の長ナアマンは力のある大勇士でしたが，らい病をわずらっていました。またナアマンの妻に，ひとりのイスラエルの少女が仕えていました。この少女はその女主人に言いました。「ああ，御主人〔ナアマン〕がサマリヤにいる預言者と共におられたらよかったでしょうに。彼はそのらい病をいやしたことでしょう。」

ナアマンはこれを聞くと高価な贈り物を用意し，イスラエルの王に宛てた手紙を携えて出かけました。しかし王は，ナアマンが訪れてきた理由を知ると，驚き恐れました。彼にはらい病人を清める力がなかったからです。すると予言者エリシャは王に，自分のところにナアマンを来させるように伝えました。

「そこでナアマンは馬と車とを従えてきて，エリシャの家の入口に」立ちました。

しかしエリシャは挨拶に出てもこず，使者を遣わしてナアマンにこう言いました。「あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば，あなたの肉はもとにかえって清くなるでしょう。」

ところがナアマンは，自分の国にはもっと清らかな川があるのに，ヨルダンで身を洗えとはどういうことかと屈辱を感じ，「身をめぐらし，怒って」去りました。

しかし僕たちは，エリシャの言う通りにするよう彼に願いました。その結果，さしもの誇り高い軍勢長もついに心を和らげ，「下って行って，神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと，その肉がもとにかえって幼な子の肉のようになり，清く」なりました。（列王下5：1－14参照）

もう一度繰り返しますが，プライドを重んじるあまり道を誤ることのないようにして下さい。福音の道は容易な道です。あなたにとっていくつかの条件はあまりにも初歩的であり，不必要に思えるかもしれません。しかしこれを軽視しないで下さい。謙遜になり，従順に歩んで下さい。従順のもたらす実はまことに麗しく，味わいのあるものです。

ではどこから手をつければよいのでしょうか。全世界に及ぶ当教会の組織に，それぞれあなたを導く人がいます。あなたが住んでいる地域の教会の監督に電話をかけるか，教会宛に手紙を書いて下さい。そうすれば，あなたのもとに助け手が派遣されるでしょう。彼らは思いやりと愛をもってその道をあなたに示し，手を差し伸べてあなたと共に歩むでしょう。

試してみて下さい。失うものは何もなく，ことごとくのものが得られるでしょう。友よ，戻ってきて下さい。教会にはあなたが理解している以上の平和があります。多くの人々の友情があり，あなたはそれを受けることができます。また，読む書物があり，受ける教えがあり，語り合うことによって心を開き，霊を養う機会があります。

あなたの心の望みは満たされるでしょう。長い間味わってきた空しさは完き喜びに代わるでしょう。

私にもあなたのような友人がいます。彼は50年以上も前に一緒に伝道した仲間です。その後彼は戦場に出て，孤独に陥ったときに良くない仲間に入りました。教会外の女性と結婚し，また良くないとは知りつつも悪い習慣にふけるようになりました。その後，彼は国内を転々として，行方知れずになってしまったのでした。

ある日曜日のこと，私はステーキ部大会に出席するためにカリフォルニアのある町を訪れました。そして地元の新聞には，私のことが写真入りで報道されていました。その朝，ステーキ部長と一緒にステーキ部センターに着いたときのことです。電話のベルが鳴りました。それは私への電話でした。相手は自分の名前を告げて，私に会いたいと言いました。そこで私はステーキ部長に理由を話して，その朝早く開かれることになっていた集会を彼に託しました。私にはもっと大切なことがあったからです。

私の友人はおずおずと，何か恐れているような様子でやって来ました。長い間，教会を離れていた彼でした。私たちは長年別れ別れになっていた兄弟のように抱き合いました。はじめ私たちの会話は途切れがちでしたが，かつてイギリスで一緒に過ごした日々のことに話題が移ると，話はとどまるところを知りませんでした。かつての生活に大きな意義を与えていた教会と，その後の長く空しい歳月について語るこの友人の目には，涙があふれていました。彼は過去の生活をこまごまと語ってくれました。ところがどうすれば教会に戻れるかという話になると，彼は，きまりが悪いのでそれはむずかしいと答えました。しかし結局は努力することにしました。

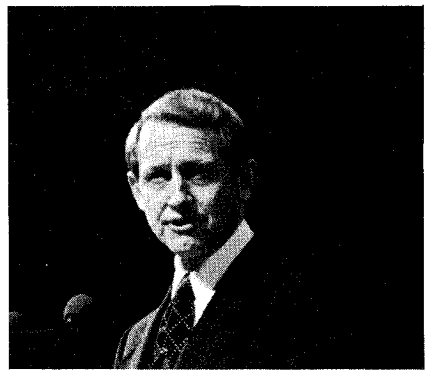
間もなくして私は彼から手紙をもらいました。「私は戻りました。故郷に帰ったような何とも言えない気持です。」

戻ることを願いながら，その第一歩を踏み出すことをちゅうちょしている，彼のような状態にある友人の皆さんに申し上げます。試して下さい。私たちはあなたのもとを訪れ，あなたに手を差し伸べ，手助けしましょう。再び家に戻るときに，あなたは安らぎを覚えるでしょう。私はこのことを約束します。

私は証します。これは主の業です。この教会は地上における神の王国であり，御父の独り子の名をいただいています。ここにおいてこそ，あなたは幸せと力と，長い間得られなかった確かな平安とを見出すことでしょう。この平安はすべての理解力を与えてくれます。神の導きのもとにあなたがこの試みに踏み出せますように。イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

改宗をもたらす福音

七十人第一定員会会員
ハートマン・レクター・ジュニア



改宗し，新しい人生を見出したルーテル教会の元牧師とその家族

福音は悪人を善人に，また善人を以前にも増して立派な人にする。

これは予言者デビッド・O・マッケイの言葉である。これに関連して，皆さんにひとつの改宗談を紹介したい。これはルーテル教会の元牧師ルイス・ノバック氏とその奥さんのアリス，それにふたりの子供カートとクリスティンの話である。ノバック氏とその奥さんはルーテル教会で生まれ，洗礼を受け，教会員として成長し，堅信礼を受け，結婚した。彼は両親を誇りに思い，自分の務めをも意識していた。そこで彼はふたつのルーテル教会経営の私立大学に学び，大学院の神学部を経てアメリカルーテル教会の牧師になった。約14年間，夫妻はルーテル教会で働き，真理と霊の安らぎを求め続けた。その間彼らには，高収入の得られる地位，肩書，社会的地位，教育分野における名声が与えられた。これらは彼らが望まないのに与えられたものである。このように安定し，家族や友人，上司から厚い信任を受けた生活は，満足すべきものと言える。しかし彼らは満たされなかった。何か根本となる大切なものが欠けているように感じ，心に安らぎを得られずにいた。彼らには満足が行かなかったのである。

心の正直な人は必ず求めるものである。

ノバック氏はこう言っている。「自分の半生とこれまでの体験を振り返って見たときに，いくつもの点で満たされないものを覚えました。まず，私は牧師仲間との交流にとても失望しました。教会の方針や昇進，自己の誉れ，資金獲得，集会者の人数等が過度に強調され，真実の霊性を全く欠いているように思えたのです。

第二に，教えの点でも理解しかねるところがありました。例えば礼拝のしかたですが，私には冷たく，個性がなく，型にはまりすぎているように思えました。救いは恵みによるものであり，本人の行ないにはあまり関係がないとするのは，聖書の教えに反するように思いました。聖典の教えを深く思いめぐらしたとき，『行ない』の方が『恵み』よりはるかに大きな意味を持つことを知ったのです。

また私は，処女降誕説，創造，聖句の様々な解釈と訳文の勝手な使用，これらに対する教会指導者の理屈に合わない態度と，クリスチャンの基本的な道徳観に対する意識の欠如にいや気がさしてしまいました。

神は本当に死なれたのだろうか。神は身を退いて，御自分の創造物に心を配ることをおやめになったのだろうか。なぜ神は，聖書の言葉を最後に突然沈黙されたのだろうか。」

1968年9月1日，ノバック氏と家族はコロラド州ブルームフィールドへ転居した。その地の教会への栄転であった。それはだれが見てもうらやましがるような地位だった。しかし絶望的な何かがあった。何かが失われていた。彼は心に霊的な空しさを感じていた。妻のアリスも同様であった。

アリスは音楽教師で，ブルームフィールドで何人かの末日聖徒を教えていた。その関係上，教え子について何かを感じないはずはなかった。モルモンはクリスチャンかどうか教え子のひとりに尋ねたことを，彼女は夫に話した。当然のことながらノバック氏は，モルモンはクリスチャンではないとするルーテル教会の考え方をよく知っていた。ところがモルモンの少女は，モルモンは完全なクリスチャンですときっぱり言ってのけたのである。

アリスはその少女の証に胸を打たれた。次に訪れたのは，ピアノの教え子の家族からの招待であった。ブルームフィールドワード部のオープンハウスへの誘いである。その少女の家族は招待することに反対していた。というのも，ルーテル教会の牧師へこのような招待をするのは適当でないと考えたからである。しかしこの少女は譲らず，両親は不承不承同意することになった。

その日，アリスはオープンハウスに行けない用事があり，ノバック氏もルーテル教会の地区の集まりを催すことになっていた。ところがオープンハウスの時間になったとき，彼はルーテル教会の集まりを辞してそのオープンハウスに行くようにという，何とも知れぬ駆りたてられる力を感じた。そして彼はその力に従った。

彼が末日聖徒の教会に着くと，ひとりの男性が親しげに話しかけてきた。こうして彼らはたっぷり2時間語り合った。その兄弟は彼の隣にすわって，数々の質問に答えたのであった。

ノバック氏はこう続けている。「プログラムが始まると，七十人の兄弟が

教会の教義に基づいて話をしました。聖霊に導かれて語っていたことは確かです。私はそのことを決して忘れません。私たちは次に，若い祭司に誘導されて礼拝堂からバプテスマフォントへ移動しました。そこで彼は末日聖徒の教えるバプテスマについて説明しました。そのような若者がこれほどの完全な説明ができるというのは，全くの驚きでした。というのは，バプテスマの教えに関するルーテル教会の教えを長年とても疑問に思っていたからです。私はこの若者の言う通りだと思いました。

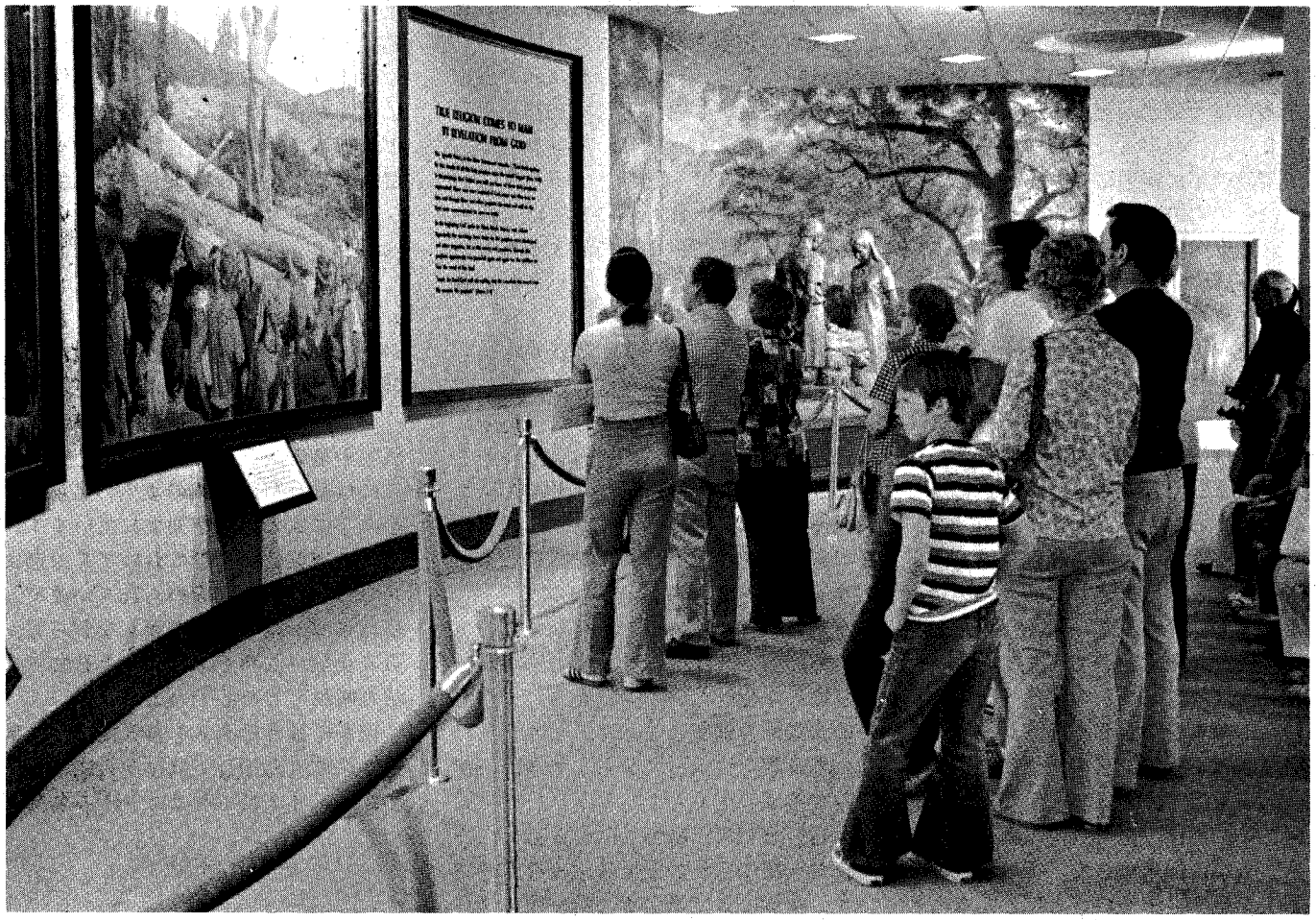
次は扶助協会の部屋です。そこでは美しい知性に富んだ話を聞きました。美しい女性の確固たる強い証を聞き，心に暖かいものを感じました。次に案内されたのはセミナリーの部屋です。そこでは『アメリカにおけるキリスト』の映画が上映されました。教会歴史について私の質問がみな即座に答えられたときには，抑えようのない喜びを覚えました。

私は当時神学博士号を得るための研究をしていました。それが何と，真理に対する私の疑問に解答を与え，博士号の研究にほぼ完了をみたのは，ここ末日聖徒の教会においてなのでした。私が実際に心を転じたのは恐らくこのときだったでしょう。多くの事柄について十分に説き明かしを受けました。そしてこれこそ真実の教会に違いないと思ったのです。心の準備はできました。でも一体どうすればよいのでしょうか。生活の保障やこれまでの安易な生活を断つことは何とむずかしいことでしょう。その日，私はモルモン経を買い，意気揚々と帰宅しました。そしてアリスに，『あの教会には何かがあるよ。とても素晴らしい気持を感じた。私たちにとって未知のものがあるよ』と言いました。

1974年の夏，博士号を得た後のこと，私は霊的な苦悩に陥ってしまいました。ワード部のオープンハウスのことが忘れられず，もっと何かがあるという思いでいっぱいでした。ある晩，モルモンの教え子の母親が，音楽のことで電話をかけてきました。そこで私は初めて自分の悩みを打ち明けました。彼女は黙って私の言葉に耳を傾け，理解を示して下さいました。

その後間もなく，私たち家族はその家族の家庭の夕べに招かれました。そこでとても暖かいものを感じました。しかしなお，生活を変えることは無理だと思っていました。仕事，保障，楽な生活，社会的地位，家族の絆，年金。これらが次々に脳裏をかけめぐりました。しかし，真実でないとわかっていながら，イエス・キリストのみ名によって説き，教えてよいものでしょうか。

こうして1974年の秋になりました。私の教区ではすべてが順調でしたが，



訪問者センター

私は心の中で，生活を転じる必要があることを承知していました。私は自分が霊的に飢えており，家族の霊的な栄養失調状態にももっと配慮しなければならないことを知っていました。

1974年10月25日，特別に美しい日でした。コロラドのデンバー大学でもうひとつの博士号の研究に励んでいたとき，私はコロラド伝道部の本部へ行くように不思議な強い力に駆りたてられました。私は以前にその住所を控えていました。その日は仕事がたくさんありましたが，ひとりでに車はクラークソン通り709番地へ向かうのでした。私は伝道本部はどのようなところなのかそばを通って見るだけにしようと，自分自身に言い聞かせました。

しかし私は，外から見るだけだからということで，その建物の前に停車してしまいました。さらに，少しの間だからエンジンは止めずにいようと考えました。でも私はエンジンを止めてしまいました。そして車の中から建物を見ながら，腕時計に目をやりました。12時35分です。昼食の時間で人を訪問するには不適当だと自分に言い聞かせました。けれども，私は自動車を降りて階段の下の歩道に立ちました。『ここはとても良い場所だ。少し見てまわったら車へ戻ろう。ここに用なんかないんだ。私はルーテル教会の牧師なんだ。』私はこう考えました。

けれども足はその階段を上ってゆきます。ドアが開いたところをみると，私はブザーを押したに違いありません。宣教師はドアを開けると，私を中に招き入れました。『本当はきょうここへお邪魔するつもりはなかったんです。昼食の時間でしょう。』私がこう言うと，彼は『もう終わりました』と答えました。

私はすっかりあわててしまいました。なぜ私はここに来たのだろう。どうしたらこの場を去れるだろうか。そこで私は言いました。『少し知りたいことがあるんです。私はルーテル教会の牧師です。実は，全世界の宗教に関心があってここに来ました。それで近くに来たついでにモルモンとはどんな宗教か知りたいと思ったわけです。今は昼の時間ですから，あまり長くお邪魔するつもりはありません。』その若者はもう一度『もう食事は終わりました』と言いました。自分は聖職者だから，伝道の対象にはならないことを強調しながら，いろいろと話を交わしました。

こうして1，2時間たちました。そこで私は，もう一度自分がルーテル教会の牧師であり，従って改宗できないことを告げ，彼らが多くの時間を割いてくれたことと彼らの好意とを感謝してそこを出ました。私は自動車を運転しながら，心に暖かいものを感じていましたが，しかしあの立派な宣教師たちは改宗できないと言った私の言葉を信じるのではないかと内心恐れを感じました。

その後のある日，何とあの宣教師がルーテル教会の私のオフィスに電話をかけてきたではありませんか。私は彼の電話をとても喜びました。彼は私に，同僚と一緒に私の家族に会いたいと言ってきました。翌日の晩，ふたりの宣教師がわが家を訪れ，私たちは何のためらいもなく，一歩一歩改宗への過程を歩み続けました。そして1975年1月25日，厳密に言えば私がコロラド伝道部の本部のブザーを押してから3ヵ月と5時間後に，私たちの家族はブルームフィールドワード部でバプテスマの水に入りました。長い間求めてきた喜びが，今こそ得られたのです。

カートとクリスティンは新たなチャレンジと教会の友を得ました。そしてふたりは立派に成長しました。地上におけるキリストの真実の教会の教えを学び，みごとに花を咲かせたふたりを見ることは喜びです。アリスと私は共に，真理を見出した喜びを味わっております。私たちの心は平安です。

私たちは神殿に行き，そこでこの世においても永遠にわたっても家族の結び固めを受けたいと切に望み，またその必要性を痛感しました。こうして私たちは教会に入ってから1年後，心からなる願いをもってソルトレーク神殿へ行きました。私たちに付き添ってくれた大勢の人々の支援は大変なものです。永遠にまで及ぶこの結び固めは，生涯で最も素晴らしい経験のひとつでした。

神殿へ行き，家族の結び固めを受けることの必要性を痛感した理由がわかったのは，それからちょうど2週間後のことです。自動車事故で，11歳の娘のクリスティンが命を失ったのです。私たちは彼女を失ったことによる非常な失意と悲しみに打たれながらも，その事故の経過を調べたときに，そこに天父のみこころがあって彼女の霊がみもとに召されたことを知ったのでした。私たちは彼女が喜びに満たされていることを知って，励まされ，慰められました。同時に，天父が思いやりと慈悲とを下して事を行なわれたことに，私たちは心から感謝しています。

このような出来事に遭って私たちの心には様々な疑問が生じましたが，その答えを思いめぐらすとただただ驚くばかりです。もしも私たちがイエス・キリストの真実の教会に入っておらず，この賜をクリスティンにあげていなかったらどうなっていたでしょう。都合に合わせて私たちが改宗を遅らせていたらどうだったでしょう。必要性を痛感しながら，神殿へ行っていなければどうなっていたでしょうか。初等協会，日曜学校，聖餐会，家庭の夕べで大きな喜びをクリスティンに与えていなかったらどうだったでしょうか。

その事故に遭う前の週，クリスティンは妻に，また神殿に行けるかどうか尋ねていました。それほど神殿が大好きだったのでした。

カンサスの寂しい墓地に，ひとつの灰色の墓碑が立っています。そしてそこには私たちの家族の4人の名前と，その下に次の言葉が刻まれています。『この家族はこの世においても永遠にわたっても，結び固められています』私たちは一時の別れに涙しながらも，真実正しい決断を下せたことを知って，晴れ晴れとした心でいます。

確かに福音は悪人を善人に，また善人を以前にも増して立派な人にするのである。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

主の支援組織

七十人第一定員会会員
ロバート・L・シンプソン

召しを果たす者は皆，教会の目的の達成を支援する

愛する兄弟姉妹の皆さん，この会場のバルコニーやラジオ，テレビで大会の話に耳を傾けている方々の中には，ワード部図書主任，初等協会教師，ワード部書記，ステーキ部書記など，管理の権限はあずかっていないが，主を愛し，そのみ業を愛している方々がおられるものと思う。

現在の宇宙時代において最も落胆させられる出来事のひとつは，巨額の費用を投じたロケットが発射前の最終の秒読み段階に入りながら，技術上の欠陥のために発射延期になるときである。問題点がごく短時間の内に明らかにされ，正されない限り，その計画は中止され，恐らく月が再び格好の位置に来る数週間後まで延期されることだろう。人の労働量と経費とを考えた場合，その技術上の欠陥がもたらす損害は天文学的な数字になる。そして，小さなトランジスター1個の不良が原因で全体の機能が狂う場合もあるということが報告されている。

宇宙ロケットはおびただしい数の小さな部品が支え合ってできている。それと全く同じように，主は大勢の人々が互いに支え合うよう組織を設けておられる。それは，人々の生活に祝福をもたらし，永遠の生命を得る資格を与える主の究極の目的を，計画通りに達成するためである。

きょう私はこの場を借りて，著しい働きをしている全教会の神権支援組織，いわゆる「小さい」召しにある方，毎週，毎月，人の目につかないところで働き，「ありがとう」の一言さえもあまりかけてもらうことのない方々へ，心からの賛辞を呈したい。

ちりを払い，ごみを掃き，整理整頓をして建物をきれいに保って下さる全世界の管理人に感謝を申し上げたい。月曜日を迎える建物は全くの乱れようで，先の月曜日と同じ仕事が待ち受けている。毎週が同じ繰返しである。しかし月曜日の朝に注ぐ愛と献身は，金銭に代えられないものがある。建物の管理人には私たちと同じ強い証がある。もしそうでなければ，必要なときに礼拝の場所を整えておくという大変な仕事に取り組めないであろう。証がなければ，彼らの負担を大きくする私たちの不注意な行為を快く受け留めることはできないであろう。

すべてのワード部，支部が礼拝行事で歓迎員と案内人を割り当てたらどうだろう。割当てを受けた会員がその責任を果たしているところでは，敬虔な雰囲気が確保される。聖徒たちが入口で心から，しかも静かな口調で歓迎するとき，そこには一人一人に喜びを与え，集会の始まる以前から敬虔な気持をもたらすという大きな意義があるのである。現在教会ではこのことをもっと行なう必要がある。

礼拝行事が始まるのを待っている間，私たちは世俗の事柄から心を転じなければならない。おごそかな曲を静かに弾いて心を和らげ，私たちの求めている教えに合った心の安らぎをもたらしてくれる大勢のオルガニストに賛辞を呈したい。

私たちには，全教会の教師たちに感謝を述べる機会があまりない。立派な教師と呼ばれる人々は，準備に何時間も費やしている。参照聖句や聖句の概念を思いめぐらし，適格な言葉を見つける。次いでその適格な言葉をみたまによって語る。「汝らもし『みたま』を受けざる時は教うべからず」（教義と聖約42：14）とは，この教会が常に教えているところである。真理を告げる人々に祝福のあらんことを。

キャロル・リン・ピアソンは，その詩のひとつで，永遠を学校の劇にたとえている。学校の劇では，確かな才能を見出せない人によく主役を与える。そうすると，人に信頼されたということで，例外なくその役を立派にこなし，期待以上の成果をあげるようである。そのことを彼女は詩に読んでいる。思うに，天父も全くこのようである。私たちの教会は人が奉仕に参画する教会である。私たちはいつも，「なぜ彼が」「なぜ彼女が」とつぶやきながら，神の召しを受けた人々を眺める。するとほどなくしてすべてが明らかになる。その人が成長し，隠れた才能が現われてくるのである。もしも教会の召しを霊感に基づいたものとしなければ，すなわち世の尺度をもって人の潜在能力を計るようになれば，私たちの進歩は大いにそこなわれるであろう。「示現がなければ民は滅びる。」（箴言29：18）これは真実である。

主のみ業において，私たちは地位を求めないし，また召されたときにその奉仕の機会を拒むべきではない。教会に入って間もないと思われるある兄弟

の話がある。彼は管理の権能を持つ職に就きたいと切に望んでいた。そこで彼は大会の折に，幸いにもヒュー・B・ブラウン副管長と握手する機会を得たので，即座にこう尋ねた。「ブラウン副管長，教会の監督になるにはどうすればよいのですか。」

するとブラウン副管長は答えた。「そうですね。とても簡単ですよ。主から召されればそれでよいのです。」その召しが何であれ，あらゆる点で主の信任を受けるにふさわしくなること，これはすべての末日聖徒にとって何と素晴らしい目標であろうか。

ピアソン姉妹の詩はまた，その学校劇の中に登場する「槍持ち」についても述べている。学校劇と同様，この教会も，目立った存在ではないが場面の展開には欠かせない「槍持ち」がいなければ，その目的が遂げられないのである。これらの忠実な会員は非常に大切であり，あらゆる時代において最も偉大な宇宙ロケットを打ち上げるにあたり，主の支援組織を形成しているのである。今日の偉大な教会指導者は皆，昨日の「槍持ち」である。これこそが永遠の進歩である。神より下された人類の進歩のこの過程は，正に福音の計画の基をなすものである。

管理の権能を持つ職から一時退いて，最後の場面のために槍を手にして控えている人々へも賛辞を呈したい。その状態はこの世限りである。私の知っている元伝道部長のある兄弟は，今ワード部書記として喜んでその責任を立派に果たしている。元ステーキ部長のある兄弟は，現在執事定員会アドバイザーを務め，かつてないほどに十分な伝道の備えを若人にさせている。私たちはこの神権時代に次のような偉大な言葉を行動で表わしているのである。「どこで働くかではなく，どのように働くかが問題である。」

両親の皆さん，スカウトの隊長はどれほど大切だろうか。監督の皆さん，ワード部書記はどれほど大切だろうか。教師の皆さん，図書委員は何と大切だろうか。300 年前の人にとって，系図探求者は何と大切な存在だろうか。

天父の軍勢でひときわ力を持つ「槍持ち」は，管理者の補佐の職にある人である。何と素晴らしい精神の持ち主であろうか。彼らはいつも指揮官の半歩後方を歩み，常に意見を述べられるように備え，最終決定を喜んで受け入れる。たとえその最終決定が自分の思いと正反対であってもそれに従うのである。

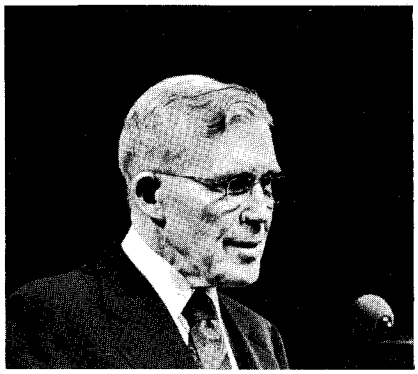
救い主が教えられたように，福音の教えはこの世の人間には理解しがたいことが時々ある。御存知のように，神の道は人の道とは異なる。従って，私たちは皆，その教えをよく学ぶ必要がある。私たちがきょうここで語ってきた事柄のあるものは，「先なるものは後に在り後なるものは先に在るべし」（教義と聖約29：30）という神聖な真理に結びついていると思う。将来を仰ぎ見ると，そこには多くの驚きがあることだろう。そのとき私たちは，「だが彼はホームティーチャーにすぎなかった」と驚きの叫び声をあげるに違いない。御存知のように，手引きに記された通りのホームティーチャーであり，ふさわしい生活を送っている人ならば，その人は必ず御父の持ちたもうすべてを受け継ぐ資格を得るであろう。実にこれに勝る祝福はないのである。

私の後ろに腰かけているこれらの兄弟たちは，他のすべての教会員と同じように，全く同一の永遠の標準によって結ばれている。このことも申し添えておきたい。公平かつ真実な，あの最後の裁きのときに存在する標準はひとつ，しかもただひとつである。神は人々を偏り見る御方ではない。聖典は自分勝手に解釈すべきでないという教えには何と深い意味があることだろう。聖典は新しい改宗者にとっても，大管長会の一員にとっても，等しく意味がある。

教会のすべての「槍持ち」の方々に，私たちは心の底から感謝を申し上げたい。主のために責任を果たしている皆さんに感謝したい。皆さんのもとを訪れたときに支援と支持の力を感じている。その力に感謝したい。その支援がなければ，今日のような教会の組織はなかったであろう。人々の生活はこれほど豊かには恵まれなかったであろう。

私たちすべてが，心から喜んで，効果的に，完全な信仰を持って前進し，主の栄光を真心から仰ぎ見ることができるように，主イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。

予言者ジョセフ・スミスと兄ハイラム・スミスの像



私の得たもの

七十人第一定員会会員
S・デルワース・ヤング

喜びと体験と教訓の証は，教会における奉仕から得られる

1週間ほど前に，私はこの大会で話すために原稿を書いたが，この2日間にその話を変える必要が生じてきた。従って初めに，外国語に通訳しなければならない通訳者の方々に，時間の余裕を差し上げられないことをおわびしたいと思う。

先日の金曜日以来，私が歩くとき，また階段を上がるときに，立ち止まって私に腕をかしてくださる方の数が4倍にも増した。ここで皆さんに，私は引退するわけではないことを申し上げたい。新たな力を得て再出発するのである。

ある友人から，先日の金曜日，「あなたは失ったものにどのように耐えられますか」と言われた。そこで私は，「私は何も失っていません。むしろ得ています」と答えた。

私は定員会に新たな親しい友人を得た。この定員会は，全員が目的をひとつにして，世の前に正義の旗じるしとして立つものと期待している。

私はまた，私をはるかにしのぐ能力と力強さと知恵を具えた7名の指導者を得た。この改組がなければ，私はその恵みにあずかれなかったであろう。

私はまた，指示を与える職に代わって仕える機会を得た。この職において全力を尽くすならば，私の腕は広く世界に及ぶであろう。また視界のきく限り空高く達するであろう。

ところで私の奉仕には，私自身に起因するひとつの限界がある。それは体力と心の働き，ならびに思いやる心である。

私はまた，J・ルーベン・クラーク副管長の語った言葉の意味を理解することができた。どこで働くかではなく，どのように働くかが問題なのである。

私は，長年の間に最高評議員会において学んだ事柄を，ゆっくり振り返ってみる機会を得た。その会員たちは長年その業を成し遂げ，進めてきた。

私が一兵士として戦場にいたとき，ブリガム・H・ロバーツ会長は連隊の従軍牧師であった。

また私は，説教台からではなく家庭において，J・ゴールデン・キンボール会長の知恵とユーモアを楽しく味わったものである。

私はまた，サミュエル・O・ベニオン会長の親しい僕として，26ヵ月間共に働いた。

また，レイ・L・プラット会長の雄弁さには，公私両面において，幾度となく感服したものである。

ジョン・H・テイラー会長が最高評議員会会員になるずっと以前から，私は彼を尊敬していた。

私はまた，皆さんと同じように，オスカー・A・カーカム会長の力強い声に気持を高揚された。さらにまた，ミルトン・R・ハンター会長の完全無欠な信仰に接する機会を得た。

私は今なお，リチャード・L・エバンズ会長の友情と，物静かなアントワーン・R・アイビンズ会長の知恵とをよく記憶している。

1945年以来，評議員会で交流のあった親しい友，優れた人々がほかにも大勢いる。

また，長年この評議員会の先任会長を務めた私の祖父，セイモア・B・ヤングの知恵と信仰についてはよく聞かされてきたし，私の成長期に，また成人してからも多くの幸せな時間を共に過ごした私のおじ，リーバイ・エドガー・ヤングもいる。これらの人々はみな，第一定員会が組織されるのを望み，そのために働き，祈ってきたのである。

私が失ったものは何もない。

私は大きな期待をもって，これからの体験で得られるものを待ち受けている。「デビッド・コッパーフィールド」にあるように，私も「万事よろしい」と申し上げたい。

話を終える前にこのことだけは申し上げておきたい。皆さんが目にした改組の過程を通じて，キンボール大管長と副管長たちは，私たちにそのことを通知し，また私たちの気持を考慮して絶えず相談を持ちかけて下さった。パウロが語ったように，このことは片隅で行なわれたことではない。正しく，霊感によって行なわれたものである。時が訪れたのである。とどまってはならない。

私は先日の水曜日，大管長会と十二使徒定員会のふたつの管理定員会と，神殿で会した。そこでキンボール大管長は，第3の定員会に教会の中で最もよく訓練され，最も深い経験を持つ誠実な人々を置いた。そのとき私は，大管長が得ている権能を支持する気持がさらに大きくなるのを覚えた。長年待ち望んできた事柄が現実となり，私は感銘を覚えた。

アントワーン・R・アイビンズ会長は，生前私に，死ぬ前に七十人第一定員会が組織されればよいのにと語ったことがある。

私も一時，霊界からこの偉大な出来事を見ることになるだろうと考えたことがあった。この世でそれを見ることができて感謝している。私は霊界に行ったら，アイビンズ会長に，もう少しこの世に長らえればよかったのにと言うつもりである。

私にはまだ，第一定員会の会員として，与えられた才能の限りを尽くして行なう必要のあることがあると信じている。私と一緒にこの定員会に加わった他の同僚たちも同じである。その才能を使い，よく働くならば，満足を得られるであろう。

主の予言者は霊感を受ける権利を行使して1976年の状況に合った組織を設けたのである。予言者の行なったことは正しい。私はこのことを知っている。キンボール大管長が機会を与えて下さるところで引き続き仕えることが，私の希望である。この新しい最高評議員会とこの定員会が業を力強く進めるときに，教会は伝道活動の速度を増し，私は完き喜びを味わうことであろう。

これはイエス・キリストの教会である。従ってこの教会は主のものである。主は御自らジョセフ・スミスを召してこの教会を回復された。私はキンボール大管長と副管長たちを支持している。否，支持する以上の気持でいる。彼らへの私の愛は，言葉では語り尽くせない。

私たち全員がこれからも続けて彼らの意にかなった仕事ができるよう，主イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。

☆　　☆

新しい管理監督会　左よりH・バーク・ピーターソン，ビクター・L・ブラウン，J・リチャード・クラーク

感化力のある教師

七十人第一定員会会員
ボーン・J・フェザーストーン

人に感化を及ぼすのは，レッスンではなく，精神を教える教師である

エゼキエル書にこのような言葉がある。

「わが羊は散らされている。彼らはもろもろの山と，もろもろの高き丘にさまよい，わが羊は地の全面に散らされているが，これを捜す者もなく，尋ねる者もない。

それゆえ，牧者よ，主の言葉を聞け。」（エゼキエル34：6－7）

この重大な意味をもつ大会も間もなく終わるが，人々に教える立場にあるすべての方々に私の考えをここでお話したいと思う。「感化力のある教師」の果たす役割について述べたい。

デビッド・O・マッケイ大管長はかつて，「人の魂を鍛えること以上に大きな責任はこの世にない」と語った。教え，鍛えること，これは教会の親と教師の全員に与えられた大切な管理の職の一部である。では，神より託されたこの務めが大勢の人々に永遠の意義を十分に与えるようにするためには，どのようにすればよいであろうか。

アメリカの哲学者ジョン・デューイはこう言っている。「人間の本性の中で最も根強いものは，重要な人間になりたいという欲求である。それは苦しみとまで言える切なる欲求である。人の同情を勝ち得るため，また自分を大切な者とみなしてほしいがために，病気になる人さえいる。ある権威者たちが述べているように，過酷な現実の世界で拒否されてきた自尊の感情を，夢想郷において見出そうとして，実際に精神障害を引き起こす人々がいるのである。」

感化力のある教師は，心からの感謝と自尊の観念を伝えることによって，何と大きな奇跡を現わすことだろう。この心の飢えを十分に満たしてあげる親や教師は，子供やクラスの生徒をその掌中におさめることができる。

何年も前のことである。ボイシ北ステーキ部のステーキ部長であったアルディン・ポーター兄弟は，ワード部スカウトの隊長を務めていたグレン・クレイトン兄弟の家に立ち寄った。そのとき，グレンとその息子は一緒に自転車の修理をしていた。ポーター部長は彼らと少しの間立ち話をしてから帰った。それから数時間後，彼がまたグレンの家に行ったところ，その親子はまだ一緒に自転車の修理に取り組んでいた。そこでポーター部長は言った。「グレン，君の1時間当たりの賃金を考えたら，この古いのを修理する時間だけ働くと，新しい自転車を買えるんじゃないかな。」

するとグレンは立ち上がりながら言った。「修理してるんじゃありませんよ。息子に教えてるんです。」

その年，グレンの隊では21名の少年がイーグルスカウト賞を得た。感化力のある教師とは，言葉ではなく，精神を教える人である。

教育者が教育に失敗する理由を，ある人が次のように詩に書いている。

大学教授：
　こんな煮え切らない学生は恥だ。
　ハイスクールでの準備が悪い。
ハイスクール教諭：
　何たることだ。全く不出来だ。
　小学校の教育のせいだ。
小学校教諭：
　一体どうしたものだろう。
　不出来な生徒を押しつけられた。
幼稚園教諭：
　こんなしつけの悪い子，見たことないわ。
　お母さんはどんな人かしら。
母親：
　かわいそうな坊や。あなたが悪いんじゃないわ。
　お父さんの血筋なのね。

私は最近，あるステーキ部の神権指導者会で，家族に対する父親の役割について話した。するとその後，ひとりの人が私のところに来て自己紹介をし，後日私に手紙を書くとのことであった。それから数日後，次のような手紙が届いた。

「拝啓

先日の土曜日の夜のステーキ部大会のときにちょっとお話させていただいた者ですが，覚えていらっしゃらないでしょうね。そのとき，この9年間というもの，一度もやさしい言葉をかけてやったことのない17歳の息子がいることをあなたにお話しました。帰宅したら，どれほど私が彼を愛していたか告げるつもりですと，あなたに約束しておいた息子です。

彼は私たち夫婦の頭痛の種でした。特に，この2年間はひどいものでした。私たちの間には長い期間，父と子のつながりがありませんでした。きっと驚かれたことでしょう。しかし，私たち

の味わっている不幸は，長年私が彼に与えた孤独に比較しようもありません。彼は毎晩，父親である私から愛されていない，必要とされていないという気持で床についていたのです。」

エゼキエルは，父たちが酢いぶどうを食べたので子供たちの歯がうくと言っている（エゼキエル18：2参照）。リー大管長はこれを「私たちの最大の教育の場は私たち自身の家庭にある」という言葉に言い換えた。私たちは神の信任を受け，子供たちに真理の原則を教える責任を授かった。しかしそれと同じ位大切なのが，主の方法に従って愛し，心を配ることである。

感化力のある教師は，霊界で一定の鋳型にはめ込まれて造られ，それぞれふさわしいときにこの地上に送られるわけではない。王国の指導者すべてが，そのような教師になる可能性を持っているのである。あなたの直接の影響を受けるのは定員会やクラスの人々に限られるかもしれない。しかし，その感化は永遠にまで及ぶことにもなるのである。

時事評論家のアーマ・ボンベック女史が語ったように，私たちは往々にして物事の優先順位を誤まることがある。ここで彼女の「マイクは大丈夫だろうか」という記事を引用したい。この記事については，ジョン・ソネンバーグ氏から転載の許可をいただいている。

マイクは3歳のとき，砂場が欲しかった。
するとお父さんが言った。「庭を見なさい。一日中近所の子供たちがいる。
きっと砂をかけあって，芝生を枯らしてしまうだろうよ。」
するとお母さんが言った。「でも大丈夫よ。」

マイクは5歳のとき，ジャングルジムが欲しかった。
息をはずませながらぶらさがり，
一番高い所までよじのぼるジャングルジム。
するとお父さんが言った。「だめだね。裏庭がどうなっているか知ってるかい。穴がいくつもあいてるよ。きっとみんなの靴でもっとたくさんの穴ができることだろう。そうしたら芝生が枯れてしまう。」

お父さんはビニール製のプールをふくらませながら，こう言った。
「近所の子供たちはどこででも水遊びする。お陰でお前は体中泥んこだ。おまけに芝生も枯れてしまう。」
するとお母さんが言った。「でも大丈夫よ。」

マイクは12歳のとき，庭でキャンプすることにした。
みんながテントを広げ，くいを打ち込むと，
マイクのお父さんが言った。「テントとくいで芝生が台無しじゃないか。
何も言わなくていい。みんなの言い

たいことはわかってる。でも大丈夫だよ。」

新しい種が根を張り始めたときに，冬が来た。
子供たちがそりで遊ぶのを見て，
マイクのお父さんは首を振り振りこう言った。「何ってことだ。大切に育ててきたのに。」
するとお母さんが言った。「でも大丈夫よ。」

マイクは今や18歳。今年は芝生が美しい。
新緑の輝きは，まるで敷き物のようだ。
人が行きかう歩道沿いにも，
自転車を入れておく車庫のそばにも，
少年たちがいつも穴を掘った花壇の周囲にも。

しかしマイクのお父さんは芝生には目もくれない。
ただ心配そうに庭のかなたを見やりながらつぶやいた。
「マイクは帰って来るだろうか。大丈夫だろうか。」

感化力のある教師は，純粋な愛ある態度で心を配り，「この問題に直面したら，救い主ならどうなさるだろうか」と考える。

1966年，キンボール大管長はセミナリーとインスティテュートの教師と役員に，「私の孫に教えるつもりで教えてほしい」というテーマで話している。その話では大切な真理が数々説かれている。教会の教師は全員これを読み，実際に応用していただきたい。

「若人を導き，励ます皆さんに敬意を表したい。皆さんには非常に重い責任があり，また救い手になる限りない機会がある。自分の務めを怠る両親を容認するわけではないが，私たちは皆さんのたくましい肩に重荷を課さなければならない。賢明に，また上手にその荷を運んでいただきたい。……

私は子孫の教育を皆さんに託している。現在私には26人の孫がいる。ひとりは幼くして死に，日の光栄の王国へ行った。またふたりは結婚し，学校教育を一応終えた。しかしなお，23人の孫が皆さんの教えを受けている。……なぜ私がこれからこの職に就く人々に関心を寄せているか，またなぜ彼らに勇気と信仰の人，力みなぎる人，模範の人となるよう願っているか，察していただけると思う。私のこの願いは，私の孫のためばかりでなく，他の大勢の末日聖徒の若人をも考えてのことである。」

さらにキンボール大管長はこう語っている。「私の孫や他の若人に何を教えるよう願えばよいだろうか。なかんずく私が願うことは，生ける神とその独り子を信じる信仰を教えることである。ただ表面的に，知識のみを得るのではなく，主に依存し，近づくための霊的な深い悟りを得ることである。……純粋な汚れない正義を教えていただきたい。神の子供たちが霊的な闇に迷ったら，それがだれであろうと，ランプを携えて行き，その道を照らしてほしい。また，骨の髄まで凍るほどに霊的な熱意がさめた人がいれば，少しの間その腕を支えて歩き，彼らを支え，力づけ，励まし，元気づけて何マイルも共に歩んでいただきたい。」

確かに，私たちはこの種の確信をもって若人に福音の真理を教える必要がある。

感化力のある教師とは清い人である。1年前の地区代表セミナーで，キンボール大管長はこう語った。「清く澄んだ水が得られるのは，きれいな泉からである。」

教師の務めは第一に生徒を救うことである。これは最も大切なことであり，いくら強調しても限りがない。生徒を失うならば，他に何を行なおうと，私たちは神から与えられた神聖な管理の職をうとんじていることになる。私もヨブのように叫びたい。

「どうか，わたしの言葉が，書きとめられるように。どうか，わたしの言葉が，書物にしるされるように。

鉄の筆と鉛とをもって，ながく岩に刻みつけられるように。」（ヨブ19：23－24）

クラスや定員会に所属するすべての人を救うこと，これこそが感化力のある教師の仕事である。

世界的に名の知れわたった鳥類学者グストフ・エクスタイン博士は，25年以上もの間，同じ研究室で働き続け，数多くの鳥をふ化し，多くの交配を行なった。彼の研究室には，鳥の変種や雑種に関する綿密な記録がある。博士は研究室に行くと，まず階段を数段下りてステレオの前に行き，クラシック音楽をかけてボリュームを上げる。それから仕事に取りかかる。すると鳥たちはそのクラシック音楽に合わせてさえずるのである。そして午後5時半頃，その日の仕事の終りに博士はステレオのスイッチを切り，帰宅する。これが日課であった。

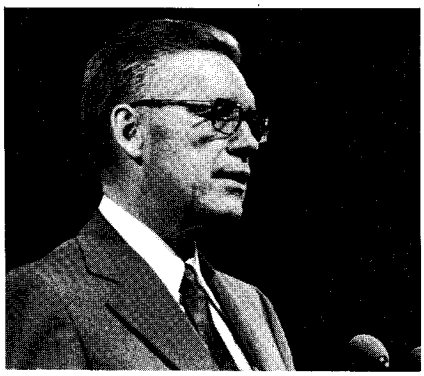
25年後，彼は都合で新しい管理人を雇った。エクスタイン博士が研究所を出た後，この新しい管理人は部屋の換気が必要だと思い，窓を全部開けた。

翌朝，エクスタイン博士が研究室に来てみると，窓が開いており，鳥はみな逃げていた。博士はがっくりと肩を落とした。生涯をかけた仕事が無に帰してしまったのである。博士はいつもの習慣でステレオの前に行き，クラシック音楽をかけてボリュームを上げた。それから階段に座り込むと，頭をかかえ込み，泣き出してしまった。

ところが，音楽の調べは開け放たれた窓から外に流れ，木々の間を抜け，通りまで達した。すると間もなく，エクスタイン博士の耳に鳥のはばたきが聞こえてきた。見上げると，鳥たちが窓から研究室に入ってくるではないか。

「こうしてすべての鳥が戻ってきました」と，博士は語った。

私たちの若人も福音のクラシック音楽を聞くであろう。そして感化力のある教師がいるならば，すべての少年，少女が戻ってくるであろう。この特別な時代に，この大いなる世代の教師として召され，特別な使命を与えられた，両親，監督，アロン神権および若い女性，セミナリー，日曜学校の教師の皆さんに，神の祝福があるように。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。



主にあって死ぬ人

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

正義の道を見定めてそれを歩み続ける者は，この世を去るときにたとえ完全な者となっていなくても，将来永遠の生命を得るであろう

大半の人々の心に不安を，さらには恐れさえ与えているある事柄について話したい。私たちはこれをひどく恐れており，またほとんどの人が，できることならばこれから逃れたいと思っている。

これからお話するのは，不滅の霊が永遠の王国へ入るときのことである。その恐怖の日に，私たちは朽ちる体を脱ぎ捨てて，もとのちりにかえる。その死，すなわちこの世の死，肉体の死と，この世の最後の務めを終えたときの霊の状態についてお話しよう。

この王国に入る人は皆，明らかに聖きみたまの力によって導かれ，啓発されるに違いない。肉欲に従う人々はこの王国についてあまり多くを知らないであろう。しかし，至高者の聖徒たちには王国について非常に多くのことが明らかにされてきた。

私がこれからの話を聖霊の力によって語り，それが皆さんの心に同じみたまによって深く刻まれるように，そして皆さんが真理を知ることができるように祈っている。

聖書には，次のようなやさしい慰めの言葉がある。「主の聖徒の死はそのみ前において尊い。」（詩篇116：15）これに対して，パウロの刺すような言葉を添えたい。「死のとげは罪である。」（Ⅰコリント15：56）

死は心持ちよく，甘く，尊いものである。さもなければ，それは私たちに限りない地獄の苦しみと硫黄の火とを注ぐものである。そのいずれであるかは，私たち一人一人の選択にかかっている。

死を永遠の計画の中で適切な位置に置くためには，まず人生の目的を知らなければならない。私たちはいつから存在するようになったか，だれのものか，またなぜこの世に下されたのか知ることである。そうしたときにこそ私たちは，私たちを造って下さった神のみこころによってこれから後どこへ行くかということも想像することができるのである。

私たちは昇栄された栄光ある御方，すなわち骨肉の体を持ちたもう私たちの天父なる「聖なる人」の霊の子供である。それは，主がこの時代に啓示して下さったことから明らかである。

永遠の生命とは，天父が現在得ておられるような生活のことである。それは家族単位で送る生活であり，あらゆる権威と力と統治権を有する生活である。

御父は私たちが霊の状態から，御父御自身が現在得ておられる栄光，誉れ，昇栄の状態に至るまで進歩できるよう，救いの計画を定められた。

また御父の計画によってこの地球が創造された。そして私たちは地のちりから造られた体を受け，死すべき者として暮らし，試みと試練の下におかれた。そして今それを受けているのである。

この救いの計画に関連して，人の堕落も定められた。その結果，肉体の死と霊の死がもたらされた。また，神の御子の贖いの犠牲による，死からの贖いが定められ，さらに従順な者全員のために永遠の生命の受け継ぎが定められた。

そしてこの偉大な進歩の計画によって，永遠の霊に朽ちる体を与える誕生と，その霊をこの世の病気や弱さから解き放つ死とが備えられた。

この世の生涯は決して安易なものとしては計画されなかったことを申し上げておきたい。現世の生涯は試みの期間であり，私たちは肉体的，知的，道徳的，霊的に試みられるのである。私たちは病気や体力の衰えを経験する。癌やらい病，伝染病に冒される。また，苦痛や悲しみ，苦悩を味わう。災害に見舞われ，洪水に家を流され，ききんによって食物を失い，疫病や戦争のために墓はしかばねに満ち，破壊された家は悲しみに包まれる。

私たちはまた，啓示された神のみ言葉と，人の身と霊を破壊する理論科学の悪疫のいずれを取るか，その選択に迫られている。誘惑，肉欲，あらゆる種類の悪，これらはすべて計画の一部であり，現世の経験を得る特権を与えられたすべての人はこれに直面しなければならない。

聖徒であると罪人であるとを問わず，現世の試みにはすべての人があう。しかも，福音を受け入れた人々の試みと試練は，世の人々に課せられるものよりはるかに大きいことが往々にしてある。アブラハムはその独り息子をいけにえにするよう求められた。またリーハイと家族は，所有の土地と富とを置いて荒野に入った。いつの時代の聖徒も，持ち物すべてを祭壇に捧げるよう

に命じられてきた。時には，自分の命さえも求められたのであった。

私たちの受ける個人の試練について言えることはただ，私たちすべてには，あらゆる事柄を知っておられ，万事好都合にして下さる神の知恵によって，それぞれの状況に応じた試みが与えられるということである。主は私たち聖徒に対して，次のように言っておられる。「汝らのわれに適しきを知るために，死に至るまでもわが誓約を守るや否や，すべてに於てわれ汝らを試すべし。

汝らもしわが誓約を守らずんば，われに適しからぬ者たちなり。」（教義と聖約98：14－15）

では，死についてはどうだろうか。愛する人との別れ，死後の生活についてはどうだろうか。

聖典にはこう記されている。「大いなる造り主の憐み深い道が成就するために万人に死が伝わった。」（IIニーファイ9：6）　真実の聖徒にとって，死は愛する人との一時的な離別にすぎず，それ以上の悲しみではない。誕生と死は共に，永遠のドラマに欠かせない一場面なのである。

私たちは，この世の経験を得る特権を与えられたときに歓呼の声をあげた。それは，この世の試みがなければ，永遠の生命が得られないからである。また私たちは今，この人生を終える特権を受け，偉大な贖い主に賛辞の歌を歌う。それは，死と復活がなければ，不死不滅の栄光によみがえり，永遠の生命を得ることができないからである。

忠実な聖徒たちはこの世を去ると，「パラダイスととなえる幸福な有様，すなわち安息と平和な有様に入り一切のわずらいと憂いと悲しみとを離れて息む。」（アルマ40：12）　そして復活の日までこの状態にある。

一方，悪人と不信心な者はこの世を去っても，邪悪な心と反抗心を持ち続ける。「あなたたちがこの世を去る時あなたたちの肉体を離れる霊は，永遠の来世に於て再びあなたたちの身体に宿る力を持っている」（アルマ34：34）と聖典に記されている。

ニーファイは教会員に次のように語っている。「あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず，完全な希望の光を抱き，神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから，この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み，終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』かくの如く天の御父が言いたもうた。」（IIニーファイ31：20）すなわち，すべての忠実な聖徒，終りまで耐え忍ぶ人々は皆，この世を去るときに永遠の生命を完全に保証されるのである。

私たちの心にはごまかしや疑い，あいまいさは，みじんもない。この人生を誠実かつ忠実に送る者は，来たるべき世において道をそれることはないであろう。この世で誓約を守り，私たちの主に対する証を堅く誠実に保ってこの生涯を終える者は，永遠の生命の受け継ぎを得てよみがえるであろう。

しかしながら，この人生を誠実かつ忠実に送り，主にあって死ぬ者は，あらゆる点で完全となったので次の世に行くというわけではない。完全な人はただひとり，神を父とする主イエスだけであった。

しかし完全の域に近づいていた義人は大勢いる。信仰を守り，律法に従い，永遠の生命を必ず受け継ぐであろうという完全な保証を得てこの世を去った忠実な人々は非常に多い。

これらの人々には，かの栄えある終りの日に御父の王国に属するすべての

十二使徒評議員会会員ボイド・K・パッカー長老

ものを授かるために，死後も行なわなければならないことがたくさんある。その日，偉大な王は彼らに言うであろう。「わたしの父に祝福された人たちよ，さあ，世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。」（マタイ25：34）

ここで繰り返したい。正義の道を見定め，主のみ業は神の認めたもう真理にかなうものであるという確かな証を得，世の事柄を克服し，神の王国に属する事柄を第一として生活する人，すなわちこれらすべてのことを行なってこの世を去る神の聖徒たちは，たとえ世を去るときにまだ完全になっていなくても，将来御父の王国において永遠の生命を得るであろう。

「主の聖徒の死はそのみ前において

尊い。」（詩篇116：15） 何と素晴らしい言葉であろうか。聖徒たちは死ぬときに，主と共に昇栄にあずかるという確信をその心に受ける。これは何と尊く，素晴らしく，栄えあることだろうか。聖徒たちが進歩し，自分のようになる道を備えられた主と共に住めるのである。

「主にあって死ぬ人はさいわいである。……彼らはその労苦を解かれて休み，そのわざは彼らについていく。」（黙示14：13） 何と素晴らしい言葉であろうか。創造の目的を完全に遂げた忠実な聖徒たちに，慈悲深い神はやがてすべてのものを与えたもう。まことに喜ばしいことである。

主は聖徒たちに言っておられる。「われにありて死ぬる者は死を味わうことなし。そは死は彼らにとりて甘ければなり。」（教義と聖約42：46）何と素晴らしいことだろうか。

予言者ジョセフ・スミスは次のような素晴らしい言葉を残している。「備えのできた人は，死によってさらによい状態に至る。」（*Teachings of the prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 326）

「イエス・キリストにあって死んだ人々は，よみがえるとき，完き喜びに入ることを待ち望むことができる。それは彼らがこの世で持っていたもの，あるいは待ち望んでいたものである。」（同上 p. 295）

「復活のとき，ある者はよみがえって天使となり，またある者はよみがえって神々となる。」（同上 p. 312）

死は大いなる創造主の慈悲深い計画の一部ではあるが，私たちはそれを求めてはいない。むしろ生の喜びを享受し，できる限り長く隣人に仕えることができるように望む。忠実な聖徒たちは，邪悪な世にあっては正義のパン種である。

しかし主の民が追い立てられ，迫害されることが時折ある。また主は故意に，忠実な聖徒たちが肉体的また霊的な苦しみを受けるにまかせておられる。それはあらゆる点で彼らを試み，また死に至るまでも彼らが主との誓約を守るかどうか見るためである。そしてこれに耐えた者は永遠の生命を受けるにふさわしい者なのである。

しかし私たちがこの世で出あう事柄は何であろうと，ほんの一瞬にすぎない。そしてもし私たちが誠実であり，忠実であるならば，神はやがて私たちを高く引き上げて下さるのである。私たちが失ったものや受けた苦しみはすべて，復活のときに私たちに償われるであろう。

私たちは将来，死すべき状態から不死不滅へ，朽ちる状態から朽ちない状態へよみがえるであろう。私たちは完全な体をもって墓から出てくるであろう。頭髪一本も失われることはない。神はあらゆる涙をぬぐって下さるであろう。

福音に従って生活したならば，私たちは，日の光栄の王国の栄光に耐える日の光栄の体を持って出てくるであろう。また私たちは家族単位で引続き暮らすであろう。ジョセフ・スミスが語っているように，「この世にてわれらの中にある交りの天にもあることを知らん。ただわれらの今この世にて享けざる永遠の光栄それと結合せるを見るべし。」（教義と聖約130：2）

私たちはこの世の生活をも，死をも共に喜ぶ。私たちの望みはただ，主のみこころを行ない，定められたときに主の王国において主と一緒に暮らすことである。

古代のかの勇敢な使徒が死を間近に控えて語った状態に，私たち一人一人もなれるように願っている。

「わたしは，すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時がきた。

わたしは戦いをりっぱに戦いぬき，走るべき行程を走りつくし，信仰を守りとおした。

今や，義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には，公平は審判者である主が，それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく，主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」（IIテモテ4：6－8）

主イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

私の人生で最も大いなること

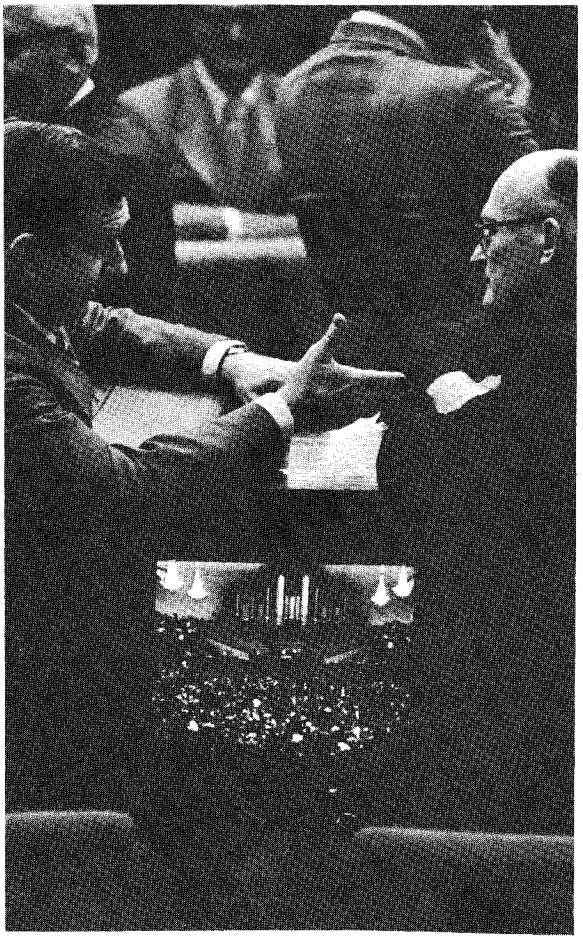
七十人第一定員会会員
ロバート・E・ウエルズ

ヨハネは人々をキリストのもとに導くことを願い，救い主から「より大いなる業を引き受けたリ」という言葉を受けた

救い主は伝道活動の価値を強調するのに，きわめて劇的な時を選ばれた。主が使徒たちに心の望みを尋ねたもうたとき，ペテロは早くこの世を去って救い主と王国に住むことを願った。しかし愛弟子ヨハネは，この世にとどまり，人々をキリストのもとに導くことを願った。

この麗しい瞬間を想像いただきたい。ペテロは救い主と共に王国に入ることを選んだ。しかし救い主はペテロの方を向いてこう言っておられる。「わが愛する者〔ヨハネ〕は，それ以上を為さんことを願えり」（教義と聖約7章参照）

私の人生で最大のことと言えば，伝道活動である。この歴史的な伝道の定員会，七十人定員会の一員であることは，この上ない栄誉である。



教会幹部に壇上の話手の姿が正面から見えるようテレビが据えつけられている。

この場を借りて，私の人生に多くのものを与えてくれた人々に賛辞を呈したいと思う。まず私の伴侶であるが，彼女は偉大な宣教師であり，主に仕えることを大きな喜びとしている。次に私の子供たちである。私は彼らを愛し，彼らに感謝している。私たち夫婦にとって誉れである。すでに幕の彼方に行った伴侶にも賛辞を呈したい。また現在この世にいる，私が愛し敬っている両親がいる。また幕の彼方に行った父にも賛辞を呈したい。さらに賛辞を呈したい人々として，予言された民，約束の民であるラテンアメリカのレーマン人がいる。私は四半世紀以上の間，彼らの間で働き，暮らす誉れと特権とを得た。

予言者たちの語るこの聖なる場から私の証を述べたいと思う。私たちの天父は生きておられ，私たちを愛し，祈りに答えて下さる。イエスはキリストであり，この世の創造主であり，数限りない世界の創造主でもある。イエスは私たちの罪のために苦しみ，死に，3日目に復活された。また主の名をいただくこの教会の頭として立っておられる。

福音はこの末日にジョセフ・スミスによって回復された。また今日私たちは，主の予言者によって導かれている。私は予言者に心から忠誠を尽くし，従っている。また前に座っているこれらの偉大な兄弟たちも全員そうである。

私はこの証をイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

絶えず変わろう

管理監督会第二副監督
J・リチャード・クラーク

新任の副監督の証

兄弟姉妹の皆さん，先週以来，私は言葉に表わせない気持を感じている。ある人は心に去来する思いを次のように述べた。「私は神経質になったわけではないが，信じがたいほど物事に感じやすくなった。

私が肝に銘じていることはただひとつ，絶えず変わろうということである。神の予言者によって召され，十二使徒評議員会の兄弟たちと予言者の手の下に責任を託されたことは，私の生涯の中でも特別な体験である。

私もウエルズ長老と同じように，この体験を得るにあたって私の生涯に多くのものを与えて下さった人々に敬意を表したいと思う。

この召しを受けたとき，私は一瞬黙りこんでしまった。するとキンボール大管長から，家に帰って考えたいですかと尋ねられた。しかし私は，結婚のときに夫婦で固めた決意のことを話し，即座にその召しに応じることができた。

これまで受けてきた召しと同様に，この召しも家族の召しであることを私の家族に言いたいと思う。私たちは互いに対して責任がある。すなわち教会指導者の家族はいわばガラス張りの家に暮らすようにしなければならない。また，最善を尽くして，これまで受けた祝福にふさわしい生活を送り，できる限り福音の原則に従って生活するように努めなければならないことを，私たちは認識している。

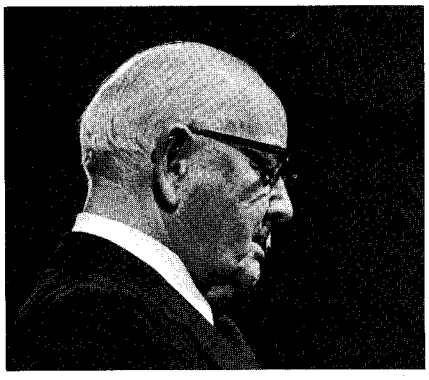
ここで，神が私の心に証して下さったことを私の証として申し上げたい。私の後ろに座っているのは，神の選ばれた聖き予言者である。私たちは世界の歴史上最大の祝福にあずかっている。主がそのみ声を聞くすべての人々を招いておられるこの時代に，私たちは暮らしているのである。主のもとに来て，主のみたまにあずかり，義なる者となり，この世において主の王国で平安と繁栄を享受し，次の世において永遠の生命を受けるようにと，主は語りかけておられる。

証申し上げる。私は，イエスがキリストであり，生ける神の御子であり，永遠の救い主であることを知っている。

また，予言者ジョセフ・スミス，ならびに自らの生活を捧げてきたすべての人々，さらにこの安らかな集まりの中でひとときを過ごせるようにして下さった多くの方々に，私の愛と感謝の気持を表わしたいと思う。

私たち全員の上に主の祝福があって，私たちが義しい心の望みを遂げ，主のみこころのままに主のみ業を果たせるようにイエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。

扶助協会設立百年記念碑のまわりで休む大会訪問者



人のためのプログラム

大管長
スペンサー・W・キンボール

教会員は主から告げられた事柄を行なうように求められている

愛する兄弟姉妹の皆さん，この素晴らしい大会の終りにあたって，少しだけお話したいと思う。

話をして下さった方々は皆，主から豊かな導きを受けていた。また広く名の知られているタバナクル合唱団は，その豊かな才能をもって，私たちに妙なる歌を聞かせて下さった。非常に感銘深いものがあった。また他の合唱団にも深く感謝している。彼らもこの大会を盛り上げ，主と私たちに喜びを与えて下さった。

また，教会幹部の異動があった。私たちは，すべての人が心からこれに同意して下さるよう希望している。

教会幹部の説教はほとんどすべてのテーマを網羅しており，非常に内容の濃いものであった。私たちは彼ら全員の献身を非常に喜びとしている。ここで若干の事柄を申し上げたい。

タナー副管長は，ヨーロッパの地域大会の様子を再現して下さった。私たちは，同じ地域大会を東洋，南アメリカ，メキシコ，南洋諸島で開催してきた。

ロムニー副管長は，正直と誠実と伴侶をテーマにして，主のみ言葉を語って下さった。

また合唱にはさまれて，愛する兄弟，使徒パウロの説教からの抜粋を聞いた。

また，イエスの受けた試みの様子を心に浮かべる機会を得，さらに使徒の目から見た永遠の家族をも心に描くことができた。

教会幹部の方々は，素晴らしい人生の体験をもって道を示し，歩む方向を定めて下さった。また，たとえ話や引用文，勧告の言葉によって，偉大な教訓を与えて下さった。

教会の標準が繰返し強調され，神の戒めに従うようにとの暖かい訴えがあった。

また両親と監督が，立派に召しを果たす宣教師を備えるためにはどうすればよいかについて学んだ。

様々な年代の教会幹部のたくさんの証をうかがったが，それは確固たるもので，等しく人々の精神を高揚させ，信仰を築き，希望を増すものであった。それはふさわしい生活を目ざすように勧めるものである。次の詩にこう読まれている。

労を惜しまず働いても，
不毛の土壌では，
果たしてゆりの花が咲くだろうか。
神を信じなさい。神は花を咲かせたもう。
頭上の雲と，
空に織りなす日没の陽の輝きを，
果たしてよく描けるだろうか。
力のない者よ，おまえにはできない。
神を信じなさい。神は描きたもう。
心悩ます者よ，
おまえはあらゆるわずらいと試練を
その魂から拭い去れるだろうか。
手だてなき者よ，おまえにはできない。
神を信じなさい。神は拭いたもう。

教会幹部の兄弟たちが訴えた，私たちへの勧告と説教に従わなくてもよいという理由が何かあるだろうか。救い主がなぜ失望され，次の言葉を残されたかが，私たちにはわかる。「わたしにむかって『主よ，主よ』と言う者が，みな天国にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行う者だけが，はいるのである。」（マタイ7：21）

また主はこう言われた。「わたしを主よ，主よ，と呼びながら，なぜわたしの言うことを行わないのか。」（ルカ6：46）　この言葉が私たちの家庭に，また将来の生活に指針を与えるものとなるよう希望している。

この素晴らしい大会を終えるにあたって，話に耳を傾けておられる方々に，主が告げておられることを行ない，またこの大会できわめて明確にされた事柄を行なうよう，もう一度お願いしたい。

私の外科手術と癌の手術を知ったある著名な医師は，私が教会の大管長としての大きな責任を受けていることに，一方ならず驚いていた。彼は教会員ではない。従って，主に対して強い確信を抱いている者の感じる力を全く知らないのである。主はゲームを演じているのではなく，人と神の栄光のための大切な計画を進めておられるのである。主は御自分の行なっておられることを知っておられ，いつも適切な働きかけをされる。

私はまた，主のみ業に疑いをさしはさむ人のいることに驚きを覚えるものである。これが神のみ業であるという強い確信と証を持っている私たちは，主の道あるいは決定に疑いを持たない。

讃美歌を歌う耳の聞こえない会員たち

神は生きておられる。このような確信がなく，疑念の薄暗がりの中で暮らしている世の人々を，神は悲しんでおられる。私ははっきりとこのことを知っている。

私はまた，主イエス・キリストが私たちの天父の生みたまえる独り子であり，人の創造と，地球をはじめ人のためにあるすべてのもの，地球にあるすべてのものの創造を助けたもうたことを知っている。イエス・キリストは人類の贖い主であり，この世の救い主である。また，全人類のための救いの計画の創始者である。主が定められた律法に従うすべての人は昇栄する。

この真の教会という機関を組織なさった方は主であり，主のみ名によってこの教会は呼ばれている。末日聖徒イエス・キリスト教会がその名である。救いの力はすべてここにある。

私はまた，主が予言者たちに言葉を下しておられることを知っている。主はアダムやアブラハム，モーセ，ペテロ，ヨセフの時代，その他の数多くの時代に大勢の人々に真理を明らかにされたように，今日も主の僕たちに真理を啓示しておられる。他の神権時代におけると同様，今日も，光と真理を告げる神の教えは人に与えられているのである。

アダムとイブが園に置かれて以来，主はその民に真理と光を明らかにすることを切に望んでこられた。しかし，人が耳を傾けないことがたびたびあった。当然のことながら，耳を傾けないところに語る声はない。

人々が真理を受け入れ，交わした約束と誓約に完全に従うならば，福音の真理は人類を救いと昇栄に至らせることを，私は知っている。

私はこれが真実であることを知っている。私は全世界の愛する兄弟姉妹，友人の皆さんに，この証を申し上げる。すべての方々に，真剣な気持で福音を受け入れ，完全にそれに従った生活を送るよう勧めたい。この証をイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

10月2日(土)　福祉事業集会における説教

福祉活動に欠かせない監督の倉庫

管理監督
ビクター・L・ブラウン

福祉生産事業に着手することにより，監督の倉庫の取得を目ざす

愛する兄弟姉妹，きょう私は教会福祉活動の本質について少しお話し，監督の責任と，その責任を果たす上での監督の倉庫の役割に注意を促したいと思う。

まず，福祉活動の目的を要約したJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の，実に大切な基本となる言葉を引用してみたい。

「福祉計画は，物的必要に関する限り個々人にこの世的な援助を及ぼすものであるが，その霊の福利を考えれば，永久的な恩恵をもたらす目的を持った，永久的な計画と言える。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長，1949年4月5日）

福祉活動が物質的なものとだけ受けとめられがちなことは残念なことである。実際は霊的な面をも兼ね具えたものである。もしそうでなければ，それは単なる人間の組織となり，人が作る組織ゆえの弱さをすべて負うことだろう。この業が世のものと異なる理由は，霊的な面を具えているという点にある。主は，主御自身の方法で行なう必要があると言われた。私たちの業に伴う霊的性格こそが，成功に絶対欠かせないものである。

クラーク副管長はさらに進んで，福祉活動に伴う責任の物的面と霊的面から監督の義務を明らかにしている。「監督は『長老たちの不足するところを授け』，『貧しき者，乏しき者を訪れて救いを施す。』

彼は物的必要に際して監督の倉庫から物資を引き出し，霊的には彼らが心を清くし，悔いる精神を持って，『へりくだりたる心』を保つことができるようにする。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の未公開の記事から，1941年7月9日）

次にこの事柄について，教義と聖約に記されている主の言葉を考えてみよう。

「監督の職は，すべてこの世に属することを執り行えばなり。……（彼は）真理の『みたま』によりてこの世に属ける知識を有つ……。」（教義と聖約107：68，71）監督はこの召しに伴い，「神より賜を受けたりと称するも実は然かあらざる者」（教義と聖約46：27）を見分ける識別のみたまを授かる。彼は「貧しき者を探ねて富める者おごれるものの謙りによってその乏しきを賑わしめ」る（教義と聖約84：112）。

再びクラーク副管長の言葉から引用しよう。「このように，監督はあらゆる力を受け，主が教義と聖約の中で貧しい者をこうして助けよと詳しくあげておられるその責任を与えられる。彼にはそれに必要な資金が備えられ，その務めを果たすために必要な賜と職能が与えられる。この義務と責任は他のだれも肩代りできず，この仕事に必要な力と職能は他のだれにも授けられない。援助の指示とその裁量がただひとりにかかっているというこの主のみ言葉により，教会の困窮者は監督にあずけられる。現実に咎のない限り，監督の処置にだれも疑問をはさむことはできない。教会の資金やワード部の援助をワード部の教会員のだれに、いつ，どのようにして，どれだけ供与するかを決めるのは，すべて監督の責任である。

これは，主御自身から監督に課せられた，神聖で重大な責任である。監督はこの義務を逃れることも怠ることもできなければ，他のだれかに委任して自分は辞退することもできない。何の助けを受けようとも，責任は監督にあることに変わりはない。」（クラーク副管長，未公開の記事から）

この言葉から，監督の務めがいかに重大であるかがわかる。

では，監督はどのようにして福祉の責任を果たすのか，考えてみよう。

まず第一に，当然のことながら監督とワード部福祉活動委員会の委員は，ワード部の会員に福祉活動の原則を教える責任がある。ずっと以前から，教会幹部の兄弟たちはこの壇上から個人と家族の備えの必要性を訴えてきたし，これからもそれは続くであろう。主の計画は各個人の責任が基本となっている。私たちの入手した報告から見て，家庭貯蔵さえ行なえばそれですむと考えている教会員が大勢いる。次に個人と家族の備えの6つの要素をあげるが，これらはいずれも決してないがしろにしてはならないものである。

1．教育と学問　2．雇用条件の改善　3．財政管理　4．家庭生産と貯蔵　5．健康　6．社会的・情緒的強さ

家庭生産と貯蔵は個人と家族の備えの中で特に大切な要素ではあるが，それだけで良いのでもなければ，それが必ずしも一番大切なことと決まったわ

けでもない。ある人々は備えというと終りの日のことのように考えているが，個人や家族の備えの6要素は，末日聖徒がさらに良い備えをして日常生活を立派に送るためのものとして強調すべきである。

この備えを私たちが強調する意図は，危急の場合や恐慌を想定してではない。それとは全く逆で，個人と家族の備えは将来を見越して生活を整え，また主が私たちに授けて下さった資産や賜や才能を活用できるようにするためのものである。その第一段階は，教会員に日常生活の備えをさせ，それによって自立を教えることである。

2番目に，監督は正しい原則を教えるかたわら，ワード部会員の状態と必要を把握しなければならない。困っている人を捜し出してその必要を満たす。通常その人々を捜し出す仕事は，ホームティーチャーと扶助協会の家庭訪問教師によって行なわれる。

第3に，その必要を評価し，明らかにした後，監督は自ら援助する。あるいは教会の方針に従って他のだれかに援助を要請する。主は，監督がワード部会員を援助できるように，数多くの援助手段を備えておられる。ワード部福祉活動委員会，扶助協会，監督の倉庫，デゼレト産業，福祉生産事業，断食献金がそれである。

私はここで，監督の倉庫を取り上げて少しお話したいと思う。

監督の倉庫の建物は，持てる者が持たない者を助けるために供給した尊い物質を保管する神聖な施設である。困っている人は監督から出荷指示書を発行してもらい，食料，衣料その他の日用品を受け取り，自分たちに必要なものをまかなってもらう。デゼレト産業も食料品以外の品を扱う。

生産事業がまだ行なわれておらず，監督の倉庫からの援助を得られないところでは，金銭で運営する倉庫を設置する。これには持てる者が献金をし，監督はこれを用いて困っている人を援助する。

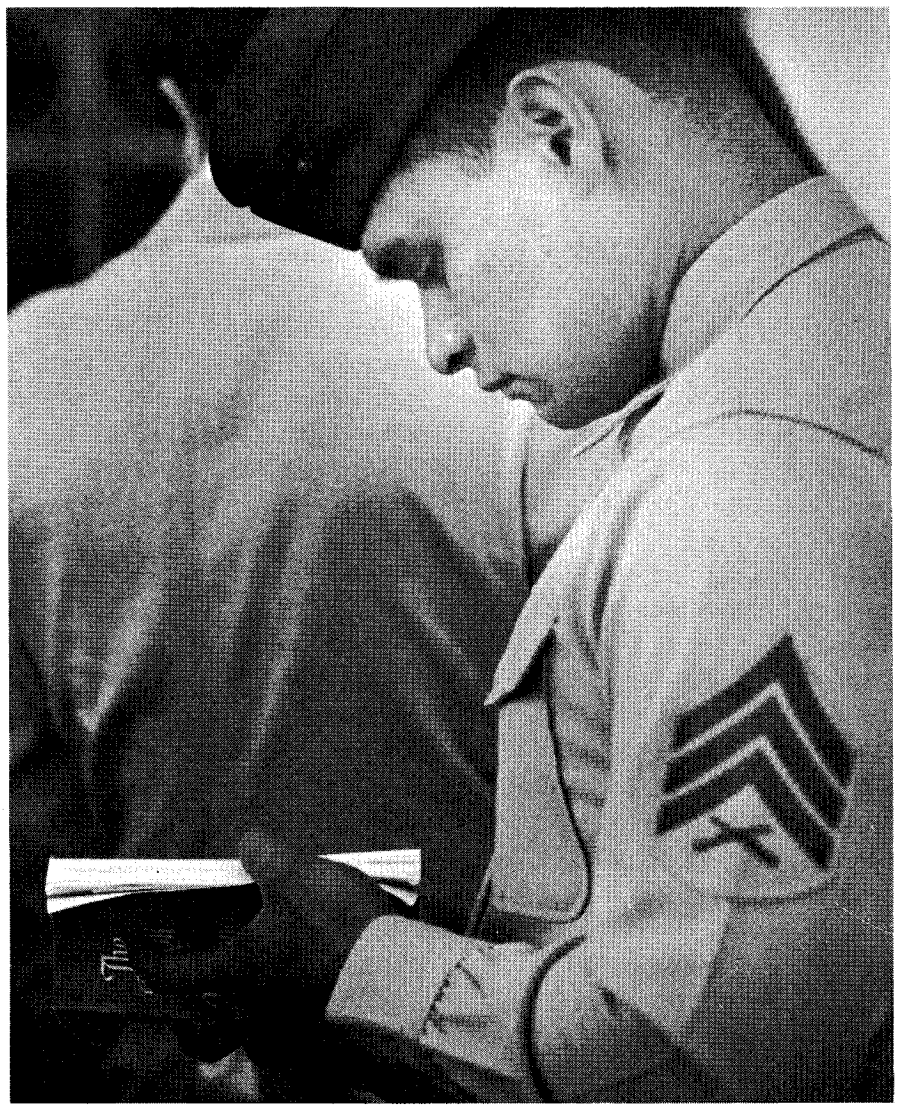
監督の倉庫の場合と同様に，監督か監督の指示を受けた扶助協会会長が監督の指示書を作成する。必要な日用品を挙げた指示書は監督が承認し，署名する。署名のある指示書を持参した者に必要な品を渡すよう，あらかじめ商店と取決めを結んでおく。必需品の代金は教会福祉基金から支払われる。金銭で運営する監督の倉庫があるところでは，このような目的のために断食献金は使用しない。

倉庫と断食献金を持つ監督は，私たちが両手を使って霊的な祝福を施すのと同じように，教会員も祝福する両手のそろった監督である。物質的な援助が必要な場合，監督は両手，すなわち倉庫内の物資と断食献金を使う。兄弟たち，ぜひ覚えておいていただきたい。まず最初に使うのは倉庫に保管されている物資の方の手である。まず物資を使うのが倹約と自立の主のプログラムに適っている。こうすると，監督の倉庫の食料品や品物の回転も促進される。断食献金は主として家賃や光熱費等，現金の支払いが必要な場合に使われる。

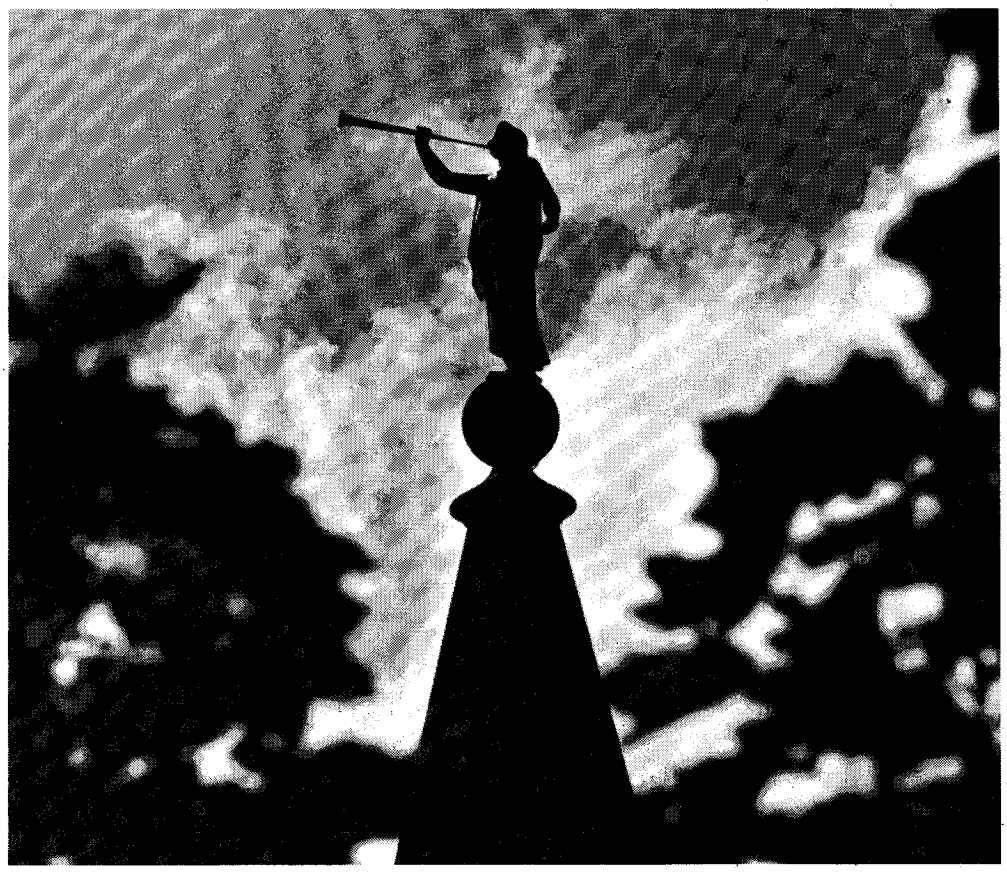
生産と供給を行なう福祉活動プログラムにあって，監督の倉庫は欠かせないものである。現在多くのワード部はまだ監督の倉庫を持つに至っていないが，それは私たちの重大関心事である。この神権時代の初期，1831年に，主は次のように命じられた。

「また監督たる者はこの教会に一つの倉庫を指定し，この民の必要以上に余れる金銭糧食は両つながらすべて此所に保存し，監督の手に於てこれを管理すべし。

見よ，これはエドワード・パートリッヂに示されたる一つの範例にして，



天使モロナイ像



これは他の土地にてもすべての支部教会にても以て範例となすべきことなり。」（教義と聖約51：13，18）

この啓示を受けてから100年を経た1930年に，現在の福祉計画が始まった。そのときから現在に至るまで，兄弟たちは「教会のすべての監督は監督の倉庫を利用できるようにすべきである」と勧告してきた。（*General Committee Bulletin*「中央委員会会報」1948年10月17日）

現在の供給の必要度と生産事業の利用度から見て，必ずしも各ステーキ部にひとつの割合で倉庫を設置する必要はない。しかし「日の栄の世界に在る他の一切の生くる者の上にわが教会員の自立せんがため」（教義と聖約78：14）という主から課せられた責任に応じられないうちは，主の王国に十分な発展はない。また，すべての監督が倉庫を利用できるようでない限り，主の方法によって貧しい者，乏しい者を世話することは完全には実現できないのである。

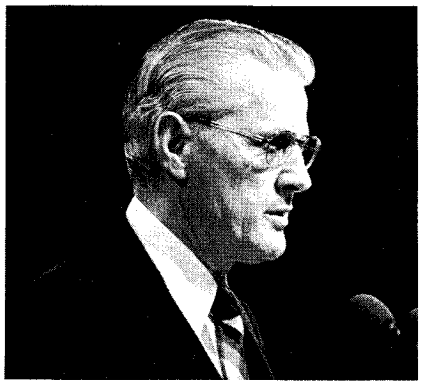
私たちはこれらのことを承知しつつ，監督の倉庫制度を合衆国西部から全世界に押し広めようと，活発な活動を始めている。これは整然としてよく練られた計画の下で行なわなければならない。監督とステーキ部長は現在と将来にわたる倉庫の必要性を検討し，教会中央福祉活動委員会に推薦状を寄せていただきたい。監督の倉庫の設置規準については「福祉活動の手引き」を参照する。

主の倉庫制度が与える者と受ける者を共に祝福することを，私たちはそれぞれによく確認すべきである。監督の倉庫は援助される人に品物を与えるばかりでなく，労働と技能の訓練の場として，人の尊厳を養い，自尊の心を育むものである。私たちは監督の倉庫を通じて真のキリスト教の愛を教え，またそれを実践している。

監督の倉庫は，教会員が犠牲と奉献の誓約を守る手だてとなっている。主は教義と聖約の83章で，「この倉庫は教会員の捧物によりて支えられ」（教義と聖約88：6）と述べておられる。クラーク副管長は次のように語った。「福祉計画の下にある現在の監督の倉庫は，実際に教会員の捧げ物によって運営されている。私たちが現在所有しているこの倉庫は……教会員によってその目的のために生産，製造された物資が保管されている。その捧げ物はまことの捧げ物である。それは献金したお金あるいは後の見返りを全く要求しない無償の行為だからである。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の監督集会における説教，1944年10月6日）

教会の発展を望む監督とステーキ部長は，このチャレンジを受け入れてできるだけ早い時期に福祉生産事業に取りかかるであろう。それはおのずと監督の倉庫の設置に進み，完全なプログラムが実施されるようになって，「日の栄の世界に在る他の一切の生くる者の上にわが教会員の自立」が実現されるであろう。

それが私たちの目標となり，またその目標が達成できるように，主イエス・キリストのみ名により祈る次第である。アーメン。



生産事業の取得と運営

管理監督会第一副監督
H・バーク・ピーターソン

福祉生産事業取得のチャレンジを達成するためのアイディア

兄弟姉妹，けさ私はブラウン管理監督が提唱した福祉事業のチャレンジをさらに細かく検討してみたいと思う。監督やステーキ部長は「できるだけ早い時期に福祉活動の生産事業を開始する」ようにというのがそのチャレンジである。もしあなたのワード部やステーキ部で生産事業が行なわれていなければ，ぜひあなたの在任中に行なうようにしていただきたい。その事業は，監督の倉庫の必需品をまかなう適切な事業でなければならない。つまり，監督の倉庫が割当地域に住む貧しい人や乏しい人の必要とする物品を自給できるようにすることである。もしもあなたのワード部がワード部かステーキ部のいずれかですでに生産事業を始めているならば，ワード部会員が十分に参加する機会を得，事業が理想的な形で運営できるようにしていただきたい。御存知のように，この事業は単一のワード部，複数のワード部，あるいはステーキ部単位のいずれによっても組織できる。このチャレンジの鍵は，あなたの在任中に実行することである。

きょうの私の目的は，このチャレンジをどのようにして実行したらよいかについて，アイディアを提供することである。そのために，いくつかの基本的な疑問に答える形で，生産事業というものの正しい見方をつかんでみよう。まず初めに，貧しい人，援助の必要な人，災難にあった人は教会でどんな援助を受けるであろうか。教義と聖約の中で，主はこのように言っておられる。

「すべて子女たる者は丁年に達するまで養育の義務を両親に要求する権利を有す。

丁年に達したるのちその両親相続物として彼らに与うるもの無き時は，教会すなわち言い換うれば主の倉庫に向いて要求する権利を有す。」（教義と聖約83：4－5）

個人が自立できないときには，その家族ができる限りの援助をする。そして家族に，援助を施すだけの余裕がなくなったときにはじめて，監督に援助の権限が与えられる。各ワード部の監督は教会内の貧しい人，困っている人を世話する権限を託されており，識別の力を与えられている。ワード部会員のだれに，いつ，どのように，どれほどの援助を教会基金または在庫日用品から与えるか決めるのは，監督の義務である。それは監督のみに託された務めである。これは主御自身から課せられた神聖で大切な義務である。またこの仕事を果たすために，だれに，どのような援助を要請するかを決めるのも，監督の責任である。監督には，教会の福祉活動プログラムに忠実に従って貧困者を援助するという大きな責任がある。また大切なことでありながら見落としがちなことがある。それは，福祉計画にあずかる人はみな能力の限りを尽くして働かなければならないということである。理解ある神権指導者はこの基本原則を忘れないであろう。受けるだけで与えることが伴わないと，その人をだめにすることがある。

次に，貧困者の生活を助けるために監督が使う資金や物資は，どこから得るのであろうか。現金は断食献金からで，日用品は倉庫からである。

断食献金についてであるが，金銭的な援助をしたいけれどもその方法を知らない教会員がいるということを最近耳にした。ここで再確認したい。貧しい人々のために教会に献金したい教会員は，断食献金を納めていただきたい。キンボール大管長はこのように語っている。「裕福なときには，より寛大になる必要がある。そして断食献金も2食分と言わず，その7倍でも納めるという心の広さが必要である。」（フィルムストリップ「福祉活動の原則……わが道に適いて」より）

主の油注がれた予言者のこの呼びかけに，忠実な教会員はこぞって応じることであろう。

第3に，監督の要請によって供給される日用品は，どこから倉庫に集まってくるのだろうか。全教会を通じて，教会員の福祉献金と生産事業への労働参加によって，監督の倉庫に入る食料品や日用品がまかなわれている。倉庫はいつでも，監督が出荷指示書を交付して貧困者に日用品を供給できる状態でなければならない。倉庫が利用できる場合，監督は教会の方針として，断食献金の基金を使う前にまず日用品などの物資を使うべきである。そうするときに，生産活動は円滑に進み，断食献金を使って市販品を買うよりも教会にとっては安価につき，さらに，商品の流通は常に安定しているわけではないので，結局確かな自給への道を歩むことになる。

次に，生産事業の基本目的は何であろうか。まず何よりも，食料その他の日用品を貧困者に提供することである。第2に，献金や労働奉仕を通じて，持てるものを人に分かつ機会を教会員に与えることである。第3に，日用品や現金を効率よく確保して生産目標額を達成し，また年間の運営費をまかなう。第4に，教会から援助を受ける人々に労働の機会を提供する。第5に，貧困者の援助ができるように，地域の自給を促進する。第6に，土地を保持し，訓練と経験を積んだ経営者や労働者を確保して，できれば1年分の種や肥料，燃料，飼料なども持ち，将来に必要とあればその他の日用品を供給できるようにする。第7に，各個人，家庭，定員会に，兄弟愛を感じ，また基本食品の生産方法を学ぶ機会を与える。そして第8に，地域社会の事業経営の模範となって，事業を成功させ，教会の良いイメージを世間に浸透させることである。

最後に，ワード部やステーキ部は生産事業をどのようにして始めたらよいであろうか。生産事業の開始あるいは促進の必要性について，監督とステーキ部長は副監督と副ステーキ部長に十分な調査を依頼する。その割当てを受けた副監督，副ステーキ部長は，扶助協会会長会を代表する副会長と共に調査を行なう。事業計画にふさわしい経歴や経験を持つ農場経営者や調査面で秀でた実業家など，専門家の助力も得るとよい。計画は，前述の生産事業の目的と合致しなければならない。次に留意点をあげよう。

1．事業の内容は地域の実状に合っているか。
2．その地方の他の事業と両立するか。片寄ってはいないか。福祉計画全体から見て適当か。
3．ワード部やステーキ部内の教会員に対して，どれだけの経済的，時間的負担の要求が見込まれるか。
4．認可と物件の取得と運営に要する日数はどうか。
5．運営計画の概要には，生産量，生産費および純益の見積り，援助可能人数，ならびにその事業が割当てを予想される生産目標額を満たせるかどうかが盛られていなければならない。
6．また，計画案には以下の事項も加味する。
   a．教会員に好まれそうか。（たとえば，ステーキ部が広い地域に及んでいる場合，ステーキ部や地区の事業よりもワード部単位の事業の方がよい）
   b．規模と様式はワード部，ステーキ部の教会員に合っているか。（事業経営の技術や手腕を持つ人が確保できる。運営を能率よく行なうためには十分な労働力も必要である）
   c．その製品の生産に成功した例はあるか。（農業でも実業でも地域ですでに実証ずみの方法に従うことが大切である）
   d．生産品は地域の自給自足に役立つか。（酪農製品，穀物，野菜，果物，蜂蜜，肉，卵，油脂，かんきつ類とその代用品，および家畜の飼料が地域で生産できるとき，食糧に関して自給自足が実現する）
   生産品は常時必要な物であること。

責任を負った神権指導者は，計画案を十分に検討した後，よく祈って決定しなければならない。ユニットが決定を下したら，手引きにあるように福祉活動委員会の集会でそれを検討する。ワード部やステーキ部の神権者たちによる承認も必要である。地域で検討し，承認した後は，教会の中央福祉活動委員会に申請する。

生産事業はすべて中央福祉活動委員会の承認が必要である。申請書は教会本部に請求して送付を受ける。

さて，このチャレンジに応えて計画案を作成し，中央福祉活動委員会の最終的な承認を得ようとするとき，財政の問題が出てくるに違いない。福祉生産事業は地域のユニットが全資金(100パーセント）を負担する。しかし必要であれば，事業の開始時に中央福祉活動委員会から融資を受けることができる。また必要に応じて運営，資本拡張，事業拡張にあたっても融資が可能である。創業時には経費の最高75パーセントまで融資が可能であり，その返済は5年以内とし，ケースバイケースで決められる。取得経費は事業の収益ではなく，教会員からの献金によってまかなわれることを覚えておいていただきたいと思う。この献金は奉献の律法に従った一方法である。

中央福祉活動委員会発行の約束手形に署名をすれば，あなたも会員も記載の事項に拘束されることをはっきり覚えておいていただきたい。

これに関連して申し上げたい。神権指導者が会員たちに，いつ献金が終了してこれこれの日に独立採算で行なえるようになると，期限を切って説明していると聞く。しかし多くの場合にその予測は不可能で，当然の結果として期限内の完済がむずかしい。ここで神権指導者が心に留めておく必要のある大切なことがある。それは，福祉献金は犠牲の律法の一部であり，奉献の律法には終りがないということである。教会の発展ならびに福祉事業の規模と質の拡大に伴い，福祉計画のために献金する機会が将来も引続きあることを教会員に教えることの方がはるかに良い。神権指導者は手引きを読み，そこに記されている原則を教えるべきである。この原則ならびにこれに関連した原則を学んだ教会員は，自分の交わした誓約に従って同胞のために献金し働くことにより，救いの力を感じることであろう。また，貧しい者，乏しい者に主の方法によって自分の持ち物を分かつことから，力を得るに違いない。(教義と聖約104：14－18参照)

では，事業の経営について考えてみよう。ここでは，どの事業にも役立つ経営の原則について話したい。

福祉事業を成功させる一番の鍵は，神権指導者の心構えである。指示に従うよう心を配り，前向きに取組み，熱意を抱いている兄弟たちは，必ずや仕事を立派になし遂げるであろう。

福祉事業は食糧を生産するためにある。あくまで基本となる作物を生産する。試験農場を経営するのではないので，実験的な方法を取り入れてはなら

ない。主要な作物から離れて珍しい品種や定着していない作物を扱ったり，まだ実験段階にあるような技術を用いたりすると，経営困難に陥ることが往々にしてある。自分たちの仕事は食糧生産にあるということを胆に命じようではないか。キンボール大管長の言葉をあげれば，「生産事業の運営を効率的に行なおうではないか。福祉農場のまねごとのような状態にとどまっていてはならない。やがて，生産事業から生産されるものがすべて必要とされる時が来るであろう。現在の生産量よりもさらに多くを求められる時が来る。」（*Ensign*「エンサイン」1976年5月号 p.125）

兄弟たち，それにもうひとつ，事業は能率的，経済的に運営しなければならない。大管長はさらにこのように語っている。「生産事業を財政的に安定させていただきたい。福祉事業は単に人々を一致させるためにあるのではない。神権者が一緒になって労働に精出すことは確かによいことである。しかし，私たちは兄弟愛と経済的効率を共存させなければならない。」（*Ensign*「エンサイン」1976年5月号 pp.125－26）

以上のことを踏まえた上で，具体的な経営方法を6項目お話したいと思う。

1．**組織**　事業を運営している各ユニットからの代表者と1名の委員長より成る委員会を設ける。必要ならば事業経営の手腕がある運営管理者を任命する。委員は各自の責任に必要な知識，技術，経験を備えていなければならない。この委員会はできるだけ常設とし，将来も経営に携わる。一般には委員長が日常の決定や裁断の責任を持つ。委員会の機能は重役会の機能と似ている。運営管理者を雇用する場合，その運営管理者は作物の生産作業に大半の時間を費やすものとする。

2．**計画**　年間の運営計画と予算を立て，それに従う。運営計画では何を，いつ，どういう理由で，どのように生産し，販売するかを決める。いつ，どれだけの運営資金が必要かを，融資を受ける場合はいつ，どのようにして返済するかも明示する。入念に準備し，計画に従うならば，経済的，能率的に，しかも健全な操業ができるであろう。

3．**作業**　農業には時期を失しない作業が何といっても大切である。近代農業には経営感覚と確かな技術が求められている。種をまくにも刈入れるにもその時があり，賢明な計画とその後の勤勉な作業いかんで，事業の成否が左右されるであろう。地域で確立されている農業を行なうようにもう一度念を押したい。

4．**記録**　有能な会計書記を任命して正確な記録をつけ，また福祉事業独自の銀行口座を開設する。書記は教会本部に提出する月間報告書のほかに生産記録をつけ，委員会がそれを用いて能率や運営費や利潤などを知ることができるようにする。会計報告書を遅れずに作成し，それを検討し，利用すれば，事業管理は改善され，またあなたの管理の職も十分に果たせる。記録管理は書記と運営管理者両方の仕事である。

5．**販売**　福祉事業でとかく見落とされがちであるが，農作物の販売も計画の内である。福祉生産物配送部が品質保証制度を打ち出した。かん詰工場や倉庫にまわすのは良質の物だけとする。倉庫に収容しきれない作物はすべて売却する。その際大切なことは，良質の品を適時に最適な値段で販売し，財政の一助とすることである。

6．**労働奉仕**　福祉生産に独特のものとして，教会員の労働奉仕がある。労働力を最大限有効に使うには綿密な計画と徹底が要求される。多くの場合，その労働奉仕と並んで，地域の農業指導員や実業家や農業経験者など専門家の奉仕が得られる。委員や神権指導者が一般の奉仕者を訓練，監督すれば，運営管理者は操業の検討に専念できる。

これら6つの原則を一貫して行なえば，事業は成功し，主の計画に従ったときに常に得られるあの満足感を感じるに違いない。あなた方指導者はこの方法に従うことによって，在職中に自分のワード部ないしステーキ部で生産事業を開始あるいは拡張させるというチャレンジに応えることができるであろう。

これまで述べてきたことは合衆国やカナダにしか適用されないと感じる人もあろう。しかしはっきり申し上げたい。これらの原則は世界各国の事業に同じように適用される。事実，イギリス，ウェールズ，サモア，トンガ，オーストラリア，韓国で，この生産事業がすでに行なわれている。全世界の神権指導者に，このチャレンジを受けるようお勧めする。

私たちが日の光栄の王国にふさわしくなるには，日の光栄の律法に従わなければならない。その日の光栄の戒めのひとつが、貧しい兄弟姉妹，援助の必要な兄弟姉妹を主の方法によって助けることである。福祉生産事業は，監督の倉庫を介して供給される必需品の生産を通じて，私たちがこの尊い義務を果たすのに役立っている。また，私たちが自立して，万一の場合に備えるためにも役立っている。

生産事業に関連して多くのチャレンジがある一方で，参加する人々には大きな祝福がもたらされる。年配者は若い人々の模範となり，父と息子，母と娘が共に働き，克己と犠牲と従順を学び，様々な職業の人が一緒に働くことを学ぶ。大工，鉛管工，教師，弁護士，医師など，あらゆる職の人々が肩を並べて働き，協力と友情と伝道の機会を得，定員会や家族や友人や隣人の絆が強くなる。農業者や実業家たちの理解は深まり，技術は進み，生産事業は健康増進の機会ともなる。

また，私たちは皆消費者であるが，生産事業に参加することによって日常の食物がどうして得られるかを知り，生産に伴う問題にも目覚める。人はまいて世話をするものをそのまま刈り取る，という収穫の律法を一層よく理解し，またどの事業にあっても祈りと霊的な成長の時間が人々に与えられる。

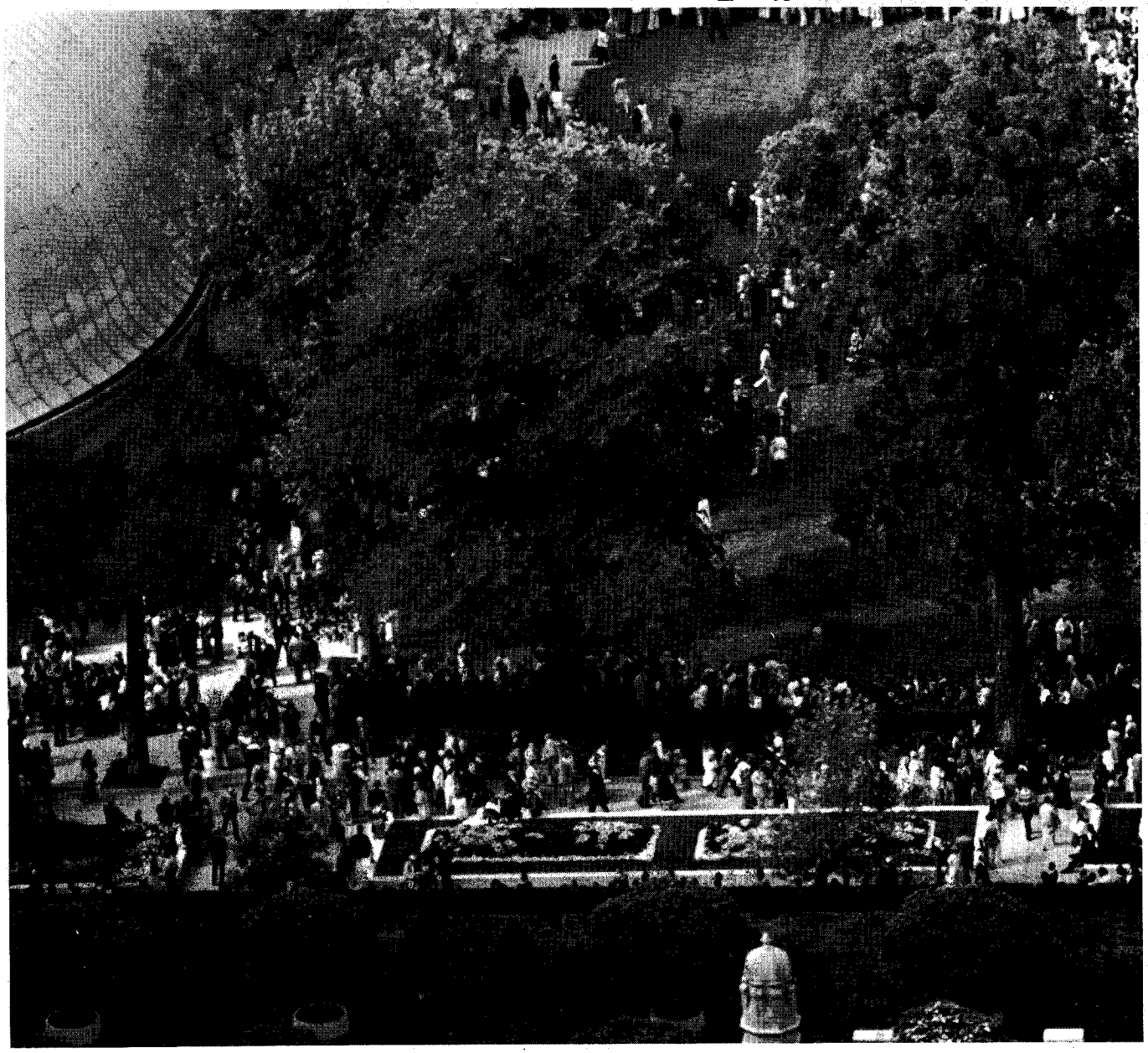
生産事業は自然界における神のみ手になる業に対する理解を深める機会である。

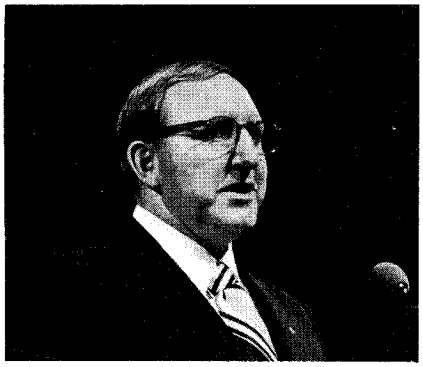
これらは目先の報いであるが，長い目で見た報いもある。その一番大きなものは，貧しい人や困っている人を助ける物資の生産である。福祉生産事業の全容をつかむことができれば，私たちはそれに参加したいと願うことであろう。

さあ，このチャレンジに応え，力強く進み行こうではないか。兄弟たちよ，教会の全ワード部が，あなたの在任中に生産事業を開始するように，また拡張するように。

主がそのように働く私たちを祝福したもうように。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

空から見たテンプルスクエア，左上はタバナクル





福祉の原則

七十人第一定員会会員
ボーン・J・フェザーストーン

会員の求職は私たちの責任である。職を求める会員を指導するためのアイディア

私はこれまで徳高い立派な方々，ブラウン監督とピーターソン副監督の陰にあって歩んで来られたことに対して，心からの感謝を申し上げたいと思う。また，J・リチャード・クラーク副監督は彼らにふさわしい同僚であるという証を私が持っていることもぜひ知っていただきたい。

きょう私はブラウン監督から，職業に関連した責任について話す割当てを受けた。職業については，すでに半年前にピーターソン副監督が話している。

かなり前の話だが，ひとりの母親がフレディーという息子をＬＤＳ病院に入れて手術を受けさせた。手術は成功して少年は回復に向かった。その日の午後7時に，フレディーの母親は婦長のところへ行き，「家に帰りたいのですが，フレディーを30分ごとに見てやっていただけますか」と聞いた。

婦長は，「巡回はきちんとしますが，でも，忙しいので30分ごとにというのはちょっと無理ですね」と答えた。

すると母親は，「じゃ，帰らないことにします。一晩ここにいますわ」と言った。

婦長はそれを聞いて，「それには及びません。私が30分ごとに見に行きます」と言った。

そこで母親は家に帰った。病院は中央に看護婦室があって両側に長い病棟が続いていたが，フレディーはその一番奥の病室にいた。7時半になって，婦長は長い廊下を歩いて行き，ドアからのぞいて，「フレディー，どう大丈夫？」と聞いた。

フレディーは「うん，元気」と返事をした。

婦長が廊下を戻って帰ったときには8時近くになっていた。彼女はすぐに引き返してフレディーの病室へ行き，「フレディー，元気？」と聞いた。

フレディーは，「うん，元気だよ」と答えた。

彼女は長い廊下を歩いて看護婦室に戻った。8時半と9時と9時半と10時に，同じようにフレディーの病室に顔を出したが，やがて彼女はこう考えた。「何も仕事ができないわ。どうにかしなくては。」

そこで彼女はインタホンを使おうと考えた。ボタンを押して，「フレディー，大丈夫」と聞くと，答えがなかった。「フレディー，元気なの」と聞いても，返事は返ってこなかった。「フレディー，大丈夫？　返事してちょうだい！」

するとかすかな声がした。「うん，壁さん，何の用？」と。

私たちが失業問題について話すとき，この問題は半年前にピーターソン副監督が話し，今また私が話すのだが，私たちが話す相手は決して壁ではないことを承知している。しかし，反復は良い教師であると思う。

人は完全に自立して自分と家族の面倒を見るべきであろうということは，私たちが常に教えているところであり，また時のはじめから教えられてきたことでもある。これは永遠のまことの原則である。多くの教会員がそのような完全な自立を果たしている。自分の職業は自分で捜す責任がある。しかし，定員会あるいはワード部の指導者である私たちが，その立場からこの原則を考え，個人の問題は個人で解決できるはずだとして，自分たちの責任を回避する例がある。しかし実際には，私たちにも大きな責任があるのである。その責任について理解し，実行に移す上で役立つふたつの原則をここでお話したいと思う。

1．個人が自立しなければならないことは真実である。
2．しかし，その個人に対する直接の責任が定員会やワード部会員にないとはいえない。

ワード部に失業者が出た場合，まず本人に職捜しの責任がある。職が見つからないときには，その家族が彼を助けるべきである。また定員会やワード部に，失業したときにすぐさま助力を申し出る。

失業から時間が経てば経つほど，職捜しはむずかしくなる。それには幾つかの要因がある。

1．本人が自信を失う。
2．精神的，肉体的，経済的に重荷を感じて気持が乱れ，思考が鈍る。
3．日ごとに自分の価値を疑うようになる。
4．まわりの人々や求人側から求職者にレッテルが張られる。「ちゃんとした人なら仕事が見つかるはずだ。何かあるに違いない。雇うのはどうも気乗りがしない」というように。
5．失業の期間が長くなるほど，機

会があっても仕事への復帰がしづらくなる。

ハーベイ・ジェイコブス氏の「自由，その恐ろしき賭（*Freedom, A Terrible Risk*）」と題する話の中に，次の一節がある。

「数年前の日本の小説に，見知らぬ村をさまよう主人公が砂穴の罠にはまってしまうというのがあった。食べ物と水は降ろされるが，はしごがない。彼は必死になって出ようとする。罠をかけた者たちに出してくれと頼み，条件も出すが，どうにもならない。何ヵ月も経つと，物乞いが日常のこととなった。長い時期が過ぎて，日夜を問わず精根傾けて求めてきたものがついに得られ，彼は穴から出て全くの自由の身となった。

すると急に恐ろしくなった。保護なしに世に出ることを思うと不安になった。自分は迷子になると思った。それまでの小さな穴の中では，少なくとも未知の危険からは守られていた。今や彼は自由が報償ではなく，危険な賭であることを知った。」

失業の経験がない者には，長い失業から生じる自信喪失や不安を理解するのはむずかしいであろう。プラトンは，何事でもはじめが肝心であると言っている。

では，定員会やワード部は教会員の雇用問題にどんな援助ができるだろうか。また，実際どのように援助しているだろうか。

I．ステーキ部長と監督は，それぞれステーキ部とワード部の福祉活動委員会で雇用問題について，特にこの大会の福祉集会で説明される原則を教える。

II．定員会会長と監督は，教会員が失業したことがわかったら，日曜日まで待たずにすぐにその教会員と連絡を取る。そして次にあげる事柄を実行するように勧める。（中には地方によって該当しない提案もあるだろうが，原則はどこでも通用する。できるだけ本人の力を生かす）

A．職捜しの決意を固める。毎朝7時には起きて身だしなみを整え，祈り，朝食をすませて，8時には職捜しに出かける。毎日数時間を職捜しにあてる。

B．職捜しにあたっては，以下の事柄に留意する。

1．履歴書を作成する。定員会やワード部の経験者はその作成を手伝うことができる。

2．希望の職種に従って，適当であれば履歴書を会社の人事課へ郵送するか，持参する。

3．自分に経験のある業種や会社を調べ，電話で約束を取る。

4．新聞の求人欄に目を通す。引っ越しをいとわなければ遠方の新聞でもよい。

5．職業斡旋の機関を調べる。

6．専門の分野にどんな会社があるか，電話帳で調べる。

7．就職口を知っていそうな知人や友人を訪ねる。

8．（少なくとも30分は）時間を取って，どこへ職捜しに行ったらよいかを祈り，考える。霊感と導きが得られるであろう。

9．信仰と自信を深める本を読む。たとえば聖典や立志伝など。

C．翌日の職捜しでは具体的に何をするのか，計画を立てる。このときも，経験ある人が独創的なアイディアや話し方を共に考えてあげることができる。

D．面接にはきちんとした服装をする。それによって自信がつき，第一印象もよくなる。最初からやり直す意気込みを持ち，意欲があることを求人先に知ってもらう。

E．たとえそれが全財産であったとしても，什分の一は完全に納める。これは，必要な主の祝福を得るひとつの方法である。

III．定員会会長と監督は，失業した教会員と話すときに次の点に努力する。

A．自尊心を取り戻すことができるように助ける。

B．前述の事柄を教える。

C．求められたら按手をして祝福を授ける。

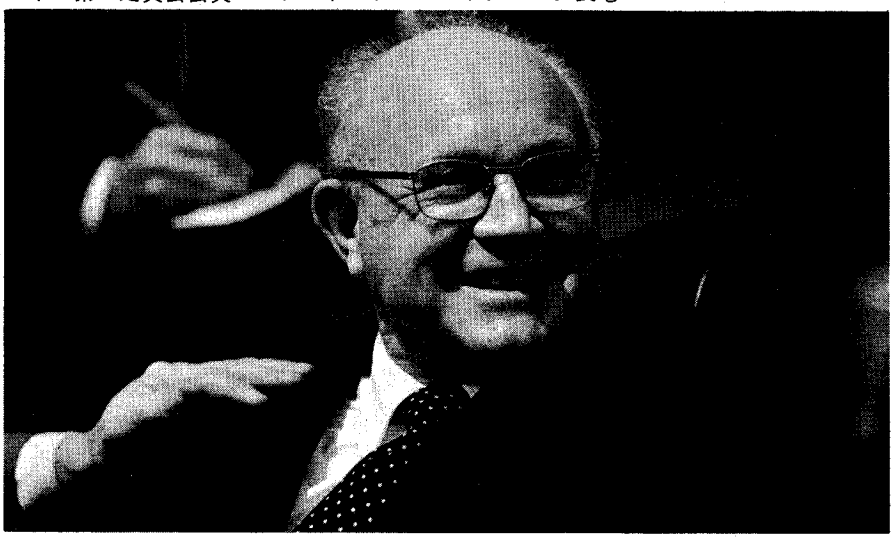
D．必要に応じて，援助を与えることのできる定員会やワード部の会員に援助を求める。

IV．仕事がすぐに見つからないときは密接な連絡をとり，自分の状態をよく把握して前向きの考え方をすることができるように助けてあげる。

V．必要に応じて何人もの援助者の助力を得る。何といっても最大の支援者は一丸となって結束した定員会である。定員会の会員一人一人に，就職口を捜す助けを割り当てる。

VI．職業訓練を受けて出直すときに

七十人第一定員会会員バーナード・P・ブロックバンク長老



定員会会員の援助が必要とされる場合や，商売を始めるのに定員会の援助が要請される場合もある。

定員会とワード部の大きな祝福は，求職者が孤立感を持たず，大勢の人々が自分の職捜しのために働いてくれていると感じることである。ワード部福祉活動委員会では個人の必要に関して話し合うが，定員会やグループの指導者は各自すぐに定員会やグループの会員を職捜しに加わらせるようにする。こうして神権ユニットが結束して就職口を捜す手助けをするのである。

1937年にハロルド・B・リー長老はこう語った。「定員会の輪から一歩遠ざかるたびに，就職の可能性がどんどん遠のいて行くことが，会員にはっきりわかるようでなければならない。」

必要であれば，全ワード部をあげて助けなさい。成功のチャンスはそれこそ百倍にもなる。こういうことがある，と話をするのも一法，実際に解決に尽力するのも一法である。ワード部福祉活動委員会は，成果をあげるためにある。定員会とワード部が一致して，職の必要な人のために断食をし，祈り，努力するならば，奇跡が生じるであろう。

囚人がふたりの衛兵に守られて，両側に独房が続く廊下を歩いて来た。ひとりの囚人がどこへ行くのだと聞くと，「電気椅子だ」と答えた。

「おや，それは力がつくね！」と囚人は言い返した。

私たちは定員会とワード部が一丸となったときに力が出る。

各ワード部は機能的な就職システムを持つべきである。それには個人，定員会，ワード部，ステーキ部，地区および手伝ってくれる地域社会の専門家や経験者が含まれる。ある地域には教会の雇用センターがあるが，これは定員会やワード部の支援が全く得られない場合のために設置されたものである。それは神権者が主に求められている方法に従わないためである。過去には定員会からワード部，ステーキ部，地区への伝達が非常に遅れていた。原則が悪いせいではなく，地域の神権指導者が自分の管理の職を正しく行なわないためである。就職の機会があるのにぐずぐずしていると時機を失してしまう。

私たちは定員会組織に対する理解がまだ足りない。定員会組織を正しく理解したときに，「力」が教会中に満ちるのを知るであろう。その力がこの世にあって効力を発揮するのである。神権定員会は王国の男性たち，兄弟たちの兄弟愛を目的として設けられた主の組織である。定員会は，定員会会員の霊的な進歩成長を助けることが第一の働きである。定員会会員一人一人の物質的な福祉を図ることは，互いの責任である。

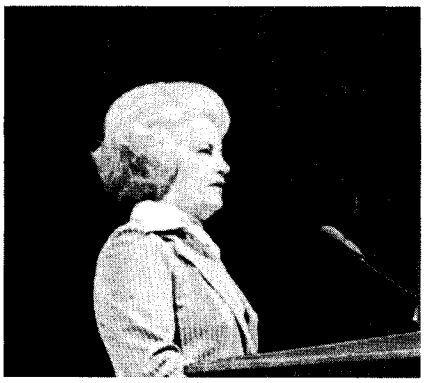
立派な定員会には，会員を鋼よりも強い絆で結ぶ神聖な兄弟愛が存在する。定員会は「キリストの純粋な愛」がゆきわたる愛の組織である。この「愛」が活動のすべてに浸透するときに，会員は互いにキリストのような関心を寄せるであろう。彼らは失業した兄弟が担う重荷を，自分の重荷として感じ，何かをしようという気持に駆られる。定員会の相互関係と活動を指示するのは定員会会長である。

大会を終えて

監督は個人の福祉に対して責任を持つ副監督を通じて，定員会以外の職捜しの活動を調整する責任を持つ。

愛する指導者の皆さんに神の祝福があって，恵まれない人々を愛することができるように。その愛とはキリストのまことの愛である。「いつまでも存続するものは，信仰と希望と愛と，この三つである。このうちで最も大いなるものは，愛である。」（Ⅰコリント13：13）イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

☆　　☆



「彼女はその家の者のために雪を恐れない……」

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス

小クラスでの指導により、家庭生産と貯蔵の目標を達成する

愛する兄弟姉妹，去る7月にステーキ部扶助協会会長の方々6人が私のオフィスに来て下さいました。ティートン洪水の被災地であるアイダホ州のステーキ部の皆さんでした。

彼女たちは，大勢の神権者が自発的に援助をし，愛を実践して下さったことや，実にたくさんの扶助協会の方々が洗濯や後方づけや掃除，食事の準備，子供の世話など，あの忌まわしい災害に見舞われた人々のために献身的な奉仕をされたことについてお話されました。

姉妹たちのお話をうかがっていて，心に浮かんでくるものがありました。扶助協会のノーブー記念像の中の美しい彫像のひとつです。慈愛の気持を込めて両手を差し出している女性の姿で，それは箴言にうたわれる女性を象徴しています。

「手を貧しい者に開き，乏しい人に手をさしのべる。」（箴言31：20）

私はその被災地を訪れたときのことを思い出しました。教会堂のホールではいくつものテーブルの上に，サイズや印がきちんとついた立派な衣料品が積んであり，別の部屋には小麦やスキムミルク，果実のかん詰，それに食料品以外の品物も整然と積み上げられていました。それはすべて，人々の愛と親切から自発的に提供されたものでした。被害を受けなかった近隣の教会員たちが自分の家を開放して，食べ物や日用品を分けてあげている姿に愛と一致の気持を感じたことも思い出しました。

教会幹部の勧告に従順な人たちが，洪水の被災者に分けてあげられるだけの食糧や日用品を貯えていたのは何という祝福だったことかと，そのとき考えたものです。この不幸な経験を通じて，用心と備えのある生活が大切なことをすべての人々が学んだことと思います。向こう半年間で姉妹全員が教会幹部の定めた貯蔵の目標を達成できるようにするために，私たち扶助協会の指導者たちは何をすべきかについて，ここで考えてみましょう。

第一に，この貯蔵計画について姉妹たちに自分の状態を評価してもらいます。家族は目標を達成しているでしょうか。折り返し点にさしかかったところでしょうか。始めたばかりの人もいるでしょうし，どこから手をつけたらよいか，まだわからない人もいるでしょう。

第二に，貯蔵の原則を教えます。

1．**基礎食品の貯蔵**　年間の基本となる貯蔵食糧には，長期間の貯蔵がきく基礎食品をぜひ入れましょう。穀類（小麦，米，とうもろこし，その他）；粉末ミルク，乾物，豆などの植物性たんぱく源，その他野菜や果物のびん詰，かん詰，漬物，新鮮な野菜，果物；砂糖または蜂蜜など砂糖の代用品；油脂類；塩；水。食糧の貯蔵が困難な国では，いも類の栽培や豚，にわとりの飼育，魚の養殖も考えられます。粗食を消化する能力を鍛えるには，平素から精白しない穀物を用いるのが大切であることも覚えておいて下さい。

2．**衣料品と燃料の貯蔵**

3．**緊急用品**　水，冷蔵（冷凍保存）や調理の不要な食料，家族に必要な薬，着替え，救急用品や救急処置法の本，斧，シャベル，毛布などは，緊急時にすぐ持ち出せる場所に保管しておきたいものです。このような品物は，逃げる時間があまりないときや，戸外に避難していなければならないときに必要です。重要書類も緊急時に持ち出しやすい場所にまとめておくのもよいことです。

4．**その他の貯蔵**　基本の貯蔵に，栄養になる食物や日常入用なものをさらに追加して，その家庭にあったバラエティーのある食料計画，衣料計画を立てるのもよいでしょう。その場合，貯蔵するものは，普段使っているもので，よく買う品物にします。

もう一度繰り返しますが，家庭貯蔵には，1年分の基礎食品，衣料，それにできれば燃料が含まれます。この目標が達成できたら，緊急用品とその他の貯蔵を行なうとよいでしょう。

何を貯蔵するにも，品質，容器，貯蔵温度，貯蔵品の回転をよく考えなければなりません。教会員が最近遭遇した幾つかの災害で，貯蔵の場所と容器の種類をいろいろ分けておく必要のあることがわかりました。全部をかんの容器とかプラスチック容器とかガラス容器に統一しないようにということです。

私は1976年4月の福祉事業集会で，扶助協会のホームメーキング小クラスに8つのテーマを提案しました。復習する意味でもう一度御紹介しましょう。

○緊急時や家庭貯蔵のために一貫した貯蔵をする方法。
○貯蔵の品目，場所，方法について。
○菜園のための種の貯蔵，土壌の整備および道具について。
○野菜の自家栽培の方法。
○かん詰と乾燥食品の作り方。
○健康に必要な食物の上手な摂取法。
○ミシンのかけ方および裁縫，繕い，衣服の仕立て直し。
○貯蔵食品と手もとにある食品とを上手に使って栄養豊富で食欲をそそる食事を作る方法。

ステーキ部や地方部の扶助協会指導者たちにぜひお勧めします。小クラスの中で，貯蔵食品をいかにして毎日の料理に使いこなすかを教えるように指導して下さい。また，その地域の文化，風土に合った家庭貯蔵について，信頼のおける資料を捜して研究して下さい。地元の神権指導者と相談し，地域の人々にできる実際的な貯蔵計画を立てて下さい。貯蔵計画は各個人や各家庭の状況によって非常に異なります。しかしいずれの場合にも，パンフレット「家庭貯蔵計画の基本」に記載されている事柄は役に立ちます。このパンフレットは教会のディストリビューション・センターから入手できます。

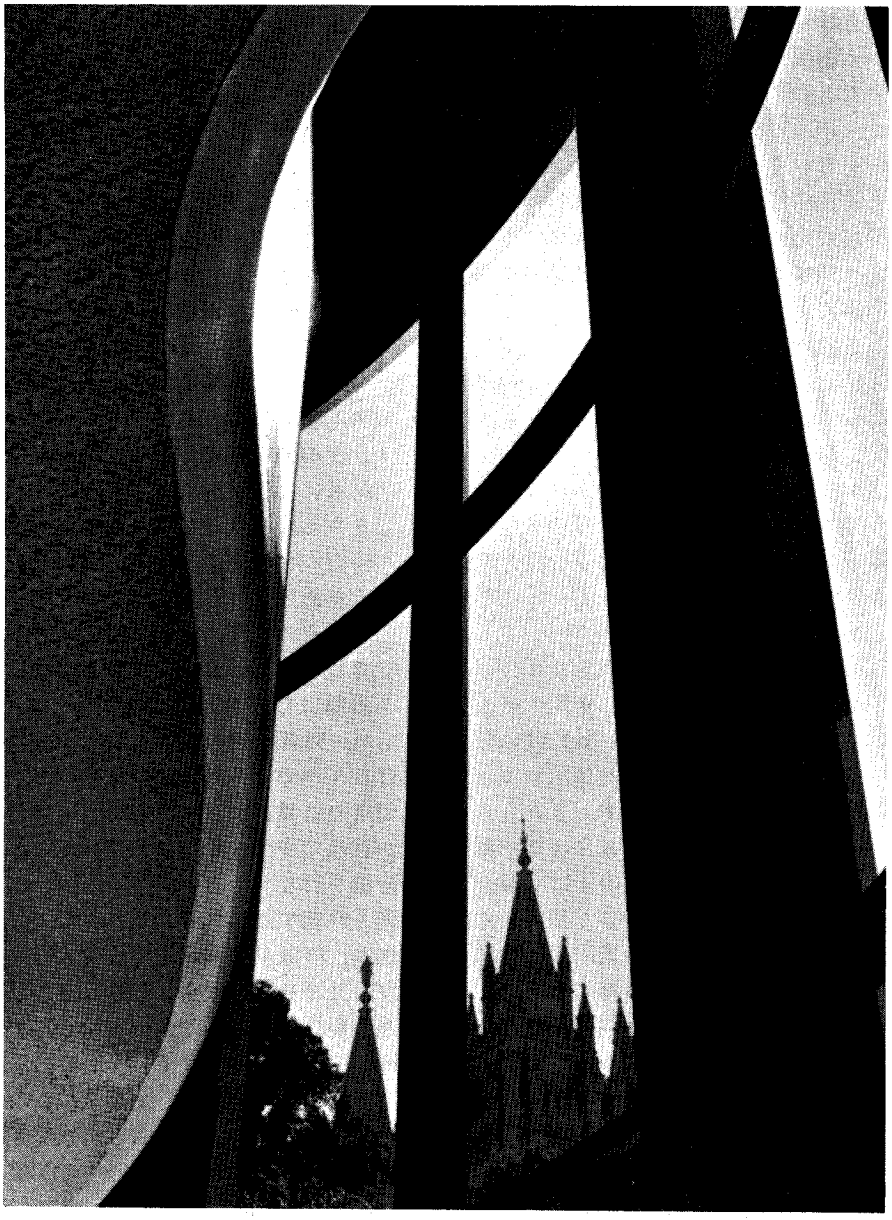
扶助協会指導者の皆さん，姉妹たちがどうしたら教会の福祉事業に参画できるか，その方法を開拓して下さい。

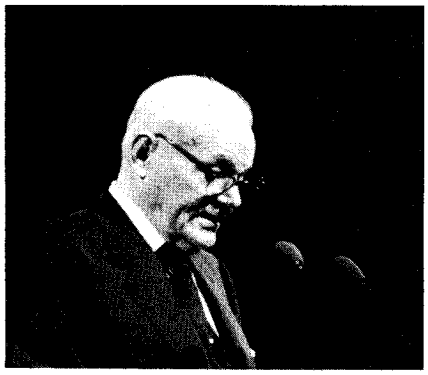
生産事業やかん詰作りの実際の労働に活発に携わることもできるでしょうし，電話することや計画立案に参画することもできます。若いお母さんたちが福祉計画で働けるように子守りをすることもできますし，お母さん同士で子守りをし合うのもよいでしょう。家族ぐるみで生産活動に参加して，兄弟姉妹の絆を深めることもできます。姉妹たちは，家族が参加したいと思うような活動やスケジュールを計画して下さい。女性の反応や態度は，家族やほかの人々に大きく影響します。熱意はみんなに伝わり，その責任を果たすことが，愛と奉仕，労働と自立，管理と奉献の原則を教えるまたとない機会となるのです。

福祉活動に参加する姉妹たち一人一人が，扶助協会のノーブー記念像の象徴している通りの祝福に浴し，さらにはその姉妹にとって，霊的にも恵まれると思います。姉妹は子供たちの良い模範となり，その家族は物質的にも社会的にも恵まれます。また，現在の扶助協会の姉妹たちは，ノーブーの姉妹たちが感じたと同じように，教会の神権者と協力して働くことに特別な祝福があることを知るでしょう。そうするときに私たちは，アダムとイブに始まった協同，つまり心を合わせて共に働くという夫婦本来の姿に一層近づくことができるのです。

教会の女性たちが，家庭生産と貯蔵に対して十分な備えをして，必要なときに惜しみなく施し，個人や家族に一層の安堵感を与えるよう，そして私たちが，昔の徳高い女性のように，「その家の者のために（逆境の）雪を恐れない」（箴言31：21）でいられるように祈っています。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

訪問者センターよりソルトレーク神殿を望む





主の道に適いて

第二副管長
マリオン・G・ロムニー

自立と勤勉は，この世の救いを得させる主の計画の基本原則である。「あなたの父と母」を敬うことも同様である

兄弟姉妹の皆さん，これから少しの間，信仰と祈りをもって皆さんの心を福祉プログラムの基本に向けていただきたいと思う。朝の大会で素晴らしいお話をして下さった兄弟たちとスミス姉妹に心から感謝している。

フェザーストーン兄弟の壁の話をお聞きして，私はある出来事を思い出した。しばらく前のことであるが，ふたりの警備員が夜，神殿の上の方で警備にあたっていたときのことである。辺りはすでに暗かった。神殿の正面で2，3人の酔っぱらいが門にぶらさがって神殿を見上げていたが，その中のひとりが声を張り上げて，「おーい，モロナイ。何か言ってくれ」と言った。そこで警備員のひとりが，「何が欲しいのか」と答えたというのである。

今朝，私が申し上げることは何も目新しいことではない。これまで何度もお話してきた事柄である。無論，以前と全く同じことをお話するわけではない。過去35年にわたって私が教会員の皆さんに教会の福祉プログラムの基本についてお教えしてきた事柄の大要を申し上げたいと思う。私は今回のこの話に「主の道に適いて」という題をつけてみた。

社会がローマその他の文明と同じように，福祉国家や社会主義という見せかけだけの魅惑に屈して没落への道をたどっている今日，ここで御父の子らのこの世の救いを意図した主の計画を繰返し強調することは，理にかなっていると思う。

主の計画と現代社会の不条理な行為との相違をはっきりと対比するため，私が個人的に集めた資料から少し読んでみよう。

最初は通りを歩いていたヒッピーの男女に関するものである。ふたりとも髪は長く，ヘッドバンドにビーズ，サンダルという典型的なヒッピースタイルであった。男性の方が相手の女性に言った。「これから失業保険の給付を受けに行くよ。だからその間，君は無料診療所に行って検査を受けて，それから市のヘルスセンターに寄って僕の新しい眼鏡をもらってきてくれないか。それからもう一ヵ所，厚生課に行って福祉手当の増額を申請してきてほしいんだ。

じゃ，5時に連邦政府の建物で会おう。そしてこの腐敗した制度に反対するデモに参加しよう。』

また，20数年前の「リーダーズ・ダイジェスト」には次のような記事が載っている。

「隣接のセントオーガスチンでは今，かもめの大群が餓死の危機に瀕している。餌の魚は十分にあるのだが，かもめたちはその捕り方を知らないのだ。何代にもわたって，えび取り船の網にかかった小魚を食べて生きてきたためである。その漁船が姿を消した今……えび取り船はかもめのために，『福祉国家』を建設した。親かもめはもはや苦労して魚の捕り方を身につけることはしなくなり，子供たちに教えることもなかった。ただ，えび取り船の網のところへ連れて行けばよいのであった。

こうして自由を象徴する自由の鳥かもめは，努力しないで餌を得るという誘惑に陥ったため，今や餓死寸前の状態にある。彼らは施し物のために自主独立の精神を犠牲にしたのである。

現在，多くの人々はこのかもめと同じような状態にある。彼らは合衆国政府の税金というえび取り船の網から安易に餌をついばむことを少しも悪いことと思っていない。だが，政府の財源が尽きたらどうなるのであろう。子孫はどうして生きていくのだろうか。

愚かなかもめになってはならない。私たちは……自給自足の才能と自らのために何かを創り出す才，倹約の念，真に自立を愛する心を持ち続けなければならない。』（*Readers Digest*「リーダース・ダイジェスト」1950年10月号，p. 32）

次にこれと全く対照的な「自立の原則に生きた清教徒たち」という記事を紹介しよう。

「清教徒たちは危険な荒野に上陸した。連邦政府の建てた住宅はなかった。そこで彼らは自ら働いて家を建てた。また食糧の無料配給制度もなかったので，彼らは自らの手で食糧を栽培した。そして生産が十分でないときは，ないままでやって行かなければならなかった。

無料の学校もなかったので，母親は自ら子供たちの教育に当たった。レクリエーション・プログラムもなかった。働くことに忙しく，そのような余裕など全くなかったのである。徴兵反対の暴動もなかった。全員が協力して国の防衛にあたるように求められていたか

らである。また社会保障は全くなかった。自衛以外に安全を保障し得るものは何もなかった。

しかし，見返りはあった。ないものに向かって要求する暴徒はいないし，また，母親に教育の何たるかを説く無知な『学生』もいなかったからである。労働者が生産したものを利して私腹をこやす役人もいなかった。

実際，清教徒たちにあるものはただ一生懸命に取り組まなければならない仕事だけであった。

彼らの努力は報われたであろうか。

それは私たちの現在の生活水準が証明している。」（*Christian Economics*「クリスチャン・エコノミクス」1972年11月号，p. 25）

では，主の計画はどうであろうか。

「主なるわれは諸々の天を拡げ，わが手づから創れるもの，すなわちこの地を築きたり。されば，その中にあるよろずのものはわがものなり。

あらゆるものはわがものなれば，わが聖徒らを扶養するはわが目的なり。

されどその事たるや，必ずわが道に適いて行われざるべからず。見よ，この道は主なるわれ，わが聖徒らを扶養するため命を下したるところにして，貧しき者は高くせられ，それにて富める者は低くせられんことこれなり。

地は物に満ち足りて余りあり。然り，われよろずの物を備えて人の子らにこれを与え，人各々を自由意志によりて動く者となす。」（教義と聖約 104：14－17）

聖徒たちのこの世における救いを目的とした神の計画の基本原則は，この聖句に明確に示されている。主御自身，地とその中にあるすべてのものの創り主であると宣言し，またこの世のものはすべて主のものであると語っておられる。主はまた，御自分の聖徒たちを扶養することが主の目的であることを告げて，「地は物に満ち足りて余りあり」と宣言しておられる。しかし同時に，聖徒たちを扶養することは「必ずわが道に適いて行われざるべからず」と警告し，さらに「……この道は主なるわれ，わが聖徒らを扶養するため命を下したるところにして，貧しき者は高くせられ，それにて富める者は低くせられんことこれなり」とも警告しておられる。

秩序ある社会を築くには，主の道に従うことが不可欠である。

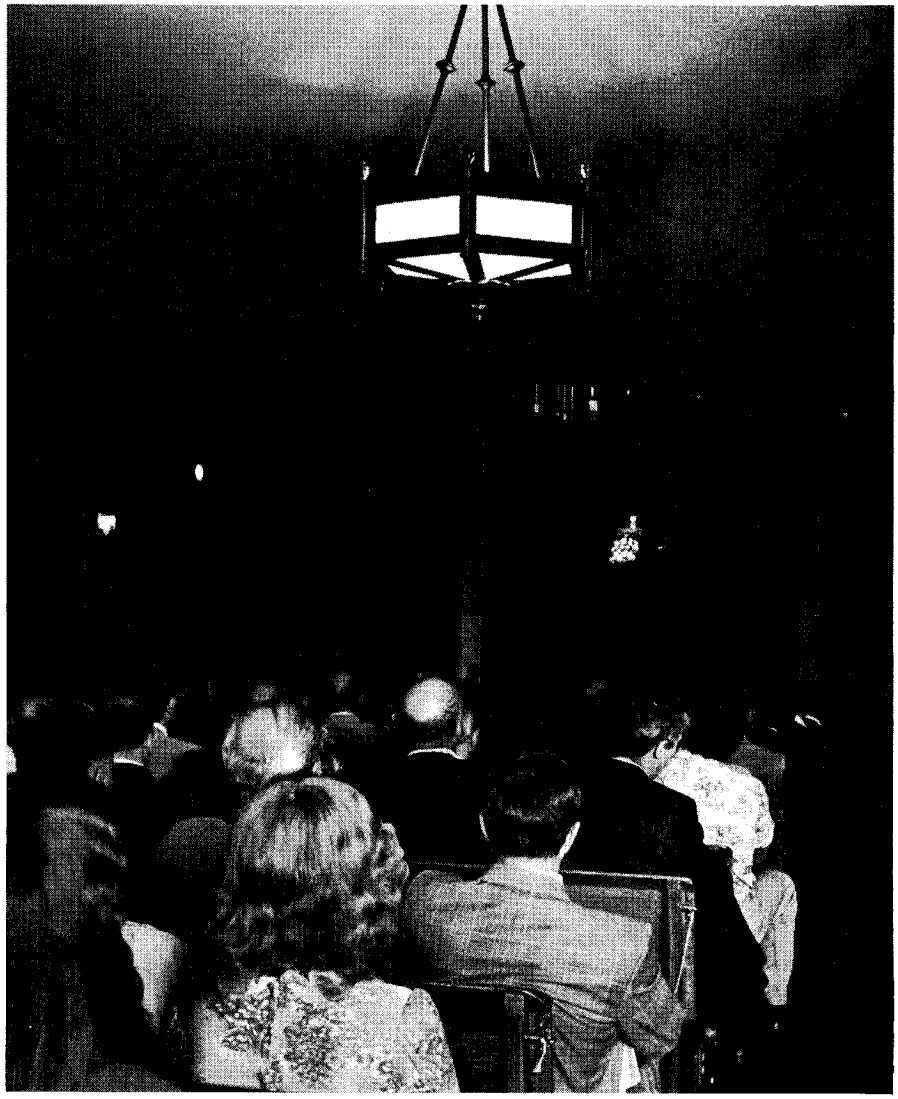
末日聖徒である私たちは，人類は皆，兄弟姉妹であり，「神より生れたる息子と娘なる」（教義と聖約76：24）こと，従って私たちは互いの幸福に責任があることを承知している。この概念は，すべての福音の教義に固有のものである。

私たちは，現代の混乱した社会に宿る様々な病弊が，主の命令に不従順であったことに起因することを承知している。これは他の諸々の問題と同様，経済問題にも言えることである。同時に私たちはまた，それらの諸問題を解決するには，主なる神が私たちに命じられるすべてのことを行なうしかないことも承知している。

「すべての人」が「その家族数と財政状態と乏しきと必要とに応じて」，平等に地の善きものにあずかる日が来るであろう（教義と聖約51：3）。また，そのような平等の状態に到達するのは，時を経て，すべての人が自らを支えるために進んで働き，同胞への愛にかられて「わが福音の律法に従いて」貧しい者乏しい者に自己の「取前」を進んで分かち与えるようになったときである（教義と聖約104：18）。

働いて自分の持ち物を分け与えることは，変節きわまりないこの世の標準

説教に聞き入る会衆



にかかわりなく，すべての末日聖徒にとって義務である。私たちはこれらの原則を支持し，それを軽んじようとする行為にはすべて対抗しなければならない。また，一般に容認されている慣例に同調して，政府その他の組織から生活必需品の供給を受けることのないようよくよく注意しなければならない。

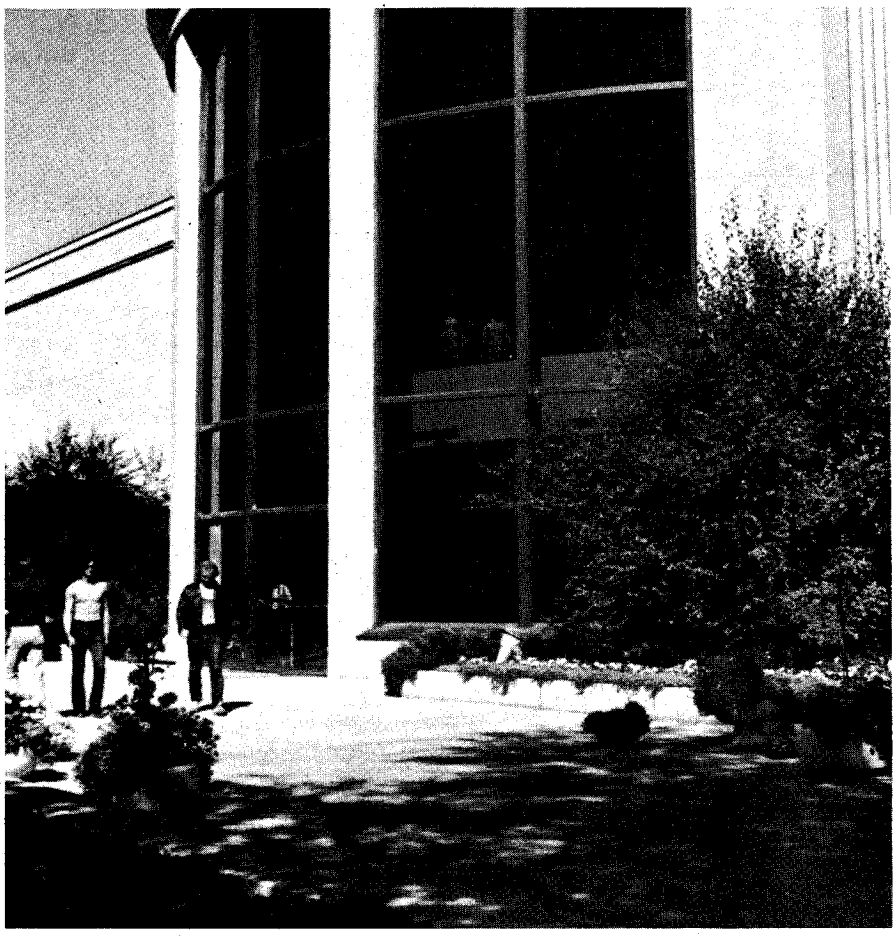
むさぼりや，労せずして得た利益を受けたりする行為は，今やすっかり社会に定着した。その結果，富豪と言われ，巨額の富を得る手段を持っている人々は，政府がその利益を保証してくれることを期待している。選挙が，政府資金を有権者のためにどれだけ確保するかによって左右されることが多い。このような慣行が世界的なものとなり，あらゆる社会で行なわれるとしたなら，世界の民は奴隷と化してしまうであろう。

法律上，たとえ私たちに権利があるとしても，政府によって扶養されようとは思わない。それには，自尊心の喪失をはじめとして，政治的，物質的，霊的面での独立に多大の犠牲が要求されるからである。

必要なものは自分で働いて得ようではないか。一人一人が自立し，独立するようにしよう。このほかに救いを得させる原則はない。救いは個人的なものであり，人は物心両面における自らの救いのために努力しなければならない。

「あなたがたの救われたのは，実に恵みにより，信仰によるのである。それは，あなたがた自身から出たものではなく，神の賜物である。決して行いによるのではない。それは，だれも誇ることがないためなのである。」（エペソ２：８－９） パウロのこの言葉はよく誤解される。一部の人はこの言葉を行ないは必要でないという意味に解釈しているが，とんでもないことである。

訪問者センター（東口）



人は最善を尽くしてはじめて神の恵みにより救われるというのがその正しい意味である（IIニーファイ25：23参照）。 白妙の門を通過させてくれるのは，政府の施し物ではない。また，他人の働きに依存して日の光栄の王国に到達しようとする者は，だれもその望みを達成することはできない。人は皆，自分自身の働きによって門をくぐらなければならないのである。今この場で，このことを理解していただきたい。

この世における私たちの救いを意図した主の計画にあって，行ないの第一の原則は，自分のことは自分でするということである。この原則は実に重要である。このため主はアダムがエデンの園を去るとき，次のように言われた。「汝はその妻の言に聞き従い，わが汝に命じて『食うべからず，地は汝のために詛わる』と言いたる樹の実を食いたるによりて，汝は生涯苦しみて地より食を得ん。」（モーセ４：23）

アダムにのろいが下されたのではなく，アダムのために地がのろわれたことに注意していただきたい。それはアダムにとってのろいではなく，むしろ祝福であった。アダムとその子孫は，樹の実を食べたことによって主が享受しておられる完全の域に至る道に送り出されるのである。主が地をのろわれたことで，地は「いばら」と「あざみ」を生じ，そのため人は働いて生活しなければならなくなったが，これは人類の「ため」，つまり人類の「幸福」，「利益」，「福利」のためである。このことは，いくら強調しても足りないことである。

エデンにおいてこの重大な出来事があったその日以来，個人で努力することが物心両面における主の計画の基本原則であることを，主は繰返し強調してこられた。聖徒たちを扶養する主の道は，「貧しき者は高くせられ，それにて富める者は低くせられんこと」（教義と聖約104：16）であることを銘記しておいていただきたい。

貧しい者が高くせられるのは，彼ら自身が自らの勤務と倹約によって自立と自尊心を勝ち得たときだけであり，私たちの義務は貧しい人に自立と自尊

心を得させることである。

また「富める者が低くせられん」のは，「福音の律法に従いて……貧しき者乏しき者」（教義と聖約104：18）に自分の持ち物を分け与え，「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」という第二の戒めを守ったことを立証したときである。

自らの努力によって自立し，自尊心を保つこと，また教会の福祉援助を受けている人が同様にその能力を最大限に発揮できるようにすることは大切である。しかしそれに加えて，父と母を敬うことを決して忘れてはならない。両親を敬うというこの義務を果たしていない人が多い。両親を敬ったことに対する報いは大きく，ないがしろにしたことに対する罰は非常に厳しい。従って，私は1974年10月の福祉事業集会で引用したクラーク副管長の言葉をここで再度引用して，私たちの義務についてお話したいと思う。クラーク副管長は次のように言っている。

「この原則はシナイ山までさかのぼる。御存知のように，シナイ山はモーセが十戒を受けた山である。その十戒のひとつが『あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである』（出エジプト20：12）という戒めであった。まずその命令に注意を向け，しかる後に約束に心を留めてほしい。『あなたの父と母を敬え』これが命令であり，『これは，あなたの神，主が賜わる地であなたが長く生きるためである』これが約束である。

イスラエルはこの命令に背いた。また救い主の時代にも，ユダヤ人がその戒めから大きくはずれていたため，主は機会をとらえて彼らにその説明をし，その意味するところについて語った。あるときユダヤ人，すなわち律法学者とパリサイ人がエルサレムから来て，いつものように救い主を陥れようと思い，主の弟子たちはなぜ先祖の言伝えによる教えに反して手を洗わずにものを食べたのかと尋ねた。救い主はしばしば用いた方法，すなわち別の質問をすることによって彼らの質問に答えられた。主が彼らに問いかけたもうた質問は次のとおりである。

『なぜ，あなたがたも自分たちの言伝えによって，神のいましめを破っているのか。

神は言われた，「父と母を敬え」，また「父または母をののしるものは，必ず死に定められる」と。

それだのに，あなたがたは「だれでも父または母にむかって，あなたにさしあげるはずのこのものは供え物ですと，言えば，

父または母を敬わなくてもよろしい」と言っている。こうしてあなたがたは自分たちの言伝えによって，神の言を無にしている。』（マタイ15：3－6）

これはマタイの記録であるが，マルコの記録もほとんど同じである。

『モーセは言ったではないか，「父と母とを敬え」，また「父または母をののしる者は，必ず死に定められる」と。

それだのに，あなたがたは，もし人が父または母にむかって，あなたに差上げるはずのこのものはコルバン，すなわち，供え物ですと言えば，それでよいとして，

その人は父母に対して，もう何もしないで済むのだと言っている。』（マルコ7：10－12）

この意味は次のとおりである。イスラエルは，親の扶養をするように主から責任を課せられていたがそれに従わず，非常に堕落していた。そして，父または母の世話をする義務を免れたいと思った者は，父または母に『今後，私は義務を放棄します。そして私があなたへ与えるものは供え物（コルバン）ですから，主の戒めによってあげるのではありません』と言っていたのであった。

今の世の誘惑であり，また人々が慣行としていることは，父母を公共の福祉にゆだね，国家に世話を任せていることである。

救い主はこの事実を指摘した後，次のように言われた。

『偽善者たちよ，イザヤがあなたがたについて，こういう適切な預言をしている。

「この民は，口さきではわたしを敬うが，その心はわたしから遠く離れている。

人間のいましめを教えとして教え，無意味にわたしを拝んでいる」。』（マタイ15：7－9）

もう一度繰り返すが，この命令には限界がない。私の考えでは，いずれの地にいようと，これはすべてのイスラエルに適用する。これに伴う約束もこの命令と同様に，どこの土地に住もうと，すべてのイスラエルに与えられているのである。

『あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである。』（出エジプト20：12）

このアメリカの地は，ヨセフのために選ばれた地である。従って，この約束はこの地に適用すると思う。モルモン経には，この地に住む人々が神の戒めを守らず，この地の神であるイエス・キリストを礼拝しなければ，どんなことが起こるかが記されている。主は，私たちが邪悪にひたるときに何が起こるかを告げておられる。もし主のこの戒めに従わなければ，私たちは主が定められた罪の宣告を受けることになり，邪悪に満ちた道をさらに進むことになる。」

クラーク副管長はこの話を次のような言葉で結んでいる。

「私は主が言われたことを語ったまでである。私たちは，従うか否かについて自由意志を使うことができる。そしてもし従わなければ，罰を受けることになるのである。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア　*Fundamentals of the Church Welfare Program*「福祉プログラムの基本」1944年10月6日 pp. 3－5）

知恵と勇気を賜わってこの原則を理解し，守ることができるよう，イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈るものである。アーメン。

み業を推進する

第一副管長
N・エルドン・タナー

私たちには，援助の必要な人々に恵みをもたらすための適切なプログラムがある

きょうの集会はまことに有意義なものであった。もし私が現在監督の職に召されているならば，ワード部に帰って，これまで以上によくその責任を果たせることと思う。この集会で，監督の責任をさらにはっきりと理解し，またそれを果す方法を学ぶことができたからである。自分の義務を知ることは大切である。

先の4月大会以降，新しく召され，聖任された監督は何人おられるだろうか。その方々はお立ちいただきたい。どうもありがとう。今立っていただいたのは，この集会が開かれた目的を皆さんに知っていただきたかったからである。すなわち監督の義務と責任を理解していただくことがこの集会の目的である。

同じく4月大会以降，扶助協会会長に召され，任命を受けた方々はお立ちいただきたい。少ない人数ではあるが，これらの方々も非常に大切な方々である。どうもありがとう。

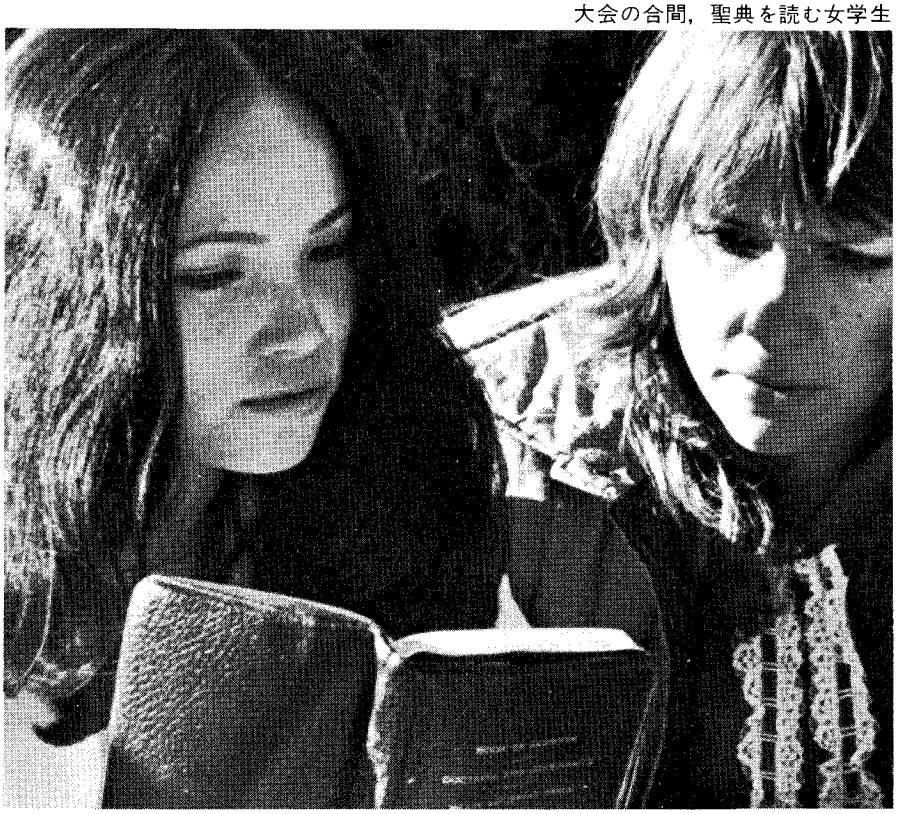
ある期間同じ職にあって，大会で繰り返し話を聞くのも良いことである。このみ業に対して望みと思いを新たにして，またそれを果すために，必要な力を受けてワード部に戻ることができるからである。

きょうこの集会で述べられた事柄のうちで，特に印象に残った2，3の事柄についてお話したいと思う。そのひとつは，物質的な援助は一時的だが，霊的な援助は永遠にその影響を及ぼすということである。そのために私たちは，失業している人々が就職して自立し，自らの必要を満たせるように，できる限りの援助をしなければならない。

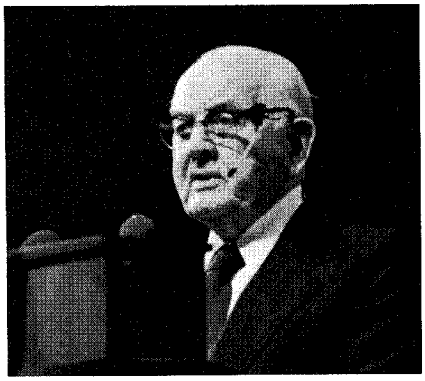
とりたてて強調されたわけではないが，この集会で述べられた事柄で非常に重要なのは，自尊心を保つということである。これは非常に大切なことである，ワード部の会員たちが，福祉プログラムに参加し，貢献しているという意識を持てるようにしていただきたい。

この集会に集っている皆さんにお勧めする。お帰りになったら，ここで指導された事柄を実際に行なっていただきたい。皆さんにはその責任がある。福祉活動およびその他あらゆる分野における主のみ業は，皆さんの双肩にかかっている。末日聖徒イエス・キリスト教会には，援助を必要としている人々のためのプログラムがある。皆さんはその教会の会員である。このことを理解し，認識し，力と勇気を得ることができるように，主が皆さんを祝福して下さるよう。これらのことをイエス・キリストのみ名によりへりくだり申し上げる。アーメン。

大会の合間，聖典を読む女学生



互いに愛し合いなさい



大管長
スペンサー・W・キンボール

年老いた両親を世話し，子供に労働の習慣を教える

兄弟姉妹，私はこの非常に有益な集会に出席し，胸が高鳴るのを覚えている。私たちがこの集会に集っているのは楽しいひとときを過ごすためではない。指導を受けるためである。このことをよく認識し，この場で与えられた提案を各々の生活に取り入れていただきたいと思う。私たちはこの集会で，福祉活動をどのように行なうことができるか，またどのようにすべきか，そのためにはどこへ行けばよいかについて，素晴らしい提示をいただいた。

私たち一家がソルトレーク・シティーからアリゾナに引っ越した当時，この福祉プログラムはまだ具体的な形を取るには至っていなかったと記憶している。多くのステーキ部やワード部で少しずつ推進されているという程度であった。

当時のステーキ部長はクリストファー・レイトン部長であった。彼は後に病気になり，間もなく他界した。その後任として，私の父がステーキ部長に召されることとなった。私の記憶では，当時私たち一家9人は，ひとつの部屋で寝起きを共にしていた。それからしばらくして，少し離れた小さなレンガ造りの家に引っ越すことができた。しかし，部屋数が三部屋に増えたものの，雨の降る日は外のテントに寝床を求めなければならなかった。

さらにその後，私たちは運河沿いに4ヘクタールほどの土地を手に入れた。辺り一面，蚊の群らがるうっそうとした茂みと砂漠特有の植物に覆われた土地であった。それらをどのように除去し，どう整地したらよいものか，私たち一家は頭をかかえてしまった。まず何が起こったかお話しよう。そこから数キロも離れたセントラルワード部の兄弟たちが，手に手につるはしやシャベルや斧を持ってやって来て，4ヘクタールもある土地の整地作業に手を貸してくれたのである。次いでレイトンワード部の兄弟たち，さらにピマワード部の兄弟たちも来てくれた。こうして，大変な働き者であった父とふたりの兄たちの力もあって，整地作業はまたたく間に終わり，種をまくばかりになった。

これが福祉活動である。一定の指示のもとに，一定の方法で行なわれたわけではない。しかし互いに助け合う，これこそ真の福祉活動である。

また，私の父は非常に責任感の強い人であった。大きな果樹園の所有者であるレイトン部長は年老いて体力がなくなっていたが，必要な援助が与えられていなかった。そのことを知った父は，レイトン部長の承諾を得て，私たち子供にある仕事を命じた。私たち兄弟は全員手にかごやなべを持って集まり，彼の果樹園で果実を収穫した。レイトン家も私たち一家も大家族だったので，収穫した果実は両家で分け合うことになった。こうして私たちの福祉活動プログラムは進められたのである。一方，私の母はその果実の扱い方をよく知っていた。家には食糧を貯える部屋があって，びん詰の果物や，いざというときに必要なものをいっぱいに貯えてあった。

もうひとつ申し上げたいことがある。扶助協会に認可が与えられたイリノイ州ノーブーにおける建設計画のことである。これは末永く姉妹たちの喜びとなるであろう。この計画は，大管長会の承認に基づくものであることを御理解いただきたい。ステーキ部長会，伝道部長会，監督会の方々が，この点について姉妹たちを励まして下さるよう願っている。個々の姉妹がそれぞれのできる範囲で，自発的に献金するよう奨励していただきたい。このプログラムを推し進めるよう姉妹たちを力づけていただきたい。これは非常に大切なプログラムである。従って，今宵開かれる神権会で再び触れるつもりである。

先程ロムニー副管長は，両親のことについて話をされた。先日，私たちは評議会の席上，腹にすえかねる話を耳にした。激しい憤りを覚えずにはいられない話である。事の次第はこうである。投資にまた勤めに大変な努力を傾けたある父親が，よき助け手であった妻に多額の資産を残して，不幸にも先立ってしまったそうである。やがてその妻も年老いてきた。すると子供たちは彼女を老人ホームに入れ，彼女の資産をすべて自分たち名儀の銀行口座に預金してしまった。こうして彼女は不遇の生涯を余儀なくされることとなった。彼女が自分の置かれた立場を十分に意識していたか否かは定かでない。いずれにしろこの哀れな女性は，ふさわしからぬ衣服をあてがわれ，不当な扱いと試練を受けながら，今もなお老人ホームで余生を送っている。私たち

の知る限り，子供たちはこの母親に決して会いに行こうとはしないということである。

この子供たちにとって，施設にいる母親のもとを訪れることは少々気まずいことに違いない。彼女は長年彼らを養い育て，保護して，彼らのためにその半生を捧げてきたのである。訪れることすらできない彼らにとっては，母親が自分の愛した子供たちからの慰めを必要としているときに，その母親に関心を示すことなど，とてもできないことに違いない。

これから申し上げることは非常に大切なことである。監督の方々は決してこのことを忘れないでいただきたい。すなわち，いかに年老いていようと，またいかに手がかかろうと，親の世話をする責任は子供にある。このことを，ワード部の会員が思い起こすよう指導していただきたい。子供には，親の世話をする責任がある。これは，主がこの世を初めて組織されたときに確立されたプログラムの一部である。

もうひとつの話をしよう。かつて，私たちがアリゾナに住んでいたとき，小さな子供を抱えた若い夫婦が引っ越してきた。私たちと親しく言葉を交わすようになると，その家の主人は，苦しかった自分の少年時代を語ってくれた。朝は5時か6時に起きて新聞配達をし，その後農場で働いたそうである。いまだに心に焼きついている数々の苦労話の果てに，彼はこのように語った。「息子たちには決してそんな思いはさせたくないと思います。」　その結果，彼の息子たちはほかの人のために何の役にも立たない人間になってしまった。教会活動からも遠ざかり，彼らはすべてのことに無気力であった。

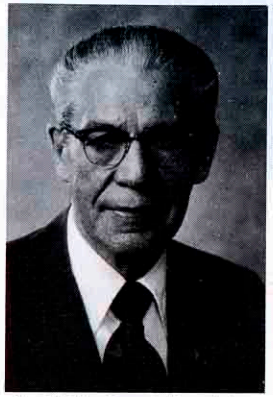
主は，「汝怠惰なることなかれ」(教義と聖約42：42) と語っておられる。怠惰は悪魔に加担することである。私たちは生活が豊かになったからと言って，子供たちを甘やかしてはならない。彼らの仕事を奪ってはならない。奉仕し訓練する機会，自分自身と他の人々双方のために何かを行なう機会を取り去ってはならない。

本日は素晴らしい集会にあずかることができた。ビクター・L・ブラウン監督と副監督の方々およびバーバラ・B・スミス姉妹と副会長の方々の指示の下に進められている大いなる福祉の業を，私たちは非常に喜んでいる。彼らの素晴らしい奉仕の業に感謝している。また，この奇しきプログラムの指導をされる監督会およびステーキ部長会の方々にも感謝の言葉を送りたい。提示されたこの福祉プログラムを推進し，継続するときに，主の祝福があるよう祈っている。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

カミラ・キンボール姉妹

末日聖徒イエス・キリスト教会
教　会　幹　部

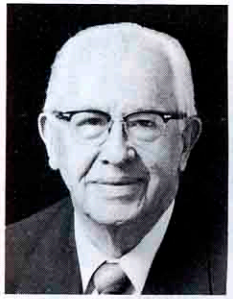
大管長会

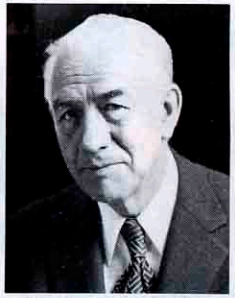

第一副管長　N・エルドン・タナー

大管長　スペンサー・W・キンボール

第二副管長　マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

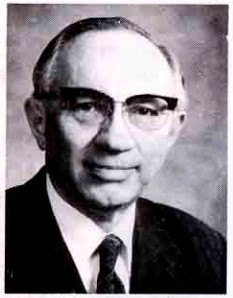

エズラ・タフト・ベンソン

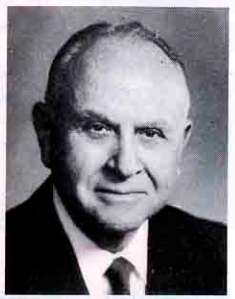

マーク・E・ピーターセン

デルバート・L・ステイプレー

リグランド・リチャーズ

ハワード・W・ハンター


ゴードン・B・ヒンクレー



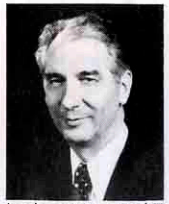
大祝福師

エルドレッド・G・スミス

七十人第一定員会会長会および七十人第一定員会

フランクリン・D・リチャーズ

ジェームズ・E・ファウスト


J・トーマス・ファイアンズ

A・セオドア・タトル

ニール・A・マックスウェル

マリオン・D・ハンクス

ボール・H・ダン

アルマ・ソニ

スターリング・W・シル

ヘンリー・D・テイラー

アルビン・R・ダイヤー

セオドア・M・バートン

バーナード・P・ブロックバンク

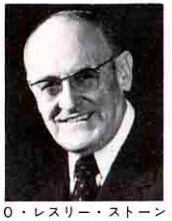
ジェームズ・A・カリモア

ジョセフ・アンダーソン

ウイリアム・H・ベネット

ジョン・H・バンデンバーグ

ロバート・L・シンプソン

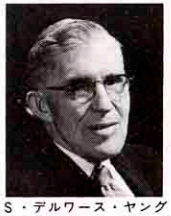

O・レスリー・ストーン

W・グラント・バンガーター

ロバート・D・ヘイルズ

アドニー・Y・小松

ジョセフ・B・ワースリン


S・デルワース・ヤング

ハートマン・レクター・ジュニア

ローレン・C・ダン

レックス・D・ピネガー

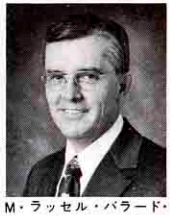
ジーン・R・クック

チャールズ・A・ディディエ

ウイリアム・R・ブラッドフォード

ジョージ・P・リー

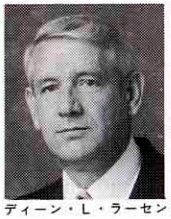
カーロス・E・エイシー

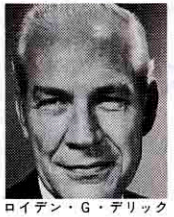

M・ラッセル・バラード・ジュニア

ジョン・H・グローバーグ

ジェイコブ・ディエガー

ボーン・J・フェザーストーン


ディーン・L・ラーセン

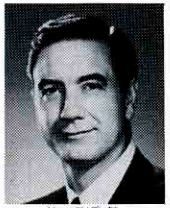

ロイデン・G・デリック

ロバート・E・ウェルズ

管理監督会

第一副監督
H・バーク・ピーターソン

管理監督
ビクター・L・ブラウン


第二副監督
J・リチャード・クラーク

七十人第一定員会が管理定員会に

編集主幹
J・M・トッド

1976年10月総大会を彩る画期的な出来事，それは何と言っても，七十人第一定員会が「啓示により定められた通りの」第三の管理定員会となったことであろう。この改組により「……十二人の特別なる証人，すなわち十二使徒と等しき権能を有する定員会」そして「……十二使徒会すなわち巡回高等評議員会の指揮の下に」働く定員会が誕生したのである(教義と聖約107:26, 34)。

改組はまず，十二使徒評議員会補助21名が七十人第一定員会会員として召され，次いで先に召されていた14名の定員会会員が加わり，さらに新たに4名の会員が召された。これで七十人第一定員会会員は総数が39名となり，キンボール大管長の指摘の通り「定員会の事務事項を決定する上で必要な過半数を越えた」（キンボール大管長による発表，タナー副管長による支持については，pp. 40－42を参照されたい）

また七十人第一定員会自体も，七十人最高評議員会の解任とともに改組が行なわれた。今までの最高評議員会会員に対しては，タナー副管長からその優れた業績に対して感謝が述べられた。

七十人第一定員会を管理する七十人最高評議員会（現在は七十人第一定員会会長会と名称が変更されている）会員として召された人々は以下の通りである。（1）フランクリン・D・リチャーズ——1960年以来十二使徒評議員会補助；（2）ジェームズ・E・ファウスト——1972年以来十二使徒補助，南アメリカ東部地域担当教会幹部としてブラジルのサンパウロに在住，（3）J・トーマス・ファイアンズ——1974年以来十二使徒補助，メキシコ・中央アメリカ地域担当教会幹部としてメキシコ・シティーに在住；（4）A・セオドア・タトル——1958年以来七十人最高評議員会会員，南アメリカ西部地域担当教会幹部としてエクアドルのキトーに在住；（5）ニール・A・マックスウェル——1974年以来十二使徒評議員会補助；（6）マリオン・D・ハンクス——1953年から1968年まで七十人最高評議員会会員，以降十二使徒評議員会補助；（7）ポール・H・ダン——1964年以来七十人最高評議員会会員。

他の七十人第一定員会会員は以下の通り。（8）アルマ・ソニ，1941年以来十二使徒評議員会補助，最初に召された5名の十二使徒評議員会補助のひとり；（9）スターリング・W・シル——1954年以来十二使徒評議員会補助；(10) ヘンリー・D・テイラー——1958年以来十二使徒評議員会補助；(11) アルビン・R・ダイヤー——1958年以来十二使徒評議員会補助，1967年に使徒職に聖任され（十二使徒評議員会の一員ではない），1968年に副管長，1970年に十二使徒評議員会補助の職に戻る；(12) セオドア・M・バートン——1960年以来十二使徒評議員会補助；(13) バーナード・P・ブロックバンク——1962年以来十二使徒評議員会補助，イギリス・アイルランド地域担当教会幹部としてイギリスのロンドンに在住；(14) ジェームズ・A・カリモア——1966年以来十二使徒評議員会補助；(15) ジョセフ・アンダーソン——1970年以来十二使徒評議員会補助；(16) ウイリアム・H・ベネット——1970年以来十二使徒評議員会補助；(17) ジョン・H・バンデンバーグ——1961年から1972年まで管理監督，以降十二使徒評議員会補助；(18) ロバート・L・シンプソン——1961年から1972年まで管理監督会第一副監督，以降十二使徒評議員会補助，ニュージーランド・オーストラリア地域担当教会幹部としてニュージーランドのオークランドに在住；(19) O・レスリー・ストーン——1972年以来十二使徒評議員会補助；(20) W・グラント・バンガーター——1975年以来十二使徒評議員会補助；(21) ロバート・D・ヘイルズ——1975年以来十二使徒評議員会補助；(22) アドニー・Y・小松——1975年以来十二使徒評議員会補助，日本・韓国地域担当教会幹部として日本の東京に在住；(23) ジョセフ・B・ワースリン——1975年以来十二使徒評議員会補助，北ヨーロッパ地域担当教会幹部として西ドイツのフランクフルトに在住；(24) S・デルワース・ヤング——1945年以来七十人最高評議員会会員；(25) ハートマン・レクター・ジュニア——1968年以来七十人最高評議員会会員；(26) ローレン・C・ダン——1968年以来七十人最高評議員会会員，現在オーストラリア・シドニー伝道部長；(27) レックス・D・ピネガー——1972年以来七十人最高評議員会会員；(28) ジーン・R・クック——1975年以来七十人最高評議員会会員，現在ウルグアイ・モンテビデオ伝道部長；(29) チャールズ・A・ディディエ——1975年以来七十人第一定員会会員，現在中央および南ヨーロッパ地域担当教会幹部としてギ レギーのブリュッセルに在住；(30) ウイリアム・R・ブラッドフォード——1975年以来七十人第一定員会会員，現在チリ・サンチャゴ伝道部長；(31) ジョージ・P・リー——1975年以来七十人第一定員会会員，現在アリゾナ・ホルブルック伝道部長；(32) カーロス・E・エイシー——1976年4月以来七十人第一定員会会員；(33) M・ラッセル・バラード・ジュニア——1976年4月以来七十人第一定員会会員，現在カナダ・トロント伝道部長；(34) ジョン・H・グローバーグ——1976年4月以来七十人第一定員会会員，南太平洋地域担当教会幹部としてハワイのホノルルに在住；(35) ジェイコブ・ディエガー——1976年4月以来七十人第一定員会会員，東南アジア地域担当教会幹部として香港に在住；(36) ボーン・J・フェザーストーン——1972年以来管理監督会第二副監督を務め，

新たにテキサス・サンアントニオ伝道部長に召された；(37) ディーン・L・ラーセン——今大会で新たに召された；(38) ロイデン・G・デリック——新任，アイルランド・ダブリン伝道部長；(39) ロバート・E・ウェルズ——新任。

ボーン・J・フェザーストーン副監督の第一定員会への異動のために空席となった管理監督会第二副監督には，アイダホ州ボイシのJ・リチャード・クラークが召された。クラーク長老は1974年以来十二使徒会地区代表として働いてきた人である。クラーク長老および他の3名（ディーン・L・ラーセン，ロイデン・G・デリック，ロバート・E・ウェルズ）の新任教会幹部を加えて，幹部総数は58名となった。

七十人第一定員会会員
ディーン・L・ラーセン

「私は主のために，また教会内外を問わず，人々のために役に立つ人間になりたいという強い望みを抱いています。」 新たに七十人第一定員会会員に召されたディーン・L・ラーセン長老はこう語った。この言葉通り，彼の半生を支配していたものは，この奉仕の精神であった。ラーセン長老は思いやりの深い人である。一度会えばその人間味あふれる心と誠実さに打たれるであろう。また分別と思いやりを示すその目に，信頼感をかき立てられるに違いない。

ラーセン長老は1927年5月24日，ユタ州ハイラムで，ガートルード・プラウズ・ラーセンとエドガー・N・ラーセンの間に生まれた。彼は7人兄弟の5番目で，菜園があり家畜のいる家で育った。高校卒業後第2次世界大戦終結まで海軍兵士として従軍，帰還後ユタ大学及びユタ州立大学で学び，1950年，ユタ州立大学を英語とスペイン語の学位を得て卒業した。アイダホ州アシュトン出身のジニール・ジョンソンと結婚したのは大学在学中で，現在ふたりの間には5人の子供がいる。「4人を除いて全部男の子です」とはラーセン長老の弁。

セールスその他の仕事で2年間働き，また8年間高校教師および早朝セミナリー教師として働いた後，彼はユタ州のブリガム・シティー・インターマウンテン・インディアン・スクールにセミナリー教師として赴任した。

「私は幼い頃からインディアンに関心を抱いてきました。子供の頃に，インディアンに関する書物で，手に入るものはみんな読みましたね。」 彼はそう語る。そして赴任後1年で(1961年)ブリガム・ヤング大学のインディアン・セミナリーの副コーディネーターになり，翌年には教会インディアン委員会の書記に任命された。

彼はユタ大学インスティテュートで1年間教鞭を執った後，テキサス・サウス伝道部長に召された。彼のもとで働いたある帰還宣教師はこう語る。「ラーセン長老について印象に残っているのは，聖典に対する知識とそれをだれにもわかりやすく説明する能力が抜群だったということですね。それに人とすぐ親しくなれる人でした。また彼に接していると，自分のことを心配してくれていることがよくわかりました。」

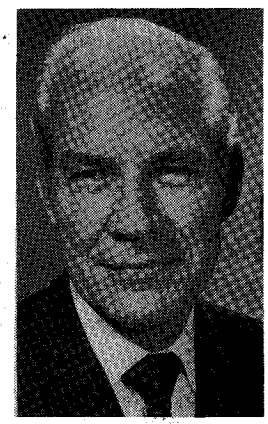
3年間の伝道を終えたラーセン長老は，オグデンインスティテュートで教師をし，その後1972年に教会教科編成コーディネーターとなった。そして教育資料ディレクターを経て，本年初めに教会誌編集主幹の職についた。

ラーセン長老は，幹部として召されるまでに教会での役職を数多く歴任してきている。主なものとしては，ステーキ部宣教師，監督，高等評議員，教会神権伝道委員会委員，日曜学校中央管理会会員，十二使徒会地区代表などがあげられる。「どの責任も一生懸命果たしてきたつもりです。でも，伝道していたときや監督会の一員だったときなど，人とじかに接する責任にあったときが一番自分に合っていたみたいです。」

家族は，彼の頻繁な移転とたくさんの召しにどう対処していったのであろうか。「責任が新しくなったときは，やはり慣れるまで大変でした。でもいつも本当に喜んでくれますし，協力的です。何でも話し合える家族なので，教会の召しも全員の問題として受け入れてくれます。実に素晴らしい経験でした。

神の王国の建設という偉大な業を推進するにあたって，教会幹部の方々とお近づきになれることは途方もない特権であり，また責任でもあります。幹部の方々の一致と兄弟愛には素晴らしいものがあり，また皆さん本当に謙遜な方々ばかりです。

私の目標は，人々が福音を見出し，その原則に生きるよう手助けをすることです。私は自分自身の問題としてこれに取り組みたいと思います。」



七十人第一定員会会員
ロイデン・G・デリック

今年の夏，イギリス・リーズ伝道部長としての3年の任期を終えて帰国したデリック長老は，かなり多くの時間

を系図探求とある米州組織での働きに費やす計画を立てた。そして自分が社長をしていた会社を売却し，彼の「ふたつの仕事」を始める日を心待ちにしていた。彼は以前，ある米州組織の理事長として働いたことがある。それはラテンアメリカ諸国の開発援助のための44州から成る組織で，その業績の中には，ユタ州の生徒児童の援助によりボリビアに63の学校を建設したこと，また現在約5万人の子供たちが歯科治療を受けられるようになっていることなどがあげられる。

しかしながら1976年9月，デリック長老は再びイギリス諸島への伝道に召された。新設のアイルランド・ダブリン伝道部長として10ヵ月の間奉仕するためである。彼は1977年7月1日に解任されることになっている。

この新しい召しに応えて，大会の始まるほんの数週間前に旅立ったデリック長老は，別の新しい召しが来るなどとは全く考えてもみなかった。発表の直後，彼は「エンサイン」の記者にこう語った。「2，3日前キンボール大管長から召しの電話をいただいたときは本当に驚きました。幹部に召されるなど夢にも思っていませんでしたからね。主のみ前にへりくだる機会を与えてくれる，本当に厳粛な経験でした。」

デリック長老は1915年9月7日，ユタ州ソルトレーク・シティーで，ハイラム・デリックとマーガレット・グレード・デリックの間に生まれた。ユタ大学での専攻は機械工学。後に8年間にわたって同大学理事を務め，1965年に名誉博士号を授与された。またブリガム・ヤング大学からは，1973年にジェシー・ナイト産業市民賞を贈られている。

デリック長老は1938年にソルトレーク神殿でアリー・ジーン・オルセンと結婚，リンダ・ジーン（J・ロジャー・ウッド夫人でカリフォルニア州オリンダ在住），工業エンジニアのジェームズ・ロイデン，ユタ大学で修士課程を踏んでいるデビッド・グレード，ユタ大学在学中で18歳のブルース・グレードという4人の子供に恵まれており，孫も5人いる。

デリック長老の教会での奉仕は長期間に及ぶ。神権定員会や日曜学校の教師，ワード部書記，副監督をはじめ，1954年から57年までは日曜学校中央管理会会員として働いた。その後モニュメントパークステーキ部長会の一員として働いた後，1966年12月には日曜学校中央管理会会長会の一員となり，1971年6月までその任にあった。またテンプルスクエアのガイドも務めてきた。

新たな召しを受けるにあたって，デリック長老はこう語った。「この新たな責任について思いを巡らしているときに心に強く浮かんできたことは，これから共に働こうとする方々がいかに素晴らしい方々かということでした。私は心から彼らを支持します。

私は自分が今だれのために働いているのかがわかるようになりました。そう，救い主のためです。これは救い主からの召しです。私の働きが主から受け入れられるものとなるように努力したいと思います。」

七十人第一定員会会員
ロバート・E・ウェルズ

ロバート・E・ウェルズ長老はネバダ州で生まれ育ったが，その半生の半分をラテンアメリカで過ごした。アルゼンチンでの伝道で初めてスペイン語を学んだ彼は，会計学の学位とスペイン語の能力を見込まれてファースト・ナショナル・シティー銀行から南アメリカに派遣されることになった。そして伝道の任を解かれてわずか4ヵ月で，彼は妻であるメリル・リービット・ウェルズと共に国際金融家としての道を歩み，アルゼンチンやブラジル，ウルクァイ，パラグァイ，エクアドルで活躍した。

彼は若い頃から主の導きを感じる人であった。第2次大戦終結後数年して海軍を除隊した彼は，バークレーで機械工学の残りの単位を取るために手続きをすべて整えた。しかしみたまのささやきは「ブリガム・ヤング大学に行って会計学を学ぶように」ということだった。また伝道後あまりにも急にアメリカを離れることについて，親戚の人々からいろいろ言われたが，彼は祝福師の祝福に「世界の諸民族の中で」主に仕えることを指摘して自分の考えを説明したのだった。

数年後，彼の最初の妻が航空機事故で死んだが，このときもみたまが重大な決断へと彼を導いた。2年間ひとり身を通した彼は，再婚しなければならないことを感じ，相手を決めるために祈った。すると彼の耳には「伝道部長の妻になるような女性と結婚しなさい」という声が聞こえたのである。

彼はまた別の導きがあって，妻になる人を捜しにアメリカに戻った。そして妻になる人の資格を全部あげてみた。「ミッションマザー」タイプ，やさしく愛情豊かな人，ゴールデン・グリーナー，大学を出た人，帰還宣教師，できればスペイン語を話せる人，音楽の好きな人，等々。そしてとうとうその人，ヘレン・ウォルサー・ウェルズを見つけたのである。彼女に会って彼は7日目にプロポーズした。みたまがまさに彼女であると知らせてくれたからである。初対面から30日で彼らは結婚した。「そのときからずっと幸せです」とウェルズ長老は語っている。

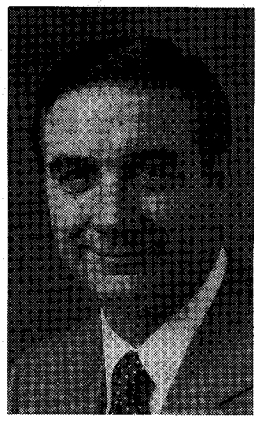
1971年にもみたまの導きに従う機会があった。メキシコ・モンテレー伝道部長としての務めを終えた後，彼は国際金融家としての華々しい地位を蹴り，地味な，教会中央購売部のポストに着いたのである。しかし今，彼と彼の妻は，主のみこころをよく知ることができた。

ウェルズ長老夫妻には，24歳から9歳まで7人の子供がいる。また孫もひとりいて，2番目がもうすぐ生まれる予定である。ウェルズ長老が今ひしひ

しと感じているのは，主の導きによって夫婦ともども人生の霊的な道を選び続けることができたこと，それに子供たちが，父は気まぐれではなく主のみ言葉に従って行動しているのだということを理解できたことである。彼が現在，このように教会の霊の指導者として召されたのは，家庭においても霊の指導者として立派に過ごしてきたからである。

アメリカに戻った現在，心に浮かぶのはラテンアメリカの人々のことである。彼にはしばしばかの地を訪れる機会があった。しかし，それはメキシコ，エクアドル，コロンビア地域担当地区代表としてである。

このように，四半世紀もの間ラテンアメリカの国々で過ごした彼ではあっても，生まれ故郷を忘れてはいない。1927年，彼はラスベガスから60マイルほど離れたネバダ州ローガンデールの農家で生まれた。彼のあの温かいほほえみは，国際金融を営む者のほほえみであると同時に，アメリカの田舎町に育ったウェルズ長老の温厚な人柄をしのばせる。彼には活躍する舞台がふたつある。そして，そのいずれにあっても，彼は人の話を聞き，理解することができ，さらには今まで彼の人生に導きを与えてきた「みたま」を人々と分かち合うことができるのである。



管理監督会第二副監督
J・リチャード・クラーク

「予言者から召しを受けることは，非常に光栄なことです。」 新たに管理監督会第二副監督に召されたJ・リチャード・クラーク長老はそう語った。

「啓示に対して100パーセントの信頼を抱いていなければ，また体験を通して啓示が実在することを知っていなければ，私は自分が神から召されたということに対して疑いを抱かなければならなかったでしょう。」

クラーク監督はアイダホ州レックスバーグで生まれ育ち，現在の召しを受けたのは，同じアイダホのボイシにおいてである。見るからに温厚そうな，しかしそれでいて一度決意したことは最後までやり通すという気骨も感じさせる人である。その温厚な人柄は，家族を語る言葉に表われる。現在バーバラ・ジーン・リード姉妹との間に7人の子供がいる（娘がひとり，11歳で亡くなっている）。「この召しのことを知って，子供たちは非常に驚きました。でも私たちの予測に反して，子供たちは喜んで支持してくれました。」

しかしながら，子供たちのそうした態度はごく当然のことであった。クラーク夫妻はこれまで，ステーキ部・ワード部扶助協会やＭＩＡの会長会，ワード部監督会，ステーキ部長会，それに地区代表などの責任を受けてきたが，それを夫婦だけのものではなく，家族全体の責任として受けてきたのである。「私はいつも，家族に一致がなければ責任は果たせないと考えてきました。またある原則について，自分はとても従えないけれども家族は従っている，といった状態もあってはならないと考えています。正直申し上げて，みんな素晴らしい子供たちです。長男のダランが神権を受けて大きくなる頃，私はほとんど壇の上でしたから，神権会で隣同士ですわったことはありません。息子が私のすることを受け入れて支持してくれているということがわかっていなければ，私自身非常につらい思いをしたのではないかと思います。」

彼の温厚な人柄は，両親への賛辞の中にも表われる。彼の両親，ジョン・ロランド・クラーク，ノーラ・L・レッドフォード・クラークは，彼と彼の妻の両親の家族に対して心からの信頼を寄せているのである。

彼の温かい心は，ボーン・J・フェザーストーン監督についての話にも表われる。彼はボイシ・ノースステーキ部で，フェザーストーン長老の副ステーキ部長を務め，分割の後に新設されたメリディアン・アイダホステーキ部のステーキ部長になった。「フェザーストーン長老とは10年間一緒に働きましたが，彼からは実に多くのことを教わりましたね。もちろん彼はこの召しのことは知りませんでした。私はいつもこう言っています。『教会幹部の方々は，彼のこのポジションでのプレーが終わったので，背番号を変えたのですよ。』」

以前の仕事や新しい召しについて語る彼の態度も温厚そのもので，アイダホ，オレゴン，ワシントンにわたる地域をカバーする保険会社の部長として，彼は神権コーリレーションの原則を採用した。その結果，今回の召しで職場を離れなければならない事態が起きたときにも，難なく仕事の引継ぎができたのである。

「教会幹部の中でどなたが好きだとか嫌いだとかいうことはありませんが，Ｊ・ルーベン・クラーク副管長やリー大管長，ロムニー副管長など，福祉の達人には特に親しみを覚えています。不幸な人々の要求に応じることは，キリストがお教えになった原則を具体的に示す上で大いなる道だと思います。そういう点で，私たちはまだまだ初歩の域を出ていません。物質的な欲求やこの世の富を手離す備えができるまで，また奉献の律法を生活の原則とし，管理の職を神聖な責任として尊ぶようになるまで，私たちにはなすべきことが非常に多くあります。この長い旅路を経てこそ教会として主をお迎えすることができるのです。」

彼は新たな同僚である管理監督会の事務局で働く人々に全幅の信頼と敬意を寄せている。「みんな偉大な人たちです。どこにあっても指導者として立派に働く人々です。」 また彼の中には教会員に対する尊敬の気持も強い。「それは彼らが証を持ち，神権の権能に対して敬意を抱いているからです。指導者としての地位にある人は，教会員のそうした忠誠を神聖な信頼の心として，細心の注意を払って受け取める必要があります。」

十二使徒会地区代表セミナー報告

教会幹部と十二使徒会地区代表へのキンボール大管長の説教の中心テーマは，教会員全員が宣教師としての働きをなすようにということであった。

キンボール大管長は，教会の過去数年間における急速な成長に触れた後で，次のように語った。「私たちはかつて，教会を世界の教会にまで発展する『可能性』を秘めた教会として見てきた。しかし，教会は今やまさに世界の教会と呼ばれるまでに発展している。

私たちは，宣教師の数が25,000名にまで増加してきていることに誇りを感じている。しかし，彼らのみに頼ることはできない。全教会員数に比較すれば，この数はまだまだ少ないからである。豊かな刈入れは，教会員が宣教師としての働きをしたときにもたらされる。350 万会員をもって宣教師の大軍団を作るのである。

キンボール大管長はこう続けている。「兄弟姉妹の皆さん，世の中には主を求め，主の言葉に飢え渇いている人々が数え切れないほどいる。主との交わりを求めていながら，自分が一体何を求めているのか，何がその渇きをいやしてくれるのか，はっきりした理解を持っていないのである。このような人々に福音のメッセージを伝えるのは，あなたの，そして私の責任ではないだろうか。

クリスチャンが行なう奉仕の最たるもの，それは福音を宣べ伝えることである。なぜなら，福音を受け入れることによって数々の祝福がもたらされるからである。」

キンボール大管長は，デビッド・O・マッケイ大管長の「すべての会員は宣教師である」という勧告を引用し，さらに次のように語った。「このチャレンジはいまだにその効力を失ってはいない。教会員一人一人がこのチャレンジを心にとめるように願うものである。

私たちの業の範囲は，全世界の隅々にまで及ぶものである。私たちに要求されていること，私たちの心からの望み，そして義務は，この世に理解の灯をもたらすこと，すなわち混沌とした暗黒の世界から抜け出る道を人々に知らしめることである。

これにはふたつの要素がある。ひとつは伝道であり，もうひとつはフェローシップである。私たち末日聖徒は少数民族に対して思いやりがあり，不幸な人々に対して親切であり，全世界のすべての兄弟姉妹たちを心から思う民である。

明確にしておかなければならないのは，人を警める前に，まず温い気持で接しなさいということである。隣近所に住む人々は，私たちの心からの友情とフェローシップを必要としている。教会員は隣人をののしったり脅したりせず，逆に厚くもてなさなければならない。福音を分かち合うにあたって私たちに要求されるのは，見返りを望まず，なおかつ良心に恥じない生活を送ることである。望むらくは，教会員がただ単に伝道活動を行なうだけでなく，今あげたような資格を真に満たせるように。」

キンボール大管長が次に取り上げたのは神殿結婚の問題である。大管長は，神殿結婚をしている人の数が全体の半数以下であり，しかも神殿結婚をしない人の半数以上が教会員以外の人と結婚していることを憂慮して，「実に恐るべきこと」だと語った。大管長はこう指摘する。「調査によれば，教会員と結婚した非教会員が教会に加入する確率は，7分の1にすぎない。この数字は，多くの家族が福音の祝福を受けられなくなり，子供たちも福音の中で育つという祝福を失ってしまうことを示すものである。

私たちは若人が神殿結婚をするよう，若人自身とその指導者，そして両親に対して励ましを与えなければならない。『精神一統何事かならざらん』の言葉通り，数多くの若人が，神殿結婚のためなら世界中をまわってでもふさわしい人を見つけたいという気持になったのである。

キンボール大管長はこの後で，もうひとつの重要なプログラムである神殿・系図活動に触れた。「私は神殿・系図活動に大いなる関心を寄せている。現在神殿内で儀式が執行されている死者の名前のうち，聖徒個人の探求によるものは全体のわずか4分の1である。このような状態は改めなければならない。

神殿の近くに住む聖徒たちは，その神殿を運営するに足るだけの死者を，自らの手で捜し出さなければならない。日本の人々は東京神殿のために，南アメリカの人々はサンパウロ神殿のために，その他メキシコやシアトルも同じである。」

次に教会福祉活動に話題を転じた大管長は，従順のもたらす恵みについて語った。「訓練されている人には憂いはない。『もし汝らに備えあらば怖るることなからん』という言葉を心に留めなさい（教義と聖約38：30）。正しい備えは人生そのものであり，突然にしかも大大的に行なわなければならないプログラムではないのである。」

次に大管長は，安息日を正しく守ることと集会に出席することの大切さについて次のように語った。「私たちの教会が持つ記録は，世界中の他のいかなる大規模な組織にも類を見ないほど素晴らしいものであるが，私たち自身は完全な状態からはほど遠いところにある。教会員に対して，いついかなるときにも家族全員を教会に連れて行くという責任を自覚させなければならない。安息日に劇場や球場に出向くことは非難さるべきことである。人々の間に，安息日を厳粛に敬う心を確立できるよう願うものである。当然のことながら，教会の集会に出席することは安息日を守ることになる。」

キンボール大管長は什分の一と断食献金，家庭の夕べ，家族の祈り，知恵の言葉についても強調した。そして出席した地区代表に，各地域における「あらゆる悪や罪，不穏な情勢」に十分に心を配り，教会員に不道徳やポルノグラフィー，卑わいな事柄，そして堕胎に対抗することを強く勧めるよう特に注意を促した。

次いで大管長は，話のしめくくりとして伝道活動を別の面から取り上げた。「私たちは教会の成長を願い続けるものであり，そうした点から現状に対して喜びを覚えるものである。しかしながらそれは，私たちが驚嘆するような発展ではない。私たちはシオンが確立する日を待ち望んでいる。しかし主は『まずわが軍をして甚だ大いなるものとなし』と言っておられる（教義と聖約105：31）。この聖句はもちろん，宣教師の軍を指すと同時に教会員自体をも指すものである。

主はこれらの要求について，一つ一つ具体的に語られた。私たちはその勧告を真剣に受け取める必要がある。」

セミナーでは新任の15名の十二使徒会地区代表の紹介があった。以下の通りである。ロバート・N・ブレイディー（テネシー州ブレントウッド），ドイル・J・デービス（カリフォルニア州コビナ），ユージーン・マーク・ロバート・エングルバート（オランダ），ハービー・S・グリア（カリフォルニア州フェアオークス），ジョン・R・ラサター（シュタットガルト，西ドイツ），ジュリアン・C・ロウエ（バージニア州マクレーン），ジョン・マックスウェル（ホートン・レ・スプリングズ，イギリス），D・ケイス・マイヤーズ（カリフォルニア州ボニタ），マーク・G・リックス（アイダホ州レックスバーグ），エンリケ・リッシェル（グァテマラ・シティー，グァテマラ），レナード・D・ロビソン（ネバダ州レノ），ジョルジュ・ロハス・O（メキシコ・シティー，メキシコ），イアン・デビッド・スワニー（ヨークシャー・エルビントン，イギリス），ロベルト・ビダル（サンアントニオ，ペルー），ドナルド・G・ウーリー（アイオワ州エイムズ）

解任された4名の地区代表は次の通り。グラント・M・バウラー（ネバダ州ローガンデール），アーチ・L・マドセン（ユタ州ソルトレーク・シティー），ディーン・L・ラーセン（ユタ州ケイズビル），ロバート・E・ウェルズ（ユタ州ソルトレーク・シティー）。ラーセン長老とウェルズ長老は七十人第一定員会会員に召された。

セミナーは，キンボール大管長の説教に続いてゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，フランクリン・D・リチャーズ各長老による提示が行なわれた。これは，今後の地区制度の拡大に関して，地区代表と十二使徒評議員会会員，地域担当教会幹部，ステーキ部長，伝道部長との関係を明らかにするためのものである。

福音に生きる喜び

東京ステーキ部
東京第5ワード部
山　田　昭

希望なく，暗い青春に私が終止符を打った日，それは1975年8月31日でした。安息日の午後3時，多くの兄弟姉妹の前でバプテスマの水に入り，続いて聖霊の賜を受けるための按手を受け，晴れて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となることができました。厭世観に捕われていた私が，教会の近くで若い米国の宣教師に会い，小さなチラシを渡され，「どうぞ読んで下さい」と言われて目にした言葉，それが長年私が悩んでいた疑問でした。

「どこから私は来たのだろうか？　どうして私はこの地上にいるのだろうか？　死んでからどこへ行くのだろうか？」遂に来るべきものが来たという思いでした。それまで私は，人間はいかに生くるべきかを模索し，様々な哲学書，小説，詩などをあさり，その結論として，すべてが空しいという思いを持つに至っていました。

どんなに正しく生きても，逆に悪く生きても，死ねば単なる物質しか残らない。努力したって何になる。それならば毎日を面白おかしく暮らした方が良いのではないか？　快楽こそ唯一の慰めである。しかし空しい，すべてが空しい。旧約聖書にある伝道の書の言葉通りである。だが神の存在は肯定できない。存在は煩しく，死こそ望ましい。神はいるのか？　もしいるならば，なぜこの世は悪と貧困に満ち充ちているのか？

しかし，キリスト教には関心を持ち続け，6年ほど前から何となく，いつかはクリスチャンとなるのではないかと思っていました。それは，実存哲学を読むたびに肯定しがたい部分が多くなってきたからです。神を否定する著者が決して幸福ではないという感を文面より受けるのです。（例えば，有島武郎の「愛は惜しみなく奪う」など）そして，キェルケゴール著「愛について」に書かれた次の文章によって福音の素晴らしさを知りました。

「神が『愛』というとき，それは真に犠牲的な『愛』を言います。それは，神の空間をもっと大きく創るために，一切を犠牲として惜しまぬ愛です。だれも理解できぬほどのものになってしまうとも。」　しかしながら，素晴らしい福音の教えもじきに絶望に変わりました。それは「原罪」でした。カトリックの教えでは私たちは生まれたときからアダムの罪を負っているので悔い改めなくてはならないと言っています。冗談ではない。先祖の罪がどうして私に関係あるのか。例えば，私の祖父がだれかを傷つけたとしても，私が被害者にわびる必要はなく，わびて償うのは当の祖父だけである。これは自明の理でしょう。もう全くいやになり，毎日酒ばかり飲んでいましたが，そのようなとき，この教会の宣教師に会ったわけです。ですから，この教会も「原罪」を持ち出すと思っていましたら，信仰箇条の第2条を読むように言われました。

第2条　われらは，人は皆各々其身にてなしたる罪に対して罰を受け，アダムの咎に対して罰を受けざることを信ず。

私の考えと一致したので，この教会こそ真実の教会であると確信し，嬉しくなり，レッスンを受けるようになりました。そうして，レッスンを大体終了した頃バプテスマを受けるように言われ，すぐ受ける旨返答してから，またつまづきました。「知恵の言葉」です。二日酔いでレッスンを受けていましたので宣教師も最後まで言えなかったのでしょう。本当に苦しみました。私の友は皆酒飲みですから彼らとのつきあいをやめなくてはならないのか，皆良い奴ばかりなのに……と。しかし，男がいったん約束した以上（しかも外国人と）これを破るのは卑怯である。よし，受けよう，神はきっと助けてくれるだろうと決意し，バプテスマの水をくぐりました。暑い日でした。

それからはもう本当に充実した毎日です。今までの世界観が変わり，落ち葉一枚をも実に新鮮な目でみられるようになりましたし，神の存在も日増しに強く感ずることができ，かつての無神論者が良く変わったものだと自分でも驚く位です。

何よりの恵みは，絶望より希望へと意識が変わったことでしょう。また，己れの隠れた才能も発見でき，今までの友もだれひとり失うことなく，さらに清い精神を持つ多くの兄弟姉妹を知り，家族の理解もあって何の煩いもなく，希望をもって生活しています。主と主の僕に何と感謝して良いかわかりません。祝福師より祝福を受け，私の夢である素晴らしいモルモンの家庭を近い将来に築けると確信しています。

――主なる神よ，あなたを語らずして愛を語ることはできません。いつ，いかなるときもあなたより受けし恵みと平安を感謝しつつ日々の祈りを捧げます。――

全部愛する主イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

闇の中から救われた感慨

横浜ステーキ部
八王子支部
内海武二

生と死への疑問

私が人生の師と仰ぎ尊敬していた父が突然病で倒れたのは5月も末近くのことである。あまりにも急な出来事に，家族の者はただ茫然とするばかりであった。医師の献身的な治療のおかげで一時は危篤状態を脱したものの，家族の期待も空しく，病院の器械の中で辛ろうじて命を保つような状態になってしまった。呼べども答えず，ただ一点を見つめたまま，父は黙々と生き続けた。数日後，父の意識が一瞬かすかに戻った。医師の許可を得て私たち家族は弱りはてた父としばしの対面をした。私は，懸命に父の名を呼んだ。父は私の声を聞き分けたのか静かにうなずいて目に涙をいっぱい浮かべていた。そして，再び意識がなくなった。父は現在どこにいるのか，どういう状態なのか，あの涙は何だったのだろうか。多くの疑問が私の頭をかすめる。が，私には，少しも理解することができなかった。生死の間をさまようこと53日，7月17日未明，父は静かに息をひきとった。

父が入院して2，3日後，私の教え子（私は小学校の教師をしている）が，家族の者と一緒に行方不明になった。そして多くの人たちの捜索の甲斐もなく，発見されないでいた。ところが折も折，父の葬儀の日に彼等が湖から変わりはてた姿で引き上げられたという知らせが私のもとに届いたのである。同時に押し寄せてきたこの二重の悲しみの波に，私は身も心もこなごなに砕けんばかりであった。ついこの間まで私と共にあったふたつの心が，突然消え失せてしまった。父は，そして教え子は，一体今どこにいるのだろうか。このときほど私は，生と死の問題について，真剣に，しかも自分自身の問題として考えてみたことはなかった。しかしそのときの私に，答えがわかるはずはない。

四十にして惑わず

二重の悲しみに打ちひしがれていた6月の末，私は満40歳の誕生日を迎えた。私は前にも述べた生死の問題と共に，自分の今まで歩んできた40年間の生活やこれからの生き方について考えてみた。そのとき私は，自分の歩んできた40年の道が霧の中にかすんで何も見えないのに気づいた。いったい私は今まで何を考え何のために生きてきたのだろうか。そこにはただ物欲を求め，その場限りの快楽に身をやつす小さな自分があるだけだった。私は教育者として多くの子どもたちのために何をしてきたというのであろうか。夫として父親として家族のためにどんな愛の種子をまいてきたのだろうか。そこにもまた罪の重荷を背負った小さな自分があるだけだった。かと言って，行く手を照らしてくれるものもない。これから先，何のために，何を生きがいとして生きていけばよいのか。私にとっては，まさに惑いの40歳であった。

宣教師の訪問

父の納骨が終わった8月の中旬過ぎ，ふたりの米国の宣教師が私の家を訪問した。彼らは，折り目正しい態度で神様のメッセージを届けに来たと言う。私は彼らに興味を覚え，

内海兄弟ご家族▶

積極的に話を聞くことにした。というのも，つい最近自分の再出発の糸口をつかむために，妻に「教会へ行きたい」ともらしたことがあったからだ。しかしどの教会へ行けばよいのか全然見当がつかなかった。しかも自分から捜し求めて行くほどの勇気も信仰心もなかった。神様が私の願いを聞き届けてくれたのだろうか，そんなことを考えながらレッスンを受けることにした。

最初に強く印象づけられたのは，彼らの目だった。神の福音を私たち家族に話すときの彼らの目は，神の目のように澄みきっていた。態度も謙遜で誠実さがにじみ出ており，20歳にも満たない彼らの人間性の素晴らしさには深く引きつけられるものがあった。不思議なことに，レッスンが進むたびに目の前がだんだん明るく開けてくるように思えてきた。人生への疑問が次から次へと解きほぐされていくのである。そして，それまでのいろいろな出来事が単なる偶然ではなく神様のみ業であるように思えてきたのである。この考えを決定的なものにしたのは，彼らに勧められて祈りを始めてからのことであった。祈りを通して私は，今まで知ることのできなかった心の平静さと生きることへの喜びを体で感じることができた。そして，神様の祝福を身をもって体験したとき，モルモン経に書かれていることがすべて真実であること，そして神様が生きて存在しておられることに確信を持つことができたのである。

バプテスマの感激

10月9日は，私たち家族にとって忘れ得ぬ日である。私たちは罪を悔い改め，水に沈められる聖なるバプテスマを受けることができた。今までの罪が聖なる水で洗い清められたと知ったときに神様の愛の大きさに感激し涙のこぼれるのを止めることができなかった。私にとって最も幸いだったことは，妻も私と心をひとつにして同じ時にバプテスマを受けることができたことである。私たちをこれまで導いて下さった宣教師の方々の努力もさることながら，神様の驚くべき力にただ感激するばかりであった。

新しい出発

20年来の愛煙家であった私が知恵の言葉を守り，きっぱりとタバコをやめ得たのも神様のみ業であると思う。私たち家族は知恵の言葉を守り健康で明るい毎日を送っている。180度の生活の転換だ。しかし，毎日全身に祝福を受け幸福感を味わうことができるのは本当に素晴らしいことである。私は今本当に闇の中から救われた感慨で胸がいっぱいである。家庭の夕べは，私たちの家族の生活を明るく豊かなものにしてくれた。子供たちも大きく成長してくれるに違いない。私たちは，神様の子供としてその責任を十分果たし，終りの日までがんばろうと決意を固めている。最後に私たちをこれまで導いてくれた3人の米国人宣教師コーフェド長老，スペリー長老，ピート長老に厚く感謝の意を表したい。これらの証，すべて主イエス・キリストのみ名により，アーメン。

聖 徒 の 道

1977年2月20日発行（毎月1回20日発行）　第21巻第2号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可